

2001年BSE（狂牛病）の社会的影響と対策

Social Impact and Policy Management of the Mad Cow Diseases (BSE) in Japan

2003年3月

関谷 直也、
SEKIYA Naoya,

大西 勝也、
OONISI Katsunari,

廣井 脩、
HIROI Osamu,

2001 年 BSE（狂牛病）の社会的影響と対策
Social Impact and Policy Management of the Mad Cow Diseases (BSE) in
Japan

関谷直也 Sekiya Naoya 大西勝也 Oonisi Katsunari
廣井脩 Hiroi Osamu

目次

1 はじめに	5 消費者の対応：BSE に対する消費者意識と変化
2 狂牛病とは何か： 狂牛病 (Mud Cow Diseases) の病原と実態	5.1 調査概要
3 行政・業界・報道の対応①：「BSE」の事実経過	5.2 BSE の認知度
3.1 「BSE の疑いの牛」発見と肉骨粉化問題	5.3 BSE への不安
3.2 肉骨粉問題	5.4 BSE 問題に対する消費者行動
3.3 BSE リスク管理とサーベイランス体制確立	5.5 牛肉は安全か
3.4 「BSE 対策」の検証と問題の転嫁	5.6 「牛肉、加工食品、化粧品」への不安
4 行政・業界・報道の対応②：BSE に関する論点	5.7 BSE 対策への意見
4.1 行政・政治の「BSE 対策」の問題点	5.8 BSE 情報の入手
4.2 「BSE 問題」に対する社会的対応の問題点	5.9 消費者自身の考える BSE の対策
4.3 とくに「風評被害」の問題点	6 生産者の対応：安心して食べられる牛肉への模索
	6.1 社会的背景①肉牛生産の近代化への関門
	6.2 社会的背景②：石油ショックの畜産への影響
	6.3 社会的背景③：ウルグアイ・ラウンド（新多角 的貿易交渉）による輸入自由化
	6.4 肉牛生産近代化への試み「肉牛生産農家は、いま」
	6.5 安全な畜産物生産と消費者対応の構築

附属資料 狂牛病アンケート調査票（調査実施地域別単純集計結果）

キーワード：狂牛病（BSE）、食品安全、生物災害（バイオハザード）、危機管理、風評被害

執筆分担：	関谷直也（東京大学大学院人文社会系研究科）	1	2	3	4
	大西勝也（NHK 放送文化研究所主任研究員）	5	6		
	廣井脩（東京大学社会情報研究所）	監修	1		

1 はじめに

「生物災害（バイオハザード）」とは、狭義には遺伝子組替技術による危険を指し、広義には、より広く生物、ウイルス、病原体などに由来する危険を指す。

2001年9月10日、日本ではじめて狂牛病に感染した牛が確認された。その後、さまざまな要因から牛肉の消費が落ち込み、10月30日、東京都内の約2000店が加盟する都食肉事業共同組合理事会は、全組合員に一律10万円の災害見舞金を支給した。「小売店は何一つ悪いことをしていない。（狂牛病による牛肉離れは）まさに災害と呼ぶにふさわしい」として、理事会は約9億円の特別積立金を取り崩した（読売新聞,2001.10.31）のである。

各県の狂牛病の確定診断を行う衛生検査所ではBIOHAZARD（生物災害）警告マークが表示されている。狂牛病は、世界が、そして日本社会が初めて経験する、食品由来の生物災害といってよい。

農林水産省が、わが国ではじめて狂牛病の疑いがある牛が発見されたと公表したのは、ニューヨーク・ツインタワービルへの自爆テロ事件が発生した1日前、2001年9月10日のことであった。また同じ9月10日から11日にかけて台風11号が関東地方を直撃しており、たいへん慌しい数日間であった。自爆テロ事件は、おそらくだれも予想しなかったことであり、頭を殴りつけられるような衝撃を世界中に与え、その後遺症は長く続くことになった。一方、狂牛病のほうは一部の識者が懸念していたことで、当初のショックはさほどでもなかったが、問題の牛を政府が焼却処分したと発表したにもかかわらず、頭部以外は、飼料の原料製造工場に搬送され、狂牛病の感染源となる肉骨粉に加工されていたのが明らかになったこと、ほかにも肉骨粉を牛に与えていた農家が多数あったのを政府が認めたこと、依然として狂牛病の感染経路がはっきりしないことなどから、次第に消費者の不安が広がり、牛肉の買い控え現象が全国的な規模で発生するようになった。

この消費者の不安を解消するため、政府の対応はすばやかだった。たとえば、狂牛病感染の疑いがある牛が出たと発表した翌々日の12日には、農林水産省が月齢30ヶ月以上の牛の出荷を自粛するよう要請。19日には、厚生労働省が月齢30ヶ月以上の牛全部をBSE検査する方針を決定。25日には、農林水産大臣が肉骨粉の輸入を全面停止する方針を表明。10月4日には、農林水産大臣が肉骨粉の流通・製造を全面禁止すると発表。そして18日には、厚生労働省が狂牛病対策として、牛の全頭検査を開始した。この間、わずか1ヶ月半であった。

しかし、にもかかわらず、消費者の牛肉離れに歯止めはかからなかった。たとえば、

図 1.1.1.は、東京都食肉事業協同組合が都内 20 店舗を聞き取り調査した牛肉の売り上げ

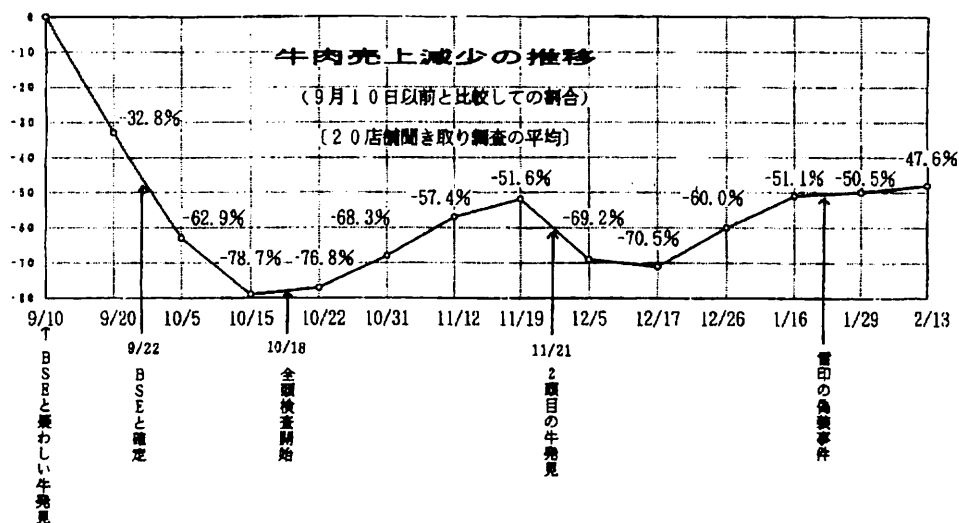


図 1. 牛肉の売り上げ減少の実態（東京都食肉事業協同組合提供）

状況である。9月10日から20日までの10日間は9月10日以前と比べてほぼ30%の減であるが、その半月後の10月5日は6割強の減、その10日後の10月15日（全頭検査の直前）はほぼ売り上げがゼロになっているのである。その後、次第に微増傾向をたどり、11月中旬には50%にまで回復するが、不運にも2頭目の感染牛が見つかり、また低下傾向をたどる。

この低下傾向の一因としては、12月になって、1996年のWHOの勧告を受けた農林水産省が、肉骨粉の使用を法的に禁止せずこれを行政指導にとどめていた事実、2001年1月に、欧州委員会食品獣医事務局が、イタリア産肉骨粉が危険だと指摘していたのに、農林水産省は国会で安全を強調していた事実、EU科学運営委員会狂牛病専門家班が日本でも狂牛病の危険があるという報告書をまとめていたのに、農林水産省がその存在を否定していた事実などが次々と明らかになり、食品行政に不信感が広がったためと思われる。

その後、ふたたび牛肉の消費は増加傾向になっていくが、今度は、2002年1月に明らかになった雪印食品偽装事件（輸入牛肉を国産牛肉と偽装して買上げ申請）が追い討ちをかけ、またまた消費が伸びなくなっていく。その後、全農チキンフーズ事件（タイ産鶏肉を国産と偽装表示、鶏肉需要増のため）、宮城丸紅畜産事件（輸入鶏肉を国産鶏肉と偽装表示、鶏肉需要増のため）、日本食品偽装事件（輸入牛肉を買上げ申請、検査ごまかし）、日本ハム牛肉偽装事件（検査前に1.3t焼却）などが次々に明らかとなり、食品業

界の体質が問題となった。

カテゴリー別 前年対比

年月	カテゴリー名	今年	昨年	前年比
200108	牛肉	-29,022,793	-29,815,427	98.0%
200108	豚肉	-34,251,056	-32,255,116	106.2%
200108	鶏肉	-13,709,119	-13,390,030	102.4%
200108	挽肉	-8,401,729	-8,596,799	97.7%
200108	便利品	-3,146,889	-4,524,500	69.6%
		-88,531,586	-88,381,872	100.2%
200109	牛肉	-25,453,708	-30,222,257	84.2%
200109	豚肉	-35,362,052	-33,679,013	105.0%
200109	鶏肉	-15,083,356	-14,448,118	104.4%
200109	挽肉	-9,510,787	-9,544,091	99.7%
200109	便利品	-3,087,261	-4,339,270	71.1%
		-88,497,164	-92,232,749	95.9%
200110	牛肉	-9,997,380	-28,362,103	35.2%
200110	豚肉	-38,816,888	-32,407,438	119.8%
200110	鶏肉	-17,246,020	-15,054,296	114.6%
200110	挽肉	-7,377,494	-8,761,745	84.2%
200110	便利品	-2,371,481	-4,531,851	52.3%
		-75,809,043	-89,117,433	85.1%
200111	牛肉	-11,654,280	-30,510,273	38.2%
200111	豚肉	-42,329,278	-34,893,892	121.3%
200111	鶏肉	-19,243,261	-17,063,508	112.8%
200111	挽肉	-8,333,602	-9,013,686	92.5%
200111	便利品	-3,438,822	-4,314,228	79.7%
		-84,999,243	-95,795,697	88.7%
200112	牛肉	-10,935,429	-29,101,788	37.6%
200112	豚肉	-39,582,864	-34,068,119	116.2%
200112	鶏肉	-18,956,852	-16,232,356	116.8%
200112	挽肉	-7,870,272	-8,705,218	90.4%
200112	便利品	-3,047,890	-3,868,241	78.8%
		-80,393,307	-91,975,720	87.4%
200201	牛肉	-19,701,062	-35,476,769	55.5%
200201	豚肉	-37,894,770	-34,056,037	111.6%
200201	鶏肉	-23,642,068	-21,295,054	111.0%
200201	挽肉	-7,222,737	-7,705,902	93.7%
200201	便利品	-1,992,920	-2,981,837	66.8%
		-90,553,555	-101,517,599	89.2%
200202	牛肉	-18,718,867	-31,450,731	59.5%
200202	豚肉	-41,315,847	-36,697,708	112.6%
200202	鶏肉	-19,762,341	-18,322,130	107.9%
200202	挽肉	-9,222,469	-9,772,302	94.4%
200202	便利品	-2,353,124	-2,907,639	80.9%
		-91,372,448	-99,150,510	92.2%
200203	牛肉	-17,562,229	-25,256,749	69.5%
200203	豚肉	-32,811,503	-30,464,250	107.7%
200203	鶏肉	-15,422,356	-15,051,454	102.5%
200203	挽肉	-7,467,427	-8,246,853	90.5%
200203	便利品	-1,326,646	-2,693,881	49.2%
		-74,590,161	-81,713,167	91.3%

図 2. 牛肉売り上げ減少の実態（「よしや」提供資料）

また、表 1.1.2.は、狂牛病問題が発生した後のある企業の牛肉売り上げの推移である。企業名は「よしや」。東京都内の城北地域（板橋・新宿・豊島・練馬区）に 11 店舗を展開している、食品中心の地域密着型中堅スーパーマーケットであり、年商 200 億円でそのうち食品が 90%を占めている。なお、データは 11 店舗トータルの数値である。これ

は前年比のデータであり、狂牛病感染牛が発見された 2001 年 9 月の売り上げは、前年比 84%とさほど落ち込んではいないが、10 月は 35%、11 月、12 月は 38%と急落し、翌年 1 月は 56%、2 月は 60%、3 月は 70%と少しずつ回復してきている。

もちろん、このような牛肉消費の激減は、消費者調査でも明らかである。後にくわしく述べるが、筆者らが東京と大阪で行ったアンケート調査でも、問題が発生して以来、牛肉をまったく食べなくなった人、消費がかなり減った人、少し減った人を合わせると、東京・大阪とも 66%にのぼっている。調査を実施したのは 2002 年 3 月のことだったから、前年の 10 月～12 月頃は、食べない人の比率はもっと高かったと思われる。

先にも触れ、また以下の報告でも詳しく述べるが、過去の経緯はともあれ、狂牛病感染牛の発見以来、政府の対応は決して緩慢だったとはいえない。対策が進んだ欧米諸国には及ばないが、しかし、牛の総背番号制システムや、もっと一般的な食品流通の透明化体制も導入が決まったし、また平成 15 年度政府予算案で、内閣府に食品安全委員会（仮称）を新設する費用も計上された。

しかし、ことは人々の命にかかわる食の問題であり、安全システムが構築され、それにもとづいて政府がいかに安全キャンペーンを実施したとしても、消費者にとっては、自分があるいは家族が疑問や不安を感じないで食を口に出来る「安心」が必要である。その点で考慮しなければならないのは、筆者らのアンケート調査において、今回の狂牛病問題に関する政府の対応について質問したところ、政府は諸外国にくらべ十分に BSE 対策を講じてこなかったという人が 90%、政府は消費者の健康より業界の保護に目がいっているような気がするという人が 70%、政府が実施している全頭検査は信用できないという人が 54%、政府の行っている狂牛病対策は諸外国より劣ると考えている人が 65%、狂牛病に関する政府の情報公開は信用できないという人が 74%となっており、その不信任は相当なものだ、ということである。これを解消するには、並々ならぬ努力が必要かもしれない。

1999 年 9 月、茨城県の JCO 東海事業所の臨界事故が発生し、県内の農作物などの売れ行きが急落したとき、しばしば「風評被害」という言い方がされた。今回の狂牛病事件においても、風評被害という言葉が出されている。いかに行政や業界が安全を表明し、また仮にそれが真実であっても、消費者がそのことを信頼しなければ、売れ行きの回復は望めない。いったんことがあれば命にかかわりかねない、原子力行政や食品行政においては、安全性を知ってもらう努力も必要だが、徹底した情報公開を通じて、行政や事業者と、住民あるいは消費者が信頼関係を持って結ばれる必要がある。長い道のりかもしれないが、それが実現して初めて、行政や事業者は、住民あるいは視聴者の「安心」を獲得することが出来るのである。

以上、今回の狂牛病感染問題のポイントを簡単に記してきたが、以下、本報告では、

2001年9月に初めて日本で狂牛病が確認された後、

① 行政・マスコミはどのように対応し、情報はどのように伝達されたか（2章、3章）

② 消費者の対応はどうだったか（4章）

③ 生産者の対応はどうだったか（5章）

について、具体的かつ詳細に論じていきたい。

まずは、その前提として狂牛病に関する共通認識について触れておく（1章）。



図 耳標をつけた牛

2 狂牛病とは何か：狂牛病（Mud Cow Diseases）の病原と実態

狂牛病の危険性とは何であろうか。本節では、狂牛病の問題を論じる前に、そもそも狂牛病の危険性とは何なのかを確認する。なお、本論は生物学的・医学的議論をするものではないので、過去の出版、研究を所与のものとして概括していく。

「狂牛病（Mud Cow Diseases）」とは、イギリスでつけられた俗称であり、正式名称を「牛海綿状脳症（BSE：Bovine Spongiform Encephalopathy）」という。これは、「異常プリオン」と呼ばれるたんぱく質を原因として牛に発症する病気である。後に触れるように、狂牛病というおどろおどろしい言葉は、誤解や差別を招く恐れがあるので、本報告では、以下、これを BSE と呼ぶことにしたい。

もちろん、人間が BSE になるわけではない。脳がスポンジ状になる病気（羊のスクレイピー病、BSE）が種の壁を越えて存在し、BSE にかかった牛の危険部位から異常プリオンタンパク質を食べることによって、人間が「新型クロイツフェルトヤコブ病」に感染する可能性があると言われている。18 万頭以上を発生させ社会問題となった英国を中心として、欧州においてさまざまな医学的研究、生物学的研究が行われ、次のことが知見として得られている（表 2.1、表 2.2）。

表 2.1 牛（畜産）のリスクとしての BSE

●牛の感染

原因物質：異常プリオン

感染原因：主に家畜用の飼料である（異常プリオンタンパクが存在していた）肉骨粉が主な原因だと言われている。肉骨粉とは牛、鶏、豚の食品として適さなかった部位（脳、骨など）や廃用牛（主に牛乳搾取に使用された後の雌牛）を煮て乾燥させ、砕いて食肉用の飼料にしたものである。

潜伏期間：2 年～8 年

●感染した牛の処分方法 800 度 4 時間、高温焼却して灰にする。

●危険な部分（WHO:世界保健機関、OIE:国際獣疫事務局、EU 医薬品審査庁の基準）

眼、脳、脊髄が高感染性、回腸遠位部＜小腸先端部＞が中感染性で危険で特定危険部位とされている。なお、上記に加え抹消神経節、骨髄が低感染性とされ、マウス実験により以上の部分から感染性が認められており、それ以外の場所からの感染実験例はない。

表 2.2 人間のリスクとしての BSE

●人間の感染

- ・異常プリオンを含む牛の危険部位から経口感染（食べることによって感染）する。
欧州では 2001 年 2 月以降 T ボーンステーキは販売禁止されている。
- ・肉、内臓類を食べて感染する可能性はほとんどない。
- ・空気感染、皮膚感染はしない。
- ・血液の輸血は可能性ゼロではない。

①動物実験により明らかにされていること

②新型クロイツフェルトヤコブ病患者のリンパ組織から発見されたこと

があり、白血球に存在する可能性があることから万全の防護措置として英国を中心に欧州 7 カ国に 6 ヶ月以上滞在した人からの輸血は行わないことになっている。

- ・異常プリオンが体内に入ったとしても、その量が少なく正常タンパクに作用しなかった場合は体外に排出される。蓄積されるわけではないので、感染性の少ない少量の異常プリオンを何度摂取したとしても、感染の危険性はほとんどない。

●人間の潜伏期間

- ・7 年～30 年まで諸説ある（平均潜伏期間が分からないため、これから爆発的に増える可能性もありえるが、現在分かっていない。）

●治療薬・治療法

- ・現在のところ確立された治療方法・治療薬はない。
- ・発症する前に診断ができない。

●リスク（危険の確率）

- ・英国では約 18 万頭の BSE が確認。新型クロイツフェルトヤコブ病の患者は 107 人。
- ・今のところ日本で 5 頭なので、0.00297 人の可能性。もし、日本や他の数頭しか BSE が発見されていない国新型クロイツフェルトヤコブ病が見つかった場合、BSE 起因説自体に疑問が生じる。

まず重要なことは、英国では、BSE が原因で人間が新型クロイツフェルトヤコブ病にかかる可能性があることとされていることであり、しかもその割合は BSE の牛 18 万頭に対して現在のところ 107 人であるといわれている。

3 行政・報道の対応①：BSE問題の事実経過

本章では、2001年9月11日、日本ではじめてBSEの疑いのある牛が発見されて以降の、行政・マスコミ・業界の動きをまとめる。とくに論じたいのは、BSEとは何か、海外ではBSE対策はどうなっているかということではなくて（BSEに関する説明や、海外での対策は参考文献にあげるように多数の著書がある）、日本においてBSE問題がどのように推移したか、日本のBSE対策はどのような経緯で現在に至ったか、そしてその問題点は何かということである。3.1では時系列でまとめ、3.2では組織毎の関わりを概括する。

3.1 BSEの疑いのある牛の発見と肉骨粉問題（9月11日～9月28日）

(1) BSEの疑いのある牛の発見

9月10日、千葉県白井市の農家で、日本で初めてBSEの疑いのある牛が確認された。日本ではじめてのBSEとなったこの問題の牛は、8月3日起立不能になり、8月6日千葉県光町の食肉処理場で肺血症と診断された後、頭部を切り取られて、動物衛生研究所と千葉県に送られた。動物衛生研究所では、当初は陰性の判断だったが、再度の検査で陽性と判断して、BSEの疑いありと農林水産省に報告した。そして英国獣医研究所へも、確定診断のために組織が送られた。

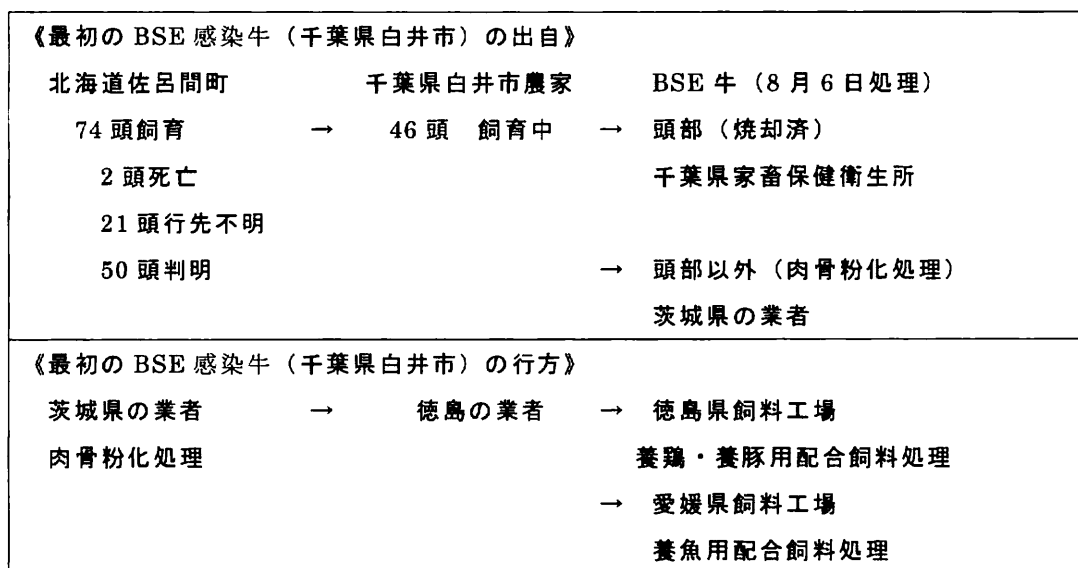
農林水産省は同日中に、「BSE対策本部」を設置し、輸入経路を特定するための調査方針を固める一方、牛乳のほうは安全であることを強調した。一方、厚生労働省は白井市の農家の50頭の乳牛を隔離し、同じ飼料を食べた牛の出荷先を調べ、その肉から作った製品などの流通を停止するよう指導した。だが確認まではしていなかったことが、後に問題となった。

(2) 一頭目のBSE牛の肉骨粉化：農林水産省の対応不備の問題

ところで、問題の牛の頭部以外は、茨城県内にある飼料の原料製造工場に搬送され、肉骨粉に加工されて、徳島県内の工場に運ばれ飼料として調合されていた。これを9月10日、遠藤武彦農林水産副大臣は、問題の牛は焼却処分したと発表してしまった。そして14日、「畜産部長の勘違いで、テレビでBSEの牛が焼却される（英国の）報道を見過ぎて焼却処分されたものと勘違いした」と訂正した。さらにその後、この牛が肉骨粉加工されたという事実は、千葉県畜産課から12日にFAXで連絡されていたことが明らかになった。また、この乳牛は、陽性判断された10日に家畜伝染予防法で「疑似感畜」

（感染性の疑いのある畜産）となり、焼却処分が義務づけられ、飼料原料への使用は一切禁じられることになるはずだったが、農林水産省は鶏や豚の飼料で牛用の飼料でなければ問題ないと判断ミスし、BSE 発見から 4 日も遅れた 14 日になってから、飼料加工会社に肉骨粉の焼却処分の緊急措置をとることを命じたことなど、対応の遅れが明らかになった。

とくに、14 日の会見で遠藤農林水産副大臣が「テレビで牛が焼却される（英国の）報道を見過ぎて焼却処分されたものと勘違いした」と述べたさい、遠藤副大臣が「勘違いしたんだよな」と、その脇に構える畜産部長に問いかけ、畜産部長が怪訝そうな顔でうなずくという映像シーンがクローズアップされ、繰り返し放送各局でニュース映像として使用された。まるで「人ごとのように言い放った（毎日新聞、2000.9.15）」副大臣、それに恫喝される「危機意識が低そうな」畜産部長。そして、「安全です」と表明し、牛肉を食べるパフォーマンスをする武部農林水産大臣と農水族議員。これらの映像が繰り返し使用されることになった。そしてそこには、必ず流通経路や農林水産省の対応不備についての批判のコメントが添えられていた。BSE 関連の報道量を増大させたという意味で、この農林水産省の対応不備や農水族のパフォーマンスは大きな意味を持ってしまったのである。



（9 月 23 日農林水産省発表資料より作成）

図 3.1 B S E 一頭目の出自と行方

(3) BSE 発覚後の最初の対策

BSE 発見からほぼ 10 日経った 9 月 19 日、厚生労働省は 30 億円の検査費をかけて、月齢 30 ヶ月以上の牛全部を BSE 検査（約 100 万頭）する方針を決定した。また 9 月 21 日には、農林水産省が牛総背番号制（トレイサビリティ）システムの早期始動のための補正予算の請求を行っている。この時期に、①食用肉における EU 並みの検査体制と、②食品流通の透明化（トレイサビリティ）の早期始動の方針が出ていることは注目している。

しかし当初、トレイサビリティ・システムの早期導入に関する報道は少なかった。12 月頃になってから報道機関は重要性を指摘しはじめたが、これはマスコミの認識不足であろう。トレイサビリティ（追跡可能）とは、店頭地から牛の誕生までに遡って追跡できるしくみのことである。具体的には、牛の耳に番号札をつけて、誕生地や移動暦（育成農家）をコンピュータ管理する。そして最終的には、商品の製肉に番号が付与される。EU では、1997 年から加盟各国に対してトレイサビリティを義務化している。

3.2 肉骨粉問題（9 月 29 日～10 月 12 日）

(1) リサイクル（肉骨粉処理）の問題

肉骨粉は食用に適さない牛の肉、骨、脳、などを碎き、煮るなどして混合し、乾燥させ粉末にして作った「動物性たんぱく質」の飼料である。この作業をレンダリングといい、1920 年頃アメリカで確立した手法で、豚、鶏、牛などの廃用肉が使用される。英国では海綿状脳症の羊（スクレイピー病の羊）にある異常プリオンがこの肉骨粉に混入し、BSE の原因となったといわれ、BSE の直接的原因物質とされる。日本では、10 月はじめの段階で以下のような措置をとった（図 3.2）。

まず、政府は 10 月 2 日、肉骨粉処理を規制した。これは首相主導の「政治的判断」という見方が強い。ただ、肉骨粉処理の規制は現実には、①廃用肉の処理コストが多大多であること、②焼却場の確保が問題になることなどの問題があり、また法的にも、③食肉リサイクルという商行為を国が規制する根拠がない、という問題がある。しかし、政府はこれらを見切り発車してスタートした。

なお、BSE が確認される前は、英国の BSE の広がりを受けた WHO 勧告に基づいて、わが国では 1996 年 6 月、「行政指導」という罰則のない形で牛、羊、山羊（反すう動物）に、反すう動物を原料とした肉骨粉を与えないようにすることが定められていた（表 3.3）。BSE の疑いのある牛が発見されたほぼ 1 週間後の 9 月 18 日、政府はさらに規制を強化し、罰則規定を追加して強制力をもたせていた。

農林水産省は遅まきながら、国民の不安を抑える措置として、形の上では要請であるが、事実上は業界団体が反対できない超法規的措置として「疑わしきは罰する」の方針を採ったのである。

ただし、この 1996 年の肉骨粉禁止の行政指導に関しては、当時、農業資材審議会飼料安全分科会家畜飼料検討委員会で、審議会委員が罰則を持つ法的強制力として禁止することを訴えたが、政府はこれを無視したということが、厚生省・農林水産省の対策を検証した「牛海面状脳症（狂牛病、BSE）に関する技術検討委員会」の会議上で、12 月に明らかになった。

いずれにしろ、肉骨粉処理の流通が停止されることにより、食肉処理場は牛の処理を一次停止せざるを得なくなった。廃肉を肉骨粉製造業者が受け入れなくなったことにより、解体できなくなったのである。処理のめどがたつまでこの状態はつづいた。

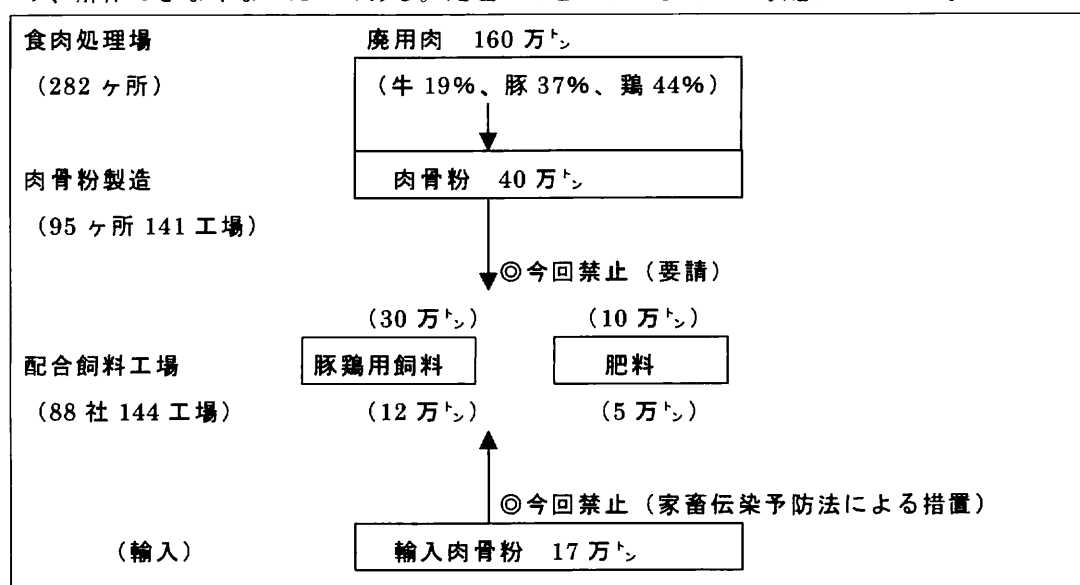


図 3.2 肉骨粉の流過程

表 3.3 肉骨粉の規制に関する・行政指導（全文）

反すう動物の組織を用いた飼料原料の取扱いについて

4 月 2 日および 3 日に開催された世界保健期間（WHO）における伝染性海綿状脳症の公衆衛生問題に関する専門家会合において、全ての国は反すう動物の飼料への反すう動物の組織の使用を禁止すべきである旨を勧告とすることが決定されたので、御了知の上、反すう動物（牛、羊、山羊など）の組織を用いた飼料原料（肉骨粉等）については、反すう動物に供与する飼料とすることのないよう、貴管下関係者に対し周知を図られたい。

(2)肉骨粉流通禁止以後の肉骨粉処分方法

この肉骨粉の流通禁止以後、廃肉骨などは産業廃棄物扱いとなり、精肉業は負担が増えた。肉骨粉の在庫は約5万ト、これは一般廃棄物として処分されることになった。ただし、肉骨粉に含まれる異常プリオンは、EU並の基準によれば、800度4時間以上で加圧焼却しなければ消えない。さまざまな問題点があり容易に廃棄処分は進まなかった(表3.4)。

表 3.4 肉骨粉焼却の問題点

●物理的・技術的問題（800度4時間燃やせない）

- ・焼却施設の焼却の余力がない
- ・構造上（灰になると下に落ちる）、粉末上のは焼却不可能である。

（3割の自治体の焼却炉）

- ・袋詰だと不完全燃焼になる・カロリーが高いため920度以上になり安全装置が停止する。

●心理的問題

- ・「800度4時間」の根拠が明確でない/わからない
- ・作業員が肉骨粉を吸い込んだ場合の危険性の危惧
- ・住民が反対する
- ・労組や住民へのどんな影響があるかについての説明が難しい。

●財政的問題

- ・管理責任は国にあり1/3の費用負担を地方交付税に求めるようなことは拒否する（鳥取、埼玉など）

（朝日新聞,2002.10.12、朝日新聞夕刊 2002.10.11、日本経済新聞 2002.10.11、日本経済新聞 2002.10.24、を参考）

そこで、10月5日には、再生セメント（全国14工場で製造）の材料に使えるよう、特例措置を設けた。セメントは1400度で加熱処理するため、BSEの原因の異常プリオンだけでなくタンパク質は除去されるが、原料のカルシウムは残る。農林水産省は肉骨粉処理に100億400万円、外郭団体である農畜産業振興事業団の資金を振り替えた。当初、国が2/3、自治体が地方交付税で1/3の費用負担する方針だったが、各自治体の反論にあい、結局、最終的には全額国が負担することになった。

表 3.5 BSE 問題の動向① (9 月 10 日～10 月 12 日)

●「狂牛病の疑いの牛」発見と肉骨粉化問題	
9.10	農水省発表「千葉県で狂牛病の疑いのある乳用牛を確認した」 千葉県・立入調査、同酪農場 50 頭の乳牛を隔離 農水省・農水省「狂牛病対策本部」設置 ・「牛乳が安全」であることを強調 ・同じ飼料を食べた牛の出荷先を調べ、その肉から作った製品などの流通停止するよう指導 ・輸入経路特定のための調査
9.12	農水省・30 ヶ月以上の牛出荷の自粛要請
9.14	農水省・「狂牛病の疑いのある牛」が、肉骨粉となっていることが発覚、「廃棄」との発表を訂正
9.18	農水省・肉骨粉を牛に付与禁止（省令）に罰則規定追加
9.19	厚労省・月齢 30 ヶ月以上の牛全部を狂牛病検査（約 100 万頭）する方針を決定。 検査費 30 億円
9.21	農水省・補正予算請求。中心は牛の総背番号制（トレイサビリティ）システムの早期始動
●「狂牛病」確定	
9.22	農水省・英国獣医研究所の確定診断により日本での「狂牛病」第一号と判明。
9.23	厚労省・食肉処理法の見直し、特定危険部位（脳・眼球・脊髓・回腸）の食用禁止を決定 18 都道府県が学校給食で「牛肉を使用しない」との変更 （毎日新聞まとめ、2001.9.23） 農水省・5 道県の 26 戸で肉骨粉飼料が使用されていたことが判明
9.25	「狂牛病」発表後の初せりで牛肉相場急落（2 割程度） 農相・肉骨粉輸入全面停止する方針を表明
9.26	農相・衆院農林水産委員会「11 道県 114 戸で肉骨粉を牛に与えていた」と答弁
9.26	厚労省・特定危険部位（脳・眼球・脊髓・回腸）の食肉処理場で廃棄する行政指導する方針を決定
9.28	文科省発表・10568 校の学校給食で牛肉を自粛していることが全国調査で明らかに （35%の市区町村、36%の小中学校、給食での使用量は国内消費量の 0.4%） 秋田県では教育委員会の指導を受け、全 448 校の国公立小中学校で事実上自粛。

●肉骨粉流通禁止、肉骨粉廃棄処分問題

- 9.29 副農相・肉骨粉国産の全面流通禁止を視野に入れ諸問題を検討する方針
- 10.1 農相・肉骨粉流通・製造を4日から全面使用禁止、在庫分は焼却処分、これらを要請
- 10.2 厚労省・牛肉の危険部位（脳・せきずい・回腸遠位部）を使用した加工食品を背製造していた場合、製造と販売を自粛、及び調査結果を報告することを行政指導
- 10.2 厚労省・あらゆる牛成分を使用した医療品・化粧品用品の製造と販売を自粛、及び調査結果を報告することを行政指導
- 10.4 肉骨粉流通・製造全面禁止
- 農相・農相衆院予算委員会で飼料安全法に基づく省令改正で法規制する方針表
- 10.4 厚労省・牛の加工食品成分確認不可能でも自主回収を要請
- 10.4 与党「牛肉を多いに食べる会」開催
- 10.5 農水省・厚労省共同の「BSE 対策検討会」設置
- 農水省・200 戸 8000 頭以上に肉骨粉が使用されていたことを表明
- 文科省・牛の加工食品成分確認不可能の場合、給食に使用しないよう指導
- 東京都・都内産の牛には都家畜保健衛生所の肉骨粉非使用証明書を発行
- 他県にも同様の証明文書を出すよう要請（都流通牛肉はほとんど他県産）
- 厚労省・検査対象の牛を生後 30 ヶ月（100 万頭）から月齢を問わず全ての牛（約 30 万頭）へ拡大する方針を表明
- 環境省・肉骨粉セメント化容認
- 10.7 農相・記者会見で 18 日に安全宣言の意向表明
- 10.9 厚相・衆院予算委で 18 日に安全宣言の意向表明
- 10.11 農水省・牛以外の肉骨粉を肥料・ペットフード用へ解禁の方針表明
- 10.12 農水省・18 日検査体制が整うまで出荷先送りするよう 10 日指導したこと表明

3.3 BSE リスク管理とサーベイランス体制の確立

2001年9月10日、BSEに感染する牛が確認されたのをきっかけにして、

①クライシスマネジメント（生じてしまった危機への対応）

BSEが発生してしまったため、そのことによる「牛肉離れ」を防ぐための対応
その事態を収めるための対応

②リスクマネジメント（今後の危険性の回避）

今後はBSEが発生するものとして、BSE（異常プリオンを含む食肉）を流通させないための対応

の二つが重要になってきた。

検査体制の確立は、この②リスクマネジメントにあたる。

具体的には、農林水産省の実施した(1)「製肉リスク管理」としての全頭検査体制の導入であり、厚生労働省の実施した(2)「牛成分混入加工食品」の排除、(3)「牛成分混入薬品・化粧品」の排除、などである。

(1)全頭検査体制の導入：製肉リスク管理の問題

農林水産省は、BSEの疑いある牛の発見直後の9月12日、全ての乳牛、肉牛に対して症状の確認を各都道府県に要請した。これを受けて、各都道府県の家畜保健衛生書の獣医師ら5800人が、12日～30日まで調査にあたった。

BSEの発生前は、起立不能など神経症状のある（と外見上判断できる）月齢24ヶ月以上の牛に限って、BSEの検査が行われていた。つまり目視である。EU諸国では、BSEの発症は月齢30ヶ月以上の牛に見られるとされるので、症状がない牛でも生後30ヶ月以上の牛は検査対象とされている。なお、起立不能など異常が確認される牛に対しては、5月17日以降、畜場法により異常プリオン検査は実施されていた。

BSE発生後、厚生労働省は9月19日、今後のBSE検査として、このEU同様の生後30ヶ月以上の牛の検査を行うことにした。また21日には、この検査結果の判定前には牛の搬出停止の方針を打ち出した。これも、EU同様の基準である。

そして10月9日、厚生労働省は検査対象の牛を生後30ヶ月（100万頭）から月齢を問わず全ての牛（約130万頭）に拡大する方針を表明した。ただし、これは科学的な意味はなく、国民の不安を沈静化するという心理的効果を狙ったものであろう。30ヶ月未満では相当量の肉骨粉を食べない限り、発症するほどの異常プリオンが蓄積していないため、検出ができないことがわかっているからである（日本獣医学会緊急シンポジウム、日本経済新聞、20002.10.8）。EUの基準もこれによっている。

2001年BSE（狂牛病）の社会的影響と対策

Social Impact and Policy Management of the Mad Cow Diseases (BSE) in Japan

2003年 3 月

関谷 直也、
SEKIYA Naoya,

大西 勝也、
OONISI Katsunari,

廣井 脩、
HIROI Osamu,

表 3.5 BSE 検査方法とその変更

解体処理

(延髄)

一次検査 (各地食肉衛生検査所) エライザ法 数時間

一回目	二回目	
陰性	→	「安全」と判断
陽性	→ 陰性・陰性	「安全」と判断
	陽性・陰性	二次検査へ
	陽性・陽性	二次検査へ

二次検査 (帯広畜産大、国立感染症研究所、横浜検疫所、神戸検疫所)

ウエスタン・プロット法 12～24 時間
免疫組織化学検査 (検査顕微鏡での調査) 解体後 1 週間
病理組織検査

確定診断 厚生労働省専門家会議

10 月 16 日 変更

一回でも陽性の場合は二次検査に回す。一次二回目検査は平行して実施。二回の再検査で両方陰性の場合は二次検査を行わない。

10 月 18 日 検査実施

10 月 27 日二次検査の方法厳格化

ウエスタン・プロット法で陽性の場合、「クロ」と判定。確定診断を実施。ただし同検査で陰性の場合でも免疫組織化学検査 (検査顕微鏡での調査)、病理組織検査を行う。

エライザ法とは、解体した牛の延髄から、異常プリオンが蓄積しやすいかんぬき部を350mm 取り出し、機械を使って液状化する。その後、正常プリオンを分解する酵素を入れて、異常プリオンだけが残るようにする。その後試薬で発色させる。ただし、分解するまでの温度設定や時間管理などを誤ると正常プリオンも残り、これが発色してしまう場合がある。これは 1/100～1/10000 の確率で生じる。試験方法は感度が高く精度が低いため、見逃しリスク（クロなのにシロと判断してしまう）と、間違いリスク（シロなのにクロと判断してしまう）が高い。

そのため、一度陽性反応が出た場合、2 回再調査を行い、いずれも反応がでない場合は陰性（出荷可能）とする。いずれかで反応がでた場合、二次検査に進む。

ウェスタン・プロット法は、エライザ法同様に、液状化した溶液に電流を流す。これは 12—24 時間と時間がかかり、設備が全国で 4 ヶ所しかないので時間がかかる。2002 年 4 月以降は、各地食肉衛生検査所で実施可能になる。その代わり精度が非常に高い。

(2)牛成分混入—加工食品リスク管理の問題

厚生労働省は 10 月 2 日、牛肉の危険部位（脳・せきずい・回腸遠位部）を使用した加工食品を製造していた場合、製造と販売を自粛し、調査結果を報告することを行政指導した。また 5 日には、牛の加工食品成分が確認不可能の場合は、自主回収を要請した。この後、新聞には各企業の回収広告が新聞社会面広告欄をにぎわすことになった。使用製品については、豚や鶏への原料転換、海外で安全とされている BSE 未確認国の牛の使用などを求めた。これらは、安全な食品を提供するのは各メーカーの企業責任である、として調査が行われた。

11 月 2 日には、調査結果が出揃った。その結果、牛を原料にした加工食品 132645 のうち危険部位を使用し、販売中止・回収したものは 22 品目、危険部位の混入の可能性のある 424 品目（混入 51 品目・不明 373 品目）のうち、402 品目は BSE 未発生国の原料だった（表 3.6）。

(3)牛成分混入—医療品・化粧品リスク管理の問題

10 月 2 日、厚生労働省はあらゆる牛成分を使用した医療品・化粧品用品の製造と販売を自粛し、その調査結果を報告することを行政指導した。

表 3.6 代表的な牛成分と加工食品

成分物	加工食品
牛エキス	調味料（ブイヨン、コンソメなど）、スナック、菓子、レトルトカレー
骨粉	ふりかけ、カルシウム、補助食品
ゼラチン	アイスクリームなどの安定剤、ベビーフード
コラーゲン	美容食品

具体的な食品（例）

- ・牛モツ煮込み（時兼畜販＝北海道上磯町）
- ・牛もつ煮込み（ホクビー＝石狩市）
- ・牛小腸スライス（スターゼンミートグループ三戸＝青森県三戸町）
- ・牛一番（タカノ＝新潟県長岡市）
- ・牛汁（アグリやんばる＝沖縄県名護市）
- ・牛骨エキス（徳岡商会＝東京都荒川区）
- ・オラッチェカレルウ辛口（大味研＝大阪府枚方市）同中辛（同）同お子様（同）「大地」向けカレルウ辛口（同）同中辛（同）同お子様（同）オラッチェデミグラスソース（同）「大地」向けデミグラスソースルウ（同）
- ・生ラーメン用スープ醤油味（スター食品工業＝茨城県猿島町）同味噌味（同）肉まん（飛鳥菜館＝東京都江東区）水ギョウザ（同）シャービン（同）カレーまん（同）春巻き（同）しゅうまい（同）

注・徳岡商会、大味研、スター食品工業、飛鳥菜館の商品はいずれも「大地」の製造委託分。

3.3 全頭検査実施に至るまでの問題点と全頭検査実施後の問題点

(1) BSE 疑似陽性の牛と一次検査結果の公表の是非

10月11日、東京都・都衛生局生活環境部長が、全国117ヶ所食肉衛生検査所の検査員を対象にBSE検査の講習会を行った際、都中央卸売市場で研修のための牛検体から、擬陽性の牛が10日に見つかったと発表した。検査機器メーカーの検査員が再検査したところ、一頭が再度、陽性になった。そこで、牛肉の流通停止・回収を指示したのである。実際、12日から17日まで都中央卸売市場は取引停止となった。講習に講師できていた帯広畜産大の品川森一教授が確定診断を行ったところ、翌日陰性と判明した。

この出来事の影響は大きかった。第一に、牛の由来の追跡が不可能だったため、市場流通がストップしてしまった。検査準備期間中であつたため、検査後出荷ではなくて、検査中にすでに出荷されていたからである。そして準備期間中のため、検体採取の記録もなく追跡も不可能であつた。

第二に、行政間の連絡体制の不備が露呈した。この件に関する連絡が非常に遅く、都が発表する直前になって農林水産省に伝わるなど、連絡体制の不備が露呈してしまった。このことは、農林水産省と厚生省の危機意識の欠如として、マスコミが批判する格好の材料となった。

表 3.7 検査研修中の疑似陽性発見経緯

10 日午後	横浜検疫所で「研修中」検体が陽性反応
11 日午後	横浜検疫所で検査メーカーの検査員が「再検査」。検体が陽性反応 直後に厚生労働省食品保健部監視安全課に報告
19 時頃	厚生労働省食品保健部監視安全課長に報告
22 時頃	東京都に連絡、徹夜で対応狭義、流通中止
12 日 10 時頃	農水大臣、農林水産省に連絡。「連絡遅すぎる」と厚生労働省に抗議
12 日 10 : 45	東京都衛生局生活環境部長、中央卸売市場計画担当部長が記者会見
12 日朝	帯広畜産大品川守一教授がウエスタンブロット法で確定診断 官邸に連絡がないことで上野公成官房副長官、厚生労働省食品保健部長、 農林水産省畜産部長を厳重注意
13 日 0:20	厚生労働省「シロ」発表

第三に、いままで問題になっていなかった、全頭検査の情報公開の方法が問題化したのである。厚生労働省食品保健部監視安全課長は、BSE 確定診断後の公表を考え、それまで公表しなかったため、東京都の対応が先行した。厚生労働省は、確定診断まで一次検査結果は公表しない方針でいた。ただし、小野寺節東大教授など専門家は、検査方法の精度の問題なので一次検査で公表するのは難しいと、その対応が必ずしも「隠す」ということではないことを説明した。

厚生労働大臣は、12 日深夜の記者会見で「知らせなければ隠しているように思われるし、公表すれば風評被害ともいわれる」と語ったが、「疑わしきは拾い上げる」方針なので、全頭検査においては「一次検査結果を公表」する意向を表明した。そして、この 12 日の騒動の結果を受け、13 日、厚生労働省として一次検査結果を公表する方針を決めた。これに対し、農林水産省、農林水産大臣、農林水産副大臣も積極的に同意した。

そして、これを受け、13 道県は一次検査での擬陽性の段階で発表することとした。山形牛など、大産地を抱える県は比較的決定が遅くなったことから、その要因は風評被害を抑えるためであるともいわれた。一次検査の段階で早めの情報公開が大切か、二次検査が確定してからの正確な情報公開を期すべきかで、各自治体の対応にばらつきが出た。

表 3.8 一次検査結果の公表自治体（14 道県）

北海道、福島、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、神奈川、 長野、三重、和歌山、岡山、鳥取、福岡、長崎

しかし 16 日、自民党狂牛病対策本部は「風評被害を拡大する」として一次検査での発表を控え、二次検査での確定診断後の発表方針を決議した。そして、厚生労働省はこの方針を受けることとなってしまった。18 日の各県への送付文書では、この方針に「特段の配慮」を求めた。ただし、このことで方針を転換した道県はなかった。

この公表問題に関する消費者団体や環境 NGO の反応も、まちまちであった。日本消費者団体連絡会・事務局長は、「疑心暗鬼となるので一次検査で公表すべき」とし、一方、環境 NGO 日本子孫基金・事務局長は、「消費者、行政、生産者が振り回されるだけでメリットはない」という立場を表明したものである。

科学的には、一次検査での陽性反応は、BSE 確定において「許容値以下」とか「不確定要素が残る」という意味ではない。検査キット、検査体制の誤差の範囲であり、BSE でなくとも、反応が出る場合がある。その不確実性は検体に由来するものではなく、検査体制に由来するものであるので、「一次検査結果発表＝情報隠し」とは単純にいけない。たとえば、ダイオキシンの許容値以下の汚染を発表しないのとは意味が異なるのである。

いずれにしろ、全頭検査の実施後は、危険な牛は市場に出ない。確定診断でしか精度の高い結果は出ないのだから、全頭検査実施後の公表も、真実に近い正確な結果の公表という意味では正しい。

(2)全頭検査前の在庫牛肉の市場隔離の問題

10 月 16 日、自民党狂牛病対策本部は、会合で、百数十億かけて約 1 万 3000 頭の解体された流通在庫肉を買い取ることを決議し、これを農林水産省に要請した。農林水産省は、いったん買い上げて価格調整を行う「調整保管」を検討したが、当初、処分を前提とした買い上げは想定していなかった。政府見解としての「牛肉は安全」との考え方に疑念がでるからである。しかし 19 日、農林水産省は全頭検査前の国産牛肉の買い取りを表明、価格安定を待つ「調整保管」を行うことになった。ただし、自民党狂牛病対策本部の意向に押し切られる形で、市場に戻さないことを非公式に確約している。

(3) BSE の発生ルート解明の問題

当初から言われていたが、BSE 牛の感染ルートの解明は、更なる BSE の汚染を食い

止めるための絶対条件であった。だが皮肉にも、これは全頭検査の2頭目、3頭目が見つかったから、共通点を見出すということをテコに急速に進み出した。

第一の共通点は、これら BSE 牛生まれた地域や時期に近いことである。千葉県白井市で発見された BSE 牛の一頭目は、1996 年 3 月 26 日北海道佐呂間町で生まれ、二頭目は 1996 年 4 月 4 日北海道猿払村で生まれた。一頭目は 1998 年 4 月に白井市に売却されていた。まず、この時期が着目された。

第二に、これら BSE 牛に対して、この2年間に与えられた飼料が着目された。その結果、代用乳と飼料に絞られた。そして 11 月 23 日、動物性油脂、血しょうタンパクが含まれている牛専用の粉ミルクが同じ工場製ではないかという見方が示された。そして 26 日、この飼料（ホクレン農業協同組合連合会系 2 工場で配合）で肉骨粉を使う豚鶏用飼料が同じ製造ラインで作られていることも明らかになった。28 日には、子牛用の粉ミルクに混ぜ、下痢止めの効果があるという、米国製の牛と豚の血しょうタンパク入りの補助飼料「パワフルヘルボ」が与えられていた（これは 2002 年 9 月飼料安全法の農林水産省令が改正され、禁止）。

3 頭目が見つかった、さらに共通点は絞られた。この牛にも、動物性油脂、血しょうタンパクが含まれている牛専用の同種の粉ミルクが使用されていることが判明したからである。飼料が 1 頭目、2 頭目と同様に豚鶏用飼料が同じ製造ラインで作られていること（全農関連会社関東くみあい化成工業赤城工場）も明らかになった。

これらの共通点とそれまでの調査をまとめてみると、BSE の発生源として、①イタリア産の汚染肉骨粉が流入した、②豚鶏向け飼料用の肉骨粉が製造段階で牛の配合飼料に混入した、③代用乳の成分に牛の危険部位が混入した、④過去に国内で感染した牛の肉骨粉を食べた（二次感染）などさまざまな要因があがったが、まだどれも疑惑段階である。

(4) 廃用牛の処分問題

検査結果で、BSE 陽性の感染牛が、3 頭とも高齢（5～6 歳）の乳牛ホルスタインの廃用牛であったことから、各方面で、廃用牛が事実上出荷できないことが問題となってきた。BSE が発見されるたびにその地域の牛の値がつかなくなる、全国的に牛肉消費が落ち込むという状況になってきた。

山形では、県食肉公社が、事実上雌ホルスタイン廃用牛を解体処理しないよう、出荷自粛要請していた。また東京芝浦、横浜市、埼玉市、川口市の食肉市場は、廃用牛の受け入れを抑制していた（毎日新聞、2001.12.15）。12 月中旬には、総じて約 2 割が拒否されていたということである（朝日新聞、2001.12.18）。

廃用牛を解体側が受け入れたくない理由は、①感染牛がでるとイメージが悪くなる、

②処理場の稼動がストップして他の処理にも影響がでる、③処理場を完全洗浄するため休業をせまられる、などである。また農家側も、①価格下落によって赤字となるため出荷したくない、②BSE がでた出荷農家の牛は「疑似患畜」として出荷できなくなる、③周囲の畜産業者からの圧力がありリスクを犯したくない、などの理由から出荷を自粛するケースもあった。厚生労働省の通達で速やかに流通に出すことが求められたが、そう簡単にはいかなかった。

表 3.9 BSE 問題の動向②（10 月 12 日～12 月 2 日）

●「疑似陽性」牛確認と「一次検査結果」公表/非公表問題、在庫牛肉の市場隔離

- 10.12 東京都・都衛生局生活環境部長が都中央卸売市場での狂牛病検査の研修のための牛検体（26 頭/303 頭）から擬陽性の牛が 10 日見つかったと発表。18 日まで流通停止、回収を指示。
- 10.12 厚労省・全都道府県担当課長会議で確定診断まで一次検査結果は公表しない方針
- 10.12 厚相・深夜「疑似陽性」牛が確定診断にて「シロ」と判明したと公表
- 10.13 厚労省・一次検査結果で「疑似陽性」の場合公表の方針
- 10.15 農水省・肉骨粉の飼料使用を全面禁止する省令施行
- 10.16 自民党狂牛病対策本部・約 1 万 3000 頭の 18 日以前に解体された流通在庫肉買取検討
- 10.16 農水省・牛の「総耳番号製」の実施方針固まる。同省外郭団体家畜改良事業団が実施（2001 年から北海道、愛知、愛媛秋田、熊本、沖縄でモデルケースとして導入済）
- 10.17 農水省・「狂牛病問題に関する調査委員会」設置
- 10.18 農相、厚相「安全宣言」
- 10.18 厚生省・狂牛病対策として全頭検査開始
- 10.18 農水省・屠畜場法の施行規則改正。特定危険部位の焼却を罰則つき義務化。
- 10.18 農水省・肉骨粉処理、1/3 地方交付税での負担から全額国費負担へ。

農相/厚相・「すでに狂牛病に感染している牛がいないと断定できない」

●全頭検査開始から国内2・3頭目発見と感染ルート解明

- 10.19 農水省・全頭検査前の国産牛肉の買取・保管（8ヶ月）を表明、価格安定を待つ「調整保管」
- 10.19 環境省・1565 公営焼却所のうち肉骨粉受入意向は 15%、230 施設と調査を公表
- 10.22 20 日現在で 3813 頭陰性確認
- 10.23 厚労省・2003 年 4 月以降二次検査各都道府県で実施の方針表明
農水省・豚鶏用肉骨粉 流通再開へ
- 10.24 狂牛病対策費 1554 億円（畜産経営安定策 488 億、焼却費用助成 376 億円、施設 265 億）。畜産肥育経営安定対策は一等あたりの推定所得が農家の労働費を下回った場合に差額の 8 割を補填する仕組み。上限肉牛一頭あたり 6 万円 肉牛 2 万 6 千円）
- 10.26 農水省・全頭検査後の牛肉も価格を下支えするため「調整保管」実施。
83000 頭 162 億円まで。
農水省・全頭検査前の国産牛肉の買取後、市場に戻さないことを自民党狂牛病対策本部の意向を受け非公式に確約。
- 11.2 厚労省・牛を原料にした加工食品 132645 のうち危険部位を使用し、販売中止・回収したものは 22 品目、危険部位混入可能性ある 424 品目（混入 51 品目・不明 373 品目）のうち 402 品目は狂牛病未発生国の原料だった。
- 11.6 杉並区/荻窪区・都食肉事業共同組合杉並支部/荻窪支部が 18 日以前の牛肉の独自に焼却処分することを決定。区の清掃事務所が 14 店舗から回収。
- 11.16 副農相・死亡牛も検査対象に含める方針表明
- 11.21 国内狂牛病 2 頭目発見。北海道猿払村。育成農場の飼育牛約 70 頭の移動を禁止 87872 頭のうち一次検査陽性 15 頭。二次検査陽性は初。
- 11.22 農水省・肉骨粉飼料を食べた牛 5192 頭を買い上げ焼却する方針。約 17 億円の予想。
- 11.23 猿払村東宗谷農協・飼料 4 品目が共通していたことが判明
- 11.30 農水省・中間報告「伊飼料が加圧と加熱の国際的基準を満たしていなかった可能性」
- 11.30 狂牛病 3 頭目発見。群馬県宮城村の生後 68 ヶ月の牛。

全国で約 12 万 5000 頭が検査

3 頭共通して使用されていた粉ミルク製造元科学飼料研究所高崎工場を立入検査

3.4 BSE 対策の検証と問題の転嫁

この後、12 月一杯は、農林水産省「狂牛病問題に関する調査検討委員会」での議論を後追いする形で、報道は推移していった。そして、その報道に煽られた形で武部農林水産大臣の失言問題、辞任要求と移っていく。

(1) BSE 対策の検証：BSE（牛海面状脳症＝狂牛病）問題に関する調査検討委員会

農林水産省「狂牛病問題に関する調査検討委員会」はこれまでの農林水産省、厚生労働省の BSE 対策のどこが問題であったかを検討するために作られた委員会である。ここで、さまざまなことが再確認され、整理されていった。

この報告の論点をまとめると、次の 3 つがあげられる。

①WHO 勧告に基づく肉骨粉使用禁止を行政指導にとどめ、法的規制を行わなかったこと

1996 年、農業資材審議会飼料安全分科会家畜飼料検討委員会で、WHO の勧告を受けて行政指導で同年 4 月肉骨粉使用を禁止していたものを、審議会委員が法的に「肉骨粉を禁止するよう」提唱したが、議論を継続することだけが決定され、昨年 12 月の委員会まで議論が行われなかったことに関する議事録が調査検討会で公表された。

②イタリア肉骨粉の問題（2001 年 1 月）

欧州委員会食品獣医事務局がまとめた「イタリア産肉骨粉が危険」であるとの調査報告書を、今年 1 月に入手していたが、国会では安全を強調していたことを指摘。

③EU 科学運営委員会の日本の BSE に対する警告をまとめた調査報告書

12 月 13 日、毎日新聞が、EU 科学運営委員会狂牛病専門家班のまとめた日本の狂牛病調査報告書の存在をスクープした。それまで、農林水産省はその存在を否定していたのである。その後、農林水産省は調査検討委員会で、EU 科学運営委員会狂牛病専門家班のまとめた日本の BSE の危険性を指摘する調査報告書と、農林水産省の反論書簡を公表した。

これらは、毎日新聞の連日の調査報告書のスクープと、それに伴う国会での責任追及が相互効果を生じ、農林水産省が調査検討委員会に文書や議事録を出さねばならない状況になっていったものである。

(2) 武部農林水産大臣の失言問題

そして事態は、農林水産大臣の「失言」問題へと続く。武部農林水産大臣の地元の中標津村で、『(牛の肉骨粉を牛に与えてはいけないという)』行政指導を知らなかったという農家がある。それは恥ずかしいと思わないのか」「感染源が解明されないことはそんなに大きな問題か」「英国では 10 年かけても感染源の特定はできていない。感染源が解明されないことは、酪農家のみなさんにとってそんなに大きな問題なのだろうか」「給食に牛肉を出さないのは情緒的」「牛乳はよくて肉はだめなのか、牛肉をやめるなら牛乳はなぜやめられないか」などと発言したのである。

表 3.10 BSE 問題の動向③ (12 月 2 日～2002 年 1 月)

●WHO 勧告問題と農林水産省のリスク管理

- 12.7 農林水産省：1996 年農業資材審議会飼料安全分科会家畜飼料検討委員会で、WHO の勧告を受けて、行政指導で同年 4 月肉骨粉使用を禁止していたものを、審議会委員が法的に「肉骨粉を禁止すること」を提唱したが、議論を継続することだけが決定され、昨年 12 月別委員会まで議論が行われなかったことに関する議事録公表。
- 12.13 毎日新聞・EU 科学運営委員会狂牛病専門家班のまとめた日本の狂牛病調査報告書の存在をスクープ
- 12.14 毎日新聞・欧州委員会食品獣医事務局がまとめた「イタリア産肉骨粉が危険」であるとの調査報告書を今年 1 月に入手していたが、国会では安全を強調していたことを指摘。
- 12.14 農林水産省・つくば市に BSE の総合的研究拠点「狂牛病研究センター」建設の方針
- 12.17 農林水産省・牛の総耳番号制第一号が岐阜県大和市の牛につけられる。2002 年 3 月まで全頭につける。
- 12.21 農林水産省・狂牛病問題に関する調査検討委員会で、EU 科学運営委員会狂牛病専門家班のまとめた日本の BSE の危険性を指摘する調査報告書と農林水産省の反論書簡を公表。
- 12.26 農林水産大臣・地元中標津村で「(牛の肉骨粉を牛に与えてはいけないという)行政指導を知らなかった」という農家があるそれは恥ずかしいと思わないのか」「感染源が改名されないことはそんなに大きな問題か」「英国では 10 年かけても感染源の特定はできていない。感染源が改名されないことは、酪農家の

みなさんにとってそんなに大きな問題なのだろうか」「給食に牛肉を出さないのは情緒的」「牛乳はよくて肉はだめなのか牛肉やめるなら牛乳はなぜやめられないか」

1.5 農林水産省・食肉処理場に出荷前に死んだ生後2年の牛（以前はほぼ肉骨粉に加工）に全頭 BSE 調査（それ以前はサンプリング調査）

(3)食品偽装問題

この後、BSE 問題は根本的解決がなされたというわけではないが、全頭検査前の国産牛肉の買い取り制度を悪用した雪印食品や日本ハムの牛肉偽装事件をきっかけに、食品の原産地、成分などの偽装表示に問題がうつっていく。その副次的結果として、BSE 問題は次第に人々の頭の中から（というよりもマスコミの関心が薄れていった結果として）薄れていった。これ以降、BSE に関する大きな論点はなく、4 頭目、5 頭目が発見されても、それまでと比べて非常に小さな扱われ方であった。

国産牛肉買い上げ事業の悪用とは、輸入肉を国産肉と偽り、補助金を不正受給した企業が告発されたことであり、牛肉の産地偽装が急速に問題化していった。これらの偽装表示は業界としては常態化していたとみられ、全貌の解明は困難と考えられる。

なお、消費者の側からみると、食品衛生表示の法律は難しい。いずれも、早期に企業名を公表することが政府の方針となったことで、食品偽装事件は広く知られることになったが、逆に「何を安全と捉えればいいか」と、消費者の混乱をもたらしたともいえる。消費者のユーザビリティに即した法令の簡便化が求められる。

表 3.11 主な B S E 関連の食品偽装事件（5、6、7 月中心に発覚）

雪印食品偽装事件（輸入牛肉を国産牛肉と偽装して買上げ申請）
全農チキンフーズ（タイ産鶏肉を国産と偽装表示、鶏肉需要増のため）
宮城丸紅畜産事件（輸入鶏肉を国産鶏肉と偽装表示、鶏肉需要増のため）
日本食品偽装事件（輸入牛肉を買上げ申請、検査ごまかし）
ミスタードーナツ（肉まんに添加物/酸化防腐剤が含まれえいた）
協和香料科学事件（食品衛生法で認められてない添加物を製造）
日本ハム牛肉偽装事件（検査前に 1.3 t 焼却）

表 3.12 食品表示に関する法律

JAS 法	農林水産省	全ての飲食料品
		※ 1 年以下の懲役、個人 100 万円以下、法人 1 億円以下罰金
食品衛生法	厚生労働省	公衆衛生の見地から表示が必要な食品、食品添加物
		※ 営業許可取消、6 ヶ月以下懲役、3 万円以下罰金
景品表示法	公取委	事業者が一般に提供する商品
		※ 審決に従わない場合 2 年以下の懲役、300 万円以下の罰金

(4)組織の改善

BSE 問題とその後の食品偽装事件を受けて、政府の組織も、表 3.13 のように変わる事になった。

表 3.13 2002 年度 7 月の組織再編

内閣府	食品安全委員会（監視委員会）
農林水産省	消費・安全局（安全管理を担当）
	総合食糧局食糧部（食糧庁廃止に伴う吸収）
	食糧消費事務所（各地に設置、食糧庁各食料事務所の転置措置）

4 行政・業界・報道の対応②：BSE に関する論点

以上、簡単に BSE 問題の経緯についてみてきたが、BSE の教訓とは何であろうか？ 細かい論点は上記の時系列でまとめてあるので、(1)行政・政治、(2)業界、(3)風評被害の順で、その構造的問題点を指摘する。

4.1 行政・政治の BSE 対策の問題点

(1)日本における BSE のリスク評価の甘さ

まず、第一の問題点は、日本における BSE のリスク評価の甘さである

先に述べたように、1996 年の WHO 勧告、EU のイタリア肉骨粉についての指摘、日本の問題点についての報告書などを軽視したことも問題であるが、日本では 9 月 11 日以前は BSE が一切発見されていない。ゆえに参考になるのは、米国の BSE 対策であろう。

米国では、肉骨粉を使う豚鶏用の飼料製造ラインと、牛の飼料製造ラインが同じ場合に、侵入防止を図るため大豆やとうもろこしの残りがすを用いてクリーニングする必要がある。これは、米国が 1997 年に設けたガイドラインである。一方、これを農林水産省が全国に通知したのは今年であった。米国では 1997 年 8 月、哺乳類に由来するたんぱく質（肉骨粉、血粉など）を牛に与えることを禁止し、9867 の飼料・肉骨粉製造業者を立ち入り検査している。

これにくらべると、日本はリスク管理が不十分であった。その認識も甘かった。

(2)多重の政策決定過程

第二の問題点は、多重の政策決定過程である。

日本の畜産行政は、農林水産省、厚生労働省の二重の管轄下におかれている。これを縦割り行政と報道各社は指摘していた。ただし、10 月 5 日共通の狂牛病対策検討会設置以後、12 日東京で疑似陽性の牛が見つかったときの連絡不備以外は、作業分担が進んだとも評価できる。

問題はむしろ、二重というより、多重の政策決定過程である。

まず、もっとも大きな問題点としてあげられるのが、「農林水産省狂牛病対策本部」と「自民党狂牛病対策本部」の関係である。後者は自民党内に設置された農水族議員の対策本部であるが、与党であり、武部農林水産大臣、遠藤副農林水産大臣、農林水産省狂牛病対策本部長が自民党議員である以上、この与党対策本部の意向は無視できない。実

際、混乱が生じている場面がある。

表 4.1 畜産行政における農林水産省と厚生労働省の管轄分担

	農林水産省	厚生労働省
食肉関連法制	家畜伝染病予防法 (食肉処理も含む)	屠畜場法
管轄対象業	農業(場)	食肉処理業(と畜場)
管轄業務	畜産生物(牛) の飼育、出荷	食肉処理、食肉流通
管理実施	家畜保健衛生所	食肉衛生検査所 (BSE 一次検査実施組織)

その第一は、全頭検査の対象牛についてであった。

農林水産省は 9 月 12 日、生後 30 ヶ月以上の牛を対象(約 100 万頭)に BSE 検査を実施することにしたが、自民党対策本部は 10 月 5 日、これを食用肉の全ての牛(約 130 万頭)にすることを要望し、これを受け入れる形で 9 日、農林水産省も正式決定した。

しかしこれは、科学的意味が乏しい。30 ヶ月未満では、相当量の肉骨粉を食べない限り、発症するほどの異常プリオンが蓄積していないため検出ができないことがわかっているからである(前述)。EU の基準もこれを理由にしている。また、これは結果的に 30 ヶ月未満の牛までを母数に含めるため、表面上の数値として BSE の発生率が低く抑えられるのである。表向きは安全を証明するためかもしれないが、数字のごまかしともいえよう。

第二に、一次検査の発表問題がある。当初、厚生労働省は、一次検査(エライザ法)は「簡易に検査できるが信頼性に問題がある(ゆらぎがある)ため二次検査で公表」する方針であった。これは前述したように、小野寺節東大教授など専門家も「検査方法の精度の問題なので一次検査で公表するのは難しい」と、その対応が必ずしも「隠す」ということではないことを説明している。しかし、東京都における疑似陽性の対応などを受け、この方針を変えて、一次検査でも公表していくこととした。報道への対応などから、この件に関しては情報公開を行わざるを得なくなり、精度の問題を承知しつつ、公

表する方針をとった。だが、また数日後、「風評被害を広げる」という理由から、自民党対策本部がこの方針を覆し、二次検査後に公表する方針にしたのである。

科学的には信頼性に問題がある以上、一次検査を公表しないのはあながち不当とはいえない。だが、自民党の対応は、「風評被害を防ぐ」という目的をもつものであった。これは、「コロコロかわる行政施策の一貫性のなさ」をあきらかにして、批判のネタを増やすことになった。

第三に、全頭検査前の国産牛の買い取り問題である。10月16日、自民党狂牛病対策本部は約1万3000頭の解体された流通在庫肉買い取りを検討し、18日には農林水産省が買い取り・保管（8ヶ月）を表明、価格安定を待つ「調整保管」としたが、結局、26日には市場に戻さないことになった。

4.2 BSE 問題に対する社会的対応の問題点

(1) BSE に対する問題意識の欠如

報道、社会の側の問題点として、まず指摘されるのは、BSE に対して無自覚であったのは、農林水産省だけではないということである。政府を厳しく批判したメディア自体も無自覚であったことを認識する必要がある。

報道記事では、9月10日以前はほとんど BSE に関するものは見られない。NHK は NHK スペシャルで「狂牛病」を BSE 発生後直後に放送したが、この問題を取り上げるために数ヶ月前から英国に入り調査を行っていた。これが、BSE 発生前の本格的な調査報道として唯一の事例であろう。

報道機関は外電、BBC、Times など英国報道に最も近い位置にあるはずである。それが欧州の BSE 問題に注意を払っていなかった、日本に警鐘をならすことがなかったのであるから、他国の問題と静観していたのは行政だけではなく、報道機関も一緒である。

また、わが国における BSE 関係の著作や解説本は、9月10日以前には数冊程度しかない。しかし、9月10日以降現在（2002年10月）まで、20冊以上刊行されている。そのほとんどは、英国を中心とする海外の翻訳に解説をつけたものが多い。これは、裏を返せば BSE に関する著作を書ける人が少ないことを示している。また、学術論文論文も9月10日以前は非常に少ない。とくに、学者・研究者が啓発活動をあまりしてこなかったつけは大きい。

(2) 業界団体、食品主力企業の BSE 対策、肉骨粉流通の認識不足

第二の問題点は、業界団体、食品主力企業の BSE 対策、肉骨粉流通の認識不足であろう。

BSEに関する農業関係者の独自の対策はあったか、ということ目立ったものはない。それこそ風評被害を恐れ、行わなかったともいえる。しかし、宮崎県で口蹄疫の発症事例もあり、牛に起因する病原性大腸菌「O-157」は、1995年以降すでに全国的に知られたものとなっている。商品として食肉を生産する以上、自分の生産する商品に対して万全の安全管理を施すのは、生産者の責務である。

次に、肉骨粉に関してはどうだったか。まず、農林水産省が、①肉骨粉を行政指導に留め法的規制を行わなかった点、②その告知・浸透が不十分であった点は、問題である。また、③国内肉骨粉のリサイクルの影響が少ないよう取り計らったと言われても、否定できないかもしれない。しかしだからといって、全て行政の責任であろうか。

一軒一軒の農家はまだしも、少なくとも肉骨粉業界、農業関連団体、互助組合、日本畜産副産物協会などの関連団体は、肉骨粉とBSEの関係や、肉骨粉の危険性を知らなかったでは済まされないだろう。むしろ知っていて、行政の規制の緩さに甘えていたのかもしれない。①肉骨粉には海外産と国産があったこと、また②英国からの畜産、畜産副産物が輸入禁止となっていることなどを知らない業界団体があるとは考えられないからである。

4.3 BSE問題における「風評被害」

(1) 冷静さを欠く過剰反応

BSE自体が将来のリスクとして問題であるのは当然のことだが、英国では約18万頭のBSEが確認されており、しかし、新型クロイツフェルトヤコブ病の患者は107人である。今のところ日本のBSE牛は5頭なので、同じ計算をすると、新型クロイツフェルトヤコブ病の患者は0.00297人の可能性となる。もし、日本で新型クロイツフェルトヤコブ病が見つかった場合、BSE起因説自体に疑問が生じるともいえよう。しかし、BSE問題はショッキングであり、このような冷静な計算がなかなか出来ないのも事実である。

この冷静さを欠いた態度について、消費者にその責任をすべてかぶせるのは酷である。それをもたらしたのは、「外国産の牛肉ならば安全だ」と強調した外食業界であり、また行政批判に熱心なあまり、消費者への心理的影響や畜産農家への影響を軽視した報道機関であり、そもそも不始末を連発した行政であろう。消費者は、上記の客観的リスクを認識するのではなく、むしろ、「国産を使っていない」「周囲の人は焼肉を食べていない」「多く報道されているから危なそうだ」などということから、危険性を主観的に判断している。

(2)輸入肉への切り替えの過剰反応

第二に、輸入肉への切り替えの過剰反応である。これは、外食業界、流通業界、報道機関の問題点である。たとえば、㈱レインフーズインターナショナル（「牛角」）は10月、一億円をかけてアメリカ産オーストラリア肉を使用していることを宣伝した。吉野家ディー・アンド・シー（吉野家）、日本マクドナルドも、オーストラリア産、米国産を強調した。

だが実際、消費者意識をみた調査では（次章参照）、国産と外国産の安全・危険度評価は変わらないのである。また、9月一杯までは牛肉消費は落ち込んでいないのである。しかし、国産の牛肉の代わりに外国産を使用した業界の対応は、消費動向をみてからというよりも、BSE 第一号の発見直後からであった。先に業界の方が反応したことは重要であり、業界が外国産を使っていますと宣伝することが、①国産は危ないという主観的評価や評判を生み、②その対応が報道各社を刺激し、③その結果必要以上に牛肉消費を落ち込ませた、といえるのではないか。

(3)「風評被害」の意味の混乱

第三に、BSE 問題でしばしば使われてきた「風評被害」の意味があいまいである。風評被害という言葉はまだ学術用語にはなっていないが、一般に、虚偽の情報、あるいは事実を過度に誇張した情報があたかも事実のようにして広がり、その結果、農業、漁業、観光業、製造業などの業種が経済的被害を受けることを意味する。とするならば、10月18日の全頭検査開始以前は、すべての牛肉が安全であるとは言い切れないのだから、「安全であるにも関わらず消費者が買い控えている」という文脈で、風評被害という言葉を使うのはおかしい。

消費者が牛肉を買い控えたのは、BSE の安全対策の不備、食肉行政への不信感、一部の報道機関の過剰報道、外食業者の過剰反応などが主要な理由であり、これを単に風評被害として、「人々の心理が問題だ」というのは、本質を曲げた議論である。

(4)過剰報道・センセーショナリズム

第四に、風評被害の要因として、一部マスコミの過剰報道あるいはセンセーショナリズムがあげられる。農林水産省の批判に終始するあまり、消費者心理への影響、農家への影響を配慮するのが不足していたのではないか。その典型は、全頭開始後の11月21日、BSE2 頭目発見の記事に顕著である。

11月21日夕刊の朝日新聞、11月22日毎日新聞朝刊は、冷静な報道である。BSE の感染源の特定が重要だとしながらも、「北海道 流通はせず」「流通の防止 対策は奏功」「食卓への流通を防ぐことができた」（以上、朝日新聞）、「症状なしも検査の網に」「『全

頭』以前なら出荷対象」(以上、毎日新聞)と、①今までなら問題ないとされ、流通に回っていた牛の中から第二号がでており、検査を実施した意味があったこと、②その牛を流通前の水際で食い止めたことを評価している。

一方、読売新聞夕刊は「波紋広がる」、毎日新聞夕刊は「食肉業界に追い打ち」「客足また遠のく」など、むしろ波紋を広げたい様子である。そこには、消費者の声はなく、各方面の識者(NPO、消費者団体、農業評論家、業者)に消費者の声を語らせているのであるが、その結論は、消費が引いたことを確定して論じている。BSEの消費者への影響が拡大するのを予想して報道している。なお、筆者が確認できた限り、民放テレビ各局も同様の論調であった。「国内でBSEが広がっている可能性が出てきた」「消費者に不安と動揺」という調子で、これは事実報道の範囲を越えているともいえよう。それが後々事実になったとしても、この時点で報道することは妥当かどうか。センセーショナルリズムではないか。これは、マスコミが消費者への影響、ひいては生産者・流通業者・小売業者への影響に配慮しているかどうか、言い換えれば風評被害に注意を払っているかどうか、ということであろう。テレビ朝日のダイオキシン報道の教訓は、どこに行ってしまったのだろうか。

一方で、報道が功を奏した面もある。たとえば、年末の毎日新聞のスクープである。このスクープは、欧州委員会の「イタリア製肉骨粉は危険」という報告書、および農林水産省が存在を否定していた「日本の対策に不備がある」というEU科学運営委員会狂牛病専門家班のまとめた狂牛病調査報告書の存在を、白日の下に晒した。これは、国会での農林水産省の責任追及を加速することになった。

だが、今回の一連の報道は、総じて問題点が多い。どの新聞社、放送局も英国の対策の進んだ点を紹介して日本政府を批判するばかりで、英国の対策の問題点などは指摘していない。たとえば、まだ原因ルートが確定していないこと、人間への感染ルートが正確に解明されていないこと、BSE対策までに非常に時間がかかった理由などを検証していない。ほとんどが農林水産省、厚生労働省の記者会見、発見された地域に行つての取材、焼肉屋、畜産業者の声、識者の解説、および行政批判に終始していたのである。

5 BSEに対する消費者の意識と変化

5.1 調査概要

われわれは、東京と大阪の住民に対して、BSE や牛肉に対する意識や食生活の実態を把握する目的でアンケート調査を行った。

調査の概要は以下の通りである。

調査対象及び調査方法

調査対象者	20歳以上の男女個人（東京都（3区）・大阪府（1区2市））
調査方法	面接調査法
対象者の抽出	住民基本台帳より二段無作為抽出（平成14年3月12日～14日）
有効回収数	622サンプル（抽出800、有効回収率77.8%）
調査期間	平成14年3月16日～平成14年3月24日

5.2 BSEの認知度

（1）BSEの認知度

1996年（平成8）3月20日英国政府は、BSE（牛海綿状脳症、いわゆる狂牛病）が人間に感染する可能性があるとして発表した。同月27日、EUは、英国産牛肉の輸入の全面禁止を決定している。29日に、英政府は生後30か月以上の牛肉の販売を一時停止している。このBSE感染牛の波紋はEU諸国に広がって衝撃的なニュースであったが、日本までは及ばなかった。それから5年後の2001年（平成13）9月10日、日本でBSEに感染した牛の第1号が千葉県白井市の農家で発見されて、BSEは日本でもクローズアップされた。

今回の調査をみると、「BSEの問題が起こる前に、BSEについて聞いたことがありましたか」という質問に対して、「聞いたことがあった」人は68%、「聞いたことがなかった」人は33%であった。

一般的には、日本でBSEが見つかる前からBSEを知っていた人は少ないのではないかと想像していたが、実際には7割近い人たちがBSEについてすでに知っていたと答えている。

東京都と大阪府という大都市の消費者を地域別に比較してみると、東京地区の消費者

が BSE を知っていた割合は 76%、大阪地区は 59%と東京が 17 ポイントも高い。その認知されていた根拠を探てみると、年代別では 40 歳～49 歳の人は 74%、20 歳～29 歳・50 歳～59 歳の年代はいずれも 72%の人が「聞いていた」と答えている。また、職業別にみると、焼き肉や牛丼など肉食の嗜好性が高いと見られる学生の関心はずば抜けて高く 85%が「聞いたことがあった」と回答している。次いで主婦（自営手伝い）・商工自営者が 71%、専業主婦は 61%であった。

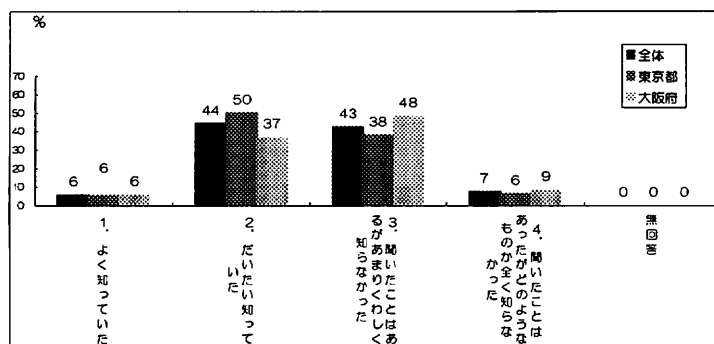


図 5.1 BSE の認知率（BSE の発見前）

そこで、「聞いたことがあった」と答えた人に、「BSE が見つかる前からどんな病気かを知っていましたか」とたずねたところ、「よく知っていた・だいたい知っていた人」は、合わせて 50%に達していた。「聞いたことはあったが、あまり詳しくは知らなかった」人が 38.1%で、BSE についての半数の人が知っていたということから、関心はかなり高かったようである。その後、日本で BSE に感染した牛が発見されて、およそ 6 か月経った調査時点では「BSE がどのような病気か知っている人」は 72%に達し、東京地区と大阪地区の消費者の地域差はほとんどなくなっていた。BSE 感染牛発見以後、消費者が報道などの情報に関心を持って接していたことがわかる。

また、BSE の原因とされている「肉骨粉がどのような原料で作られているかを知っていますか」という質問に対しては、「よく知っている・だいたい知っている」人が 60%、病気は知っていても肉骨粉が原因であることについてまでは「知らない」人が 37%、「聞いたこともない」人は 3%であった。6 割の人が「肉骨粉を知っていた」と答えていた背景には、BSE の認識がそれだけ深まっていることを示していたといえるだろう。

(2) BSE という略語の認知度

BSE とは「bovine spongiform encephalopathy」（牛海綿状脳症）の略称である。

1 頭目の BSE 感染牛が確認された後、農林水産省は「10 月 18 日以降、全国で肉牛の

“全頭検査”を行う」ことを決定し、この結果 11 月 21 日と 30 日に 2 頭目、3 頭目が相次いで発見された。このニュースは「狂牛病」の呼称で連日事細かに報道されていた。こうした報道に対して、狂牛病という呼称が消費者に誤解を与えかねないという観点から、日本獣医師会、生産者団体で作る「BSE問題全国農業団体対策本部」、部落解放同盟中央本部は、日本新聞協会に対し、狂牛病に代えて「BSE」という呼称の使用を要望していた。

2002 年 2 月 25 日に毎日新聞社は朝刊 1 面で、BSE に詳しい山内一也東大名誉教授の「牛は狂っているわけではなく、中枢神経が侵されているだけ。日本では狂牛病という言葉が一般化した、精神病だとの誤解を招きやすい。BSE が人に移ると痴呆症の一種の新型ヤコブ病になるが、その患者への偏見を招く恐れがある。」というコメントを載せた。さらに、山内教授は「狂犬病は今さら変えようがないかもしれないが、狂牛病は新しい問題なのだから、差別につながる言葉は使うべきではない。」とも話していると紹介した上で、25 日朝刊から「狂牛病」の表記を、原則として「BSE（牛海綿状脳症、いわゆる狂牛病）」とすることを決めている。その後、読売新聞社が 2 月 28 日の朝刊で、同日朝刊から「狂牛病」の表記を、「BSE（牛海綿状脳症＝狂牛病）」と変更している。朝日新聞社は 3 月 15 日の朝刊で、“狂牛病の表記、「BSE」に”という見出しで次のように説明している。「狂牛病（牛海綿状脳症、略称 BSE）」は原則として今後「牛海綿状脳症（BSE）」と表記します。必要に応じて「狂牛病とも呼ばれる…」などの説明を付記する、としている。放送では、NHK は 2001 年 12 月 28 日からニュースや番組の中で 1 回は「BSE、いわゆる狂牛病」という説明をしたあと、「狂牛病」の呼称を使用している。

調査を実施した 2002 年 3 月は、1 頭目の BSE 感染牛が発見されてからおよそ半年経った段階である。「BSE という言葉をご存知でしょうか」という質問に対して、「よく知っている・だいたい知っている」人は 46%、「聞いたことはあるがあまりくわしくは知らない」人は 31%、「聞いたこともない」人は 23% であった。狂牛病について「聞いたことがあった」人は 68% であったが、BSE という英語の略語は、まだ十分に認知されていたとはいえない状態であった。この BSE について、「よく知っている・だいたい知っている」と回答した人は、全体では東京地区が 46.1%、大阪地区が 45.5% とほとんど同数であった。ただ詳細にみると、「よく知っている」という回答は、東京地区が 20.1% であるのに対して、大阪地区は 15.4% と 5 ポイントの違いがあった。

本調査と同じ時期、まったく違った分野の外来語調査（注 1）が行われているが、そのうち英語の略語である「ADSL」（現在ある電話線を使って、高速のデータ通信をする技術）、「NGO」（海外協力を中心として活動する非政府組織）の結果をみると、次のようになっている。

「ADSL の意味を知っていた・何となく知っていた」 ……34%

「NGO の意味を知っていた・何となく知っていた」 ……75%

BSE は（調査数と目的が違っている
ので単純に比較はできないとしても、
調査時期がほぼ同じということで、
参考までに数字を比較した）、英語の
略語調査の「NGO」にくらべると知
られていないが、「ADSL」よりは一
般に浸透し、知られている略語であ
った。わずか半年間に広がった略語

の背景には、それだけ日常生活に
密接した語だったために浸透したとも考えられる。

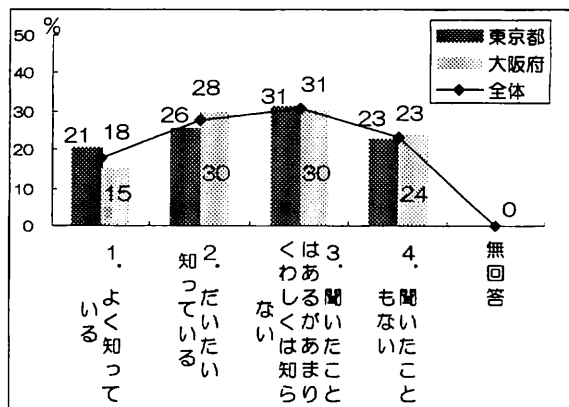


図 5.2 BSE の認知率

5.3 BSE への不安—主婦は BSE に対する不安を感じている—

BSE（牛海綿状脳症）の発祥地である英国では、人間が BSE に感染したと発表されている。「1996 年 3 月に、イギリス健康保険大臣ドレルが、狂牛病の人間への感染を公表したのである。当時、科学者たちは 10 人の患者の調査から、狂牛病が感染した結果と思われる変異型のクロイツフェルト・ヤコブ病— vCJD の発症を明らかにした。」（注 2）。その後、2001 年 6 月末までの症例では、イギリス全土で 102 人が感染し 96 人が死亡したということである（注 3）。このような英国の症例はテレビ・新聞でも報道されていただけに、日本の消費者にとっても、ひとごとではなくなっているものと思われる。

そこで、「狂牛病が原因で病気になった場合、どのような症状があると思いますか」という病気に対する質問をしたとの病気」という回答は東京・大阪地区の両地区で 83%と 82%とほぼ同じ割合で知られている結果がでていた。

一方、BSE が原因で病気になる恐れがあることについては、どのように考えているのだろうか。「あなたやご家族が狂牛病にかかるのではないかと不安がありますか」を聞いたところ、「たいへん不安だ・かなり不安だ」と答えた人は 36%、「あま

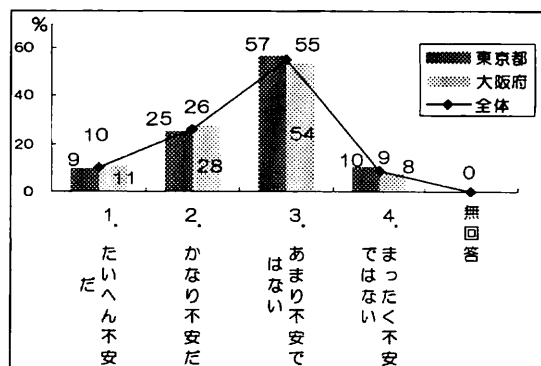


図 5.3 BSE による病気の不安

り・まったく不安ではない」と答えた人は64%で、「不安だ」という人より「不安ではない」という回答のほうが多く6割を超えていた。

ここで「不安だ」と答えた人を男女別に比べてみると、男性が31%なのに対して女性は41%と10ポイントも高かった。さらに職業別にみると、主婦（パートで働いている主婦）は51%、専業主婦は45%で、商工自営業の人の42%より「不安だ」と答えている主婦の割合が高くなっていった。一般的に言えば、BSE感染牛が発見されたからといってそれが人間を病気にするという不安を持つ人はさほど多くないが、家族の食事を作り、子育てをしている主婦が、より強くBSEによる病気の不安を感じていることがはっきり出ている。

5.4 BSE問題に対する消費者行動

(1)牛肉の食べ方はどう変わったか

牛肉を食材に使った料理は、豪華なステーキから庶民的なハンバーグ・ソーセージ・牛丼・焼き肉にいたるまで非常に幅が広い。それだけに、BSEの感染牛が発見されたニュースが一般の食生活に及ぼした衝撃は大きかった。過去のオイルショックや牛肉の輸入自由化、口蹄疫の発生は、消費者に間接的な影響はあったにしても、やはり畜産業界を直撃し、生産農家に対してより多くの影響を与えていた。しかし、今回のBSEはまったく事情が異なって、流通業・生産農家だけではなく消費者も直接巻き込んで直撃したところが異なっている。その結果、BSEが問題になる前と後では、牛肉の消費の変化は顕著である。

まず牛肉を食べる回数を見ると、BSE発見以前は、週に1～2回食べていた人が東京・大阪では51%だったのに対して、9月以降は28%と半分近くに減り、週に3～4回食べていた人も16%から4%に減っている。

図 5.4 牛肉を食べる回数の変化

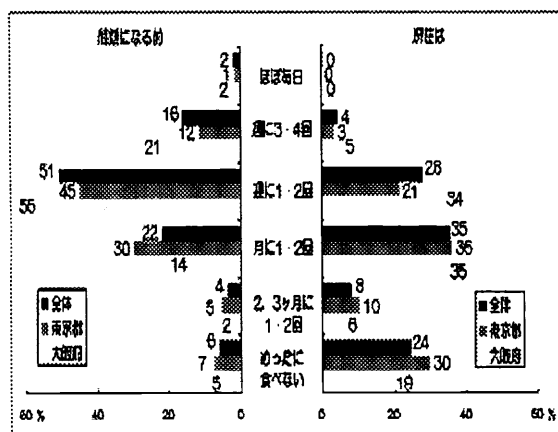


表 5.1 牛肉消費量の変化

狂牛病が問題になる前 (%)	現在どの位食べる (%)	増減 (%)
ほぼ毎日	1.8	0.2
週に3,4回	16.2	4.3
週に1,2回	50.6	27.7
月に1,2回	21.7	35.4
2,3ヶ月に1,2回	3.5	8
めったに食べなかつ	6.1	24.4
無回答	0.0	0.0

逆に増えているのは、月に1～2回食べていた人が22%→35%と13ポイント増え、2～3か月に1～2回食べていた人が4%→8%と4ポイント増えている。つまり、牛肉を依然として食べている人も、食べる回数を減らして、週1～2回を月1～2回にしたということであろう。このうち、東京地区では週に1～2回食べていた人が45%→21%に減り、大阪地区では週に3～4回牛肉を食べていた人が21%→5%、週に1～2回食べていた人が56%→34%に減っている。一方、牛肉を食べない人の傾向を見ると、BSEが問題になる前から「牛肉をめったに食べなかった」人とBSE問題以後「牛肉を食べない」人の割合は、東京地区では7%→30%、大阪地区では5%→19%に増加し、東京地区のほうが大阪地区よりも目立っている。この食生活の変化は、牛肉をさけて他の食材に代えていることを示している。

(2) 国産と外国産の牛肉を食べる頻度

東京地区と大阪地区の平均で、国産牛を月1～2回食べている人は32%、週に1～2回食べている人は27%、2・3か月に1～2回食べる人は11%、めったに食べない人は26%である。このうち、めったに食べない人は東京地区では33%であるのに対して、大阪地区では19%で大きな開きがある。

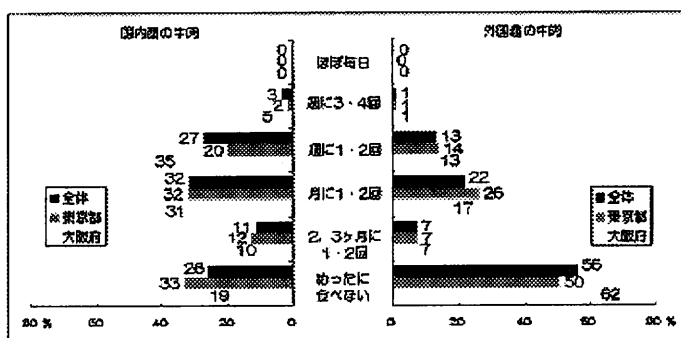


図 5.5 国産牛と外国産牛を食べる頻度

大阪地区ではBSEが問題になっても、週に1～2回は国産牛を食べる人が35%で、東京地区の20%より多く、割合よく牛肉を食べていたといえる。

一方、東京地区と大阪地区の平均で、外国産牛肉を月1～2回食べる人は22%、週に1～2回は13%、2・3か月に1～2回食べる人は7%、めったに食べない人は56%で6割近い人は外国産牛肉を食べていないことがわかる。このうち、東京地区では2・3か月に1～2回は外国産牛肉を食べる人が26%であるが、大阪地区では17%である。めったに食べない人が東京地区は50%であるが、大阪地区では62%である。大阪地区では国産牛肉は食べても、外国産牛肉は食べない人がはっきりと数字に表れており、BSE問題にもかかわらず、外国産より国産牛肉の消費が目立っている。

(3)牛肉を食べる量は減ったか

「狂牛病が問題になってから牛肉を食べる量は減りましたか」という質問に対して、「かなり減った」という回答が東京・大阪地区の全体を合わせると 32%でもっとも高い。このうち大阪地区は東京よりも減り方が 6 ポイントほど高くなっている。次いで「少し減った」人は 25%、「全く食べなくなった」人も 9%で、BSE 発生前にくらべて 6 か月後の調査でも、「牛肉の消費を減らしている」人は、東京・大阪の両地域とともに 7 割近い 66%もいることが分かった。

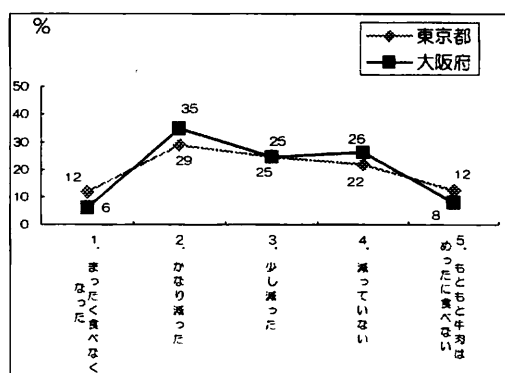


図 5.6 牛肉を食べなくなった割合

逆に、「減っていない」という回答は、東京地区が 22%であるのに対して、大阪地区は 26%と 4 ポイント高くなっていた。年代別では、いずれの地区も 20 歳～29 歳の若い人の 36%が牛肉をよく食べている。

5.5 牛肉は安全か

(1) 国産は安全か、外国産は安全か

牛肉の安全性については、「国産牛も外国産牛も安全ではないと思う」と答えた人が 47%、「国産牛も外国産牛も安全だと思う」という回答の 14%を大きく上回っている。なかでも「よくわからない」人が 29%で、牛肉の安全性については「安全だといわれても分からない」という意識が働いて、BSE 発見以前のように安心して牛肉が食べられないと考えている。

そこで、「牛肉は安全ではない」と答えた人に、「牛肉が安全でないと思う理由は何ですか」をたずねた（複数回答）。

安全ではないと思う理由でもっとも多かったのは、「政府の狂牛病対策や安全宣言が信用できないから」「食肉業界の安全管理が信用できないから」という回答が、いずれも 69%であった。次いで、「狂牛病の原因がハッキリ究明されていないから」の回答が 54%、「狂牛病が原因で病気になる恐れがあるから」の回答は 41%、「マスコミの報道を読んだり見たりすると不安だから」という回答は 21%であった。

さらに、そのなかで「牛肉が安全ではないと思うもっとも大きな理由は何ですか」をたずねたところ、「政府の安全宣言が信用できない」人が 34%、「食肉業界の安全管理が信用できない」人が 29%で、消費者にとっては安全宣言や安全管理が行われているとい

A horizontal bar chart comparing responses to five questions about beef safety between Tokyo (solid black bars) and Osaka Prefecture (hatched bars). The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0 to 100%.

Question	東京府 (%)	大阪府 (%)
1. 国産牛も外国産の牛肉も安全ではないと思う	44	49
2. 外国産の牛肉は安全だが、国内産の牛肉は安全ではないと思う	6	6
3. 国産牛は安全だが、外国産の牛肉は安全ではないと思う	4	4
4. 国産牛も外国産の牛肉も安全だと思う	13	16
5. よくわからない	34	25

Figure 1 consists of two horizontal bar charts comparing reasons for not using a mobile phone. The left chart is titled '安全ではないと考える理由' (Reasons for considering it unsafe) and the right chart is titled 'もっとも大きな理由' (The biggest reason). Both charts compare '携帯電話' (Mobile phone) and '大衆車' (Mass car) across various reasons. The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 100%.

Reason	携帯電話 (%)	大衆車 (%)
安全ではないと考える理由	41	85
病気に感染する恐れ	21	75
理由が究明されていない	21	66
政府の対応	13	71
食肉業界が活用できない	10	21
マスクの着用	4	2
家族や友人のほなし	3	1
清潔と感じる	3	1
その他	3	1
無回答	0	0

Figure 2 consists of two horizontal bar charts comparing reasons for not using a mobile phone. The left chart is titled 'もっとも大きな理由' (The biggest reason) and the right chart is titled 'もっとも大きな理由' (The biggest reason). Both charts compare '携帯電話' (Mobile phone) and '大衆車' (Mass car) across various reasons. The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 100%.

Reason	携帯電話 (%)	大衆車 (%)
もっとも大きな理由	8	57
理由が究明されていない	35	36
政府の対応	31	29
食肉業界が活用できない	4	3
マスクの着用	0	0
家族や友人のほなし	4	3
清潔と感じる	3	2
その他	3	1
無回答	0	0

牛肉の安全性についての男女差

安全性	男 (%)	女 (%)
安全	44%	71%
危険	35%	8%

Category	全体 (%)	東京都 (%)	大阪府 (%)
1. 夕食前	61	56	64
2. 夕食後	2	5	0
3. よくわからない	19	18	20
4. 牛肉を食べない	1	3	0
5. その他	17	18	16

— 272 —

5.6 「牛肉、加工食品、化粧品」への不安

(1) 牛肉の代替品

牛肉を使った料理は、牛丼からステーキまでレパートリーの幅が広く愛好者が多いだけに、今回の BSE 問題で消費者が牛肉を食べずに、どんな食品を食べているかは、関心の高いところである。

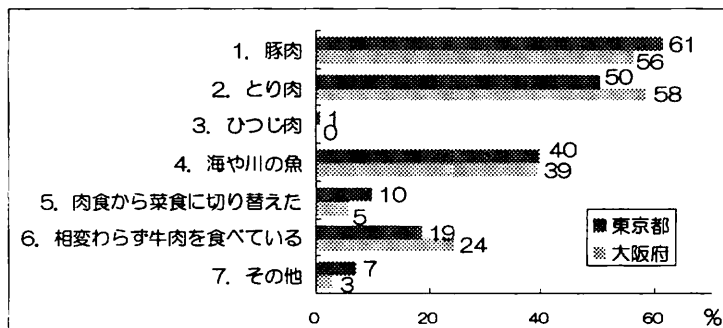


図 5.11 牛肉に代わる食品の割合

「狂牛病問題以後、牛肉の代わりにどんな食品を食べているか」と複数回答でたずねたところ、豚肉と答えた人が 59%、鶏肉を食べている人が 54%、魚を食べている人が 40%、肉食から菜食に切り替えた人が 8%である。相変わらず牛肉を食べていると答えた人は 22%で、大阪では牛肉を食べる割合が東京より高くなっていた。また、東京地区は 61%が豚肉（鶏肉は 50%）、大阪地区は 58%が鶏肉（豚肉は 56%）である。東京と大阪の消費者の好みが出ていえると言えよう。

(2) 加工食品の利用状況

牛エキスを含む加工食品は、東京・大阪とも減っているが、牛乳・乳製品の落ち込みは牛エキスほどではない。しかし影響は出ていて、30%前後は減っているようである。

▼自主回収や販売自粛をした商品

▽牛もつ煮込み ▽牛小腸 ▽牛汁 ▽牛骨エキス
▽カレールウ ▽デミグラソース ▽生ラーメン用スープ
▽肉まん・水ギョーザ・シャービン・カレーまん・春巻き・しゅうまい。

表 5.2 加工食品の利用変化（単位は％）

		まったく食べ なくなった	かなり減った	少し減った	減っていない	その他	無回答
牛エキスを含む 加工食品	東京	11	30	25	26	7	0
	大阪	11	25	25	33	6	0
牛乳を飲む量	東京	3	8	12	71	7	0
	大阪	3	7	15	68	7	0
牛乳以外の乳製 品を食べる量	東京	1	9	17	71	2	0
	大阪	2	11	18	66	3	0

（３）商品購入・使用時の成分確認

（表 5. 3）でみるように、加工食品（牛肉エキス、牛脂肪分の含有）を購入する場合は、その加工食品にどのような物質が含まれているかの確認は、化粧品よりも遙かに慎重になっていることがわかる。

表 5.3 商品購入・使用時の成分確認について

	成分を確認して避け るようにする	ときどき成分を確認 する	成分の確認はしない	無回答
加工食品	22	37	41	0.3
化粧品	15	18	63	4

この場合、加工食品を購入する際にその成分を確認するかどうかについて、「確認して避ける、ときどき確認する」を合わせると、男性が 47％であるのに対して女性は 72％の割合である。また、化粧品については、「確認して避ける、ときどき確認する」割合は、男性が 23％に対して、女性は 45％で、加工食品ほどは高くない。この点は、東京・大阪地区に共通している。

以上の結果を見ると、牛肉も、牛肉エキスや牛脂肪分を含む加工食品も、男性より女性のほうが敏感になっている傾向がはっきりわかる。

5.7 BSE 対策への意見

BSE に感染した牛が発見されて以来、消費者は牛肉を買わない、あるいは食べないことで自己防衛を図っているように思われる。

その消費者は、BSE が社会問題になったもっとも大きな理由として、政府の対策の不備をあげており、「政府（農林水産省）の狂牛病対策が十分でなかったから」という回答が 80％に達していた。次いで、「マスコミが大げさに騒ぎ立てたから」という回答が 11％、

「生産農家が家畜の餌として肉骨粉を使ったから」という回答は8%であった。(問 15)
政府に対する消費者の批判が大きかった背景には、大きく 3つの理由がある。

1 つは、1996 年 4 月、WHO（世界保健機構）専門家会議報告では、BSE の拡大を防ぐため「すべての国は反すう動物（牛や羊）の飼料に反すう動物の組織を使用することを禁止する」勧告が送付されていた。そこで、厚生省生活衛生局長は農林水産省畜産局長に対し、適切な対応をとるよう要請するとともに、関係資料を提供した。しかし、当時の農林水産省は、「牛など反すう動物からつくった肉骨粉を反すう動物に与えないように」という行政指導に止めていたことが明らかになった。行政指導には法的拘束力がなく、その後も全国でおよそ 5、000 頭を超える牛に肉骨粉が与えられていたことが、2001 年 9 月 BSE に感染した牛が発見された後に判明している。

2 つ目は、BSE 発生リスク評価である。EU（欧州連合）科学運営委員会は、1998 年に加盟国、及び EU に輸出関心のある第三国についての BSE 発生リスクを評価する作業を開始した。わが国も輸出国として評価を受けることになった。その報告書が 2000 年 11 月に送られてきた。そこには「国産牛が BSE に感染している可能性が高いが、確認されていない」「カテゴリー3」とされていた。農林水産省は「日本では OIE(国際獣医局)の基準に沿った厳格な防疫施策が行われている」として、「評価の中断を要請」している。こうした内容が国民に知らされず、あらかじめ対策がとられていなかったことに対する不信感があつた。

3 つ目は、2001 年 8 月 6 日、千葉県のと畜場で乳牛が敗血症と診断されて、全廃棄処分にされた。この牛は搬入された際に起立不能であつたために、家畜保健衛生研究所に頭部だけが提供され、残りはレンダリング（つぶしたくず肉を加熱し、煮えたくず肉に強い圧力をかけて脂肪分を搾り出すこと）にまわされた。この牛が 9 月 10 日に BSE 感染を疑われたわけだが、このことを公表した際、記者との質疑応答で「食肉に供していないということを聞いておりますので、焼却したはずでございます」という回答がされていた。しかし、9 月 14 日遠藤武彦農林水産副大臣は、「BSE に感染した牛は焼却処分されず、肉骨粉になっていたこと」を明らかにした。

千葉県白井市で発見されたこの感染牛は、他の牛の骨などと合わせて肉骨粉にされた後、そのものも合わせて約 150 トンが徳島県と茨城県の施設に保管されていたことが確認された。農林水産省は保管している業者に対して、焼却処分を指示したということである。こうしたニュースが伝えられるたびに、政府（厚生労働省・農林水産省）の BSE 対策が十分ではないという不安を多くの人が感じ、それが調査結果に表れたとみるべきである。

●政府は B S E 対策を講じてこなかった……90%

次に、政府の BSE 対策について消費者の考えを聞いてみた。設問は、「イギリスをは

じめ諸外国で発病した牛が問題となっていたのに、積極的に対策を講じてこなかった」と思うかどうかをたずねた。「そう思う」という回答が 90%、「そうは思わない」は 2%、「どちらともいえない」という回答は 8%であった。

●政府は生産者を保護……70%

また、「政府は消費者の健康より業界の保護に目が向いているような気がする」と思うかどうかについては、「そう思う」という回答が 70%、「そうは思わない」は 7%、「どちらともいえない」は 23%と答えていた。

●「全頭検査」は信用できない……54%

9月にBSE感染牛が発見された後、農林水産省は異例の速さで、10月18日から全国一斉に「肉牛の全頭検査実施」に踏み切った。つまり、食肉処理場で処理される全ての肉牛について、BSE検査を実施しようということである。この検査が実施されてから、11月21日に2頭目、11月30日に3頭目の感染牛が見つかった。そこで、「牛肉は全頭検査実施で安全だ、という政府の広報は信用できない」と思うかどうかたずねたところ、「信用できないと思う」と回答した人が54%と半数を超している。「信用できる」という回答が16%、「どちらともいえない」という回答は30%で、全頭検査の進行状況を注視していたということである。

●BSE対策は諸外国より劣る……65%

「現在(2002.3の調査時点)の政府の狂牛病対策は、諸外国にくらべて劣っているか」と思うかという質問に対しては、「そう思う」という回答が65%、「そうは思わない」という回答は10%、「どちらともいえない」という回答は26%である。やはり、1996年以降の英国をはじめEU諸国の対応にくらべて、政府の危機管理が遅れたことを消費者は指摘している。

●情報公開は信用できない……74%

さらに、「現在も、政府の情報公開が完全に行われているかどうか信用できない」と思うかという質問に対しては、「そう思う」という回答は74%、「そうは思わない」という回答は6%、「どちらともいえない」という回答は20%である。

農林水産省は、2002年3月31日までに、全ての牛の耳に“耳標”(じひょう)と呼んでいる10桁の番号をつけて、トレーサビリティ(個体識別のための履歴)を確立させ、牛1頭ごとに生産から流通までの経過(牛の履歴)がわかり、“個体識別”ができるようにすることを明らかにした。このトレーサビリティは、消費者側からすると牛肉を購入する段階で「この牛肉が、どこで生産され、どのようなルートで販売されているか」という経過を情報として確認できるようなシステムである。しかし、全国の小売店で実施されるまでにはかなり時間がかかりそうである。それとともに、消費者が安心できるようなBSEサーベイランス(監視制度)を徹底させ、国内外のBSE情報を提供

して欲しい、という政府への要望が強いことをうかがわせる。

表 5.4 政府の狂牛病対策についての意見（単位 %）

	そう思う	そうは思 わない	どちらとも いえない	無回答
外国の狂牛病問題発生時に 対策を講じてこなかった	9 0	2	8	0
政府は消費者の健康より業 界の保護に目が向いている	7 0	7	2 3	0
全頭検査実施で安全という 政府の広報は信用出来ない	5 4	1 6	3 0	0
政府の狂牛病対策は諸外国 にくらべて劣っている	6 5	1 0	2 6	0
政府の情報公開が完全に行 われているか信用できない	7 4	6	2 0	0

● B S E 対策に対する回答……44%（無回答 56%）

次に、「あなたは、政府の狂牛病対策に不十分な点があると思いますか。いままでの対策でも現在の対策でも結構ですから、なにかあれば具体的にお教えてください。」という質問によって、自由回答を求めたところ、44%の人が回答を寄せている。その中には、次のような回答があった。

*イギリスでの B S E 発病後、肉骨粉の輸入及び使用全面禁止が速やかに発令されなかった。農林水産省・厚生労働省のチェックミスによる管理体制は是正、強化されたのか。他国経由の輸入肉や和牛及び国産牛の設定、食肉への解体法は完全に安全が保証されているのか。発病したときの認定・補償は整備されているのか。（大阪・女・40～49 歳）

*今まで政府の立場は生産者を保護する所にあったが、この狂牛病のことで消費者を大切にすることが、結果的に生産者のためにもなるということが実証された。もともと国民の安全をまもるのが政府の最優先課題の筈。もって銘すべし。（東京・男・60～69 歳）

*狂牛病の発生したことはいろいろ伝えられるが、それを食べた人間がどうなるのか、どういう症状がでてくるのか、医療的にどう治療をするのか、それを知らせてほしい。よく分からないから不安。絶対食べないほうがいいのか、少し位大丈夫なのか。（東京・女・40～49 歳）

5.8 BSE 情報の入手

（１）BSE 関連の情報は複数の手段で得ている

日本で最初の BSE 感染牛が発見された 2001 年 9 月 10 日から 11 日にかけて、テレビ・

新聞はトップ見出しでこのニュースを報道した。11 日午後 9 時 45 分（日本時間）過ぎに発生した「米同時多発テロ事件」でニュースの扱いは変わったが、国内ニュースでは大きく扱われていた。

そこで、一般消費者が、「BSE に関する情報を主にどのような手段で得ているのか」を知るために、その情報源を複数回答で調査した結果、テレビニュースをあげた人が 98%でもっとも多く、次いで新聞が 80%、ニュース以外のテレビ番組が 29%、家族や友人の話は 19%、雑誌（月刊誌・週刊誌）が 18%、ラジオが 14%である。インターネットによる情報収集は 6%で、テレビ・新聞・雑誌などに比べると数字は低いが、情報収集の手段として活用されていることが分かる。

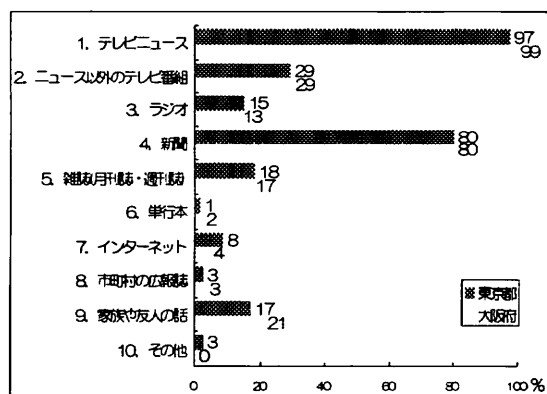


図 5.11 情報収集の手段

(2) 役に立っている手段

次に、「BSE の情報を知るのに役に立っている手段」をたずねたところ（複数選択）、テレビニュースが 95%、新聞が 79%、ニュース以外のテレビ番組が 30%、ラジオが 13%、雑誌が 14%、家族や友人の話が 11%、インターネットが 6%という回答であった。

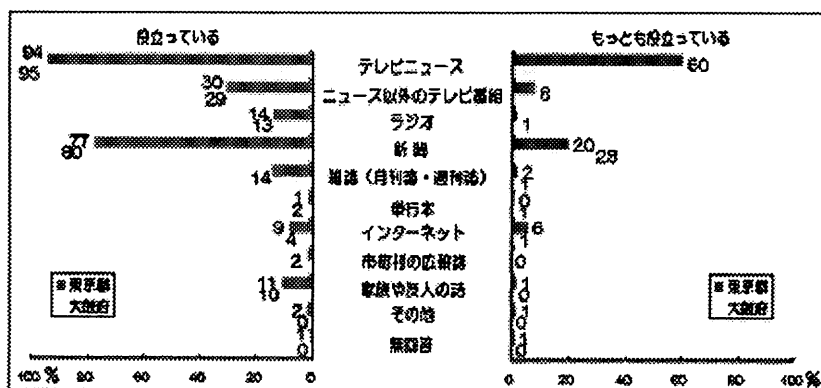


図 5.12 BSEに関する情報手段

さらに、「もっとも役立っている手段」としては、テレビニュースが60%、新聞が24%、ニュース以外のテレビ番組が8%、インターネットが3%となっており、パソコンを使ったインターネットによる情報収集の割合は、大阪地区より東京地区が4ポイント高く8%になっていた。

(3) テレビ・新聞の報道について

調査ではさらに、「テレビや新聞はBSEの大事なニュースを知らせているかどうか」についてたずねた。その結果、「伝えていると思う」という回答は42%でもっとも多かったが、「どちらともいえない」と回答した人が37%であった。「そう思わない」という回答は22%であった（問21-1）。このうち、「伝えていると思う」と回答した人は、大阪地区では46%であるのに対して東京地区は37%と9ポイントの差がある。逆に、「どちらともいえない」という回答は東京地区が42%であったのに対して大阪地区は31%でおおよそ10ポイントの差があった。

また、「テレビや新聞は、狂牛病に必要以上に恐怖をあおっていると思うか」という問に対して、「そうは思わない」という回答は42%、「どちらともいえない」という回答が36%、「そう思う」は23%であった（問21-2）。

その理由は必ずしも明確ではないが、BSE感染牛の発見が千葉県・群馬県といずれも大消費地に近い首都圏であったことで関心が高く、BSE関連ニュースには敏感に反応し、大手食品会社の偽装事件などもあって懐疑的な見方をしているのではないかと考えられる。

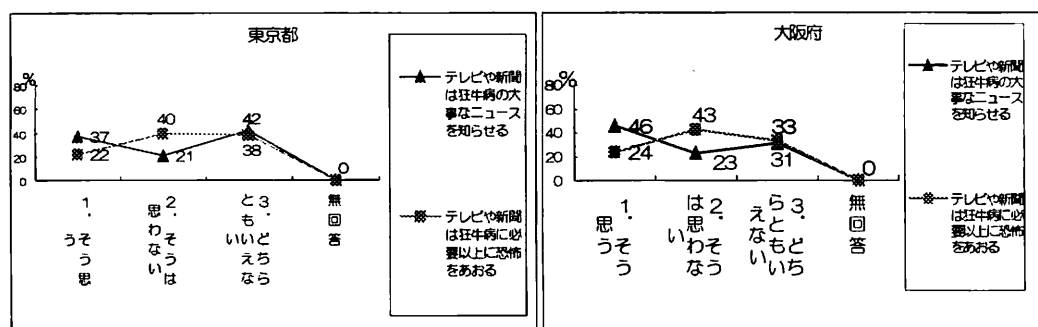


図 5.13 BSEの報道

(3) BSE について知りたい情報は

狂牛病について「知りたい情報」「とくに知りたい情報」としては、「行政の対策がどこまで進んでいるか」「国産牛の安全性についてはどうか」という情報が、もっとも高い。

消費者は農林水産省の初期対応を厳しく批判していたが、反面、行政が BSE 感染牛対策をどのように行おうとしているのか、強い関心をもっていることが察せられる。とくに「国産牛の安全性」については、肉用の和牛だけではなくホルスタイン種の肥育牛についての「安全性」にも関心が高いのではないだろうか。

表 5.5 B S E に関して知りたい情報

	B S E について 知りたい情報	とくに伝えて欲 しい情報
クロイツフェルト・ヤコブ病について	44%	12%
行政の対策がどこまで進んでいるか	64	32
国産牛の安全性について	63	20
外国産輸入肉の安全性について	41	1
加工食品の安全性について	47	5
牛乳など乳製品の安全性について	37	4
牛肉の流通課程について	34	7
安全な牛肉を買う知恵	27	6
牛肉以外の肉類の安全性について	45	10
その他・無回答	4	3

(4) 消費者向け広報について

BSE 問題について、消費者は政府の広報や食肉業界、焼肉店などの広報をどのように見ているのであろうか。

「政府の広報は狂牛病の大事な事実をよく知らせているか」をたずねたところ、「そうは思わない」と答えた人は 66%、「どちらともいえない」という答えは 29%、「知らせていると思う」人はわずか 5%であった。つまり、政府の発表については 7 割近い人たちが、納得できる事実の広報をしていないと判断している。

さらに、政府は全頭検査を実施しているので牛肉は安全だといっているが、これに対して「政府の広報は、狂牛病の危険をかくして安全を強調する広報をしているか」について、「そう思う」と答えた人は 51%、「そうは思わない」という人は 14%、「どちらともいえない」という人は 35%であった。

一方、食肉業界・焼き肉店の広報ぶりについてはどうだろうか。ここでは「狂牛病の危険を隠して安全を強調していると思う」という回答が 36%、「どちらともいえない」は 45%、「そうは思わない」という回答は 19%ということで、牛肉の安全が強調されても安心できないという消費者の気持が表れている。

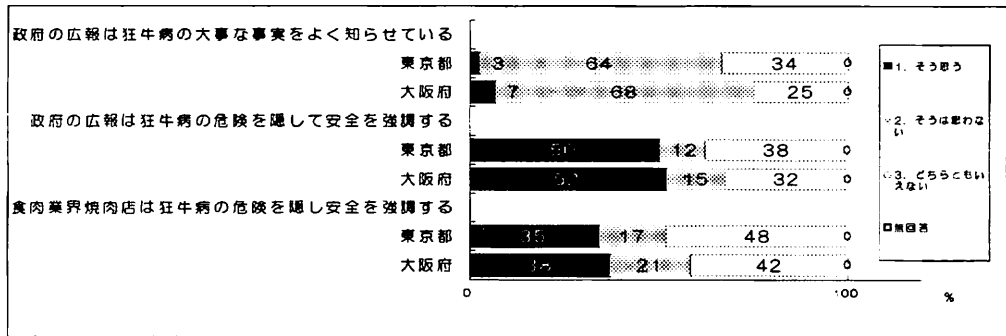


図 5.14 牛肉の安全性についての広報

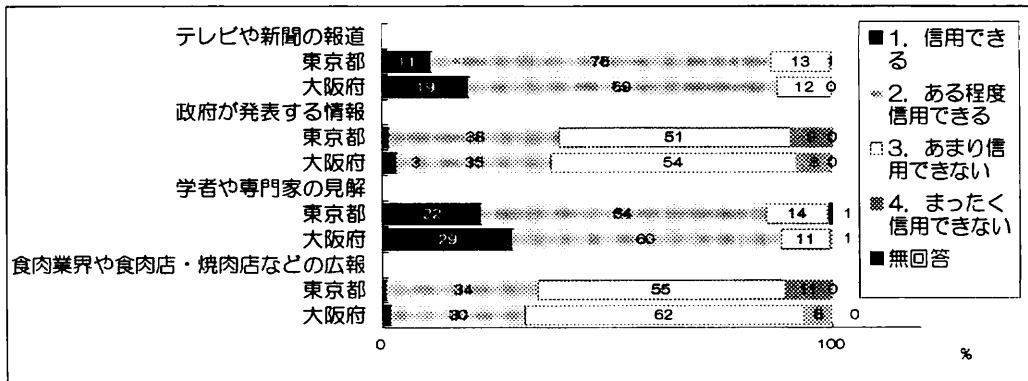
(5) 情報の信用性

ここでは BSE について、テレビ・新聞、政府の発表、科学者・専門家の見解、食肉業界・食肉店・焼肉店などの情報は、どの程度信用できるかについてたずねた。

その結果、テレビ・新聞については「信用できる、ある程度信用できる」という回答は 87% であった。一方、政府の発表は「信用できる、ある程度信用できる」を合わせて 39% であるのに対して、「あまり信用できない、まったく信用できない」は 61% で「信用できない」という回答のほうが圧倒的に高かった。

一方、科学者・専門家の見解については、「信用できる、ある程度信用できる」を合わせると 87% で、テレビ・新聞と同じ割合であった。また、食肉業界・食肉店・焼肉店などの情報については、「信用できる、ある程度信用できる」という回答は合わせて 33%、「あまり信用できない、まったく信用できない」は合わせて 67% で、信用できないほうの割合が高かった。

図 5.15 情報の信用性



(6) BSE についての話し合い

「国内産の牛肉の狂牛病発見後、牛肉を食べると危険だ、という話をしたことがあるでしょうか」という設問に対しては、図4. 6のように、友人・知人、家族の間でも非常によく話題になっていたことがうかわれる。

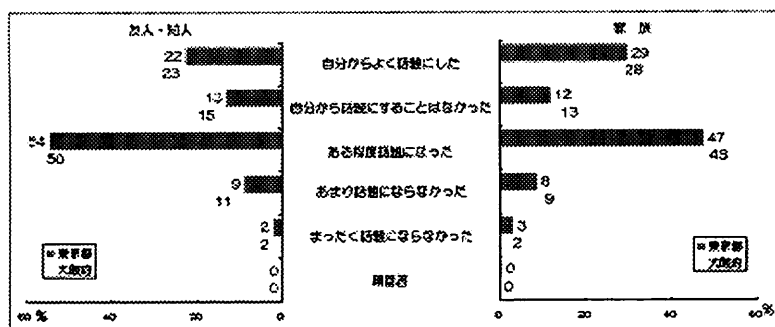


図 4.16 話し合いの割合

5.9 消費者自身の考える BSE の対策

(1) 牛肉を食べるようになる対策

次に、「あなた自身は、政府や食肉業界、生産農家などがどのような対策をとったら、多くの人が牛肉を食べるようになると思いますか」を自由記述の形で、消費者にたずねた。その結果、寄せられた主な意見は、以下のようなものであった。

消費者が牛肉を食べるようになる対策

*生産者から消費者までの流通課程がよく分かるシステムになればいい。(東京・女、20～29 歳)

*EU 諸国に準じた徹底した情報開示と完璧な対策。(大阪・男、20～29 歳)

*業者などが、生産地や国産か外国産などというような事を偽装していたことがたくさん明らかになってきたので、徹底した安全策や偽装などできないように政府がもっと厳しく監視をするべきだと思います。(大阪・女、30～39 歳)

*食肉業界・生産農家は生産・流過程をはっきりさせ、何故安全なのか、消費者に分かりやすく公開することだと思います。利用している食品・化粧品メーカーからはいち早く自社への製品の安全性に関する詳しい説明がDMで届き、安心できるということが大きいのです。大局的な問題も大事ですが、小売段階で正確な情報を入手できれば、消費は回復すると思います。(東京・女、40～49 歳)

*流通経路のはっきり分かるシールの区別、生産者別のシール等での区別をはっきりしてどこの、だれが生産してどのようにして消費者の目の前に出されているかを知らせる義務の明確。(大阪・男、50～59 歳)

*生産農家の方が一番大変だと思います。苦しい事と思いますが焦らず、きつと来る信用の回復まで、しんぼう強く頑張って頂きたいと思います。政府からの援助も必要と考えます。どうぞ回復するまで頑張って下さい。(東京・女、60～69 歳)

(2) 消費者の意見

最後に、「政府や牛肉業界に対してご意見がありましたら、何でも結構ですからおっしゃってください」とたずね、消費者の意見を自由に記述していただいた。その主なものを、以下にあげておく。

消費者の意見（抜粋）

- * 日本政府は国民の生命・安全を守るより、業界の利益保護にかたむいているのではないか。(大阪・男、20～29 歳)
 - * 国民には知る権利があり、卸業者の不正や政府の曖昧な発表は不安にさせる。とくに、食べることは毎日のことであり体にとって大切なので、きちんとした対応・対策をしてほしいと願う。日本は大丈夫、という気持は今ではもう信用できる言葉ではない。それは、狂牛病の問題だけではないと思うので、何事も早期の対応・対策をとって欲しいと思います。(東京・女、30～39 歳)
 - * 子供が小さいので、これからの対策をしっかりしてほしい。(東京・男、30～39 歳)
 - * 安全な牛肉を安心して食べられるように願う(大阪・男)。因果関係の追求をし、正確な公示をする。(大阪・男、40～49 歳)
 - * ごまかしのない正しい情報を提供する。生産農家の人たちに頑張ってもらいたい。(東京・男、40～49 歳)
 - * 科学データを示して不安をあおるような発言や報道にあおられないような情報の提供が大事ではないかと思う。(東京・男、50～59 歳)
 - * 消費者を第一として、安全対策をしてもらいたい。(東京・男、50～59 歳)
-

6 生産者の対応：安心して食べられる牛肉への模索

消費者が「安全で、安心して食べられる」牛肉を望んでいることは、今回の調査結果を見ても明確である。そしてこれは、単に牛肉だけではなく全ての農産物に対して共通して持っている考え方である。

「安全で、安心して食べられる」のであれば、価格が高くなるのはやむをえないという認識を持っている人は決して少なくない。牛肉は「松阪牛」「近江牛」「米沢牛」があり、米は新潟県魚沼産の「コシヒカリ」、秋田県の「アキタコマチ」、宮城県の「ヒトメボレ」などがその典型である。とくに昭和 40 年代後半からの食生活の変化とともに牛肉の需要は高まり、国も畜産農家も従来の生産方法を変換させる必要に迫られた。その時代の変化（その関門は 2 つある。第 1 が「石油ショック」であり、第 2 が「ウルグアイ・ラウンド」による輸入自由化である）のなかで、畜産業（肉牛生産）はどのように近代化を迫られたかを、以下に述べていきたい。

6.1 牛肉生産の社会的背景①：肉牛生産の近代化への関門

1955 年（昭和 30 年）代に農業の機械化が急速に進み、それまで農耕用に飼養されていた牛馬が激減した。56 年当時、全国で和牛を飼養している農家は 232 万戸、飼養頭数は 272 万頭であった。10 年後の 65 年には、飼養農家は 143 万戸、飼養頭数は 189 万頭に減った。和牛の減少とは逆に、乳用牛、豚、にわとり（採卵）の飼養は増加していった。この頃から、肉用牛飼養頭数は乳用牛の飼養頭数とほぼ同じ水準となり、全国各地で牛肉需要の増加に対応しようというさまざまな畜産経営が試行され、急成長期を迎えた。

しかし、和牛肥育の経営面からみると、和牛は資質のバラつきが大きく、資本の回転率が低いうえ、価格変動が激しかった。資質の高い和牛の子牛生産は頭数が少なく値段が高いこともあって、和牛肥育農家は零細な生産経営および肥育牛経営を続けていた。これに対して乳用種は、比較的価格が安く、多頭化しやすく収益性も確保できるということで、肥育農家は多頭肥育経営を行うようになり、両者は併存する形であった。

これまでの農業は、いかにものを作るか、生産物をいかに加工し流通経路に乗せ、市場で販売し利益を産みだすか、という生産技術論が中心の農業経済、農業経営であったが、そこへ経営管理論とか農家に簿記が持ち込まれて、生産の経営と技術の 2 つの理論が絡み合った状態で成立するように統合（インテグレーション）しようという新しい考え方が提起された。この考え方は次の 3 点にまとめることができる（注 4）。

- ① エサはどういうものであればよいか、ブタの品種はどうであればよいか、そのほか細かい問題があるが、それらの技術的、経営的諸要素が一つ一つかみ合っていない限り定着しないことをヨーロッパやアメリカの諸論は教えている。
- ② 組織化の問題である。経営の独自性と資本の管理する考えがかみ合わなければ、組織はインテグレーションとして成立しない。ところが生産物によってずいぶん違う条件がある。同じ畜産部門でもブタとブロイラーは違う。
- ③ 統合形態論がある。資本の統合形態には、水平的統合と垂直的統合と循環的統合の3つがある。支配的なのは垂直的統合で、われわれは一般的にこの形態をインテグレーションと呼んでいる。もう一つ、経営形態から見た統合形態は所有型統合と契約型統合がある。この2つから統合はスタートしていると思う。危険分散を資本はどうするか。所有にするか、委託契約にするかの分かれ道にある。

インテグレーションについてはドイツ・アメリカで理論的な研究が発表されたが、実践面での取り組みとして、アメリカでは1932～3年ころにブロイラーを中心に行われた。開発されたブロイラーの技術的發展がすぐ契約条件を作り出し、やがて南部の諸州に急速に広まり、一挙に生産と消費市場をつなげていく形を生み出した。

日本では1952年（昭和27年）に、70戸の養豚農家が集合して振興会を作った。初めは養豚農家の同志的結合であった。その後、この集団は油かすをエサ・メーカーに売っていた会社に吸収され、1961年には会社も大手食品加工資本（＝伊藤忠商事）に買収されていく。

61年以降は、インテグレーションの実質的なスタート時代といえる。ここでの特徴は、商品の規格化と統一化であり、徹底的にリスクを排除することにあった。このインテグレーションの導入により、商社資本が中心となった養豚・ブロイラーでは、曲折を経て少数精鋭農家による大型農業へと集約されていった。この時代背景には、新都市計画法と新全国総合開発計画と食糧供給基地の建設をめぐって、北海道・東北・九州への集中が目立ったこと、輸入自由化を迫られていたことがあげられるだろう。まさに日本の経済成長期であった。

昭和40年代に入って、肉牛生産に商社などの農業外の資本によるインテグレーション（integration）が導入された。これは農家が、商社などから肥育素牛と飼料の供給を受けて契約飼育をするもので、生産物（この場合は一定期間肥育された肉牛）の販売は農外資本の系列に属することになる。

肥育のインテグレーションをみると、

- a. 肥育農家は牛舎を提供し、預託された子牛（体重230キログラム）を肥育する。
- b. 肥育の条件として、1日当たりの増体量は1キログラムとし、出荷時に16～18か月

飼養された生体重およそ 600 キログラム、枝肉重量 330 キログラム以上にして出荷される。

この 1 日 1 キログラムの増体量より少なければ違約金をとられ、多ければ割増金が支払われる。

c. 飼育方式と飼料は、資本系列側からの指示と濃厚飼料が提供される。

d. 生まれたばかりの子牛（体重 40～45 キログラム）の哺育（ほいく）、6 か月で 230 キログラムに育成することも分業的に行う方式もとっている。

このように和牛の肥育が農外資本の参入で生産規模が拡大されて計画的に行われ、中国・南九州を中心に普及していった。

6.2 牛肉生産の社会的背景②：石油ショックの畜産への影響

（１）石油ショックが畜産農家に打撃

日本の畜産業が近代化に向けて急成長を始めた頃に起きたのが、石油ショックであった。1973 年（昭和 48 年）10 月 6 日、エジプトとシリアがイスラエルに攻撃を開始し、第 4 次中東戦争が始まった。石油輸出国機構（OPEC）加盟の 6 か国は、親イスラエル政策をとるアメリカや日本に圧力をかけるため、原油の公示価格を 21% 値上げすると発表し、アラブ石油輸出国機構（OAPEC）10 か国も、原油の生産を毎月 5% ずつ減らす供給制限を決めた。

この「石油戦争」のために、石油価格は 3 か月で 4 倍にも跳ね上がり、世界の石油消費国は不況とインフレに見舞われた。“石油ショック”とよばれたこの時期、鉄、セメント、紙などの物不足の傾向が進み、物価が急激に上がった。主婦たちは「トイレットペーパーがなくなるのではないか」という不安を感じ、スーパーマーケットでトイレットペーパーのほか、合成洗剤、砂糖、塩、しょうゆなどの買いだめに走った。さらに、前年（1972 年 7 月）に発足した田中角栄首相は、日本列島改造計画を発表し、公共事業と工業の再配置で過疎・過密の同時解消を提唱して積極的に公共投資を図っていたため、資金はあっても物資が足りないという物不足に拍車をかける結果になった。1974 年 1 年間の消費者物価の上昇率は前年にくらべて 24.5%、また、74 年の国民総生産（GNP）は 73 年にくらべて実質で 1.4% 減り、戦後初のマイナス成長となった。石油ショックは、都市だけではなく農村にも深刻な影響を及ぼし、畜産農家は飼料の高騰に加えて消費者の買い控えで牛肉などの生産物が売れなくなり、板挟みになった。

（２）肉牛生産の推移と特徴

石油ショック後の 1974～75 年にかけては、肉牛を生産する肥育農家に大きな変化が見られる。国内生産量のうち、和牛肉は 37% であるのに対して、乳牛肉は 63% を占めている。酪農家では搾乳牛と肥育牛との目的別飼養の分離が明確になり、品質が安定して

利益性もある乳用牛の肥育が盛んになった。それは年々増加傾向にあった外国産の安い輸入肉に対抗して、国内畜産農家の進むべき方向でもあった。

表 6.2.1 では、乳用牛による牛肉生産が増えていることと、輸入牛肉が増える中で、在来の和牛肉の生産が停滞していることがわかる。(通常、輸入量は現物形態で統計に表示される。したがって、枝肉<骨付き>で輸入されたものは枝肉量で、部分肉で輸入されたものは骨を除いた重量で表示される。この表では国内生産と整合させるために枝肉に換えて表示している。)(注 5)

表 6.2.1 牛肉供給推移と構成

区分	国内生産量(t)			輸入量(t)	計(t)	構成比(%)			
	和牛	乳牛	小計			和牛	乳牛	輸入	計
S 45	150,947(t)	118,545(t)	269,492(t)	33,181(t)	302,673(t)	49.9%	39.2%	10.9%	100.0%
S 50	130,653(t)	218,384(t)	349,037(t)	64,176(t)	413,213(t)	31.6%	52.9%	15.5%	100.0%
S 51	129,142(t)	166,238(t)	295,380(t)	131,766(t)	427,146(t)	30.2%	38.9%	30.9%	100.0%
S 52	148,187(t)	209,651(t)	357,838(t)	120,557(t)	478,395(t)	31.0%	43.8%	25.2%	100.0%
S 53	169,196(t)	231,703(t)	400,899(t)	142,837(t)	543,736(t)	31.1%	42.6%	26.3%	100.0%
S 54	150,012(t)	249,589(t)	399,601(t)	185,241(t)	584,842(t)	25.7%	42.7%	31.6%	100.0%
S 55	134,044(t)	281,794(t)	415,838(t)	174,127(t)	589,965(t)	22.7%	47.8%	29.5%	100.0%
S 56	134,398(t)	333,896(t)	468,294(t)	174,903(t)	643,197(t)	20.9%	51.9%	27.2%	100.0%

(注) 子牛を除く。輸入量は枝肉換算量。

出典：農林水産省「食肉流通統計」

(3) 農業生産資材価格の高騰

石油ショックの影響による生産資材価格の高騰(表 2)が続くなかで、牛肉の卸売価格が低迷したため、肉牛生産をあきらめたり倒産したりする中小規模農家が多くなって、他産業に従事する農業者が増えた。一方、畜産経営を続けていく農家は、繁殖牛経営はもとより、肥育牛経営においても、山林原野を活用して耕地、里山等を高度に利用して飼料生産の増大、稲わら、野草などの粗飼料の有効利用を進めて「飼料高」を乗り切ろうとしていた。

昭和 49 年度の『農業白書』はこうした状況に対して、次のように総括している。「国際的な穀物需給のひっばくや環境汚染など畜産をめぐる諸条件の変化を考慮すると、流通飼料価格の安定、省資源の観点に立った家畜の資質の向上、畜産経営と耕種経営の連携の強化を図る必要があり、更に複合経営が多いとみられる中規模層の位置づけ等畜産経営のあり方についての検討が必要である。」

表 6.2.2 農業生産資材価格の動向

(単位 %))

	対 前 年 度 騰 落 率			
	35～42年度 (年率)	42～47年度	48年度	49年 (4～12月)
農業生産資材総合 うち	3.4	28.0	26.1	28.8
肥料	0.7	0.3	13.3	49.8
飼料	0.9	0.4	36.4	35.7
農業薬剤	△0.3	△0.3	6.2	26.0
諸材料・加工原料	0.8	0.5	28.1	64.3
光熱・動力	2.2	0.3	19.2	54.1
農機具	1.0	2.5	12.2	28.3
(参考) 農業労働賃金 (臨時雇い、男)	15.3	13.7	19.0	30.5

注：1) 49年4～12月は、各月指数の単純平均の対前年同期騰落率である。

注：2) 沖縄県は含まれず

注：3) 昭和48年6月～49年6月の月間の投入資材価格上昇分をみると、配合飼料、石油・石炭製品の値上がり具合は異常なほどである。

化学肥料(45.4%)、配合飼料(53.2%) 農業薬剤(27.0%)、石油・石炭製品(63.4%)

出典：農林省「農村物価賃金調査」(昭和49年『農業白書』)

6.3 牛肉生産の社会的背景 3：ウルグアイ・ラウンド（新多角的貿易交渉）輸入自由化

日本経済の発展は、米国向けの輸出によって成り立っているといっても過言ではない。それは対米輸出品によって摩擦を起こし、通商問題をめぐる両国の交渉経過を振り返ってみると明らかである。繊維・鉄鋼・テレビ・工作機械・自動車・半導体などの輸出に関する交渉があった。逆に対日参入として、農産物・市場分野別の協議（電気通信、エレクトロニクス、医療品・医療機器、林産物など4分野の協議）・公共事業の参入を迫られていた。このうち農産物は1983年、米・乳製品など10品目の輸入自由化勧告をガット（関税貿易一般協定）から受けていた。その中に「牛肉・オレンジの輸入自由化」も含まれていた。

1986年9月、ウルグアイのブントルエステでの閣僚会議で交渉開始が宣言された、新多角的貿易交渉をさしている。この交渉は、保護主義に対抗して自由貿易体制を維持、強化するとともに、新しい貿易秩序をつくるのが狙いである。1987年から本格的な交渉が始まり、4年間で交渉を終える予定で設定された。

表 6.3.1 日米および日豪間の農産物交渉経過

1978.12 (昭和53)	多角的貿易交渉（東京ラウンド）の一環として、日米両国が1983年までの日本の牛肉・オレンジ輸入拡大での合意があった。内容は、輸入枠は高級牛肉：年間3万8,000トン、オレンジ年間8,000トンである。
1979.1	日米の貿易交渉を受けて日豪間では、日本の牛肉の年間輸入総枠を83年までに14万2,000トンと、78年より3万5,000トン増やすことで合意した。
1982.10	1984年度以降の日本の牛肉・オレンジ輸入自由化を米国が要求した。
1984.4	ワシントンでの山村農水大臣とブロック米通商代表との会談で、日本は1987年度末までに、高級牛肉は5万8,400トンに、オレンジは12万6,000トンに増枠することに合意
1984.7	日豪間で日本の牛肉の輸入総枠を87年度までに17万7,000トンにすることに合意。その後さらに増枠し、87年度の輸入総枠は21万4,000トンになった。

●ウルグアイ・ラウンドの設定	
1987.4	ヤイター米通商代表は加藤農水大臣に対し、1988年度以降牛肉・オレンジ輸入の完全自由化を要求してきた。
1987.12 (昭和62)	関税貿易一般協定（ガット）総会で、日本は農産物12品目のうち落花生と雑豆を除く10品目の輸入自由化（数量制限撤廃）「採択停止」を理事会に要請した。
1988.2	ガットはジュネーブの本部で理事会を開き、日本の農産物12品目問題に関する紛争処理小委員会（パネル）の報告書（裁定案）を満場一致で採択した。裁定では、農産物12品目のうち落花生と雑豆を除く10品目の輸入自由化（数量制限撤廃）を勧告した。農産物に関して日本がガット違反とされたのは、これが初めてである。
(解説)	パネル報告書の論理は、厳格に適用すると牛肉やコメもガット違反という結論になりかねない。今回の裁定は12品目に、いわば日本の農業のあり方全体に対する裁定ともいえる。
＜ガット裁定の12品目＞	
▼自由化勧告	
*日本が難色を示した品目…粉乳、練乳、でんぷん	
*日本が自由化を表明済み…牛・豚調製品、プロセスチーズ、フルーツペースト、パイナップル缶詰、非かんきつ果汁とトマト、ジュース、トマトケチャップ、糖化製品、その他の調製食料品（混ぜものをした乳製品と砂糖）	
▼灰色勧告	
*雑豆（アズキなど）、落花生	
米国との交渉を控えた牛肉はこれまで畜産振興事業団が一元的に輸入している国家貿易品目だから、との理由で数量制限をしてきたが、国内では生産奨励をしているため、米国が今回のガット裁定を持ち出して強く自由化を迫るのは確実だ。（1988.2.3 朝日）	
1988.2.6	農林水産省の諮問機関である畜産振興審議会（岡田覚夫会長）は、7年後の昭和70年（注1995年）までに牛乳・牛肉の生産コストを2～3割下げることが目標とする「酪農および肉牛生産の近代化を図るための基本方針」をまとめた。
*S70年度：飼育頭数（60年度より44%増）380万頭にしている。牛乳の需要鈍化で乳牛の伸びが押さえられている。不足は輸入肉で補充する。	
*1984年 日米の牛肉オレンジ交渉で米国産を中心とする穀物飼育牛肉の輸入枠を毎年6,900トンずつ増やすことを約束。	
*その後の日豪交渉で草飼育牛を含めて全体では、毎年9,000トンずつ枠を拡大することになっていた。	
*しかし、昭和62年度は需要が大幅に増えたとして、協定による増加の他に3万7,000トン増やして全体の輸入枠を21万4,000トンとしていた。	
＜注記＞枝肉と部分肉 枝肉は牛の首と足を落とし、皮をとっただけの骨付きの肉。部分肉は、これから骨を取った肉だけのもので重さは枝肉の7割。	
穀物飼育牛肉 穀物飼育牛肉はトウモロコシなどで育てられた牛の肉で、輸入枠の中に「高級牛肉」として別枠が設けられている。主に米国産で事実上米国からの輸入枠になっている。一方、オーストラリア産の牛肉は草を食べて育った赤身の草飼育牛肉がほとんどを占めている。	

1988.2.8 牛肉の値下げへ 高級価格帯廃止 乳牛などの増産促す(朝日夕刊) 国内での牛肉生産は、高級な霜降り肉中心の和牛と赤身肉中心の乳牛(オス)の2つに大別される。農林水産省はそれぞれについて安定価格帯を設け、畜産振興事業団が輸入牛肉の放出調整などをしてきた。和牛の安定価格帯は、枝肉(骨付き肉)1kg当たり1,780～1,370円、実際は1,900円前後となっており、畜産農家は霜降り肉に重点を置きすぎることから牛肉全体が高値になる傾向になっていた。

昭和61年度 国内需要の7割を占める牛肉39万4,000トン(骨抜き部分肉換算)

和牛14万1,000トン

乳牛25万3,000トン

*輸入牛肉と直接競合する乳牛肉は、政府による価格支持がなければ値崩れを起こす。

1988.3.16 農林水産省の真木経済局長は、スミス米次席通商代表とワシントンで「牛肉オレンジ自由化問題」で非公式の折衝を行い、「自由化時期の明示が交渉の前提」とし、「今年4月1日から輸入枠を撤廃するのが原則であり、自由化の時期が延びる場合には、代償措置の必要がある」と述べた。これに対して真木局長は「自由化は困難」と主張したため、話し合いは平行線のまま終わる。また、米スポークスマンは日本側が全く自由化に応じない場合には、米側が対抗措置をとることを告げたと述べ、ガットへの提訴、通商法301条(不正貿易慣行に対する対抗措置)などの対応策をとる方針を示した。

<注記>通商法301条は、米国の通商・貿易を抑制したり制限したりしている各国の不正な取引慣行に対し、大統領が報復できる権限を大幅に与えたものである。同条項は1974年12月20日に米議会を通過した。

<スーパー301条>1種の時限立法だが、その内容は①1989年と90年のUSTR(米通商代表部)年次貿易報告書の提出後30日以内に、輸入障壁と市場歪曲(わいきょく)慣行を行っている国と慣行を特定し、これを取り払った場合に米国の輸出がどれだけ増えるかを計算し、議会に報告する。②報告後21日以内に調査を開始。③同時に3年以内に、その慣行をなくすように相手国と交渉する、と言うものである。いわば、相手国の事情などはかまわず、短期間のうちに、一挙に不正貿易を絶滅しようというかなり気短な法案である。

●難航する日米貿易交渉

1988.3.22 リン米農務長官とヤイター通商代表は記者会見し、市場開放が日本の消費者の利益になることを強調し、日本が自由化を示さず、問題が解決しない場合には、直ちに関税貿易一般協定(ガット)へ提訴することを明らかにした。同長官はさらに、3月1日にワシントンと東京で調べた牛肉とオレンジ、グレープフルーツの価格の比較を、パネルを使って説明した。

	ワシントン	東京
ステーキ肉(100g)当たり	143円	590円
オレンジ1個当たり	43円	85円
グレープフルーツ1個当たり	43円	95円

こうした数字を示しながら、「日本の消費者は、割当制度の撤廃によって、もっと適切な価格の牛肉やオレンジを選ぶ機会を得るべきだ」と述べた。また、通商法301条(不正貿易慣行に対する対抗措置)の発動の可能性について、ヤイター通商代表は「3月末までに日本政府との間で問題が解決されるだろうと楽観しているが、もし不可能なら、直ちに301条を発動するかどうか検討することになるだろう」と述べた。

1988.4.22 米下院は21日午後、両院協議会が一歩化した包括貿易法案の最終案を312対107の賛成多数で可決した。法案には、東芝制裁や農産物市場の開放など対日条項も盛り込まれている。

(米上院は26日に審議する予定であると伝えられていた。)

<注記>「米包括貿易法案に盛り込まれた条項」

▽通商法301条改正(スーパー301条)▽通商法201条改正▽知的所有権条項

▽東芝制裁条項▽金融条項(プライマリー・ディーラー=政府証券売買公認業者=資格禁止条

を含む)▽農産物条項(日本のコメ、かんきつ類、食肉の輸入障壁除去)▽投資制限条項▽工場閉鎖条項

この米包括貿易法案が下院で可決されたことに、通産省・農林水産省は強い懸念を示し、牛肉・オレンジ輸入自由化(数量制限廃止)問題解決のため、佐藤農水大臣は4月25日に再訪米してヤイター通商代表と閣僚会談を行うことを決めている。

1988.4.26 市場開放に努力が必要 首相語る

竹下首相は26日、NHK番組「総理と語る」の録画撮りの中で、牛肉・オレンジ自由化交渉など日米経済摩擦問題に関連して「自由貿易の恩恵を一番受けたのは、日本経済だ。いろいろな障害を取り除く努力をしなければならない。それによって、米国の国会や世論が変化していく。」と述べ、米国の対日世論を緩和するためにも市場開放政策を着実に進めることに、国民の理解を求めた。この時点で、竹下総理の発言は後の日米交渉の経過をみると「牛肉・オレンジの輸入自由化は、期限付きにせよ、やむなし。」と考えていたのではないだろうか。その意味では「総理と語る」で国民に理解を求めた形の放送の効果は大きい。

1988.4.28 米包括貿易法案 可決 日本などを狙い撃ちにした極めて保護主義的な包括貿易法案が27日、米上院を通過した。法案を貫くのは、単に個別品目を問うよりも、通商法301条（不正貿易慣行への対抗措置）強化に見られるように、相手国の商習慣など、貿易の法制度の枠組から離れた非制度的なものまで問題にしようというものだ。

1988.5.4 牛肉・オレンジ交渉 決裂 佐藤農林水産省とヤイター米通商代表との、牛肉・オレンジ輸入自由化（数量制限廃止）交渉が、通算12回の閣僚会談の末、決裂・関税貿易一般協定（ガット）突入と決まったことで、日本側はますます苦しい立場に追い込まれた。

消費者を忘れていないか（社説5.5朝日）

最大の対立点は、予想通り牛肉の輸入自由化の見返りに輸入課徴金を導入するかどうかだった。交渉のくわしい内容はわからないが、課徴金の水準や課徴金の仕組みをどうするかが最終的な争点だったとすれば、もう一息の歩み寄りがはかれなかったものか。（中略）交渉の利害関係者は生産者と輸出国だけではない。消費者も大きな関心を持っている。自由化によって価格が実際にどうなるか。もっと国内向けの説明もすべきではないか。子牛に対する不足払いなど国内の保護措置と低水準の課徴金を組み合わせ、生産者への打撃をやわらげるとともに消費者価格もできるだけ引き下げる仕組みなどを工夫し、国民の理解を求めねばならぬ。

●輸入自由化交渉の妥結

1988.6.20 牛肉・オレンジ 日米が合意文書に調印 牛肉・オレンジ輸入自由化をめぐる日米交渉は、佐藤農林水産省とヤイター米通商代表が20日午前10時過ぎ、仮合意文書に調印し、最終決着した。この日、日米間で唯一対立が続いていたオレンジ関税引き下げ問題が話し合わせ、グレープフルーツ、レモンなどの関税引き下げを代償として米国側が引き下げを撤回し、合意にこぎつけた。これで牛肉・オレンジ生果3年後、オレンジ果汁4年後の自由化が決定され、約10年間にわたって日米間の懸案になってきたこの問題に終止符が打たれた。また、ガット違反農産物10品目のうち牛・豚肉調製品の取り扱いも合意文書に盛り込まれた。

表 6.3.2 牛肉・オレンジ自由化——日米合意の内容

	自由化時期	自由化までの輸入枠	関税	その他
牛肉	1991年4月	毎年6万トンずつ拡大（1987年度の枠は21万4000トン）	自由化初年度70%、1年目60%、3年目50%、その後は再協議（現25%）	緊急輸入制限撤廃を導入。適用期限は3年間。延長は再協議
オレンジ	生果 1991年4月	毎年2万2000トンずつ拡大（1987年度の枠は12万6000トン）	現行で据え置き	代償として、グレープフルーツ、レモン、ビスタチオ、マカミヤツ、クルミ、ペカン、冷凍モロシの関税引き下げ
	果汁 1992年4月	1年目6500トン拡大、その後拡大し91年度は総枠4万トンに。（1987年度の枠は8500トン）	現行で据え置き	ミカ果汁との混合規制を段階的に撤廃

このように日米間の貿易交渉やガット総会の勧告を受けて、農産物 10 品目の輸入自由化（とくに牛肉・オレンジの輸入）は、「スーパー 301 条」という厳しい外圧を受けながら畜産・果樹の生産者ばかりでなく流通関連業界の体質改善を迫られることになった。この結果は単に畜産業界だけではなく、コメの輸入自由化も視野に入れた日本農業全体の問題でもある。

6.4 肉牛生産近代化への試み「肉牛生産農家は、いま」

BSE が問題になって牛肉が売れなくなり、全国の肉牛生産農家は大きな打撃を受けたが、そうした中で畜産農家は現状をどう考えているのだろうか。実際に、農家をたずねて 2 人の方に話を伺った。

一人は親子で肉牛の肥育経営に当たっている香川県綾歌郡綾南町の佐藤孝男氏（75）、もうお一人は農家が集まって集団という形で「農事組合法人」を作り、さらに会社組織にして多頭飼育を進めている広島県福山市神辺町にある「なかやま牧場」の代表取締役・中山伯男氏（75）である。

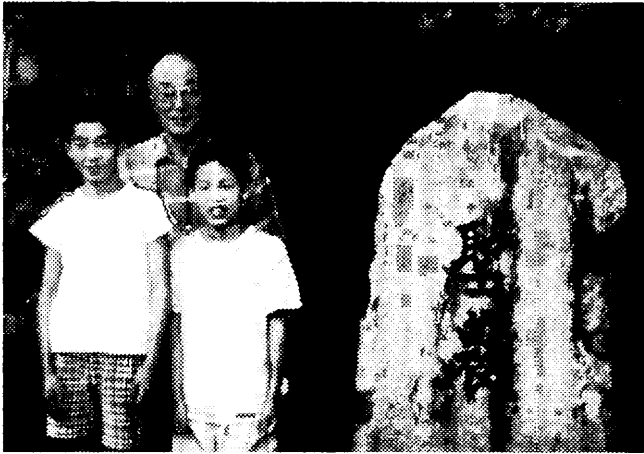
お二人とも早くから畜産に取り組み、これまで NHK 主催の農業賞のほか数々の賞を受賞され、農業だけではなく、リーダーとして地域の発展にも尽くしてこられた方々である。お二人には、2001 年 9 月に BSE 問題が起きてから 1 年経った時点で、過去 30 年近い畜産経営の経験と今後の展望を話していただいた。

6.4.1 危機を乗り切った個人経営の肥育農家

佐藤孝男氏インタビュー（2002.9.18 佐藤氏の自宅）

（佐藤孝男氏のプロフィール）：佐藤氏は 1927 年（昭和 2）香川県綾歌郡綾南町のご出身で、地元の主基（すき）農業高校を卒業後、亡くなった父親に代わり稲作の専業農家として農業に従事した。その後、乳牛 1 頭から畜産を始め、徐々に頭数を増やしていった。1964 年（昭和 39）火災で家財を失ったが牛と田畑が残った。この時から本格的に牛の肥育経営に取り組み、10 年経った 1974 年（昭和 49）、その優れた畜産経営が評価されて NHK 農業賞を受賞された。現在も後継者の哲氏（44）と共に牛の肥育経営を行っている。一方、佐藤氏は地元の青年団活動、公民館活動も積極的に行い、JA（農協）理事も務めてこられ、地域のリーダーとしてご活躍である。

肥育農家の出発点



(2人のお孫さんと一諸の佐藤孝男氏、右の「聖農」は農業にたいする佐藤氏の信条)

大西 佐藤さんが肥育を始めたのは、どういうきっかけでしたか。

佐藤 昭和25年頃で、昭和2年生まれたから、23歳の頃でした。京都大学の先生の「農業概論」という本を読んだんですわ。農業とはどういうものであるか、ということが書いてあったんです。その時代は水を張って米を作るのが日本の農業、コメでなくてはいけないと言われていたんです。しかし、傾斜地でもできる、耕さなくてもできるデンマーク農業のことが書いてあるんです。それが畜産だった。これは台風などの災害の影響を受けなかったから。たばこ、りんごも影響を受けます。それに、最初に書いてあったのが畜産だった。「よっしゃ、畜産だ」と思ったわけです。

大西 昭和50年の資料では、佐藤さんの経営規模は、水田240㍍、飼料麦170㍍、肉牛200頭、搾乳牛11頭、子牛3頭ですが、その後どうなりました。

佐藤 基本的にはそのままです。今300頭位かな。息子がやっておりますがな、全部、F1（父牛が和牛、母牛が乳牛の間に生まれた子牛の交雑種）です。乳雄（乳牛の雄）の肥育は止めて2年くらいかな。全部切り替えました。ウルグアイ・ラウンドの輸入自由化があって、外国産の牛と乳雄とは肉質が競合するんですね。消費者は乳雄の肉と外国産の輸入肉と肉質の見分けがつかず変わらんもんですけん、私たちが出荷する乳雄が安いんですね。そこで時代も変わってきたけん肉質のいいものを、ということで変えました。いま、子牛は230~270kg/6か月育成、普通「6か月齢」といいますが、福島県と香川県綾歌郡の家畜市場から購入しています。

大西 昔は、ホルスタインの雄子牛は北海道から買っていましたね。昭和49年頃のお話ですが、佐藤さんはキロ当たり1,500~1,600円くらいの牛肉が日本で手頃だから、その位の牛肉を生産するといわれたように記憶していますか。

佐藤 いや、キロ当たり1,300円位です。それが、輸入肉が入ってきてもっと安くなった。消費者は好みがあってあれでいいかんようになった。昭和50年以降、高度経済成長期に食生活が変わって肉を食べ出した。関東は昔から豚肉が主です、関西は牛肉をよく食べるんですね。

大西 昭和40年代の半ばに第1次減反政策が打ち出されましたね。

佐藤 減反政策が出されて、その見返りに10a当たり（反当）7万円位くれたのかな。かつて総合資金から借りた金（520万円）で放牧用の山を買いましたが、減反の補助金の返還にあてました。年に100万円位くれたのでそれで返しました。休耕田には飼料用の牧草のイタリアンソルゴーを栽培しましたな。

いま、外国の飼料がこれだけ安かったら、日本の労力では皆目いかんわな。電気製品と同じで、キロ27・28円だった。わら・乾草何でも。あの当時45円・50円・57円いいよったんですね。あの当時にくらべると、為替レートが変わったから。いま、10㍍当たり稲ワラが600キロとれる。1キロ30円にしても18,000（600×30）円でしょう。これは自分で刈って束ねて、自分で運ばないといけない。ところが外国飼料は現金30円を出したら、運んできて倉庫に積んでくれる。全然手間賃いらぬです。

石油ショック後の経営

大西 石油ショックの頃、「かす酪」とか「かす利用」という言う言葉が流行り、「ビールかす」「豆腐かす（おから）」などが注目されました。要するに、粗飼料を如何に確保するか課題でしたね。

佐藤 ビールかすがいいことは、当時みんな知らなかった。いま、ビールかすが乾燥ビールかすでも、たとえ少量でもエサの中に入れたらいい。昔は粗飼料という分類だったのが、いまは1段上がって「発酵飼料」になった。そ

うすると非常にエサの吸収率が良いんですね。吸収が良いと言うことは効率が良いわけで、牛の増体が良くなってくる。肉質がもの凄く上がって、肉が甘い。そうすると、放牧で育って、濃厚飼料をやっていない外国産の牛肉とくらべたら全然、味覚が違ってくる。発酵と吸収ですね。うちの肉はお客さんが美味しいと知って待っていてくれます。

大西 では、石油ショックの後は経営状態が良かったんですね。

佐藤 ズッとよかった。白（ホルスタイン）の場合は、体重の57%が枝肉です。（800 kgの牛は456 kg）、F1（交雑種）は60%で留まるんですね。和牛は70%までは行かないが67~68%まで行く。枝肉相場と言われるのは、その枝肉1キロに対してなんぼということ。オイルショックの48~49年頃は枝肉が1キロ当たり500円位で、悲惨な目にあったんですね。みんな同じですが、私はこう考えた。「足らぬものは、必ず余るようになる。余るものは、必ず足らんようになる」、これは経済の原則ですね。何時も同じというのは、日本の歴史にないんですね。ですから石油ショックの底のときに、どう耐えしのぐかがその人の経営手腕でした。

だから、私は一服するときに息子によく言うんですが、資本も適正、労力も適正、いわゆる適正規模。借金を負うてどんどんやっていくというのは適正規模ではない。自分が困難な時にやっていけるもの。「中庸をもって尊しとなす」という中国の諺にあるように、中位か8掛けでいれば合格圏内に入っている。100点でなくてよい。では、努力しなくてもいいかといえば、そうではない。私は相談する人が少ないので本を読みますが、二宮尊徳さんの本を読んでみたら、二宮尊徳は「人間一生のなかで、必ず一遍か二遍は危機一髪ということがある。天変地異が必ず起きる時がある。」といっている。火災に遭うとか、病気になるとか。そのことが「小を積んで大をなす」ということで、私はそれをズッとやってきたんですね。どんな経済変動に対しても借金がなければ、ヤメタといえればそれで終わり。だから財産は減らさない。

BSE後の対策

大西 BSEを見て、自分の牛は大丈夫かと言うふうには思いませんでしたか。

佐藤 あれは、5~6歳以上の歳いった牛でないといけないから。私のところは、年が若いかな。それほど神経質にはなってないです。BSEに関しては、私も若い者も全然考えておりません。あれは搾乳牛に多いんでして、若い牛には出ないことが分かっていたから。本家・本元のイギリスでは2~3歳の若い牛にはない、出ないというところなんです。それを、こんな小さい牛にも耳標（牛の生産地などを記した標識）を一連托生でやっているところが、行政の未熟などや。

大西 あの耳標は自前ですか。

佐藤 あれは国のほうとJA（農協）が出してくれる。お陰でキッチリしましたわ。あれが付いてないと、市場でジョーバ（上場）できないから。あれは厄介なんですね。今まではカンカン（看買）して、体重が分かれば「ハイ、何番」といってサアといっちゃった。今は何を食べていたか書かずにやかん。1頭1頭書かずにやかん。

大西 いま1頭どのくらいですか。

佐藤 いま、50万円位になったな。余所の牛より、うちの牛は5~10万円位高いかな。

大西 BSEの後はどうだったんですね。

佐藤 子牛を27万円で購入して、1年半（18か月）飼って、27万7,000円。

大西 エサ代ほどの位かかっているんですね。

佐藤 うちでは、生産費として25万円みているんです。これは3か月位かな。あのときは対策費がでたんです。1頭12~3万円出たのかな。うちは雇用費がないからどうやらこうやらできるかな、という状態で今日にいたってます。まあ、やっと、トントンか少し赤字が出るくらいになった。ひどいときには3頭売って、やっと1頭買える状態だから頭数が減ってしまう。子牛が一番安い時は27~8万円した牛が5万円や。面白いものでして、な、こういう時は、ええ牛が買えるんや。安くなったら、ええ牛が買える。みんな買わん。「お願いします、お願いします」と言うことで買い手市場や。今度は反対に売り手市場になったら高くなる。そうすると、余りやうない牛が高くなる。

大西 飼育の仕方での品質の底上げはできませんか。

佐藤 それはあります。牛には胃袋が4つありますから、胃の中でエサを発酵させるようにするんです。発酵しやすい状態にするんです。そうゆうエサに、将来改良されていくんでしょうなあ。「発酵」というものをそんなに大切と思わず、あれは貯蔵するものだ、貯蔵して長く使うものと思っていた。それが違う。品質がもの凄く違う。まず、牛の皮膚の色が違う、光っている、毛が細くなる。人間も風邪をひくと顔色が悪くなる。あれと同じや。肥育技術はまだまだ奥が深いんですね。

たとえば、牛に良い水は、硬水ではなく軟水がいいというんです。それで池の水が良いと言うんです。「この本を読め」と中島先生という人が、1冊の本を紹介してくれた。それによると、太陽に当たったら軟水になっている、香川県の水も軟水になるんですね。環境です。空気だけではなく、静かさです。松阪牛のいるところは、薄暗くして、ピンピン跳ねたりしないようにしている。運動させない。マッサージしている。でも、健康牛ではないと思うんですね。健康なのが欲しいですね。

今後の畜産農家の方向

大西 今後の肥育農家の進むべき道については、どんなふうにお考えですか。

佐藤 いま息子は、帳面がはつきりしている。だから心配していない。良寛さんじゃないが「人は困った時には困ったらよろしい」という考え方です。私は息子にいうんです、「みんなが困った時には、一緒に困ったらいいんじやが。でも、どうしようか頭数減らすかなどとバタバタするなよ。10頭売ったら、10頭買えばいい。5頭売ったら、5頭買えばいい。ジ〜としていればいい。そういう気持と能力と適正規模を持っていれば、300年先も一緒や。慌てんでもいい。これとこれとやるべきことをやっておけば、必ず乗り切れる。」と。

また、こうも言うんです、「金で持つなよ」と。ですから、私の家の倉庫は飼料で一杯です。金で持たず、将来要るもの、将来減らないものを買うようにする。少しずつです。

二宮尊徳さんの言うように、「小を積んで大をなす」と言う気持です。コツツリ 3 万円、コツツリ 2 万円、コツツリ 3 万円とコツツリ、コツツリ貯めていけば、数百万円はできるのです。粗飼料、車を買換える、農業機械なども 3 年位前からよく見ておけよといひます。一気にやろうとするとことは、大抵はずれる。お前の好きな衝動買いは、外れるぞ、という。ケチと倹約とは違いますな。出し惜しみはケチですが、思い切った時に使うのは倹約です。公平と平等が違ふようなものです。

この間もしみじみと息子がいうんですわ。「お父さん、まず、健康じゃわな」と。ああ、こういうことをいうようになったなあと。近くにて始終牛を出して来よった人が、鉄板が倒れた下敷きになって亡くなりました。それで、息子も感じたのでしようなあ。そう言うこともあるので「万が一のこと」も考えて置けという。私たちの場合は、生命保険ですわ。子育てのことも考えて。気をつけて置くことは、品性ですなあ、信用ですなあ。子牛の時に良くて、買わない人、買う人ができる。お前のところは、高くても買うというように、子牛の生産者との信用ですなあ。商品は「流通ですがな」、流通によって変わるんですな。いまの状態をみて思うのは、何時の時代でも「正直にやることだ」と思いますな。今後は、流通業界がトレーサビリティで調べて違反したら、業者は 1 億円、個人は 100 万円といいよりでしたが。これで、怖くてようやらんじやろう、と一いつとりしました。これからは、消費者も牛肉を買うときに牛の産地を調べられますしな。息子は喜んでおります。

大西 佐藤さんにとっての牛は…。

佐藤 農業で安定と言うことです。私にとって「おおもと」をなすものですから。

大西 牛から学ぶことは、何かありますか。

佐藤 おおようなところ、と言えらると思います。自分の思った通りにすることでしょう。牛は実に正直な返答をしますからなあ。手抜きをすればそれがでる。それと子牛のときにバタバタしない牛を選ぶことです。

大西 バタバタしないようにするのは、どうしますか。

佐藤 良いエサと良い環境です。その家の特徴がそのまま出るんです。良い牛はどこまでもいい。バタバタする牛はどこまでも、歳に関係なくバタバタします。ある程度は飼ひ方で変わるんですが、限度があります。市場の売り場へ走り込んでくる牛は決して買いません。のそのそする牛を買うんです。その辺の見分け方が経験でしょう。結論は楽しく生きることだと思ふんです。価値観を付けたものがいい、と息子によく言っている。自分なりの価値観ですな。自分の出来ることをしっかりやって送り出すんです。やはり人間は 1 つの困難を超えれば、次の楽しみが待っているんですなあ。

大西 貴重な時間をありがとうございました。

6.4.2 生産から販売までの一貫経営を目指す

中山伯男氏インタビュー〔2002.9.19（木） 於：事務所応接間〕

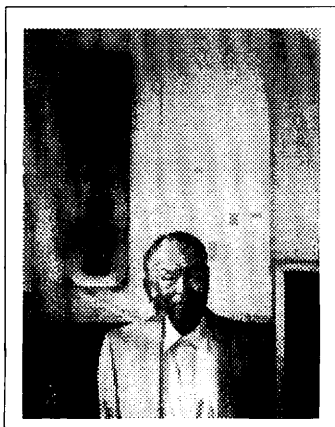
（中山伯男氏プロフィール）：中山氏は 1927 年（昭和 2）広島県深安郡神辺町三谷の出身。島根県大田の畜産試験場で畜産について学ぶ。その後、広島県で農業に従事していたが、1958 年（昭和 33）頃から牛を飼い始めた。個人で多頭化に踏み切ったのは 1962 年からである。当時は牛価の変動が激しかったことから、農家の経営を安定させるためには、直接流通にかかわる必要性を感じていた。そこで、小規模の肉牛飼養農家がまとまって、「生産者が牛肉の価格を決めて消費者に提供しよう」と呼びかけ「生産から卸売・小売販売までを総合的に行う、いわゆる一貫経営を目指す」集団が広島県の神辺町に誕生した。昭和 46 年「農林大臣賞」を受賞。昭和 46 年 6 月に最初の直販店を開店し、文字通り「生産・卸から小売り販売まで」の経営を実現し、昭和 49 年 2 月には 60 戸の肥育農家がこの経営に参加し、直販店も 2 店になった。そのリーダーが中山伯男（はくお）氏である。その頃から中山氏は「牛は世界的な商品である」と位置づけた上で、「車社会において車が増えたのは道路の整備があった。それだけの経済力と基盤があったからだ。

牛の場合についていえば、道にあたるのは消費者である。消費者の食生活が改善されれば牛肉の消費はもっと伸びる筈で、その可能性は十分ある。」と話していた。

肥育経営を始めた頃

大西 中山さんにはお会いするのは、昭和49年にお会いしてから28年振りですね。この間、畜産界とくに肥育牛部門も幾つかの山や谷がありました。今日は、中山さんがそれらをどのように乗り越えてこられたかをお伺いしたいと思います。まず、昭和40年代後半に、中山さんを中心にして農家が集団で牛を飼うことになったきっかけは何だったんですか。

中山 農家60軒が集団で牛飼いをやり始めたのは昭和46～47年頃ですが、1人で牛を飼っただけでは頭数的に少ないんですが、5人、10人、30人と寄ればある一定の頭数が飼える。



「なかやま牧場」社長の中山伯男さん

その時代には今ほど機械がまだ発達していないんじやから、人力よっての作業だから自分だけで頭数が飼えない。50人・60人寄れば何百の牛が飼える。消費は伸びていってるんで、1人で年間6*位食べるようになると、牛肉生産を増やしていくことになる。で、コストは低下していかにやいけないという考え方をしていた。今のような時代になると、機械がどんどん発達して人件費よりも機械が安くなる。大型化していける時代です。昭和40年代頃には人件費が安くて、機械がもの凄く高かったから、どうしてもみんなの力を借りなければできなかった。それが50年代の石油ショック以降は、それが変わってきたんですな。人件費は高くなったが、機械は新しく開発されドン安くなって買いやすくなったことで、農業の考え方がそこで変わってきたんです。

大西 そうなってくると、各農家の肥育の頭数が増えるものですか。

中山 農業者いうものは企業感覚がないんです。農業者は親から譲り受けた資産を守ることしか考えていないし、展望がない、それではいけない。今からの農業は、大きく展望を持って広げていくことを考えなくては行けない、と私はいうんです。ちと金が入ったら、もう十分食べられるんでということで満足する。規模拡大は意外に少ないです。いまは15軒になっております。牛が1,600頭位になっています。残っている農家は1軒で100頭規模、中には330頭という農家もありますが、30～40頭という農家もあります。中心になっている農家は7～8軒というところですよ。それは専業でもできるようになっております。昔60～70軒あった農家が、いまはその位になっております。

大西 乳雄（乳牛の雄牛）を肥育に回したら良いのではないかとって、乳雄の肥育を日本で最初に始めたのは中山さんだったんですね。

中山 そうです。昭和40年（1965）に私が初めてやりました。テレビがまだ十分普及してない時分だから、NHKラジオの「早起き鳥」という番組があって、40年に2回出たはずじゃがな。1回目の時はみんなぼう然としていた。あれはなるほど面白いということで、もう1回放送せいやうんで、2回取材に来られたんです。「早起き鳥」が放送されたのは、6月頃と11月頃じゃったと思うんです。

大西 40年のいつ頃から乳雄の飼養を始めたのですか。

中山 2月からです。それから徐々に増え始めたんです。50年頃には和牛と違わんくらい高くなっていました。

その後のインテグレーション

大西 牛を肥育農家に預託する制度として、40年代後半に話題を呼んだ「牛のインテグレーション」は、その後も続いているんでしょうか。

中山 続いてますが、鶏や豚の場合は回転が早いのでやっていけても、牛はそうはいかない。量を生産しないといけないので商社だけでは難しい。牛を飼育する場合の判断力が勝っていく、ということがある。鶏・豚は数字が出てくるが牛はそれだけではいけない。牛は商社がやりかけても、後ずさりするところがある。それで、

アメリカでも牧場を持ち、日本へも仕入れるようにしていますが、商社直営というわけにはいかない。そこにワンクッション置いたものがあって、上手くいきように思うんです。牛の場合は選定する選び方ゆうもんもあるんです。鶏は一律、牛の場合は牛の体型みたいなものに合った飼いやをしていく、ちょっと動作が大まかになってくるということがあるんです。あんまり規模を大きくしたら目が行き届かないとか、いうようになってくるんです。

大西 5千頭だったら10人、1万頭だったら20人というようにはいかないんですか。

中山 そうならないんです。やはり、その組織というか、才能によって1,000頭にするか1万頭にするか。1万頭以上になると1人では出来ないのでは、誰か他の人に任せるというようになる。鶏や豚なら大きくなっても出来ると言えますが。

大西 昭和35~36年頃、茨城で商社（伊藤忠商事）が豚のインテグレーションをやっていましたが、豚なら上手くいくんですか。

中山 ええ、肉牛経営が思わしくなくなったのを豚で代直しをしてやっているんですな。

大西 昭和40年代に九州・鹿児島県の鹿屋市で当時の農協と農家がタイアップして、商社（ダイエー）が牛の預託制度を始めましたね。当時、牛の肥育に農外資本が入ってきたということで大きな話題になりました。それまでの和牛を飼っていた農家も2~3頭飼っていた人が肉牛生産ということで多頭肥育に変わっていった。その頃、中山さんのところは、肉牛の一貫経営（「生産・卸から小売り販売まで」という考え方）を始められたわけですね。それは将来を見越していたのですか。

中山 多少の変化はありますが、基本としては違わない。予想外に伸びてきたということはいえるんです。値段の点で畜産界が輸入肉に一時的に走りすぎた、ということはある。私のところは、以前から輸入肉は扱わずに、全部、国産でしとったんです。そのころ、ますます肉需要が増えて、40年代後半の肉需要は1人当たり1*。~2*位だったのが、今は10*位と言うふうに変ってきたんですな。その時分、日本人は年間5~6*。と食べるようになるやろうという予測が10*。も食べるようになった。予想より伸びて世界的レベルに上ってしまっている。初め、日本人はコメのような穀物を食べていて外国のようにパン食ではないから、肉は5~6*。じやろうということだった。それが、コメを食べる率がグンと減った。そのころ、農地の基盤整備は大型の機械が入るようにせにやいけん」と常に言っていたんですけどな。コメの減反をさせず、基盤整備で田んぼを休ませりやいけんじや。ここはコメを作らずに何時でも畑ができるようにしておく。これからは手作業ではなく全部機械でできるようにせにや、これからの農業は生き残れんのだと、しきりにいった。

それを会議などで言うと、そうになったら企業がみな宅地にしてしまう。農業予算で企業が工場や宅地にしてしまうので困ると言う反論があった。それは違う。地域を国の予算で整備し、企業が来て農地に工場を建てれば、20年間なり何年間は税率はこれこれですと法令で決めて税率を上げればよい。そして、基盤整備をどんどん行う。だから減反奨励金を出すよりは、基盤整備に金をつっ込んでもらいたい、再三いいよったんです。

そうして歩いてみると、減反政策は竹に木をついだようなもので付くわけがない、どこへ言っても田んぼは虫食いのような状態になっている。これが10年、15年すればするほど困る時代が来るなど感じていたんです。大きな基盤にしていけないから、農業に取り組もうとしたら細かきまで経費がかかって経費高になるんで、出来ないんです。大きな基盤にしてあれば大型機械が入り、コストが安くなって海外との競争できるようになる。今では人件費は、日本は世界一高い、出来るものはみな余所から来るから、農産物の自給率は37~38%になってもうて、62%も輸入に頼るので先進国の仲間入りができない。自給率が60%でなければ先進国ではないんじやと、私は何時も言うんです。

今後は水とか食料いうものは、何処までいっても大事なもので、日本が先進国ならバランスが取れてなきゃならないのに工業だけが先進国なだけで、他のものは非常にバランスが崩れた国である。農地が全部虫食い状態になるとという言い方をするんです。

石油ショックが専ら機に

大西 中山さんは石油ショックで肉牛生産が落ち込むこともなく続いたということですか。

中山 私の所は、あれでかえってようになった。それまで私の所の資金で預託牛として飼って貰っていたのを全部引き上げて直営で飼うようにしたので、今ではかれこれ6,700~6,800頭になった。そうでなければ、今でも預託方式でしていたかもしれない。今は、株式会社と農事組合と有限会社と3つにしましてな、そして直営でしとります。52年に何故農事組合にしたかといえば、農地を取得するのに株式会社では出来ないんですな。畜産をしようと思うと土地をまとめてやいけんない。それで農事組合をこしらえたわけですね。

その後、平成5年頃から国でも調査を始めて呼ばれていった時に、私は「国のとりつきが遅すぎるんじや。もう少し早くやってほしかった。」ということがあるんです。それに対して、会社に任せると、ものの値段が上げ下げして消費者に迷惑がかかるからいけない、という考え方があったということでした。いまの時代では個人の力では経営は成り立たないので、大きな組織の力でやらにやいけんようになってくる。農事組合でもまだいけん、一層大きくするには特定なものには株式会社でもさすのがいいのじやないか、というように今の時代がなってきたんですな。

大西 石油ショックの頃は飼料が高く、牛肉の値段は上がったが売れないので出荷時の牛の値段が安くなる、いわゆる「飼料高の製品安」と言われた時期でしたね。

中山 そうです。あの頃は食べる製品の値段のバランスが崩れた時だったです。あの頃は所得がそこまでついていなかったのに、肉だけがドンドン上がっていたので、これでは消費者に買ってもらえない。人件費と機械の関係で言えば、人件費は10倍・15倍と上がったが機械は安くならないまでも、そのままの状態だったので規模拡大ができたんです。これが機械も人件費並みにあがっていったら規模拡大はできなかった。

大西 その頃、粗飼料確保が問題になっていましたが、中山さんは「ビールかす」を利用する、いわゆる「かす酪」などということはおやりになったんですか。

中山 いえ、私は力を入れなかった。品物が足りない時期はそう考えても、品物が十分あるときは良いものを作らないといけない、と言うのが私の考え方です。足らん時分は何でも良いんでしょうが、品物の価格が十分になれば良いものでなけりゃいけん、という言い方を私はしていました。良い飼料を牛にやりたい。飼料の中でも選んで良いものをやりたいと思ってました。

大西 そうすると、肉も高くなりますね。

中山 そりゃ、食べて貰って「美味しかった」といって貰わねえやいけん。買って家に帰って食べて美味しかった、美味しくなかったと不安感を与えてはいけない。消費者に納得して貰って、自信を持って買って貰うようにしなかつたらいけない、というのが今の行き方です。

大西 石油ショックの頃もそういうお考え方でしたか。

中山 その頃は品物が足りなかったんで、生産の方を増やすということを考えていたんです。しかし、49年頃はうなぎ登りに牛肉の値段が上がって、世界的に牛肉が不足した。その頃、どの位上がるんだろうと言われていたが、私は所得がそこまで行かないのに牛肉が上がると、「牛肉離れ」の恐れがあると言っていた。だから、どこかで牛の値段が崩れるじやろうと思ったら、49年の12月に下がったんです。私は牛をたくさんもったの売ってしまっていた。そして、50年の4月からドンドン買い入れた。もう3分の1、5分の1で買い入れたから増えたんです。

大西 その頃、牛が売れなくて農業をやめた農家もあったそうですね。

中山 そうです。市場へ牛を売りに来とって、牛の値段が安くて市場料にも満たないからと牛を放っておいて帰る。市場は生き物をそのままにはできないから、市場は持ち込まれた牛と買われた牛の数を数え、確認して返すと言うように市場の規則を変えた位です。それだけ牛の値段が下がったんです。

大西 あの頃、子牛の値段はどのくらいですか。

中山 乳牛の子牛などは、引き取り手がなかったので「タダ」でした。50年の始めに…。みんな早く放そうとするから。大きい牛で20万円位のがえっとでてきた。それも、良く売れなかった。元は40〜50万円した牛です。その時分牛のエサ代は高かった。「飼えば飼うほど損をするから、飼いとうない。小さい牛はタダでも要らん」という農家がでたんです。

大西 飼料は輸入ですか。

中山 40年頃から、国内の生産は段々なくなってきたから。乾草はアメリカから入っていたし、トウモロコシや麦などは一部は粉にして後はフスマといわず飼料とするとしていたんですな。

大西 それで飼料高になったわけですね。

中山 いま大体キロ30円位ですが、当時はキロ60円位までしました。牛が安いのにエサは高かった。乾草はその時はアメリカからあまり入ってなかったんで、国内では稲ワラを粗飼料としてドンドン使っていた。今現在では稲ワラは取らずに、アメリカやカナダの乾草を輸入して粗飼料に使っている。一昨年、口蹄疫（こうていえき）が出てから「輸入に頼っていたら伝染病が出る」、宮崎県の口蹄疫が出た時分に国内の稲ワラを利用しようと、国がいろいろな案を作ってやっているんですね。国内で良いものをドンドン生かしていこうということで、止めるのは早いや、いったん止めたものを復旧させるのには年数がかかるんです。

大西 では、中山さんはどうされたのですか。

中山 私の所では、豆腐の絞りかす（オカラ）は繊維もありますので、粗飼料にプラスする飼料ではなく、中間のところにあっていつてる位にしています。で、基本的なエサは質の良いもの、いいものをやろうとしているんです。

「なかやま牧場」の牛の履歴

大西 そこへ一貫経営というのは、流通経費を少なくして消費者に安い牛肉を提供しようということですか。

中山 昔ほどは、それはなくなつてきます。はっきり表示ができるようにしとったわけですね。で、いま、国が一生懸命言つとる。私の所は十何年か前からそれをキチンとしとったわけですね。カードを作つてまして、何時・何処の牛を・なんぼで買ったなどの数字を出して、そして中間でどの月齢はどうゆうものをやった、どの月齢はどうゆうものをやったという記録的な品位評価がある。で、国がこのたび取り入れたトレーサビリティは、うちが十何年前からやつとったことを、国が初めて取り入れよるわけです。

前は「耳標」（牛の耳に付ける標識）というものができなかった時代には、ホルスタインなら斑紋（はんもん）をとり、和牛であれば鼻紋を取るなど、これが大変だった。で、プラスチックのものを付けると、もげて取れたりする。50年頃からは今のビニール製のものにして弾力があって、耳がちぎれてもそれが落ちなくなつたから、それで見やすくなった。そういうことと、記録をしてきよらなんだらいけないということで、牛に全部カードを作りまして、カードに記入させるようにしました。だから、うちが10何年か前にしたことを、いま、国がしよると思って見よります。

ウルグアイ・ラウンドの影響

大西 ウルグアイ・ラウンドの貿易交渉で、日本は牛肉・オレンジを含めて12品目の輸入自由化を迫られて、段階的に自由化することが決まりました。牛肉部門で言えば、乳雄と外国産の牛肉が肉質の上で競合するといわれ、外国産の安い牛肉に対抗できなければ農家は経営が成り立たなくなりました。この自由化の危機を中山さんはどのように対処されましたか。

中山 これは私のところも、平成になるかならんかの時分に段階的に自由化になり、関税率も下げていくと聞いてい

た。そうするとホルスタインの肉と外国産の肉が競合するし、外国の肉が安いから売れなくというんで、F1 (交雑種) を作ろうということになった。

大西 そのころは、何頭立たんですか。

中山 2,000頭位ですか。

大西 ほとんどが乳牛の雄ですか。

中山 いや、和牛と両方です。和牛が一番増えつつある時分です。昭和58年頃(1983)に和牛を飼ったものは損をして、ホルスタインを飼ったものはもうけたということだった。だから、肉の値段は下がらんのにもかかわらず、みんな和牛を止めてホルスタインのほうに走ったんです。私のところは全面的に和牛にしようかと思ったんですが、ホルスタインの注文が入ったときにおらんいうては困るというんで一部分は残し、大部分は和牛にしていました。

大西 2,000頭のうちのどの位ですか。

中山 1,200〜1,300頭が和牛です。62〜3年(1987〜1988)ごろから輸入肉に変わるじゃろう、自由化になるじゃろうという交渉で行くとなると、一番良いのはF1を作るということだった。その前からそうしとったのが、61〜62年頃にはホルスタインが下がった。消費のほうは安定していたのに、一時的な利益だけでみんなが止めて和牛が減ったことから、早く立ち直る人は良かった。それまで12〜3万円と和牛の子牛が買えたのが、60〜61年頃は50〜60万円になったとったですね。その位変化があったんです。

大西 そうすると、乳牛は売れなくなますね。

中山 そうです。ですから乳牛は売れないので、どんどんF1を作らにやいけんという指導で、それも私の所は少し早くやりましたな。少しでも絶対量を上げたいと言うことで、山口県に行って、無角牛、元々はアンガス種ですな、その精液を貰いに行きましてな、それをたくさん買ってこの地方にまいたんですが、これは失敗しました。ホルスタインのほうが良いと言うことになりましたな。和牛にかけたらいいと思っとったんですが粗み合わせが悪かった。その後、兵庫の但馬牛をかって、ちょっと小さいけれど肉質はこれが一番良からうということ、ホルスタインは体が大きいから。私の所ではしなかったが、山口県の天然記念物になっている牛を連れて帰ってこれをつけた人もたくさんおる。これは但馬牛よりなお小さいんです。だけどホルスタインのほうがまさっているんで、割と大きくなった。肉質が良いと言うことで、ホルスタインと山口県の無角牛をかけたのは大きな失敗でした。「先端を走って良い時と悪い時があるんだなあ」と思いました。(笑い)

大西 F1だって難しいでしょう。

中山 大きな差がある。そりゃ、ホルスタインが一番安定している。和牛にもかかなりの波がある。また、F1にも大きな波がある。みんな高く売った話しかない。一番安く売った話はしないから、競馬に行っても勝った話しかないのと同じで、牛の場合も高く売れた話しかしません。

外国産に優るF1 (交雑種)

大西 では、F1の牛が外国産の牛に負けないようにするには、どうすればいいのですか。

中山 その点は、アメリカも大分変わってきたんですが、今までアメリカは外の広い地域ですな、そこにエサを自動車でダートまいて外で飼う、と言うやり方。雨も雨量も少ないのでそれで良い。日本では家の中で飼う、肥育いうものは、直射日光は与えない飼育方をして、大きな集団ではなしに5〜10頭位までをセットにして飼う。向こうは何百頭もセットにして飼っている。それと、もう一つは鹿児島島のダイエーさんがやっていた「牛には直射日光を当ててはいけない」という言い方をするわけです。そこがまた違うんで、10度以上の直射日光を与えてはよくないが、10度以下の直射日光は与えたほうがいいんじゃないかという。そこら辺が、同じ言い方でも違ってくる。その程度という角度と言うのが違ってくる。私は10度以下の太陽は与える。10度以下の日光は血の循環をよくするんじゃないか。じゃから与えにやいけん。しかし、20何度、30度というような自分の体温に近いものは駄目なんです。日射病になる。アメリカではどういおうと外で飼うもんじゃから、どうしても一定より良いものが少ない。しかしながら、それではいけないということで日本の和牛を持って帰って、品種改良をドンドンする。そこで精液をたくさんとって、それをオーストラリアへ全部売るとる訳ですな。そして、オーストラリアでどんどん人工授精をしまして、アンガスに日本の和牛をかけているんですが、これは非常にばらつきが大きいんですな。これは私が無角牛に和牛をかけたように悪かったというように、中には良いものもあるんですがばらつきが多い。これは、やはり20年、30年積み重ねなかつたらなかなか良いものはいけません。今のところは、良いものもあるが悪いものもあるということが言えると思う。外国の人でもみんな日本のような肉がほしい、という要望は強い。それだけのことが出来なかったから、それが当たり前のように外国の人は考えていた。

大西 今年になって牛肉の偽装問題が出ているのは、輸入肉が売れなくて在庫があるということは人気がないということですから、ここ暫くはF1の肉は外国の肉に優っていると言うことでしょうか。

中山 そうです。他の国は、少しでも日本のように大きくしたいということでな、直射日光を当てないように屋根を作って飼うようにしている。今まで湿度が低いから日にあったとしても意外に寒だったんです。しかし、肉質は落ちるというわけですね。日本は湿度が高いから、外に出すと牛が弱るからと言われたんです。アメリカは暑ければ北のほうへ移動し寒ければ暑いほうへ移動していたけれど、今はそういうことをしなくなった。

初めてアメリカへ行った時分には移動式の牛飼いをしていたが、そして今は固定式になるという具合に変わった。かつては何でも食べて生きられる牛を改良して飼っていたのだが、それではいけないということで、アメリカもどんどん品種改良をしてきよるんです。それで、日本の和牛を持って帰って、改良がもの凄く進んどんんです。

大西 アメリカは乾草も穀物もたくさんあるでしょうから、飼料の心配はいいわけですか。

中山 それが、そうではないんです。たくさんできては広いですが輸送賃がかなりかかるんです。ですから、その

州でできたものをやろうとするんです。日本でも、アメリカから買うのと北海道から買うのとくらべると北海道のほうが高いんです。北海道は安いじゃけれども輸送賃に往生します。ですから、アメリカではトウモロコシならトウモロコシをできたらず牛にやる。それを加工せずにやったら安く付く。それで 20%ロスができて、加工賃のほうが高こうつくからやるんじゃない、というのがアメリカの考え方。国が大きいから移動はしないということ、それで麦がようけ出来る地域は麦をやろうとする。トウモロコシのできるところはトウモロコシを、コウリヤンができるところはコウリヤンをやろうとする。アメリカは進んでいるといわれながら移動が大変。日本は全部他から入れてくるんじゃないけえ、最高の効率のいいものにしてやろうと考えていける。そういう違いがまだある。いままでは日本が遅れていたが、今では世界—そういうところは進んできよるんですな。よその国のほうが遅れてきているといえる。

BSE問題後の畜産

大西 1996 年頃イギリスではBSEが問題になり、その後肉骨粉が原因ではないかといわれましたが、その当山中山さんはどうされましたか。

中山 骨粉については、メーカーに「これをはずしてくれ」とやかましくいいました。

大西 代用乳に混ぜることですね。

中山 そうです。これをしきりにいいよったんです。前に広島県内でくずや米糠（コメヌカ）がでるので困るから、これを加工して牛のエサにしたいと。それを産業廃棄物処理で国から助成をもらうてくれい、といわれた。何でもすればいいというが、そういうものじゃないと言ったので、向こうは私が反対しとる、と聞かれたように思うんです。去年BSEが出てみると、なるほど中山がいう通りじゃと思ってくださるじゃろうが、1年前は反対しと思ったようで、何回も来られたんです。去年 11 月に、全国肉用牛事業共同組合の中からBSEが発生しているわけだから陳情書・意見書を持っていくことになり、聞き間違いがあるといけんとって2人行かしたんです。そのとき、これは（つまりBSEは）乳牛の経産牛にでるのじゃから、これをどういう処分をしていいかを国できめてくれと言わしたんです。先の9月の分は第一に、①学校給食の禁止を早く解除して欲しい、②5年間の融資、つなぎ資金を出して欲しい、③肉が売れないから国が買い上げて保管して欲しい、と3つを陳情書には出したが、みな聞かれました。

そして11月には、BSEは乳牛に出るから乳牛の処分についてどういう対策をとるか、このまま行とったんじゃ酪農家が全部潰れてしまう状態になるから、これの対策をしてくれというたら、それは県へいうてくれと言われました。私は、県へ12月早々に行きましてな、こういう風に農林水産省は言われるんじゃないけえ来たんじやといいましたらな、県も迷った。

そこで消費者が関心を持つ、牛に関連した全てのものを洗い出して、県がこうするという方針を立てて欲しいというたんです。そうしようと思はいうたんです。それを1月にしようといひ、1月にその葉書を持っていったら3月にしようということになった。後は国でと言うが、国はJAに移管させるというふうに転々とまわしただけで出来なかった。私は自分の得手勝手だけではないかん、あらゆる角度から検討して回転しなけければ畜産農家に被害があるという言い方をしたんです。しかし、国は転々としたから、後手後手に回っているんです。しかし、今は、おかしい牛は出さんようになりましたな。焼却処分しているんです。それは共済組合がカバーしてくれたんです。国は共済組合を支援してやってくれにやいかんのです。だから5頭で済んでいるんです。

配合飼料の工夫

大西 中山さんは、独自の配合飼料を牛に与えているそうですが、これは何時からですか。

中山 昭和50年（1975）頃までは、大手の会社の飼料でしたが、51年位からは地元の小さい飼料工場で、うちがいいうように作ってくれて、うち単独の飼料を作ってくれます。この工場は笠岡市にあって福山市から近い。牛は牛のエサ、鶏は鶏のエサを生産すれば良いんです。

大西 いま乳牛は、生後6か月、体重230*位の子牛を18か月肥育していますね。

中山 ホルスタインはその位ですが、F1は大体22〜3か月位うちで飼います。そうすると27〜8か月位は飼おうとしよるんです。和牛は生後30か月は飼いたいと思います。早く出荷しようとしても、早く出せば製品の価値観のないものが出ることになります。

BSEが出る前は、牛が足りないからと18か月で出しましたが、売りながら残念でした。BSEで出荷が止まったから、ようやく正常に戻ったんです。

大西 F1を28か月肥育して体重はどの位になりますか。

中山 約800*です。ホルスタインも和牛も同じくらいにします。しかし、それぞれ肥育期間は違います。

大西 エサには企業秘密があると思いますが、牛の品種によって使い分けるんですか。

中山 いや、うちは違います。品種は違っても目的は肉にするんじゃないから。出荷日だけが違うんです。私はそういう考えでやっています。品種によってエサを分けてやるということはしたくないんです。月齢が違うだけで。出荷時期の違いによって飼料の与え方が違ってくるんです。ホルスタインは22か月で仕上げますから濃厚飼料の与え方を早くし、和牛のように30か月飼う牛にはゆっくり与えます。育成の後期は大きく分けて3段階ありますが、それをやる期間が牛によって違うとるわけなんです。そして、800*にして出すんです。

大西 それを早く育てようとして肉骨粉を使ったということはなかったんですか。

中山 もしカルシウムが必要な場合は貝殻を砕いてやります。貝殻ばかりやれんから、私の所は山の赤土を混ぜてやります。みんながビックリします。去年の11月まではよそからも牛を買って「その他の牛」としてきましたが、それ以降は「なかやま畜産の牛」ということで、よそからは買っていない。月に1〜2頭か400頭の中で1〜2頭までです。

大西 日本では乳を搾った廃用牛は肉にしていますが、アメリカ・オーストラリアでは食用にしていなから、BS

- Eでもないということもあるんですね。
- 中山 それともう一つは、乳牛いうものは年間7,000kg 搾ればいいのが、日本では1万キロ搾ろうとする。それだけ搾ろうとすると栄養をとらなければ親がもたないから、ドンドン濃厚飼料をやれやれという指導をしたんです。牛の能力に合わせて搾りゃいいのに、プラスしようとして無理をさうとしたことが悪いと思います。
- 大西 ある農家の話で、外国から輸入しても日本で出荷すれば「国産」ということになるかと話していました。
- 中山 今まではそういうやり方で通ってきたんで、販売するほうも悪いし、出荷するほうも悪いんです。出荷するほうも注文されれば数をそろえて出そうとするんです。そこでごまかしが利きよった。それではいけないんで、名義を換えてせにやいいけんということになった。そうでないと、消費者を騙したことになるから。
- 大西 BSE発見後国内では銘柄牛の牛肉は売れるんですが、一般の牛肉はどうでしょうか。
- 中山 いままで輸入肉には関税が掛かっていたんですが、これからは全部、品質の検査をする時代がくると思うんです。今中国から野菜が輸入されて、検査したらいいけんだという問題が起きて検査を厳しくするということになっています。輸入肉でも、いろいろな抗生物質を使っているとか、またはホルモン剤を使っているとか、そういうものを検査する時代になってきますよな。国内だけ絞めたんでいいけん、外国産のもせにやいいけんということになるから今迄のようににはならない。どことこの生産のものは安全ですと表示することになった。
- 大西 日本でも、全頭検査・耳標をつけてトレーサビリティを徹底させようとしていますね。現在は肉の需要が大幅に落ち込みましたが、今後についてはどのようにお考えですか。
- 中山 もう7年位になりますが、消費者に寄って貰って焼き肉を食べるイベントをやってますがな。なぜそうしたかという、それまでは牛舎のまわりが汚れていたんです。
- 40年代後半には、低コストで増やそうと言う時代じゃから糞の処理など一つも気にしなかった。それが公害ということになって規制がドンドン厳しくなる、それとみんなの意識が高かまってくるからいけない、と言うことでした。7～8年前からそれができたから、お客さんに来て貰っても悪いイメージがなくなったというんで、牧場へ来て貰う。牛の前で丸焼きをするのはいいけんから、普通の焼き肉にしようということになった。消費者に関心を持って貰おうとしたんです。これは消費者と生産者が直結するという意味です。うちは7～8年前からしよります。そのようにして消費者に安心してもらうように考えてやってきたんです。

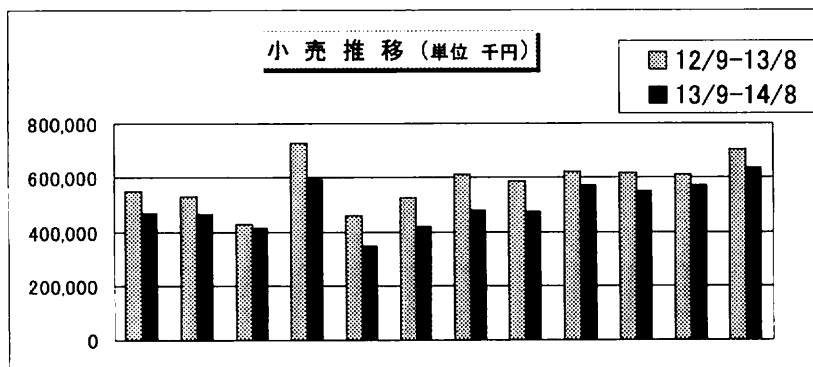


図 6.4.1 BSE前後の月別 小売り推移

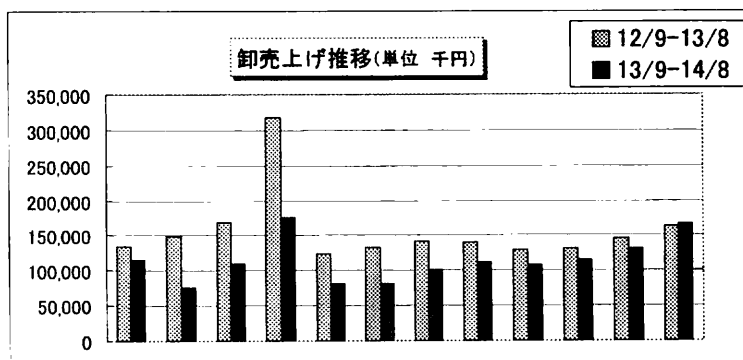


図 6.4.2 BSE前後の月別 卸売上げ推移

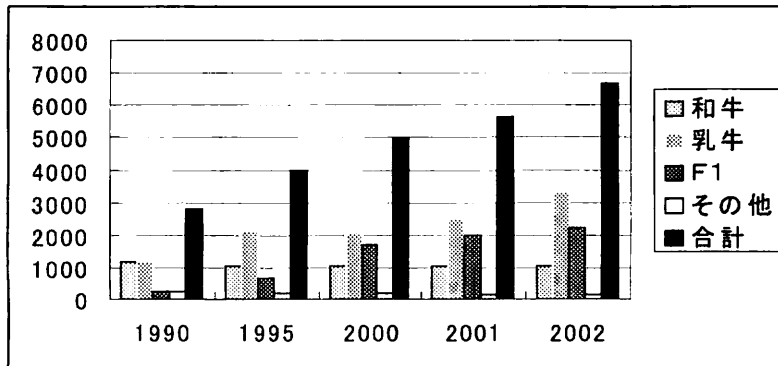


図6.4.3 年次別飼養頭数 (年次ごとの頭数)

*いずれも「なかやま牧場」提供資料から

去年のBSEが出まして、今年の1月位までは非常に悪かったんですが、今は110%~120%と伸びています。去年よりよく売れています。しかしながら、よそへ納めるのは80余%しかできていません。トータルでは103~105%位の線になっています。しかし、販売の範囲をちょっと広げたら、牛の頭数は120%と去年より今年が良く出ています。これ以上増やしたら、今9,000頭程いますが、うちが足りなくなるのでそれまでで止(と)めていかなければいけません。頭数を拡大するか販売をここで止めるかしなければいけません。そこで、ほかへの販売をストップ状態にしています。

安全から安心へ

大西 これからは、「消費者に、生産者の顔が見えないといけない」時代だし、肉だって同じだと思うんです。

中山 全くその通りで、そういうようになってきます。うちは看板に傷をつけないように、よその牛は入れないようにしたんです。食べてみて貰えばよく分かるんだといっています。

大西 中山さんは、「生産・卸から小売り販売まで」という一貫経営の方針で続けてこられたわけですが、他ではどうですか。

中山 他でもやっているところはありますが、規模がまだ小さいんです。私の所でも、70~80%は自分の牧場の牛、ほかは「その他の牛」といっていましたが、現在は100%自分の牧場の牛で賄っています。いままではお客さんに迷惑をかけた、足らなったら他の牛を買ってきて売ったので、中山の肉にしては味が悪いなと思って食べておられる人があったんじゃないかと思うんですが、今からは安心して買って食べてくださいと断言できるようになったんです。

大西 中山さんのところの肉は安心してても、日本全体では「安全だ」といわれても、「安心して食べられない」という疑念が払拭できないところがありませんか。

中山 「安全だ」と口癖になっているだけで、実際としてはそこまでいってらん所が多いのです。今はやかましくいって、これが2年、3年したらほとぼりが冷めるというか、日にちが経てば悪いようになりませんか、という心配をしています。しかし、それでいけません、気をつけなければいけない、というのがみんなの考えではないかと思うんです。うちでは、絶対にそういうことをしない、それだけの準備をしてきたし、蓄積があるので実行に移していると思うんです。私の牧場では、いま、表示をしています。抗生物質も使うのを止めようと努力しています。ですから、熱がでる病気が出る前からビワをたくさん植えています。ビワの葉っぱが熱冷ましに非常にいいんです。牛に絶えず煎じて飲ませているんです。200日前後の小さいうちが一番大事なんじゃから、その時期に飲ませます。それと梅をたくさん買って、梅を焼酎と黒砂糖を入れて漬けて、それを肝臓の薬にします。太っていく段階で、肝臓が良くなければ良い血ができませんから牛の太りに関係します。梅焼酎といって、しょっちゅうやりやります。それから、気候の変更で風邪ひきの牛が出ますから、これはニンニクをたくさん焼酎で漬けてとりまします、風邪ひきの頃には与えます。これは梅詰めて、温度差を少なくするために横穴を掘って貯蔵しています。これを3年位前からしとります。

大西 そういう発想はどこから生まれるんですか。

中山 私は、いろんな所に関心を持っているんです。血液が粘った時はニンニクが良いとテレビなどで放送しますでしょう、それはそうだということを考えてやるんです。青梅は、昔はチフスになるといったんですが、それだけ薬になると思い、それを良いまうに活用すればいいんだと思ったんです。

大西 生産者の心構えについてはよく分かりましたが、流通部門についてはどうお考えですか。

中山 安全・安心な牛肉の供給と口だけで言っても駄目です。実際に実行していかなければいけません。私の言いたいのは、私の言い分です。流通経路をはっきりさせるということが必要で、私の所が去年より120%以上の売上げになっているのは、私の所は「生産から卸・小売まで」の仕組みを撮影して全部ビデオで店頭へ出しています。そして、昼は11時半から午後1時まで、夕方は午後4時半から6時まで試食販売を全部やっています。それに私の経営のあり方もビデオで出しています。だから、「なかやま牧場」のものは心配ない、というイメ

ージをお客さんが持っているんです。去年の秋BSEが出てから牛をうんと増やしました。有り難いことに、牛を安く買えましたから。多分元に戻るのには2〜3年はかかるじゃろうと思うとったが、良心的にやっていると思ひも掛けず早く復旧したんです。私の所は、牧場は生産部、製品にするところは商品部、店のほうのスーパーは販売部としています。去年は販売部が稼いでくれた。今年は生産部が稼ぎ出しますよ。もう4月から牛肉が出ていきるので、景気は底をつき上向きますよと会議でもいっている。

大西 BSEが出た後の中山さんのお考えは変わりましたか。

中山 「安全であります」「安心であります」は、合言葉になっている。それではいけないんだ。現実のものにしていかないといけない、というのが私の言い方だ。

この間鹿児島県の肉牛産地の人が来て、ビックリして帰って行ったんです。畜産農家にはハエが多いですな。うちにハエがえっと目立ちますか？ ハエをわかさないようにしています。それが清潔さです。牛舎に臭いがしないように炭の粉をかなり使います。牛舎は牛を出荷したらその牛舎を全部きれいに洗います。そして乾かして休ませます。15日位から1か月です。その上で、新しく牛を入れていく。頭数が少ないとできませんが、うちではそれをやっている。それを口だけで言っている人から消費者をお招きして、現実を見て貰って安心して貰うんです。私は、常に、何年か先を絶えず考えていくことが必要だと思う。何事でもひとつ一つ、「あー、そうか。あー、なるほど。」と言うて貰うようにして行かぬんだら、「安全です、安心です。」ということが言えないです。

大西 最後に、BSE 発見後のマスコミの報道について、率直なお考えを伺いたい。

中山 私は全てをみんなに知って貰っていいと思う。しかしながら、言うだけでその後の説明がない。結末が伝えられない。悪いことだけがいつ放り込まれているのじゃないけん。「こうしたら、こう良くなる。」という回答がはっきりしないうちに消えてしまうのが辛いじゃ、という言い方をしています。うちの名前を出さなくても、「(BSE対策として) こうしているところもありますよ」といって生産農家の現状を知って貰ったかったです。

大西 大変勉強になりました。長時間ありがとうございました。

6.5 安全な畜産物生産と消費者対応の構築

今年9月10日に農林水産省生産局は、「BSE 発生後1年の総括と今後の課題について」をまとめている。その資料をみると、「BSE の発生の経緯について」では2001年9月以降これまでに5頭のBSE牛が確認されたこと、「価格・需給の状況」では1年経って牛価についていえば低下傾向から持ち直して横ばいに推移していることが記されている。また、国は肥育農家に対して「BSE マル緊（BSE 対応肉用牛肥育経営特別対策事業）」「通常マル緊（肉用牛肥育経営安定事業）」によって補てん金を出している。食肉関連業者に対しては、およそ1,056億円の融資をしている。

さらに、牛の「個体識別（トレーサビリティ）にかかる状況」では、BSE 発生後からこの事業が終了した5月31日までの段階で、全国の牛の頭数は約451万頭いるが、

今後、このトレーサビリティは「食品がいつ、どこで、どのように生産・流通されたかなどについて消費者が何時でも把握できる仕組み」と定義されているが、そのためには消費者自身も、「安全な牛肉」とはどのような牛肉かを見分けられる知識が必要になるだろう。その手段としては、すでに紹介した「なかやま牧場」のように生産者との交流の機会があれば、消費者も積極的に利用することである。（こうしたシステムは畜産物に限らず、他の農作物についてのトレーサビリティの可能性をも示している。）また、生産者はどのような経路で畜産物が供給されているかの情報提供を、消費者から求められることになる。



図 6.5.1 牛の耳標

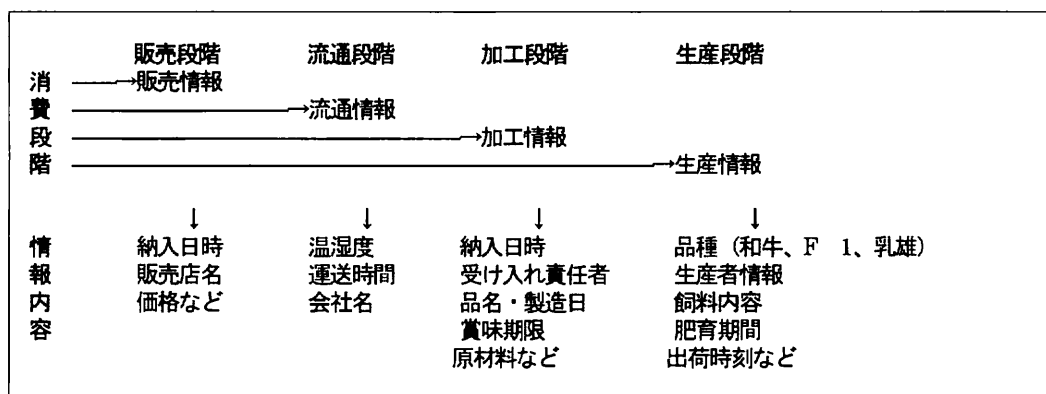
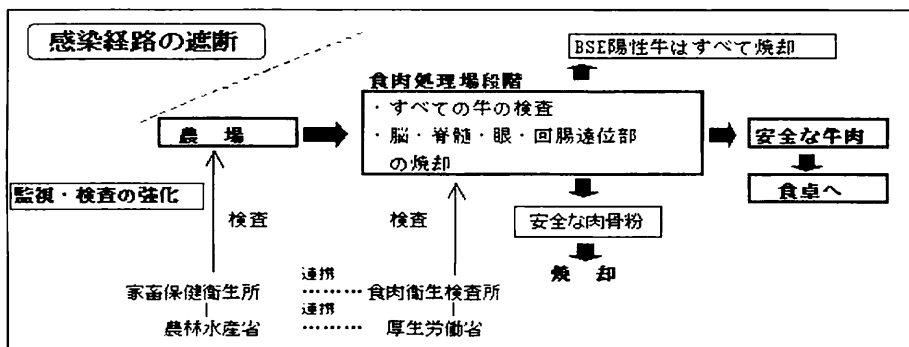


図 6.5.2 トレーサビリティにおける食品の情報量

このトレーサビリティの有効性と問題点について、次のような指摘がある。「トレーサビリティの機能としては、正確な表示の実現以外に、問題食品の回収支援、関係者への遵法倫理の付与が期待されている。また生産者・製造者にとっては、PL（製造物責任）法対策、製品差別化によるブランド形成の手段などのメリットがある。」「トレーサビリティは食品の安全性を確保するための補助手段ではあるが切り札とはならない。混乱する人も多いけれど、表示問題と安全問題は別の話である。」（注 6）

全国どこの小売販売店でも牛肉のトレーサビリティを利用できるまでには時間がかかると思われるが、消費者にとっては生産者の顔が見える情報の開示として役立つことは確かだ。



* 平成 13 年『食料・農業・農村白書』資料

図 6.5.3 安全な畜産物の供給体制の構築

こうした各段階での「情報の公開」によって、再び BSE が発生しないように国の監視・検査体制の徹底が必要になる。同時に、徹底した情報開示による透明性確保が望まれる。

2002 年（平成 14）4 月 2 日の「BSE 問題に関する調査検討委員会」の報告書の提言を受けて、国は食品の安全に関するリスク評価を行う「食品安全委員会」を内閣府に設置するほか、「食品安全基本法」を制定し、消費者の保護を基本とした包括的な食品の安全を確保する法案を 2003 年の通常国会に提出される予定であるという。

BSE 問題発生までは、生産段階までは農林水産省が管轄し、食肉処理場から小売販売までは厚生労働省が管轄するという縦割り行政であったために、BSE 感染牛が発見された時には、いずれにも「緊急マニュアル」さえなく混乱した経緯を踏まえて、今後は農林水産省と厚生労働省の縦割り組織を統合して、再編成も行われようとしている。これは単に牛肉に限らず、食卓に並ぶ食品が生産される環境、それを「食の環境」と名付ければ、そこで生じるさまざまな「食の環境リスク」を未然に防止し、「食の安全」を守るための危機管理も行うことになる。

【注釈】

（注 1）坂本 充「外来語調査から」『放送研究と調査』NHK放送文化研究所 2002.8）

（注 2）中村靖彦『狂牛病～人類への警鐘～』（岩波新書 p55、2001.11）

（注 3）同上書 p57

（注 4）宮崎宏「インテグレーションと農工一体」（『日本農業の動き NO.20』農林統計協会 1970.11）

（注 5）栗原幸一「日本農業と肉用牛経営」『日本農業の動き NO.66』農林統計協会発行 1983.8）

(注6) 中島康博「狂牛病危機をどう乗り越えるかー安全な牛肉の供給のためにー」『世界』特集「安全な食べ物」は得られるのか 岩波書店 2002. 10)

【参考文献】

石原洗一郎・鹿野司 1996 『脳が溶けていく——狂牛病パニック』竹書房

小野寺節 1997 『狂牛病と食の安全性』総和社

共同通信社食料・人口問題取材班 1975 『日本の食糧』ダイヤモンド社

(財) 農政調査委員会 1975 「肉牛生産の存立条件」『日本の農業—あすへの歩み—99』

ジャン・イブ・ノ (著)、原山優子 (監訳)・古田尚輝・田中勝子 (訳)『狂牛病日誌』 2002 東洋経済新報社

シェルドン・ランプトン・ジョンストーパー (共著) 荒木創造 (訳) 2002 『隠されている狂牛病』道出版

中島康博 2002. 10 「狂牛病危機をどう乗り越えるかー安全な牛肉の供給のためにー」『世界特集「安全な食べ物」は得られるのか』岩波書店

中村靖彦 2001 『狂牛病 人類への警鐘』岩波新書

日経メディカル・日経バイオテク・バイオテクノロジージャパン (編) 1996 「狂牛病のすべて—ファクトブック」日経BP社

農政ジャーナリストの会編 2002.6 「どう防ぐ『食の安全』崩壊」『日本農業の動き NO.141』

2001.6 「WTO 農業交渉の諸相」『日本農業の動き NO.137』

2001.3 「揺れる畜産の進路」『日本農業の動き NO.136』

1983.8 「日本畜産の再検討」『日本農業の動き NO.66』

1983.5 「保護に徹する EC 農政」『日本農業の動き NO.65』

1982.8 「食品の安全性を求めて」『日本農業の動き NO.62』

1978.5 「貿易戦争と日本農業」『日本農業の動き NO.46』

1976.11 「戦後農政の研究」『日本農業の動き NO.41』農林統計協会

船瀬俊介 2001 『早く肉をやめないか? 狂牛病と台所革命』三五館

松井宏夫 2001 『狂牛病 食べていいものいけないもの100問100答』主婦と生活社

マンフレート・ヴァイセンバッハー (共著) 横瀬涼 (監訳) 2002 『狂牛病は警告する』筑摩書房

矢吹寿秀 2002 『狂牛病 どう立ち向かうか』日本放送出版協会

山内一也 2002 『ブリーオン病の謎に迫る』日本放送出版協会

【謝辞】

なお、元NHK農林水産班ディレクターとして活躍された中山亮一氏からは多数の貴重な書籍・資料を提供していただいた。また、千葉県君津市にある農業生産法人(有)西野の梅原正一氏、千葉北部酪農農業組合の沓澤 豊氏には貴重な情報を提供していただいた。

BSE（狂牛病）に関するアンケート調査

東京大学社会情報研究所 廣井研究室

- 昨年9月以来、狂牛病の問題が起り、人々の牛肉離れが社会問題になっています。このことについて、あなたが考えていること、知っていることについてお聞きます。

問1 あなたは、去年の「狂牛病」問題が起る前に、狂牛病について聞いたことがありましたか。

	東京(%)	大阪(%)
聞いたことがあった	76.1 (236 人)	59.0 (184 人)
聞いたことがない	23.9 (74 人)	41.0 (128 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

→ 問2へ

付問1-1 (問1で、1と答えた方にお聞きます。)

あなたは、国内産の牛の「狂牛病」が見つかる前から、「狂牛病」がどんな病気かを知っていましたか。次の中からあてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
よく知っていた	5.5 (13 人)	5.9 (11 人)
だいたい知っていた	50.0 (118 人)	36.9 (69 人)
聞いたことはあったが、あまりくわしくは知らなかった	38.1 (90 人)	48.1 (90 人)
聞いたことはあったが、どのようなものか全く知らなかった	6.4 (15 人)	9.1 (17 人)
合計	100 (236 人)	100 (187 人)

→ 問2へ

問2 (ふたたび全員にお聞きます。) 現在、あなたは「狂牛病」がどのような病気かご存知でしょうか。次の中からあてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
よく知っている	11.6 (36 人)	10.3 (32 人)
だいたい知っている	61 (189 人)	60.3 (188 人)
聞いたことはあるが、あまりくわしくは知らない	26.8 (83 人)	29.2 (91 人)
聞いたこともない	0.6 (2 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問3 では、「肉骨粉(にくこっぷん)」がどのような原料でつくられているかご存知でしょうか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
よく知っている	12.3 (38 人)	12.5 (39 人)
だいたい知っている	50 (155 人)	45.8 (143 人)
聞いたことはあるが、あまりくわしくは知らない	34.2 (106 人)	38.8 (121 人)
聞いたこともない	3.5 (11 人)	2.9 (9 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問4 では、「BSE」という言葉をご存知でしょうか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
よく知っている	20.6 (64 人)	15.4 (48 人)
だいたい知っている	25.5 (79 人)	30.1 (94 人)
聞いたことはあるが、あまりくわしくは知らない	31.3 (97 人)	30.4 (95 人)
聞いたこともない	22.6 (70 人)	24 (75 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問5 狂牛病が原因で人間が病気になった場合、どのような症状があると思いますか。あなたがそう思うものを選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
遺伝性疾患	1.3 (4 人)	1 (3 人)
伝染性疾患	2.6 (8 人)	1.6 (5 人)
ガン	0.3 (1 人)	0.0 (0 人)
発熱	1.9 (6 人)	1.6 (5 人)
脳の病気	82.9 (257 人)	82.1 (256 人)
骨の病気	2.6 (8 人)	2.6 (8 人)
わからない	8.4 (26 人)	11.2 (35 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問6 あなたは、あなたやご家族が狂牛病にかかるのではないかと不安がありますか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
たいへん不安だ	9.0 (28 人)	10.6 (33 人)
かなり不安だ	24.8 (77 人)	27.6 (86 人)
あまり不安ではない	56.5 (175 人)	54.2 (169 人)
まったく不安ではない	9.7 (30 人)	7.7 (24 人)
計	100 (310 人)	100 (312 人)

■ 次に、あなたの行動についてお聞きします。

問7 あなたは、狂牛病が問題になる前は、どのくらい牛肉を食べていましたか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
ほぼ毎日	1.3 (4 人)	2.2 (7 人)
週に3、4回	11.6 (36 人)	20.8 (65 人)
週に1、2回	44.8 (139 人)	56.4 (176 人)
月に1、2回	29.7 (92 人)	13.8 (43 人)
2、3ヶ月に1、2回	5.2 (16 人)	1.9 (6 人)
牛肉はめったに食べなかった	7.4 (23 人)	4.8 (15 人)
計	100 (310 人)	100 (312 人)

問8 では、現在はどのくらい牛肉を食べていますか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
ほぼ毎日	0.0 (0 人)	0.3 (1 人)
週に3、4回	3.2 (10 人)	5.4 (17 人)
週に1、2回	21.3 (66 人)	34 (106 人)
月に1、2回	35.8 (111 人)	34.9 (109 人)
2、3ヶ月に1、2回	10 (31 人)	6.1 (19 人)
牛肉はめったに食べない	29.7 (92 人)	19.2 (60 人)
計	100 (310 人)	100 (312 人)

問9 国内産の牛肉と、外国産の牛肉を分けるとどうですか。次の中から、それぞれあてはまる項目を選んでください。(回答は1つずつ)

(1) 国内産の牛肉

	東京(%)	大阪(%)
ほぼ毎日	0.3 (1 人)	0.3 (1 人)
週に3、4回	1.6 (5 人)	4.8 (15 人)
週に1、2回	19.9 (61 人)	34.6 (108 人)
月に1、2回	32.4 (99 人)	31.1 (97 人)
2、3ヶ月に1、2回	12.4 (38 人)	9.9 (31 人)
めったに食べない	33.3 (102 人)	19.2 (60 人)
計	100 (306 人)	100 (312 人)

(2) 外国産の牛肉

	東京 (%)	大阪 (%)
ほぼ毎日	0.0 (0 人)	0.3 (1 人)
週に3、4回	1.0 (3 人)	1.0 (3 人)
週に1、2回	13.9 (43 人)	12.8 (40 人)
月に1、2回	26.1 (81 人)	17 (53 人)
2、3ヶ月に1、2回	7.4 (23 人)	7.1 (22 人)
めったに食べない	50.3 (156 人)	61.9 (193 人)
計	100 (306 人)	100 (312 人)

問10 あなたは、狂牛病が問題になってから、牛肉を食べる量は減りましたか。次の項目から選んでください。(回答は1つだけ)

	東京 (%)	大阪 (%)
まったく食べなくなった	11.9 (37 人)	6.1 (19 人)
かなり減った	29.0 (90 人)	34.9 (109 人)
少し減った	24.8 (77 人)	24.7 (77 人)
減っていない	21.9 (68 人)	26.3 (82 人)
もともと牛肉はめったに食べない	12.3 (38 人)	8.0 (25 人)
計	100 (310 人)	100 (312 人)

問11 では、あなたは牛肉は安全だと思いますか。次の中から、あてはまる項目を選んでください。(回答は1つだけ)

	東京 (%)	大阪 (%)
国産牛も外国産の牛肉も安全でないと思う	44.2 (137 人)	49.0 (153 人)
外国産の牛肉は安全だが、国産牛は安全でないと思う	5.5 (17 人)	5.8 (18 人)
国産牛は安全だが、外国産の牛肉は安全でないと思う	3.9 (12 人)	4.2 (13 人)
国産牛も外国産の牛肉も安全だと思う	12.6 (39 人)	16.0 (50 人)
よくわからない	33.9 (105 人)	25.0 (78 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

付問 1 1-1 (問 1 1 で、1～3と答えた方にお聞きします。)
 あなたが、安全ではないと思う理由は何ですか。
 次の中からあてはまる項目を選んでください。(回答はいくつでも)

	東京(%)	大阪(%)
狂牛病が原因で病気に感染する恐れがあるから	41.6 (69 人)	40.8 (75 人)
狂牛病の原因がハッキリ究明されていないから	55.4 (92 人)	53.3 (98 人)
政府の狂牛病対策や安全宣言が信用できないから	74.7 (124 人)	64.7 (119 人)
食肉業界の安全管理が信用できないから	71.1 (118 人)	66.3 (122 人)
マスコミの報道を読んだり見たりすると不安だから	20.5 (34 人)	20.7 (38 人)
家族や友人の話を聞いて	1.2 (2 人)	2.2 (4 人)
漠然と安全ではないのではないかと感じている	12.7 (21 人)	10.3 (19 人)
その他	3.0 (5 人)	3.8 (7 人)
計	(166 人)	(184 人)

そのなかでもっとも大きい理由を1つ選んでください。

	東京(%)	大阪(%)
狂牛病が原因で病気に感染する恐れがあるから	9.1 (15 人)	8.2 (15 人)
狂牛病の原因がハッキリ究明されていないから	17.0 (28 人)	21.2 (39 人)
政府の狂牛病対策や安全宣言が信用できないから	32.7 (54 人)	35.9 (66 人)
食肉業界の安全管理が信用できないから	31.5 (52 人)	26.1 (48 人)
マスコミの報道を読んだり見たりすると不安だから	3.6 (6 人)	3.3 (6 人)
家族や友人の話を聞いて	3.6 (6 人)	2.7 (5 人)
漠然と安全ではないのではないかと感じている	2.4 (4 人)	2.7 (5 人)
計	(166 人)	(184 人)

付問 1 1-2 (問 1 1 で、4と答えた方にお聞きします。) あなたの、牛肉に対する現在の考えにもっとも近いものを、次の中から選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
牛肉は安全と思うので、前と同じくらい食べている	55.0 (22 人)	59.6 (34 人)
いま牛肉は安くなったので、前よりもっと食べている	5.0 (2 人)	0.0 (0 人)
牛肉は安全とは思うが、万一のことを考えてなるべく食べないようにしている	20.0 (8 人)	26.3 (15 人)
牛肉は安全とは思うが、万一のことを考えてまったく食べないようにしている	2.5 (1 人)	0.0 (0 人)
その他	17.5 (7 人)	14.0 (8 人)
合計	100 (40 人)	100 (57 人)

問12 (ふたたび全員がお答えください。)では、狂牛病が問題になってから、牛肉の代わりにどんな食品を食べるようになりましたか。次の中からあてはまる項目を選んでください。(回答はいくつでも)

	東京(%)	大阪(%)
豚肉	61.3 (190 人)	56.6 (176 人)
とり肉	50.3 (156 人)	58.5 (182 人)
ひつじ肉	0.6 (2 人)	0.0 (0 人)
海や川の魚	39.7 (123 人)	39.5 (123 人)
肉食から菜食に切り替	9.7 (30 人)	5.5 (17 人)
相変わらず牛肉を食べている	18.7 (58 人)	24.4 (76 人)
その他	7.1 (22 人)	2.6 (8 人)
合計	100 (310 人)	100 (311 人)

問13 あなたは、狂牛病が問題になってから、次にあげる商品について食べる量は減りましたか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(回答は1つずつ)

(1) 牛エキスを含む加工食品

	東京(%)	大阪(%)
まったく食べなくなった	11.3 (35 人)	10.6 (33 人)
かなり減った	30 (93 人)	24.8 (77 人)
少し減った	25.2 (78 人)	25 (78 人)
減っていない	25.8 (80 人)	33 (103 人)
その他	7.4 (23 人)	6.4 (20 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 牛乳

	東京(%)	大阪(%)
まったく飲まなくなった	2.6 (8 人)	3.2 (10 人)
かなり減った	7.7 (24 人)	6.7 (21 人)
少し減った	11.9 (37 人)	15.4 (48 人)
減っていない	71.0 (220 人)	68.3 (213 人)
その他	6.8 (21 人)	6.4 (20 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(3) 牛乳以外の乳製品

	東京(%)	大阪(%)
まったく食べなくなった	1.0 (3 人)	2.2 (7 人)
かなり減った	9.4 (29 人)	10.6 (33 人)
少し減った	16.8 (52 人)	18.3 (57 人)
減っていない	70.6 (219 人)	66 (206 人)
その他	2.3 (7 人)	2.9 (9 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問14 あなたは、次の商品を購入・使用する際に、牛肉エキス、牛脂肪分などが含まれているかを気にしたり、確認したりしていますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(回答は1つずつ)

(1) 加工食品

	東京(%)	大阪(%)
成分を確認して避けるようにしている	21.0 (65 人)	22.1 (69 人)
ときどき成分を確認することがある	38.1 (118 人)	36.5 (114 人)
成分を確認するようなことはしない	40.6 (126 人)	41 (128 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 化粧品

	東京(%)	大阪(%)
成分を確認して避けるようにしている	15.5 (48 人)	14.7 (46 人)
ときどき成分を確認することがある	19.7 (61 人)	16.7 (52 人)
成分を確認するようなことはしない	59.0 (183 人)	66.3 (207 人)
無回答	5.8 (18 人)	2.2 (7 人)
合計	100 (310 人)	100 (310 人)

■ 次に、政府・畜産農家や牛肉処理・加工業者など業界の狂牛病対策についてあなた自身の意見をお聞きます

問15 あなたは、狂牛病の問題がこんなに大きくなった最も大きな理由はなんだと思いますか。次の中から選んでください。(回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
政府(農林水産省)の狂牛病対策が十分でなかったから	79.7 (247 人)	80.1 (250 人)
生産農家が家畜の餌として肉骨粉を使ったから	8.1 (25 人)	8.0 (25 人)
マスコミがおおげさに騒ぎ立てたから	10 (31 人)	10.9 (34 人)
その他	2.3 (7 人)	1.0 (3 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問16 では、政府の狂牛病対策に対してどう思いますか。次にあげる項目について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(回答は1つずつ)

(1) イギリスをはじめ諸外国で発病した牛が問題となっていたのに、積極的な対策を講じてこなかった

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	93.5 (290 人)	87.2 (272 人)
そうは思わない	1.3 (4 人)	1.9 (6 人)
どちらともいえない	5.2 (16 人)	10.9 (34 人)
計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 政府は、消費者の健康よりも、業界の保護に目が向いているような気がする

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	71.9 (223 人)	68.6 (214 人)
そうは思わない	7.1 (22 人)	6.1 (19 人)
どちらともいえない	21.0 (65 人)	25.3 (79 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(3) 「牛肉は、全頭検査を行っているので安全だ」という政府の広報は信用できない

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	53.5 (166 人)	54.2 (169 人)
そうは思わない	14.2 (44 人)	17.3 (54 人)
どちらともいえない	32.3 (100 人)	28.5 (89 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(4) 現在の政府の狂牛病対策は、諸外国にくらべて劣っている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	65.2 (202 人)	63.8 (199 人)
そうは思わない	10.3 (32 人)	9 (28 人)
どちらともいえない	24.5 (76 人)	26.9 (84 人)
無回答	0 (人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(5) 現在も、政府の情報公開が完全に行われているかどうか信用できない

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	72.9 (226 人)	76.0 (237 人)
そうは思わない	5.2 (16 人)	7.1 (22 人)
どちらともいえない	21.9 (68 人)	17.0 (53 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問17 あなたは、政府の狂牛病対策に不十分な点があると思いますか。今までの対策でも、現在の対策でも結構ですから、なにかあれば具体的に教えてください。

(後述)

	東京(%)	大阪(%)
回答あり	42.3 (131 人)	44.9 (140 人)
無回答	57.7 (179 人)	55.1 (172 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

■ 次に、情報入手などについてお聞きします。

問18 あなたは狂牛病に関する情報を、主にどのような手段で得ていますか。次の中から選んでください。(回答はいくつでも)

	東京(%)	大阪(%)
テレビニュース	97.1 (301 人)	99.4 (310 人)
ニュース以外のテレビ番組	29 (90 人)	29.2 (91 人)
ラジオ	14.8 (46 人)	13.1 (41 人)
新聞	79.7 (247 人)	79.8 (249 人)
雑誌(月刊誌・週刊誌)	18.1 (56 人)	17 (53 人)
単行本	1.3 (4 人)	2.2 (7 人)
インターネット	8.4 (26 人)	4.2 (13 人)
市町村の広報紙	2.6 (8 人)	3.2 (10 人)
家族や友人の話	17.1 (53 人)	20.8 (65 人)
その他	2.6 (8 人)	0.3 (1 人)
合計	(310 人)	(312 人)

問19 あなたが狂牛病について知りたい情報は何ですか。
次の中からあてはまる項目を選んでください。(回答はいくつでも)

	東京(%)	大阪(%)
狂牛病が原因といわれるクロイツフェルト・ヤコブ病について	49.4 (153 人)	38.1 (119 人)
農水省など行政の狂牛病対策がどこまで進んでいるかについて	64.5 (200 人)	63.8 (199 人)
国産牛肉の安全性について	65.5 (203 人)	61.2 (191 人)
国産牛肉の安全性について	49.0 (152 人)	33 (103 人)
外国産の輸入肉の安全性について	51.6 (160 人)	42.6 (133 人)
牛乳や乳製品の安全性について	40.3 (125 人)	33.7 (105 人)
生産農家から消費者までの牛肉の流通過程について	36.7 (114 人)	31.4 (98 人)
小売店で安全な牛肉を買うための知恵について	28.1 (87 人)	26.0 (81 人)
牛肉以外の肉類(豚肉・とり肉など)の安全性について	49.0 (152 人)	41.3 (129 人)
その他	3.5 (11 人)	2.6 (8 人)
合計	(310 人)	(312 人)

また、そのうち特に伝えて欲しい情報を1つ選んでください。

	東京(%)	大阪(%)
狂牛病が原因といわれるクロイツフェルト・ヤコブ病について	12.7 (39 人)	11 (34 人)
農水省など行政の狂牛病対策がどこまで進んでいるかについて	33.3 (102 人)	31.1 (96 人)
国産牛肉の安全性について	17.3 (53 人)	22.3 (69 人)
国産牛肉の安全性について	2.6 (8 人)	0.3 (1 人)
外国産の輸入肉の安全性について	5.2 (16 人)	4.9 (15 人)
牛乳や乳製品の安全性について	4.2 (13 人)	3.6 (11 人)
生産農家から消費者までの牛肉の流通過程について	5.9 (18 人)	8.7 (27 人)
小売店で安全な牛肉を買うための知恵について	5.9 (18 人)	7.1 (22 人)
牛肉以外の肉類(豚肉・とり肉など)の安全性について	11.1 (34 人)	8.4 (26 人)
その他	1.6 (5 人)	2.6 (8 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問20 では、あなたが狂牛病に関する情報を知るのに、役に立っている手段はどれですか。次の中から選んでください。(回答はいくつでも)

	東京(%)	大阪(%)
テレビニュース	93.9 (291 人)	95.2 (297 人)
ニュース以外のテレビ番組	30.3 (94 人)	28.8 (90 人)
ラジオ	13.9 (43 人)	12.5 (39 人)
新聞	77.1 (239 人)	79.8 (249 人)
雑誌(月刊誌・週刊誌)	14.2 (44 人)	13.5 (42 人)
単行本	1.3 (4 人)	1.6 (5 人)
インターネット	8.7 (27 人)	4.2 (13 人)
市町村の広報紙	1.6 (5 人)	2.2 (7 人)
家族や友人の話	10.6 (33 人)	10.3 (32 人)
その他	1.9 (6 人)	0.0 (0 人)

また、そのうちもっとも役立っているものを1つ選んでください。

	東京(%)	大阪(%)
テレビニュース	60.6 (186 人)	60.3 (188 人)
ニュース以外のテレビ番組	7.8 (24 人)	8.3 (26 人)
ラジオ	1.3 (4 人)	1.0 (3 人)
新聞	19.9 (61 人)	27.6 (86 人)
雑誌(月刊誌・週刊誌)	2.0 (6 人)	1.0 (3 人)
インターネット	0.3 (1 人)	0.6 (2 人)
市町村の広報紙	5.5 (17 人)	1.0 (3 人)
家族や友人の話	1.3 (4 人)	0.3 (1 人)
その他	1.3 (4 人)	0.0 (0 人)

問21 あなたは、狂牛病に関するテレビや新聞の報道についてどう思いますか。次の中からあなたの考えにもっとも近いものを、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

(1) テレビや新聞は、狂牛病についての大事なニュースをよく知らせている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	37.1 (115 人)	45.8 (143 人)
そうは思わない	21.3 (66 人)	22.8 (71 人)
どちらともいえない	41.6 (129 人)	31.4 (98 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) テレビや新聞は、狂牛病について必要以上に恐怖をあおるような報道をしている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	21.6 (67 人)	24.0 (75 人)
そうは思わない	40.0 (124 人)	42.9 (134 人)
どちらともいえない	38.4 (119 人)	33.0 (103 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問22 では、政府の広報や食肉業界、焼肉店などの広報についてどう思いますか。次の中からあなたの考えにもっとも近いものを、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

(1) 政府の広報は、狂牛病についての大事な事実をよく知らせている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	2.6 (8 人)	7.1 (22 人)
そうは思わない	63.9 (198 人)	67.9 (212 人)
どちらともいえない	33.5 (104 人)	25.0 (78 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 政府の広報は、狂牛病の危険を隠して安全を強調する広報をしている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	50.3 (156 人)	52.2 (163 人)
そうは思わない	11.9 (37 人)	15.4 (48 人)
どちらともいえない	37.7 (117 人)	32.4 (101 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(3) 食肉業界、焼肉店などの広報は、狂牛病の危険を隠して安全を強調する広報をしている

	東京(%)	大阪(%)
そう思う	34.5 (107 人)	37.5 (117 人)
そうは思わない	17.4 (54 人)	20.8 (65 人)
どちらともいえない	48.1 (149 人)	41.7 (130 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問23 あなたは狂牛病について、次の情報はどの程度信用できると思いますか。
次の項目について、あなたの考えにもっとも近いものを、それぞれ選んでください。
(回答は1つずつ)

(1) テレビや新聞の報道

	東京(%)	大阪(%)
信用できる	11.0 (34 人)	19.2 (60 人)
ある程度信用できる	75.5 (234 人)	68.6 (214 人)
あまり信用できない	12.9 (40 人)	11.9 (37 人)
まったく信用できない	0.6 (2 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 政府が発表する情報

	東京(%)	大阪(%)
信用できる	1.6 (5 人)	3.2 (10 人)
ある程度信用できる	38.1 (118 人)	34.6 (108 人)
あまり信用できない	51.0 (158 人)	54.2 (169 人)
まったく信用できない	9.4 (29 人)	8 (25 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(3) 科学者や専門家の見解

	東京(%)	大阪(%)
ある程度信用できる	21.9 (68 人)	28.8 (90 人)
あまり信用できない	63.5 (197 人)	59.9 (187 人)
ある程度信用できる	13.5 (42 人)	10.6 (33 人)
まったく信用できない	0.6 (2 人)	0.6 (2 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.0 (0 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(4) 食肉業界や食肉店・焼肉店などの広報

	東京(%)	大阪(%)
信用できる	1.0 (3 人)	1.9 (6 人)
ある程度信用できる	33.9 (105 人)	29.8 (93 人)
あまり信用できない	54.5 (169 人)	61.9 (193 人)
まったく信用できない	10.6 (33 人)	6.4 (20 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問24 あなたは国内産の肉牛の狂牛病が発見された後で、「牛肉を食べると危険だ」という話を友人・知人・家族としたことがありましたか。それぞれあてはまる項目を選んでください。(回答は1つずつ)

(1) 友人・知人と

	東京(%)	大阪(%)
非常によく話題になったし、自分からもよく話題にした	22.3 (69 人)	22.8 (71 人)
非常によく話題になったが、自分から話題にするようなことはあまりなかった	12.9 (40 人)	14.7 (46 人)
ある程度、話題になった	54.2 (168 人)	50 (156 人)
あまり話題にならなかった	8.7 (27 人)	10.6 (33 人)
全く話題にならなかった	1.9 (6 人)	1.9 (6 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

(2) 家族と

	東京(%)	大阪(%)
非常によく話題になったし、自分からもよく話題にした	29.4 (91 人)	27.9 (87 人)
非常によく話題になったが、自分から話題にするようなことはあまりなかった	11.6 (36 人)	13.1 (41 人)
ある程度、話題になった	47.4 (147 人)	47.8 (149 人)
あまり話題にならなかった	8.4 (26 人)	9.3 (29 人)
全く話題にならなかった	2.9 (9 人)	1.9 (6 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.0 (0 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問25 牛肉の消費について、次のような意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、反対ですか。(回答は1つずつ)

- (1) 牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきり判るように示せば、牛肉の消費は回復する。

	東京(%)	大阪(%)
賛成	89.7 (278 人)	92.3 (288 人)
反対	10 (31 人)	7.7 (24 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.0 (0 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

- (2) 卸売業者や小売業者の不正行為やごまかし行為を、徹底的になくせば消費は回復する。

	東京(%)	大阪(%)
賛成	92.9 (288 人)	92.9 (290 人)
反対	6.8 (21 人)	6.4 (20 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.6 (2 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

問26 あなた自身は、政府や食肉業界、生産農家などがどのような対策をとったら、多くの人が牛肉を食べるようになると思いますか。何でも結構ですから、おっしゃってください。

後述

問27 政府や牛肉業界に対してご意見がありましたら、なんでも結構ですからおっしゃってください。

後述

■ 最後に、あなた自身のことについてお聞きします。

F1 性別 (回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
男	54.8 (170 人)	50.0 (156 人)
女	45.2 (140 人)	50.0 (156 人)

F2 年齢 (回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
20歳未満	0.0 (0 人)	0.3 (1 人)
20歳～29歳	20.3 (63 人)	14.7 (46 人)
30歳～39歳	14.5 (45 人)	19.9 (62 人)
40歳～49歳	19.7 (61 人)	17.9 (56 人)
50歳～59歳	28.1 (87 人)	26.9 (84 人)
60歳～69歳	17.4 (54 人)	19.9 (62 人)
70歳以上	0.0 (0 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F3 職業 (回答は1つだけ)

	東京(%)	大阪(%)
勤め人	47.1 (146 人)	43.9 (137 人)
商工自営	13.9 (43 人)	10.6 (33 人)
農林漁業	0.0 (0 人)	0.0 (0 人)
専業主婦	14.8 (46 人)	20.5 (64 人)
主婦(パート)	8.7 (27 人)	10.9 (34 人)
主婦(自営手伝い)	3.2 (10 人)	2.2 (7 人)
学生	4.5 (14 人)	4.2 (13 人)
無職	5.5 (17 人)	6.4 (20 人)
その他	2.3 (7 人)	1.0 (3 人)
無回答	0.0 (0 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F4 あなたは普段の平日、どのくらいの時間、新聞を読みますか。

	東京(%)	大阪(%)
30分未満	21.0 (65 人)	21.2 (66 人)
30分以上1時間未満	33.9 (105 人)	43.6 (136 人)
1時間以上2時間未満	32.6 (101 人)	27.2 (85 人)
2時間以上3時間未満	6.8 (21 人)	2.6 (8.1 人)
3時間以上4時間未満	0.6 (1.9 人)	0.0 (0 人)
新聞を読まない	5.2 (16 人)	4.5 (14 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F5 あなたは普段の平日、どのくらいの時間、テレビを見ていますか。

	東京 (%)	大阪 (%)
普段の平日にテレビを見る時間	0.3 (1 人)	0.6 (1 人)
30分以上1時間未満	4.8 (15 人)	4.2 (13 人)
1時間以上2時間未満	19.7 (61 人)	17.9 (56 人)
2時間以上3時間未満	30.6 (95 人)	32.4 (101 人)
3時間以上4時間未満	21.9 (68 人)	24.4 (76 人)
4時間以上5時間未満	11.9 (37 人)	9.9 (31 人)
5時間以上6時間未満	4.2 (13 人)	5.1 (16 人)
6時間以上	5.2 (16 人)	5.1 (16 人)
テレビを見ない	1.3 (4 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F6 あなたは、昼食は普段どうしていることが多いですか。

	東京 (%)	大阪 (%)
ほぼ毎日、自分が作るもの(弁当を含む)を食べる	36.1 (112 人)	35.9 (112 人)
ほぼ毎日、家族が作ってくれたもの(弁当を含む)を食べる	20.3 (63 人)	27.6 (86 人)
ほぼ毎日、外食する	42.9 (133 人)	36.2 (113 人)
無回答	0.6 (2 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F7 あなたは、夕食は普段どうしていることが多いですか。

	東京 (%)	大阪 (%)
ほぼ毎日、自分が作るもの(弁当を含む)を食べる	38.7 (120 人)	45.5 (142 人)
ほぼ毎日、家族が作ってくれたもの(弁当を含む)を食べる	54.8 (170 人)	48.4 (151 人)
ほぼ毎日、外食する	6.1 (19 人)	5.8 (18 人)
無回答	0.3 (1 人)	0.3 (1 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F8 あなたの、住居形態はどのような状態ですか。

	東京 (%)	大阪 (%)
家族・同居人との共同生活	99 (307 人)	93.9 (293 人)
食事の出る寮生	0 (0 人)	0.3 (1 人)
一人暮らし	1 (3 人)	5.8 (18 人)
合計	100 (310 人)	100 (312 人)

F9 あなたの同居している家族には、乳幼児や学生(小学生・中学生・高校生・専門学校生・大学生)、祖父母はいらっしゃいますか

	東京 (%)	大阪 (%)
いる	60.3 (188 人)	52.2 (163 人)
いない	39.7 (124 人)	47.8 (149 人)
合計	100 (312 人)	100 (312 人)

問17 あなたは、政府の狂牛病対策に不十分な点があると思いますか。今までの対策でも、現在の対策でも結構ですから、なにかあれば具体的に教えてください。

地区	性別	年齢	自由回答
大阪	女性	20歳～29歳	国民に安全なことをアピールしていても、現実には危険な肉が出回っている点で、もっとしっかりと検査すべきだ。
大阪	女性	20歳～29歳	もっと早い時点で公表すべきだったと思う。
大阪	女性	20歳～29歳	対策が後手後手になっている。
大阪	女性	20歳～29歳	一部の商品だけ調べないで、あらゆる牛肉を調べてほしい。
大阪	女性	20歳～29歳	英国で狂牛病が問題になっている時から危機感を持って肉骨粉の使用を禁止するなどの十分な対策を取っていれば、日本でも狂牛病がこれほどまで広がらなかったのではないかなと思う。
大阪	女性	20歳～29歳	世の中の金もうけ主義、拝金主義。人間としての道徳感の欠如。長いものには巻かれる主義以上の様な考えが横行し、地球全体の環境を考えられない人間が多すぎる。チェック機能(買収されない)の確立が必要です。
大阪	女性	20歳～29歳	イギリスで狂牛病が発覚した時点で政府も肉骨粉についての危険性を知っていたのにストップしなかったというのが理解できない。大問題になってから急に対策案を出せても全て不十分に思える。
大阪	女性	20歳～29歳	狂牛病が出た時は毎日の様にテレビのニュースに報じていたが現在はどうなったか不安である。
大阪	女性	20歳～29歳	後手後手になっているのが心配。事が起きないと行動を起こさない。情報の正確さも信用できない。
大阪	女性	20歳～29歳	イギリスの狂牛病が出た時も肉骨粉が原因とわかっていたのに、よく輸入の肉骨粉をとめなかった。
大阪	女性	30歳～39歳	HIVの発病者がマスコミに取り上げられ、どうしようもなくなってから問題対策に走り回る様子を見て(消費者・国民泣き寝入り)、今回の狂牛病も数年後かに発病者が出てからの事後処理を、どううまく回避するか?という動きがあるのだからうぐらいにしか認識も信用もしていない。食肉業界の圧力等を加味しても、同じ失敗はしてほしくない。
大阪	女性	30歳～39歳	情報の完全公開をする。
大阪	女性	30歳～39歳	牧場から消費者に届くまでのはっきりした証明書を、はっきりと店頭で知らせる。
大阪	女性	30歳～39歳	日本でも狂牛病が発生する可能性があるとして外国から指摘があったにも関わらず、日本は安全だと外の声に耳を貸さず、といって決定的な対策を何もしなかったのは問題。
大阪	女性	30歳～39歳	上等の肉を食べて、国民にパフォーマンスをしても庶民は納得いかない。良い高級の肉は、絶対に丁寧に検査していると思うから。
大阪	女性	30歳～39歳	対策がすべて後手後手で、なんの対策にもなっていないのでは?
大阪	女性	30歳～39歳	安全だと言いながら肉を食べるパフォーマンスはどうかと思う。どの食品での同じ事だが衛生的に見直してほしい。
大阪	女性	30歳～39歳	原因説明・情報公開が不十分で納得のできるものでない
大阪	女性	30歳～39歳	イギリスをはじめ諸外国であれだけ問題になっていたのに、その時ももっと深刻に考えていてくれればこんな事にならなかった。それに酪農家の人達の生活にも大変な問題をおこした事に、真剣に考えて取り組んでほしい
大阪	女性	30歳～39歳	徹底的にしらべて安全な肉を食べさせて欲しい
大阪	女性	30歳～39歳	お上の言うことは信用できない
大阪	女性	30歳～39歳	狂牛病にかかわらず何かが起こらないと行動を起こさないやり方と情報の正確さも伝わりにくい
大阪	女性	30歳～39歳	政府は、狂牛病の牛がいるとの事を隠し、その牛をどの様な形で(食肉か、牛肉エキスか、化粧品か)消費したのか。初めに発覚した時には遅い対応で本当にびっくりしました。現在では、この牛は(肉は安全というシールがはられているので少しは安心ですが、本当に検査済みか、信用しづらいです
大阪	女性	40歳～49歳	パフォーマンスのしすぎ。発表が大まかすぎる。
大阪	女性	40歳～49歳	一億人を超える人口の国の国民の安全を考える場合、慎重さが足りなかったと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	政府の担当者は諸外国での問題が起こった時点で、すぐに日本での対策をとる姿勢を持つべきであったし、また勉強をすべきであったと思う。

大阪	女性	40歳～49歳	今まで牛肉に関わって仕事をしてきた人の中には、安全かどうかかわからなくても今手元にある肉をお金に変えないと明日一家心中しなくてはならなくなるような窮地に追い込まれている人が絶対にいるはず。自分がその立場に立ったら、自分の子の命を守るため嘘をつき、ごまかし、法を破ってでも売ろうと考えると思う。だから、表示を100%信用できない。国はそういう弱い立場の人を守る方法をもっと考えるべきだ。
大阪	女性	40歳～49歳	海外での狂牛病が出た時も早く対策をとっていたら、このような事故は防げたと思う。対応が後手後手になっている！！もっと早く対策をとってほしい。
大阪	女性	40歳～49歳	早くに原因説明への努力をしていたら、被害もこれほど大きくならなかったのに政府の対応の遅さが狂牛病事件をこのように大きくしたと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	国内牛は安全とPRをもっとする
大阪	女性	40歳～49歳	イギリスでのBSE発病後、肉骨粉の輸入及び使用全面禁止が速やかに発令されなかった。全面使用禁止は徹底されるべき。農水省と厚生省のチェックミスによる管理体制は是正、強化されたのか。他国経由の輸入肉や和牛及び国産肉の設定、又食肉への解体法は完全に安全性が保障されているのか。発病した時の認定・保障は整備されているのか
大阪	女性	40歳～49歳	1996年世界健康機関から厚生省農水省に、牛に対する肉骨粉の使用禁止を求められていたのにもかかわらず他国のことを発生率も低いからと楽観視し、そういう事実があったことさえも国民に、そして畜産関係者にも伏せていたことが許せない。今後はもっと透明な、そして国民だれもがわかりやすい情報を報道してもらいたい。消費者としては何を信じて購入すればよいのか不安が残っていない。
大阪	女性	40歳～49歳	もう少し早く狂牛病が出たと云う時点で日本の政府も考えてほしかった
大阪	女性	40歳～49歳	問題が起こってからあわてて行動を起こす政府のやり方でとりあげるとマスコミの騒ぎが大げさすぎる
大阪	女性	40歳～49歳	何かあると騒ぎ立てる最近のマスコミの情報の流れを考え、真実の情報だけを静かに伝える方法
大阪	女性	40歳～49歳	イギリス等で問題になった時点で、もっと早く日本としての対策を実施するべきだったと思う。なにに対しても、日本の対策は遅い。いつも問題が出てきてからでは随分沢山の牛肉等出まわっていると思うし、私達の口にも入ってしまっているのではないのか
大阪	女性	40歳～49歳	しっかりと監督して下さい
大阪	女性	40歳～49歳	最初にイギリスで狂牛病が起こった時(ずいぶん以前と思いますが)に、危機管理体制ができあがっていればよかったのではないかと思います。日本で狂牛病の件がおこった時、役人の人が毅然とした態度で説明にのぞんでいなかったことが印象的でした
大阪	女性	40歳～49歳	イギリスであれ程問題になったのに、日本はなってからするので情報が遅い
大阪	女性	40歳～49歳	何でも問題がおこれば発表してほしい
大阪	女性	50歳～59歳	検査をしっかりとしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	もっときっちりとしてほしい。上の人ほど「まあまあ、これぐらいでいいか」などと言っていたが、そこで食い止めて欲しかった。
大阪	女性	50歳～59歳	一部の商品だけ調べるのではなく、加工品等あらゆるものを調べてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	業界を重視するので、隠す部分が多い。検査も形だけにすぎない。
大阪	女性	50歳～59歳	目前の利益ではなく、将来への安全性を考えるべきだったことが、余りにも多すぎる。
大阪	女性	50歳～59歳	諸外国の対応・対策は早いですが、日本ではいつも遅くマスコミが騒いでから対策をしているみたいです。少しでも疑問があればすぐに止めるとか、安全を確認してから回答を出してほしいです。国会議員は自分たちの立場ばかりを気にして、国民のことなど考えていないようです。
大阪	女性	50歳～59歳	もっと情報を早く公開してほしい。隠しすぎ。
大阪	女性	50歳～59歳	はっきり国民に説明できるだけのデータがあるのかどうか疑問だーデータ(資料)が不十分。情報(確かで信頼できるもの)の提供が不十分
大阪	女性	50歳～59歳	対策は始めは一生懸命対策していたが現在は狂牛病がどうなったか少しも分からない。肉を購入するのも不安どうしても鶏肉・豚肉を購入する様になる
大阪	女性	50歳～59歳	政府は何事も起こってからしか動き出さない。一時は狂牛病の事ばかり毎日放送されたが現在はどうなったか安全宣言をされても不安
大阪	女性	50歳～59歳	対策もおそい、もっと早くから研究して欲しい。今すぐに症状が出てくるのでなく何年後か心配だ。
大阪	女性	50歳～59歳	きちんとした情報(納得いく情報)を事が起こったらすぐ提供することー情報提供が不十分&情報提供までに時間がかかりすぎるのでこの間に事件がどんどん大きくなって被害が大きくなっていく

大阪	女性	50歳～59歳	何かが起こってから対策にあわてるのではなく必要な事はしっかり初めからやってほしい。マスコミもあまりむやみに騒ぎ立てる事はやめるべきだ
大阪	女性	60歳～69歳	もっと情報公開してほしい。マスコミも信用できない。店やメーカーもいろんな事を隠しすぎ、もっと政府がきっちりと調べてほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	業者のモラルの徹底。
大阪	女性	60歳～69歳	今政府がどのような対策をしているのか、全くわかりません。どうなったのでしょうか？我が国の報道の悪い点、一時は盛り上がり、次の事件が起きるとすぐにその報道ばかりになります。狂牛病に関するニュースは最近聞かなくなりました。
大阪	女性	60歳～69歳	もう少し他の国の対策の勉強をしただけいい。
大阪	女性	60歳～69歳	日本は外国に比べて遅れている。
大阪	女性	60歳～69歳	肉をあまり食べないのかわからない。
大阪	女性	60歳～69歳	このような問題が起こったら、食べなければいいと思っているし、もともと牛肉はあまり食べないほうです。
大阪	女性	60歳～69歳	どこまで信用できるのかわからない。
大阪	女性	60歳～69歳	テレビ等で牛肉を食べて安全ですよという様なパフォーマンスはやらないでほしい。それを見て完全に安心とは絶対に思わない。
大阪	女性	60歳～69歳	イギリスでの狂牛病の情報が政府に入ったのは起こりえるパニック等思惑は考えられても、早急に対策すべきだったと思う。この点の政府の責任は大と思う。今だに手ぬるい。信用できる昔からの老舗で買ってはいるものの、この牛肉の飼料はと考える時、鶏肉・豚肉共に同じ様な飼料で飼育されていたのでないかと不安になる。国内の飼育されている牛にはNo.プレートをつけて購買時までルートの解かる様に出来ないのだろうか
大阪	女性	60歳～69歳	不十分だと思いますが特にはないです。
大阪	女性	60歳～69歳	今まで狂牛病のニュースをよく見たが、現在は全然ニュースでもなくどうなったか不安である
大阪	女性	60歳～69歳	今現在の状態だとどうなっているのかまだ不安である
大阪	女性	60歳～69歳	一頭一頭、今後このようなことが再び起こらないよう徹底的に検査をする必要あり。この調査を今後将来にわたって止めることなく続けてほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	農水省の方が(大臣)が肉を食べていたけど、それがウソであった。それをわかって食べていたのではないから(今思うと)。徹底的に調べてこれで安全というならば皆食べると思う
大阪	男性	20歳～29歳	外国で狂牛病が発覚してからすぐに対策を行うべきだった。何に対しても日本政府は行動が遅すぎると思う。
大阪	男性	20歳～29歳	発見後、牛肉の流通を規制すること。
大阪	男性	20歳～29歳	前頭検査が脳や神経系のみを対象としているので、不十分ではないか。筋組織へのプリオンの蓄積の可能性など、徹底的な原因の究明が急務だと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	国民に対する情報の提示がなされてこなかった。海外で知られていた BSE に対して、日本で問題になる以前によく調査し、その結果を国民に報告して国がとるべき政策を含めて明確に伝えてこなかった。ただ大丈夫と言うだけでは消費者は信用しない。もっと考えられるあらゆる問題点を消費者に提示しないと全く説得力のない安全宣言になってしまう。
大阪	男性	20歳～29歳	あまり関心がなく、かわりなく生活している。従って、私がとやかく言える事ではない
大阪	男性	20歳～29歳	政府の認識不足(肉骨粉のことも調べていたらすぐわかり生産農家にきちんとした指示を出させていたはずだ) 起こってからの対応が非常に遅く、しかも非常にまずい。農水大臣が狂牛病は神経系の中にあるプリオンが原因だから肉そのものは大丈夫だ…ときちんとわかりやすく国民に正しい情報を伝えていたら被害はこうも大きくならなかったはずだ。大丈夫だと言葉で伝えるだけでは一層の不安をおおるだけだ。
大阪	男性	20歳～29歳	狂牛病が日本へ上陸する以前にいく止める事はいくらかでも可能であったと思います。日本に狂牛病は発生しないと過信していた政府には責任があるのではないのでしょうか
大阪	男性	20歳～29歳	マスコミに騒がれる前に先手を打って、おおげさなぐらいの対策をとっておくべきだと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	諸外国の狂牛病の時も阪神大震災前のサンフランシスコ大地震の時も諸外国で発生した災害を我が国では起きないと変な考え方しかせず実際に何の対策もしていない。だから、現在の政府は起こってからじゃないと動き出さない。そして災害が発生して国民を回復しようとの原因究明もできないのに早トチリで安全宣言をしてみたり、何年か前の O-157 事件の時も『カイワレ大根』が原因だと言ってみたり前もっての対策が何もできてないからアセって逆に我々国民の不安をおおる結果になっていると思います。もっと冷静な対処をしてほしいと願うばかりです。
大阪	男性	20歳～29歳	情報公開が遅い

大阪	男性	20歳～29歳	狂牛病発症、メカニズムの解明と発表。全頭検査の実態の公表と真の意味での全頭検査の徹底。
大阪	男性	30歳～39歳	まず自然回復。(自然のものは、出来る限り天然のエサで。人工ですれば、ツケはどこかにやってくる。)
大阪	男性	30歳～39歳	本当に全ての牛をチェックできる体制か、その気があるのか疑わしい。
大阪	男性	30歳～39歳	海外での政府や機関で得られた情報を十分に生かしていないし、公開していない。それが農家や食肉業界のためだと思っているようだが、結局消費者の信頼をなくし、消費者・農家・食肉業界全体に不利益をもたらしている。
大阪	男性	30歳～39歳	日本の国は世界から見て遅れている。
大阪	男性	30歳～39歳	素早い情報公開をする。国民のことを第一に考える。業界のことを考えすぎ。
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病うんぬんではなく、政府を信頼していない。だからといって政府のせいにするのもおかしい。対策がなければ事業者は何をやってもいいというものではない。自主的な規制を事業者がモラルをもって行うことを望む。
大阪	男性	30歳～39歳	二転三転する報道を聞くと「安心しろ」という方が無理。
大阪	男性	30歳～39歳	「都合の悪いことはかくす」という体質が、このような事態を引き起こしているような気がする。狂牛病の問題に限らず、政府の体質としてこういう状態を改めない限り、いつまでも同じような問題はくり返されるように思う。
大阪	男性	30歳～39歳	日本初の狂牛病に罹患した牛が肉骨粉になってしまったことが、どうしても考えられない。ひどい対応だと思う。しかもそれを公表したのが遅すぎる。よく確認もしないで、発表しているということだから、その後もそのようなことがいくつか続き、すっかり信用できなくなった。雪印食品も、国産牛の保護制度を悪用していて、監視システムがなかったのはとても問題だと思う。
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病発生国から情報が不十分。狂牛病が発生する可能性のある地域全ての牛を焼却処分する等、国による安全性の保証
大阪	男性	30歳～39歳	諸外国からの生活にも耳を貸さず、検査内容も十分でなかった、我国は大丈夫と言い続けて来た。
大阪	男性	30歳～39歳	対策が不十分と言うよりマスコミの騒ぎすぎでひどい目にあたって人が多くいる。一つ騒ぐと迷惑だけでなく生活が出来なくなる業界もある事をもっと考えて行動をしてほしい
大阪	男性	40歳～49歳	対策処置が遅い。
大阪	男性	40歳～49歳	行政の責任感の欠如。
大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病対策に限らず、全てに関して起きてしまってからあれやこれやと言っているように思う。
大阪	男性	40歳～49歳	中途半端な気がするので、もっと徹底してほしい。
大阪	男性	40歳～49歳	もう少し正確な報道をすること。
大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病が発見された後、発生の発表が遅すぎる。
大阪	男性	40歳～49歳	役人との癒着があるのでは？退職してからも失策に対しては責任を取らせるようにする。
大阪	男性	40歳～49歳	不安で牛肉は食べたくない。安心出来、肉を沢山食べられる様になりたい
大阪	男性	40歳～49歳	政府の対策と言われていることをマスコミが十分に伝えていのかどうか不明でわからないが乳牛に肉骨粉なるものを与えて原乳の成分を調整させたのも農水省だし、今回のことで一番困っているのも農水省なのでその方面の対策は不十分だと思う
大阪	男性	40歳～49歳	英国で狂牛病が起こってから業者に対して通達を出すのに 1ヶ月程かかっていたそうです。そして、この間に肉骨粉の消費量が通常の倍になっていたそうです。国内3頭の狂牛病はいずれもこの時期に生まれているそうです。これは肉骨粉業者を保護するための行動としてしか思えない。それと狂牛病について政府もあまり知識がなかったのではないかとと思う
大阪	男性	40歳～49歳	この問題にかかわらず不十分な情報が政府に多い
大阪	男性	40歳～49歳	対策が見えてこない。中途半端。
大阪	男性	40歳～49歳	雪印食品等の犯罪があった
大阪	男性	40歳～49歳	企業を保護していたと思う
大阪	男性	40歳～49歳	政府の対策が十分出来ていないから信用できない。
大阪	男性	40歳～49歳	牛肉に対する検査体制はこれだけ大きな問題となった今では、現在取り得る最高レベルになっていると思う。しかし、農業・畜産の問題に対しては政府は、政治圧力に屈しがちである事は容易に想像でき、今回の初期においても情報の操作・隠ぺいなどはあったと思う。日本国民の総意でない政治の一端が今回の問題でも明らかになったと考える
大阪	男性	50歳～59歳	対策が遅い。ゴテゴテしてから何回公表しても安心感はない。早く手を打つべきだった。怠慢の一言に尽きる。
大阪	男性	50歳～59歳	政府の対策が見えない。
大阪	男性	50歳～59歳	安全危険とか狂牛病対策という議論そのものが大げさです。

大阪	男性	50歳～59歳	英国で発生した時点では、他山の石であったと思う。まさか肥料の中にその原因となるものがあるとは、政府も思ってもみなかったと感じる。
大阪	男性	50歳～59歳	信用できなかつたら食べられないので、生産者の問題なので政府に聞いても仕方ない。
大阪	男性	50歳～59歳	一部分しか検査の結果を発表しないから、国民は納得いかない結果になってしまう。もっとこんな形で、ここまでなら検査が済んでいるというように、すべて発表してほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	対応の結果、全てを公表してほしい。その時期がとても遅い。
大阪	男性	50歳～59歳	肉骨粉の規制が遅すぎた。
大阪	男性	50歳～59歳	流通業界や食肉販売業界のモラルの低下が、大きな原因の一つと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	その時、その時の対応で終わって先のことを考えていない。先を考えた対応を示してほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	何年も前にEU諸国より報告があったにもかかわらず、手のうち方があまい。先が見えない官僚が多い。わかっている人がいても上司に口を出す事が出来ない。官僚のシステム政治にも問題があり、下の云う事も聞く耳をもてるような政治、国にならなければ何度でも、このような事が起こります。
大阪	男性	50歳～59歳	狂牛病対策に不十分な点があると思う
大阪	男性	50歳～59歳	全頭検査の内容が一般消費者に公表されていない。検査チェック体制が機能しているじや不明。安全行政が縦割になっており、本当に健康を考えた行政機能になっていない。不正を行った場合でも、業界保護の姿勢から抜けきらない。
大阪	男性	50歳～59歳	政府は官僚に問題があれば更迭して、問題点をあやふやにする傾向があり、これでは根本的な対策はとられない。最後まで、担当者に問題点の原因と対策をとらせて、今後二度と生じないようにすべきである
大阪	男性	50歳～59歳	騒ぎただで国民を不安にする事の方が多い
大阪	男性	50歳～59歳	発見して以後、狂牛病がとても政府が覚している様な気がする→まだはっきり公表していないのではないか？食肉牛は3～4年で加工するのに乳牛は乳が出なくなってから加工すると聞いている。感染していても発症していない牛がいるのに公表していないと思う
大阪	男性	50歳～59歳	政府の狂牛病対策に対する認識と対応があまりにも遅く説明が物足りなくて、余計に消費者に不安を与えて、物事が大きくなりすぎた。
大阪	男性	50歳～59歳	どんな問題にしても対策が出来る事
大阪	男性	50歳～59歳	生産者の立場に立っていたのが悪かったと思う。
大阪	男性	60歳～69歳	あまりはっきり物事を見極めていない。政府にとって不合理な事も発表すること。
大阪	男性	60歳～69歳	どこまで検査しているのか、よくわからない。
大阪	男性	60歳～69歳	どこまで検査しているのか、はっきりとした対策がわからない。
大阪	男性	60歳～69歳	隠し事をせず正直に国民に知らせるべきである。業者・農家との癒着をするな！二度としないように心せよ。
大阪	男性	60歳～69歳	農相がもっとしっかりしてほしい。
大阪	男性	60歳～69歳	第一に国民の健康に目を向けた政策・対策を行うこと。他の食品や薬の事でも業界よりも国民の健康を最優先するようにお願いします。業界も消費者等第一に行動することを願います。
大阪	男性	60歳～69歳	物流業者への立入検査も必要。
大阪	男性	60歳～69歳	十分ではないと思いますが特に言う事はない
大阪	男性	60歳～69歳	どうすれば良いかと言われても良くわからない。個人の考えがあるから
大阪	男性	60歳～69歳	次から次と出てくるので止められない。全てウソばかり未だに信用できない、何をいっても無駄
大阪	男性	60歳～69歳	農林大臣が頼りない。専門家でないのに表に出て云いすぎる。プロにまかせた方がよい。
大阪	男性	70歳以上	イギリスでの前例があったにもかかわらず他国の事件として何の対策も取ってこなかったこと。(オーストラリアのようにイギリスでの事件後きちんと対策をたてて行っていたら日本での事件は防げたはずだと思う)
東京	女性	20歳～29歳	事前の対策が悪すぎたと思っている。政府も業者もイギリスの業者もイギリスの狂牛病問題の段階で何かするべきだった。話題にならなすぎたこと、業者が利益を追求しすぎて見てみぬふりをしたことetc… 全頭検査の薬品が試験管にぬれていない状態の検査があったと聞いた時はあきれた。
東京	女性	20歳～29歳	国民がきちんと理解できるような説明がなされていない。安全宣言ということで牛肉を食べる姿を公開していたが、その人達だけは安全で汚染されていない肉を食べているように感じた。信用できない。牛肉を食べる気はない。
東京	女性	20歳～29歳	検査の結果も十分に公表されているか不安だし、BSEが発見されてからの政府の態度も不満。全く信じられない。
東京	女性	20歳～29歳	取り組みが遅すぎる。
東京	女性	20歳～29歳	政府は過去にとらわれず正確な情報を十分な発表をしてほしい。

東京	女性	20歳～29歳	肉骨粉の輸入をもっと早く止められなかったかと思う。狂牛病との関係は何年も前からわかっていたはず。
東京	女性	20歳～29歳	対策を取るのがあまりにも遅すぎたと思う
東京	女性	20歳～29歳	何事においてもオープンでないし、対応が遅い。早く対応してほしい。
東京	女性	20歳～29歳	情報公開が不十分だと思う。一時期に比べると狂牛病の話題が減り、現在の状況がわからない。もっとコンスタントに情報を流してほしい。
東京	女性	20歳～29歳	日本で問題になる以前から外国でも報道されているのに日本は大丈夫と安易に思い、うわべで出たものだけを処理している日本の政府は、国民のことを全然考えていないと思います。
東京	女性	20歳～29歳	面倒くさがらずに安全を追求してほしいと思います。
東京	女性	20歳～29歳	狂牛病の検査は二重で行うなどしているようですが、それは国内産の牛に関してである。外国からの輸入牛にはどういった対策・基準を設けているのか全くわからないので不安ではある。
東京	女性	30歳～39歳	初期段階での対策が不十分だったので、このような大問題になってしまった
東京	女性	30歳～39歳	狂牛病について政府はきちんと調査できているのか？検査をしているからといって、本当にその検査が安全なのかわからない。
東京	女性	30歳～39歳	狂牛病だけに限らず豚肉や鶏肉の問題も含めて、「食品を扱っている」「人が口にするものだ」という意識が低いのではないかと考えています。この意識、責任感があれば、政府という漠然としたものではなく、実際に牛肉に触れて仕事をしている個々の人々にもっと危機管理をしてもらいたいと思っています。そのために教育の場を設けたらいいと思います。
東京	女性	30歳～39歳	肉骨粉が安いからと言って使ってしまう農家も悪いが、政府が監視をしていれば消費者に波及しない
東京	女性	30歳～39歳	きちんとした情報公開をする事で他の病気(ヤコブ病など)に関してや、ありとあらゆる面で説明をすればパニックにはならないと思う。
東京	女性	30歳～39歳	肉骨粉の輸入禁止
東京	女性	30歳～39歳	初めから終わりまで全然ダメ。外国で狂牛病が出た時に、明日は我が身と思って対策をとるべきだった。
東京	女性	30歳～39歳	情報公開が不十分だと思う。
東京	女性	30歳～39歳	何に対しても日本は大丈夫という対策の不十分さ。対策をするのも遅い。狂牛病はもっとずっと前からあったもので、万が一を考え、もっと早く対応すべき問題だったと思う。
東京	女性	40歳～49歳	イギリス等で狂牛病が発生し、肉骨粉が原因ではないかと、いろいろなメディアで報道されていたのに、日本では肉骨粉の輸入を制限せず従来通りの飼育をしていたから
東京	女性	40歳～49歳	とにかく信頼できるような行動をとってほしい
東京	女性	40歳～49歳	問題が起きてから、あわてて対策をとっているのが、全頭検査といっても、完全にされているのか不安。
東京	女性	40歳～49歳	政府の対策は企業とのつながりに主を置いているからだと思う。世界の情報に対してマスコミ関係も政府ももっと敏感になってもらいたい。疑いが生じてきたらすぐしてほしい。
東京	女性	40歳～49歳	狂牛病の発生したことはいろいろ伝えられるが、それを食べた人間がどうなるのか、どういう症状が出てくるのか、医療的にどう治療をするのか、それを知らせてほしい。よくわからないから不安。ぜったい食べない方がいいのか、少し位大丈夫なのか。
東京	女性	40歳～49歳	農林大臣の発言を聞いていると、事実の後追い発言、状況によってコロコロ変わる発言が消費者の疑惑をあり、怒りを感じるのだと思います。業者におもねることなく、主導権をもって早めの対策を！！
東京	女性	40歳～49歳	英国等の狂牛病対策と比べて手ぬるい。その時の批判を抑えられればいいというような小手先のごまかしに終始している。消費者が生産者や牛の生育歴を知ることができる仕組み作りが必要。
東京	女性	40歳～49歳	今回の対策以前に、狂牛病による人的被害の有無をはっきり知りたいと思います。生肉の場合は現在不安は感じませんが、エキス等加工品の場合の方が、消費者は気づかずにいるのではないのでしょうか。
東京	女性	40歳～49歳	食肉の生産工程を見直してほしい。生産量を上げるために動物を育てているのは、やはりひずみが生じるから。そして、病気を研究して理解して、そのような病気が起こらないよう努力してほしいです。
東京	女性	40歳～49歳	消費者よりも業界に向いており、特に族議員は自分達のことしか考えていない。何でも日本は後手後手で起きてから慌てている(毎回)。スーパーの表示も嘘が多い。嘘はいけない。信用できない。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで狂牛病騒ぎがあった時、日本もすぐに国内の対策をたてるべきだったと思う。

東京	女性	50歳～59歳	ブリオンについて十分理解していない。食肉牛だけではなく、ブラセンタエキスやコラーゲンについての政府独自の検査システムが不備である。
東京	女性	50歳～59歳	問15に書いたよう(政府・農林水産省の狂牛病対策が十分でなかった)に狂牛病に限らず、政府のやることは、後手、後手のくり返し、不信な点が言われ始めた時、速やかに対処していれば物事が大きくならずに済んだはずの事柄が沢山あるように思います。そして苦しまなくて済んだ人達も沢山居ると思います。「馬鹿を見るのはいつも庶民だ!!」の気持ちが大きいです。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで発病した時に日本もちゃんと対策をとればよかった。危険だと思う時期の牛肉を国民の税金で、国が買い上げるというだけの事は安易でその場限りの対策だと思う。
東京	女性	50歳～59歳	政府の一度のあいまいさが、いまだ尾引いている。
東京	女性	50歳～59歳	不十分である。情報が有りながら水際でくい止められなかった事は重大である。誤まってすまないと思います。政府は対策を立てたくとも、どうして良いのか解からないじゃないか。もっと民間の多くの人たちから考えを集めた方が良いと思います。日本人は何か起きて、事の重大事件に発展しないと重い腰を上げないと、癒着(利権)があるから対策も十分出来ないだろうと思う。
東京	女性	50歳～59歳	情報が正確に発表されているとは思わない。
東京	女性	50歳～59歳	政府が対策についてどういった具体策を打ち出して、又どういったことを現在、そしてこれから絶対にこういった問題が起こらないかが私達には見えていない
東京	女性	50歳～59歳	国内産牛の全頭検査をしているようですが、検査済みの牛肉については識別ができるようにすべての商品名に「検査済」ラベルを表示して欲しい。私達はそのラベルを見、信用して購入しているのだから。
東京	女性	50歳～59歳	現在テレビでも又、丸紅他にも正確さ、正直さにかけてます。何を信用して良いのか大変不安を感じてます。
東京	女性	50歳～59歳	外国からの情報を対岸の火事のように思っていた国。狂牛病が発生している国からの肉骨粉を輸入したり、国内での発生に対しても原因の追及もあいまいです。
東京	女性	50歳～59歳	外国で問題になった時の対応がまるで出来てない。十分な対策がとられていたら、日本には狂牛病は入って来なかったのではないかと。
東京	女性	50歳～59歳	現在の対策は十分に行われているように広報されていますが、信用ができない。
東京	女性	50歳～59歳	やっぱり、外国で起こってすぐ日本でも対策をしなかったこと。
東京	女性	50歳～59歳	安全宣言していながら問題があったのは何だったのだろうと思う。1頭だけだと思ったけど、2頭3頭出てきたこと。
東京	女性	50歳～59歳	もう少し十分に情報を得て対応してもらいたい。イギリス等から情報を得て、韓国はわかった時に全部焼いた。日本は対応が遅れている。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで問題が起きた時に、自分はベルギーにいた。ベルギーでも、店の棚から牛肉が全てなくなった。安全が確認されてから店に並んだ。よくわからないが、日本の対策は不十分。
東京	女性	50歳～59歳	何か事が起こると大騒ぎするが、すぐ忘れてしまうという何に対しても同じやり方。息を長く研究してほしい。
東京	女性	60歳～69歳	諸外国で異常事態が起こった時点で良く調査をして危険な事がおこらないように充分注意してほしい
東京	女性	60歳～69歳	狂牛病に限らず、今の政府のやることは信用できないと思っています。弱い者に強く、強い者に弱い。こんなことが狂牛病に現れているのではないかと……。
東京	女性	60歳～69歳	上記 4 (現在の政府の狂牛病対策は、諸外国にくらべて劣っている)の通りだと思う。人体に関わることのあらゆるところで、鈍感で怠慢だと思う。生産農家が牛の飼育の餌の全てを日本国内で入手できるようにすべきだと思います。餌のあり方をすぐに変えるべきです。肉骨粉を使わずに穀物粉で育てたらどうでしょうか。お米がダメで転換した人が多いそうで、空き地に麦を育て餌にして自然食で育てるべきです。
東京	女性	60歳～69歳	政・官・業と自民党の族議員の悪行、これはBSEの問題だけでなく、すべてのことがおかしくなっているのが悲しいです。もっともっと学者もマスコミ(新聞・雑誌・テレビ等)で発言してほしいと思います。
東京	女性	60歳～69歳	政府は我々より、より以上の情報をより多く、より早くキャッチしていると思います。今回の事にしても数年前より外国からの情報が入っていたのにもかかわらず無視していたのではないかと、いったい何を考えているのかと疑わずにはいられません。今回の事にしても一すとした事で日本への上陸もふせげたのではないのでしょうか。その結果が現在に至って多くの肥料を日本に持ち込む結果となってしまったのではないのでしょうか。もっと自分の持っている役目に責任を持って頂きたいものです。肉を食べる食べないの問題ではないと思います。その様な役職の方こそもっと取り締まって頂きたいです。

東京	女性	60歳～69歳	政府と業者との間で一線を引けない状態がある。これは駄目だというふうにきちんとすべき。
東京	女性	60歳～69歳	根本的に政府の対策が信用できない。嘘やごまかしが多く、安心できない。
東京	男性	20歳～29歳	牛から人間に伝染するのかをイギリスと日本の狂牛病の牛の頭数とクロイツフェルトヤコブ病患者の数の比較など具体的なデータを基に説明してもらいたい。
東京	男性	20歳～29歳	元々狂牛病には未解明の謎が存在する。故に、完全な対策など現時点では存在しないと言える。つまり、狂牛病とは無縁の世界に逃れたいと思うのなら、牛が原料として使われているものを手にしないということだろう。
東京	男性	20歳～29歳	マスコミが騒ぐだけで、詳しいことが全くわからない。「狂牛病」という言葉だけが回っているといった感じです。
東京	男性	20歳～29歳	畜産農家の保護が不十分。牛を持っていかれそれに対する保障がなかった。
東京	男性	20歳～29歳	外国で先例があったのに、それに対する危機意識が低いというか十分な対策がためされなかったと思う。
東京	男性	20歳～29歳	国民を守る役目を果たしていない。
東京	男性	20歳～29歳	全頭検査を行ったということですが、どのような検査方法で本当にすべての牛に対して検査を行ったのか等の情報が伝わって来ない。
東京	男性	20歳～29歳	今は不十分な点はないと思う。今までのことは、非加熱のものを輸入していたのが不十分だった。
東京	男性	20歳～29歳	不十分な点だけですが、我々消費者に対策の手はありません。
東京	男性	20歳～29歳	対応が遅すぎた。危機管理が全然なっていなかった。
東京	男性	20歳～29歳	イギリスで狂牛病が表面化した時、国内産の牛の調査と飼料の検査等をすべきだった。また、国内で狂牛病が発見された時、農水省は迅速に思い切って情報を公開した方が良かった。
東京	男性	20歳～29歳	生産・流通過程で二つの省庁(農水・厚生)の管轄になっていることから、責任の擦り付け合いというタテ割りの行政の弊害が出ている。少なくとも食肉に関しては、一つのセクションが生産～流通まで一括して担うべき。CJD は潜伏期間があるため(と聞いている)、数年後発症者が現れるかもしれない。その時にもうすでに安全な状態であるにもかかわらず、マスメディアの挑発に乗って 1996 年のイギリスのように無益な乳牛消費禁止令など出してはならない。国民に対し、真摯な説得が必要である。(もちろんマスコミもいたずらに大衆を煽ってはならない。)国民もいたずらにヒステリー反応を起こしてはならない。それぞれがもっと知識を入れて賢くなることが一番大事。
東京	男性	20歳～29歳	海外からの情報を軽視しすぎるのではと考えます。対策としては、狂牛病自体に関する経過等をも少し表立って知る機会がほしい。
東京	男性	20歳～29歳	外国は問題が起きた時すぐ対処するが、日本は対応が遅れている。
東京	男性	30歳～39歳	役所が業者に気をつかっている(天下りを受入れているからか?)特に化粧品の指定品(ホームページに出てくるもの)がイギリスの基準より悪い。ヨーロッパやアメリカで問題になっていることを、国内で問題視しな過ぎる(国民はどうなってもよいと思っているとしか思えない)業者エイズと同じく族議員の排除が必要
東京	男性	30歳～39歳	大臣が牛肉を食べてる報道があったが、わざとらしい。又、肉の流通経路についても不明な点が多すぎる。
東京	男性	30歳～39歳	政府も生産者も似た様に思ってしまった。
東京	男性	30歳～39歳	族議員の圧力で業界保護が先で、消費者を馬鹿にしている。なぜ、農水大臣が安全だと言えるかわからない。
東京	男性	30歳～39歳	信用できる対策が一つもない。
東京	男性	30歳～39歳	欧米では早くから騒いでいるのに、わが国は対策が遅い。真面目に取り扱っていない。生産者のことを考えていない。色々な面で説明不足である。
東京	男性	30歳～39歳	武部大臣がテレビに出て釈明すればするほど、不安が広がる思いがした。大臣が安全宣言した後に狂牛病の牛が見つかり、政府は信用できないと思った。
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病の感染源が異常体プリオンにあり、牛の肉骨粉を牛に与えることで感染することはかなり前から知られていたのに、外国の話として放置しておいたこと
東京	男性	40歳～49歳	全国的に対策が行われていないのではない(地域のバラツキ)
東京	男性	40歳～49歳	政策が後手後手になってしまっている。業者との何らかの利潤が絡んでいるにちがいない。全ての政策がそうであるように
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病が外国で問題になった時点でもっと早く対策をするべきだった
東京	男性	40歳～49歳	自民党及び東京大学など社会のダニを地球からおいだすべき
東京	男性	40歳～49歳	全頭検査をしているが、その結果が消費者に正確に公表されていないと思う。

東京	男性	40歳～49歳	欧米で問題になった時点で対処すべき事柄があったにもかかわらず、手をこまねいており、そのツケが今のような深刻な事態になったのではないのでしょうか。誰が責任を取るというのではなく、どのような仕組みで危機管理をしているのかが問われています。
東京	男性	40歳～49歳	アイスランド等で行われている肉牛の管理システム等を導入し、出産から商品になって店頭に出るまで全てを消費者が確認できるようにしてほしい。
東京	男性	40歳～49歳	政府は狂牛病対策に何もしてないと思うし、前向きな対策も行っていない。信用できない。
東京	男性	40歳～49歳	マスコミの騒ぎ過ぎ。
東京	男性	40歳～49歳	職権に基づく完全な調査が実施されていない。より強力な調査権限を担保する法改正がなされていない。
東京	男性	40歳～49歳	国産牛はもとより外国産牛肉、牛肉エキス等の加工品の安全性がどの程度まで確認されているか？
東京	男性	50歳～59歳	狂牛病発症畜産農家の全頭屠殺すべきだった。又、新聞報道等で、全頭検査後安全な食肉を出荷と伝えられているが、検査精度が明確でない。厚生省は許認可品目のBSE対策を業界に徹底したが、農水省の対応が不明瞭である
東京	男性	50歳～59歳	ヨーロッパやイギリスでは何年も前から何十万頭という牛を処分して来たのに、それに対して対岸の火の火と思ひ、何もしないで「日本の牛は安全だ」と言いつづけて来て日本政府及び官僚そして業界団体のリーダー達は無知であったとともに思い上がっている。もっと真摯に事態をとらえていかないと、これから第2、第3のBSE問題に日本は対処出来ない。そしてそれは現在の不況を産んでいる原因の1つでもあるのだらう。
東京	男性	50歳～59歳	50%の検査結果で100%したかの様に報告している。時間をかけても十分に検査して、報告して欲しい
東京	男性	50歳～59歳	役人は民家の側よりも反対の立場を保護する。厚生省の如くアメリカで使用した薬品を日本では其の後10年も使用していた事が示す様に農水産省でも同様だと思う。
東京	男性	50歳～59歳	BSEの重大な結果に対する(食料生産・人への被害)認識に欠け、対岸の火事以下と考えていた上に、農水省は牛肉生産～販売者までの保護、厚生省はこの病気が日本で発生するなど想像すらせず、共に形式的な書類の仕事に終始していたと思われる。
東京	男性	50歳～59歳	政府と企業の癒着がある限り、この状態は続く。
東京	男性	50歳～59歳	官と業の利権がある以上、何事も中途半端に終わる。対策を行うと同時に改革も平行すべき。外務省、農水省、通産省との合同プロジェクトを編成し、情報のエクステンジを十分に行い、対岸の火事の行動ではなく水平転回する必要がある。2、3 千億円の国費を投入し、日本国内にいる疑わしい牛を全頭処理する。
東京	男性	50歳～59歳	農水省、食肉関連業界全て信用できない。当初の忠告が何回もあったのに全くとりあわなかった農水省の役人の対応が全て原因だ。気になるので牛肉は食べないようにする。他の肉も食べないように魚貝、菜食をとるようにしている。しかし、牛肉がやっぱり食べたくなくて困っている。
東京	男性	50歳～59歳	万一のことで考えていろいろな対策を考えておくべきなのに全く何もされていない。
東京	男性	50歳～59歳	政府の対策も重要であるが、生産業者・中間業・販売業者の自覚がなければ今後も続く。
東京	男性	50歳～59歳	各方面に(牛肉使用)業界に定期的検査を行い、結果をマスコミ等により一般に知らしめる。(情報等)
東京	男性	50歳～59歳	結果責任を取っていない→国民から信用されない
東京	男性	50歳～59歳	I. D 管理(イタリア?)を十分にしていたらよかったし、今後も I. D. 管理をしっかりやってほしい。行政のたて割行政の予備が表面化した。
東京	男性	50歳～59歳	本人の自由。自分で考える事。
東京	男性	50歳～59歳	政府のやる事はわからないがもっと各人が他人のいたみのわかる人、情性で仕事をやっていないか、もっと厳しい姿勢で国民の為に奉仕してもらいたい
東京	男性	50歳～59歳	政府が安全宣言しても、その後発生をしている。
東京	男性	50歳～59歳	日本の行政の特徴は公害、被害エイズなどや公共事業も含めて全ての面で、旧大日本帝国の最後の頃と同じで、黒を白と発表する大本営発表であり、事実の積み重ねから真実を追究せず「会議」により真実をでっち上げることをしているので、全く信用できない。どんな対策を発表してもインチキである。
東京	男性	50歳～59歳	現在の状況を細かく発表する。
東京	男性	50歳～59歳	情報公開が遅れている。
東京	男性	50歳～59歳	情報公開をもっと完全に行うこと。
東京	男性	50歳～59歳	疑わしい時は処分する。農家に負担をかけずに行政がする。
東京	男性	50歳～59歳	政治家と業者の全ての癒着が改善されない限り、同じようなことが繰り返すと思います。

東京	男性	60歳～69歳	本当の事をきちんと報告してほしい
東京	男性	60歳～69歳	対応の悪さ、遅さ。
東京	男性	60歳～69歳	海外で話題になった時に、国内対策は十分に行われていると思っていた。役所の対応には怒りを覚える。
東京	男性	60歳～69歳	今までの政府の立場は生産者を保護する所にあったが、この狂牛病のことで消費者を大切にすることが、結果的に生産者のためにもなるということが実証された。もともと国民の安全を守るというのが政府の最優先課題のはず。もって銘すべし。
東京	男性	60歳～69歳	政府の対応の遅いこと。今後は牛を育てる人、そして牛をどう育てているのか、どう私達の口に入るのか、消費者にわかりやすくガラス張りにして早く安心して食べられるようにしてほしい。
東京	男性	60歳～69歳	大手業者管理が現状のようでは何を信じていいのか分からないではないか！！現状の政府は一時逃れの対策としか思えない。イギリスの狂牛病のようにできないものかと思う。
東京	男性	60歳～69歳	イギリスの状況がわかった時点で他国の問題でなく自国の問題としてとらえ、もっと早くに適切な対策を取るべきだ。真剣さが足りない。政治家・公務員の怠慢さが表面化した一事例だと思う。
東京	男性	60歳～69歳	農水省の対応が不十分で不安である。クロイツフェルト・ヤコブ病については数年前から全ヨーロッパで大騒ぎで国家問題にして対応しているが日本には飛び火は無いと厚生省の役人の怠慢から国内問題に発展したのでは！！グローバル社会に対する考えが未熟だ！！
東京	男性	60歳～69歳	政府たちの騒ぎすぎ、マスコミたちの騒ぎすぎ
東京	男性	60歳～69歳	政府の対策が後手後手になっている。省庁同士の責任の擦り合いが一番悪い。各省庁は一体となって対策に取り組んでほしい。メーカーの偽商品には特に注意して、安全な商品を市場に出してください。
東京	男性	60歳～69歳	生産者に対する指導と、チェック体制が不十分。種牛、仔牛の仕入れの時・育てる時・出荷の時、それぞれ。
東京	男性	60歳～69歳	政府は政治家ではなく、「政治屋」がやっているから、業界の方を向いているからどうしようもない。
東京	男性	60歳～69歳	発生後の対策が遅すぎる。
東京	男性	60歳～69歳	畜産農家がNo.をつけて市場、競り等のところで全頭検査を行って、安全と思われるものを出す。どのような顔を与えたのか、また、流通経路等はつきりわからせる。
東京	男性	60歳～69歳	国際的な問題になってから相当地に時間が経過しているにもかかわらず、政府の情報収集の姿勢に積極性が欠如している。官僚の怠慢と知識不足が大きな原因で事の発生に伴う保身から、すべてを先送りしていることに起因する。積極的な研究と情報の精査と公開をすることに命がけで頑張ってもらいたい。国民の方が正確な情報を持っている場合がある。
東京	男性	60歳～69歳	原因追究が第一だと思う。
東京	男性	60歳～69歳	政府の情報公開通りなら問題はないと思う。国民は情報を信用するしかないと思う。
地区	性別	年齢	自由回答
大阪	女性	20歳～29歳	国民に安全なことをアピールしていても、現実には危険な肉が出回っている点で、もっとしっかりと検査すべきだ。
大阪	女性	20歳～29歳	もっと早い時点で公表すべきだったと思う。
大阪	女性	20歳～29歳	対策が後手後手になっている。
大阪	女性	20歳～29歳	一部の商品だけ調べないで、あらゆる牛肉を調べてほしい。
大阪	女性	20歳～29歳	英国で狂牛病が問題になっている時から危機感を持って肉骨粉の使用を禁止するなどの十分な対策を取っていれば、日本でも狂牛病がこれほどまで広がらなかったのではないかと思います。
大阪	女性	20歳～29歳	世の中の金もうけ主義、拝金主義。人間としての道徳感の欠如。長いものには巻かれる主義以上の様な考えが横行し、地球全体の環境を考えられない人間が多すぎる。チェック機関(買収されない)の確立が必要です。
大阪	女性	20歳～29歳	イギリスで狂牛病が発覚した時点で政府も肉骨粉についての危険性を知っていたのにストップしなかったというのが理解できない。大問題になってから急に対策案を出せても全て不十分に思える。
大阪	女性	20歳～29歳	狂牛病が出た時は毎日の様にテレビのニュースに報じていたが現在はどうか不安である。
大阪	女性	20歳～29歳	後手後手になっているのが心配。事が起きないと行動を起こさない。情報の正確さも信用できない。
大阪	女性	20歳～29歳	イギリスの狂牛病が出た時も肉骨粉が原因とわかっていたのに、よく輸入の肉骨粉をとめなかった

大阪	女性	30歳～39歳	HIV の発病者がマスコミに取り上げられ、どうしようもなくなってから問題対策に走り回る様子を見て(消費者・国民泣き寝入り)、今回の狂牛病も数年後かに発病者が出てからの事後処理を、どうまく回避するか?という動きがあるのだからいかに認識も信用もしていない。食肉業界の圧力等を加味しても、同じ失敗はしてほしくない。
大阪	女性	30歳～39歳	情報の完全公開をする。
大阪	女性	30歳～39歳	牧場から消費者に届くまでのはっきりした証明書を、はっきりと店頭で知らせる。
大阪	女性	30歳～39歳	日本でも狂牛病が発生する可能性があるとして外国から指摘があったにも関わらず、日本は安全だと外の声に耳を貸さず、といって決定的な対策を何もしなかったのは問題。
大阪	女性	30歳～39歳	上等の肉を食べて、国民にパフォーマンスをしても庶民は納得いかない。良い高級の肉は、絶対に丁寧に検査していると思うから。
大阪	女性	30歳～39歳	対策がすべて後手後手で、なんの対策にもなっていないのでは?
大阪	女性	30歳～39歳	安全だと言いながら肉を食べるパフォーマンスはどうかと思う。どの食品での同じ事だが衛生的に見直してほしい。
大阪	女性	30歳～39歳	原因説明・情報公開が不十分で納得のできるものでない
大阪	女性	30歳～39歳	イギリスをはじめ諸外国であれだけ問題になっていたのに、その時もっと深刻に考えていてくれればこんな事にならなかった。それに酪農家の人達の生活にも大変な問題をおこした事に、真剣に考えて取り組んでほしい
大阪	女性	30歳～39歳	徹底的にしらべて安全な肉を食べさせて欲しい
大阪	女性	30歳～39歳	お上の言うことは信用できない
大阪	女性	30歳～39歳	狂牛病にかからず何かが起こらないと行動を起こさないやり方と情報の正確さも伝わりにくい
大阪	女性	30歳～39歳	政府は、狂牛病の牛がいるとの事を隠し、その牛をどの様な形で(食肉か、牛肉エキスか、化粧品か)消費したのか。初めに発覚した時には遅い対応で本当にびっくりしました。現在では、この牛は(肉は安全というシールがはられているので少しは安心ですが、本当に検査済か、信用しづらいです
大阪	女性	40歳～49歳	パフォーマンスのしすぎ。発表がだまかすぎる。
大阪	女性	40歳～49歳	一億人を超える人口の国の国民の安全を考える場合、慎重さが足りなかったと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	政府の担当者は諸外国での問題が起こった時点で、すぐに日本での対策をとる姿勢を持つべきであったし、また勉強をすべきであったと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	今まで牛肉に関わって仕事をしてきた人の中には、安全かどうかわからなくても今手元にある肉をお金に変えないと明日一家心中しなくてはならなくなるような窮地に追い込まれている人が絶対にいるはず。自分がその立場に立ったら、自分の子の命を守るため嘘をつき、ごまかし、法を破ってでも売れることを考えると思う。だから、表示を 100%信用できない。国はそういう弱い立場の人を守る方法をもっと考えるべきだ。
大阪	女性	40歳～49歳	海外での狂牛病が出た時も早く対策をとっていたら、このような事故は防げたと思う。対応が後手後手になっている!! もっと早く対策をとってほしい。
大阪	女性	40歳～49歳	早くに原因説明への努力をしていたら、被害もこれほど大きくならなかったのに政府の対応の遅さが狂牛病事件をこのように大きくしたと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	国内牛は安全とPRをもっとする
大阪	女性	40歳～49歳	イギリスでのBSE発病後、肉骨粉の輸入及び使用全面禁止が速やかに発令されなかった。全面使用禁止は徹底されるべき。農水省と厚生省のチェックミスによる管理体制は是正、強化されたのか。他国経由の輸入肉や和牛及び国産肉の設定、又食肉への解体法は完全に安全性が保障されているのか。発病した時の認定・保障は整備されているのか
大阪	女性	40歳～49歳	1996年世界健康機関から厚生省農水省に、牛に対する肉骨粉の使用禁止を求められていたにもかかわらず他国のことを発生率も低いからと楽観視し、そういう事実があったことさえも国民に、そして畜産関係者にも伏せていたことが許せない。今後はもっと透明な、そして国民だれもがわかりやすい情報を報道してもらいたい。消費者としては何を信じて購入すればよいのか不安が残っていない。
大阪	女性	40歳～49歳	もう少し早く狂牛病が出たと言う時点で日本の政府も考えてほしかった
大阪	女性	40歳～49歳	問題が起こってからあわてて行動を起こす政府のやり方でとりあげるとマスコミの騒ぎがだげすぎる
大阪	女性	40歳～49歳	何かあると騒ぎ立てる最近のマスコミの情報の流れを考え、真実の情報だけを静かに伝える方法
大阪	女性	40歳～49歳	イギリス等で問題になった時点で、もっと早く日本としての対策を実施するべきだったと思う。なにに対しても、日本の対策は遅い。いつも問題が出てきてからでは随分沢山の牛肉等出まわっていると思うし、私達の口にも入ってしまっているのではないかと

大阪	女性	40歳～49歳	しっかりと監督して下さい
大阪	女性	40歳～49歳	最初にイギリスで狂牛病が起こった時(ずいぶん以前と思いますが)に、危機管理体制ができあがっていればよかったのではないかと思います。日本で狂牛病の件がおこった時、役人の人が毅然とした態度で説明にのぞんでいなかったことが印象的でした
大阪	女性	40歳～49歳	イギリスであれ程問題になったのに、日本はなってからするので情報が遅い
大阪	女性	40歳～49歳	何でも問題がおこれば発表してほしい
大阪	女性	50歳～59歳	検査をしっかりとしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	もっときっちりとしてほしい。上の人ほど「まあまあ、これぐらいでいいか」などと言っていたが、そこで食い止めて欲しかった。
大阪	女性	50歳～59歳	一部の商品だけ調べるのではなく、加工品等あらゆるものを調べてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	業界を重視するので、隠す部分が多い。検査も形だけにすぎない。
大阪	女性	50歳～59歳	目前の利益ではなく、将来への安全性を考えるべきだったことが、余りにも多すぎる。
大阪	女性	50歳～59歳	諸外国の対応・対策は早いですが、日本ではいつも遅くマスコミが騒いでから対策をしているみたいです。少しでも疑問があればすぐに止めるとか、安全を確認してから回答を出してほしいです。国会議員は自分たちの立場ばかりを気にして、国民のことなど考えていないようです。
大阪	女性	50歳～59歳	もっと情報を早く公開してほしい。隠しすぎ。
大阪	女性	50歳～59歳	はっきり国民に説明できるだけのデータがあるのかどうか疑問だーデータ(資料)が不十分。情報(確かで信頼できるもの)の提供が不十分
大阪	女性	50歳～59歳	対策は始めは一生懸命対策していたが現在は狂牛病がどうなったか少しも分からない。肉を購入するのも不安どうしても鶏肉・豚肉を購入する様になる
大阪	女性	50歳～59歳	政府は何事も起こってからしか動き出さない。一時は狂牛病の事ばかり毎日放送されたが現在は怎么样了安全宣言をされても不安
大阪	女性	50歳～59歳	対策もおそい、もっと早くから研究してほしい。今すぐに症状が出てくるのでなく何年後か心配だ。
大阪	女性	50歳～59歳	きちんとした情報(納得いく情報)を事が起こったらすぐ提供することー情報提供が不十分&情報提供までに時間がかかりすぎるのでこの間に事件がどんどん大きくなって被害が大きくなっていく
大阪	女性	50歳～59歳	何かが起こってから対策にあわてるのではなく必要な事はしっかり初めからやってほしい。マスコミもあまりむやみに騒ぎ立てる事はやめるべきだ
大阪	女性	60歳～69歳	もっと情報公開してほしい。マスコミも信用できない。店やメーカーもいろんな事を隠しすぎ、もっと政府がきっちりと調べてほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	業者のモラルの徹底。
大阪	女性	60歳～69歳	今政府がどのような対策をしているのか、全くわかりません。どうなったのでしょうか？我が国の報道の悪い点、一時は盛り上がり、次の事件が起きるとすぐにその報道ばかりになります。狂牛病に関するニュースは最近聞かなくなりました。
大阪	女性	60歳～69歳	もう少し他の国の対策の勉強をしたらよい。
大阪	女性	60歳～69歳	日本は外国に比べて遅れている。
大阪	女性	60歳～69歳	肉をあまり食べないのかわからない。
大阪	女性	60歳～69歳	このような問題が起こったら、食べなければいいと思っているし、もともと牛肉はあまり食べないほうです。
大阪	女性	60歳～69歳	どこまで信用できるのかわからない。
大阪	女性	60歳～69歳	テレビ等で牛肉を食べて安全ですという様なパフォーマンスはやらないでほしい。それを見て完全に安心とは絶対に思わない。
大阪	女性	60歳～69歳	イギリスでの狂牛病の情報が政府に入ったのは起こりえるパニック等思惑は考えられても、早急に対策すべきだったと思う。この点の政府の責任は大と思う。今だに手ぬるい。信用できる昔からの老舗で買ってはいるものの、この牛肉の飼料はと考える時、鶏肉・豚肉共に同じ様な飼料で飼育されていたのではないかと不安になる。国内の飼育されている牛にはNo.プレートをつけて購買時までルートの解かる様に出来ないのだろうか
大阪	女性	60歳～69歳	不十分と思いますが特にないです。
大阪	女性	60歳～69歳	今まで狂牛病のニュースをよく見たが、現在は全然ニュースでもなくどうなったか不安である
大阪	女性	60歳～69歳	今現在の状態だとどうなっているのかまだ不安である
大阪	女性	60歳～69歳	一頭一頭、今後このようなことが再び起こらないよう徹底的に検査をする必要あり。この調査を今後将来にわたって止めることなく続けてほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	農水省の方が(大臣)が肉を食べていたけど、それがウソであった。それをわかって食べていたのではないから(今思うと)。徹底的に調べてこれで安全というならば皆食べると思う

大阪	男性	20歳～29歳	外国で狂牛病が発覚してからすぐに対策を行うべきだった。何に対しても日本政府は行動が遅すぎと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	発見後、牛肉の流通を規制すること。
大阪	男性	20歳～29歳	前頭検査が脳や神経系のみを対象としているので、不十分ではないか。筋組織へのプリオンの蓄積の可能性など、徹底的な原因の究明が急務だと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	国民に対する情報の提示がなされてこなかった。海外で知られていた BSE に対して、日本で問題になる以前によく調査し、その結果を国民に報告して国がとるべき政策を含めて明確に伝えてこなかった。ただ大丈夫と言うだけでは消費者は信用しない。もっと考えられるあらゆる問題点を消費者に提示しないと全く説得力のない安全宣言になってしまう。
大阪	男性	20歳～29歳	あまり関心がなく、かわりなく生活している。従って、私がとやかく言える事ではない
大阪	男性	20歳～29歳	政府の認識不足(肉骨粉のことも調べていたらすぐわかり生産農家にきちんとした指示を出させていたはずだ) 起こってからの対応が非常に遅く、しかも非常にまずい。農水大臣が狂牛病は神経系の中にあるプリオンが原因だから肉そのものは大丈夫だ…ときちんとわかりやすく国民に正しい情報を伝えていたら被害はこうも大きくならなかったはずだ。大丈夫だと言葉で伝えるだけでは一層の不安をあおるだけだ。
大阪	男性	20歳～29歳	狂牛病が日本へ上陸する以前にいく止める事はいくらかでも可能であったと思います。日本に狂牛病は発生しないと過信していた政府には責任があるのではないだろうか
大阪	男性	20歳～29歳	マスコミに騒がれる前に先手を打って、おおげさなくらいの対策をとっておくべきだと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	諸外国の狂牛病の時も阪神大震災前のサンフランシスコ大地震の時も諸外国で発生した災害を我が国では起きないと変な考え方しかせず実際何の対策もしていない。だから、現在の政府は起こってからじゃないと動き出さない。そして災害が発生して国民を回復しようと何の原因究明もできないのに早トチリで安全宣言を試みたり、何年か前の O-157事件の時も『カイワレ大根』が原因だと言ってみたり前もっての対策が何もできてないからアセって逆に我々国民の不安をあおる結果になっていると思います。もっと冷静な対処をしてほしいと願うばかりです。
大阪	男性	20歳～29歳	情報公開が遅い
大阪	男性	20歳～29歳	狂牛病発症、メカニズムの解明と発表。全頭検査の実態の公表と真の意味での全頭検査の徹底。
大阪	男性	30歳～39歳	まず自然回復。(自然のものは、出来る限り天然のエサで。人工ですれば、ツケはどこかにやってくる。)
大阪	男性	30歳～39歳	本当に全ての牛をチェックできる体制か、その気があるのか疑わしい。
大阪	男性	30歳～39歳	海外での政府や機関で得られた情報を十分に生かしていないし、公開していない。それが農家や食肉業界のためだと思っているようだが、結局消費者の信頼をなくし、消費者・農家・食肉業界全体に不利益をもたらしている。
大阪	男性	30歳～39歳	日本の国は世界から見て遅れている。
大阪	男性	30歳～39歳	素早い情報公開をする。国民のことを第一に考える。業界のことを考えすぎ。
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病うんぬんではなく、政府を信頼していない。だからといって政府のせいにするのもおかしい。対策がなければ事業者は何をやってもいいというものではない。自主的な規制を事業者がモラルをもって行うことを望む。
大阪	男性	30歳～39歳	二転三転する報道を聞くと「安心しろ」という方が無理。
大阪	男性	30歳～39歳	「都合の悪いことはかくす」という体質が、このような事態を引き起こしているような気がする。狂牛病の問題に限らず、政府の体質としてこういう状態を改めない限り、いつまでも同じような問題はくり返されるように思う。
大阪	男性	30歳～39歳	日本初の狂牛病に罹患した牛が肉骨粉になってしまったことが、どうしても考えられない。ひどい対応だと思う。しかもそれを公表したのが遅すぎる。よく確認もしないで、発表しているということだから、その後もそのようなことがいくつか続き、すっかり信用できなくなった。雪印食品も、国産牛の保護制度を悪用していて、監視システムがなかったのはとても問題だと思う。
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病発生国から情報が不十分。狂牛病が発生する可能性のある地域全ての牛を焼却処分する等、国による安全性の保証
大阪	男性	30歳～39歳	諸外国からの生活にも耳を貸さず、検査内容も十分でなかった、我国は大丈夫と言い続けて来た。
大阪	男性	30歳～39歳	対策が不十分と言うよりマスコミの騒ぎすぎでひどい目にあたって人が多くいる。一つ騒ぐと迷惑だけでなく生活が出来なくなる業界もある事をもっと考えて行動をしてほしい
大阪	男性	40歳～49歳	対策処置が遅い。
大阪	男性	40歳～49歳	行政の責任感の欠如。

大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病対策に限らず、全てに関して起きてしまってからあれやこれやと言っているように思う。
大阪	男性	40歳～49歳	中途半端な気がするので、もっと徹底してほしい。
大阪	男性	40歳～49歳	もう少し正確な報道をすること。
大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病が発見された後、発生の発表が遅すぎる。
大阪	男性	40歳～49歳	役人との癒着があるのでは？退職してからでも失策に対しては責任を取らせるようにする。
大阪	男性	40歳～49歳	不安で牛肉は食べたくない。安心出来、肉を沢山食べられる様になりたい
大阪	男性	40歳～49歳	政府の対策と言われていることをマスコミが十分に伝えているかどうか不明でわからないが乳牛に肉骨粉なるものを与えて原乳の成分を調整させたのも農水省だし、今回のことで一番困っているのも農水省なのでその方面の対策は不十分だと思う
大阪	男性	40歳～49歳	英国で狂牛病が起ってから業者に対して通達を出すのに1ヶ月程かかっていたそうです。そして、この間に肉骨粉の消費量が通常の倍になっていたそうです。国内3頭の狂牛病はいずれもこの時期に生まれているそうです。これは肉骨粉業者を保護するための行動としてしか思えない。それと狂牛病について政府もあまり知識がなかったのではないかなと思う
大阪	男性	40歳～49歳	この問題にかかわらず不十分な情報が政府に多い
大阪	男性	40歳～49歳	対策が見えてこない。中途半端。
大阪	男性	40歳～49歳	雪印食品等の犯罪があった
大阪	男性	40歳～49歳	企業を保護していたと思う
大阪	男性	40歳～49歳	政府の対策が十分出来ていないから信用できない。
大阪	男性	40歳～49歳	牛肉に対する検査体制はこれだけ大きな問題となった今では、現在取り得る最高レベルになっていると思う。しかし、農業・畜産の問題に対しては政府は、政治圧力に屈しがちである事は容易に想像でき、今回の初期においても情報の操作・隠ぺいなどはあったと思う。日本国民の総意でない政治の一端が今回の問題でも明らかになったと考える
大阪	男性	50歳～59歳	対策が遅い。ゴテゴテしてから何回公表しても安心感はない。早く手を打つべきだった。怠慢の一言に尽きる。
大阪	男性	50歳～59歳	政府の対策が見えない。
大阪	男性	50歳～59歳	安全危険とか狂牛病対策という議論そのものが大げさです。
大阪	男性	50歳～59歳	英国で発生した時点では、他山の石であったと思う。まさか肥料の中にその原因となるものがあるとは、政府も思ってもみなかったと感じる。
大阪	男性	50歳～59歳	信用できなかったら食べられないので、生産者の問題なので政府に聞いても仕方ない。
大阪	男性	50歳～59歳	一部分しか検査の結果を発表しないから、国民は納得いかない結果になってしまう。もっと今こんな形で、ここまでなら検査が済んでいるというように、すべて発表してほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	対応の結果、全てを公表してほしい。その時期がとても遅い。
大阪	男性	50歳～59歳	肉骨粉の規制が遅すぎた。
大阪	男性	50歳～59歳	流通業界や食肉販売業界のモラルの低下が、大きな原因の一つと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	その時、その時の対応で終わって先のことを考えていない。先を考えた対応を示してほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	何年も前にEU諸国より報告があったにもかかわらず、手のうち方があまい。先が見えない官僚が多い。わかっている人がいても上司に口を出る事が出来ない。官僚のシステム政治にも問題があり、下の云う事も聞く耳をもてるような政治、国にならなければ何度でも、このような事がおこります。
大阪	男性	50歳～59歳	狂牛病対策に不十分な点があると思う
大阪	男性	50歳～59歳	全頭検査の内容が一般消費者に公表されていない。検査チェック体制が機能しているじゃ不明。安全行政が縦割になっており、本当に健康を考えた行政機能になっていない。不正を行った場合でも、業界保護の姿勢から抜けきらない。
大阪	男性	50歳～59歳	政府は官僚に問題があれば更迭して、問題点をあやふやにする傾向があり、これでは根本的な対策はとられない。最後まで、担当者に問題点の原因と対策をとらせて、今後二度と生じないようにすべきである
大阪	男性	50歳～59歳	騒ぎただけで国民を不安にする事の方が多い
大阪	男性	50歳～59歳	発見して以後、狂牛病がとても政府が覚えている様な気がする→まだはっきり公表していないのではないかな？食肉牛は3～4年で加工するのに乳牛は乳が出なくなってから加工すると聞いている。感染していても発症していない牛がいるのに公表していないと思う
大阪	男性	50歳～59歳	政府の狂牛病対策に対する認識と対応があまりにも遅く説明が物足りなくて、余計に消費者に不安を与えて、物事が大きくなりすぎた。
大阪	男性	50歳～59歳	どんな問題にしても対策がおくれる事
大阪	男性	50歳～59歳	生産者の立場に立っていたのが悪かったと思う。

大阪	男性	60歳～69歳	あまりはっきり物事を見極めていない。政府にとって不合理な事も発表すること。
大阪	男性	60歳～69歳	どこまで検査しているのか、よくわからない。
大阪	男性	60歳～69歳	どこまで検査しているのか、はっきりとした対策がわからない。
大阪	男性	60歳～69歳	隠し事をせず正直に国民に知らせるべきである。業者・農家との癒着をするな！二度としないように心せよ。
大阪	男性	60歳～69歳	農相がもっとしっかりしてほしい。
大阪	男性	60歳～69歳	第一に国民の健康に目を向けた政策・対策を行うこと。他の食品や薬の事でも業界よりも国民の健康を最優先するようお願いいたします。業界も消費者等第一に行動することを願います。
大阪	男性	60歳～69歳	物流業者への立入検査も必要。
大阪	男性	60歳～69歳	十分ではないと思いますが特に言う事はない
大阪	男性	60歳～69歳	どうすれば良いかと言われても良くわからない。個人の考えがあるから
大阪	男性	60歳～69歳	次から次と出てくるので止められない。全てウソばかり未だに信用できない、何をいっても無駄
大阪	男性	60歳～69歳	農林大臣が頼りない。専門家でないのに表に出て云いすぎる。プロにまかせた方がよい。
大阪	男性	70歳以上	イギリスでの前例があったにもかかわらず他国の事件として何の対策も取ってこなかったこと。(オーストラリアのようにイギリスでの事件後きちんと対策をたてて行っていたら日本での事件は防げたはずだと思う)
東京	女性	20歳～29歳	事前の対策が悪すぎたと思っている。政府も業者もイギリスの業者もイギリスの狂牛病問題の段階で何かするべきだった。話題にならなすぎたこと、業者が利益を追求しすぎて見てみぬふりをしたことetc… 全頭検査の薬品が試験管にぬれていない状態の検査があったと聞いた時はあきれた。
東京	女性	20歳～29歳	国民がきちんと理解できるような説明がなされていない。安全宣言ということで牛肉を食べる姿を公開していたが、その人達だけは安全で汚染されていない肉を食べているように感じた。信用できない。牛肉を食べる気はない。
東京	女性	20歳～29歳	検査の結果も十分に公表されているか不安だし、BSEが発見されてからの政府の態度も不満。全く信じられない。
東京	女性	20歳～29歳	取り組みが遅すぎる。
東京	女性	20歳～29歳	政府は過去にとらわれず正確な情報を十分な発表をしてほしい。
東京	女性	20歳～29歳	肉骨粉の輸入をもっと早く止められなかったかと思う。狂牛病との関係は何年も前からわかっていたはず。
東京	女性	20歳～29歳	対策を取るのがあまりにも遅すぎたと思う
東京	女性	20歳～29歳	何事においてもオープンでなし、対応が遅い。早く対応してほしい。
東京	女性	20歳～29歳	情報公開が不十分だと思う。一時期に比べると狂牛病の話題が減り、現在の状況がわからない。もっとコンスタントに情報を流してほしい。
東京	女性	20歳～29歳	日本で問題になる以前から外国でも報道されているのに日本は大丈夫と安易に思い、うわべで出たものだけを処理している日本の政府は、国民のことを全然考えていないと思います。
東京	女性	20歳～29歳	面倒くさがらずに安全を追求してほしいと思います。
東京	女性	20歳～29歳	狂牛病の検査は二重で行うなどしているようですが、それは国内産の牛に関してである。外国からの輸入牛にはどういった対策・基準を設けているのか全くわからないので不安ではある。
東京	女性	30歳～39歳	初期段階での対策が不十分だったので、このような大問題になってしまった
東京	女性	30歳～39歳	狂牛病について政府はきちんと調査できているのか？検査をしているからといって、本当にその検査が安全なのかがわからない。
東京	女性	30歳～39歳	狂牛病だけに限らず豚肉や鶏肉の問題も含めて、「食品を扱っている」「人が口にするものだ」という意識が低いのではないかと考えています。この意識、責任感があれば、政府という漠然としたものではなく、実際に牛肉に触れて仕事をしている個々の人々にもっと危機管理をしてもらいたいと思っています。そのために教育の場を設けたいと思います。
東京	女性	30歳～39歳	肉骨粉が安いからと言って使ってしまう農家も悪いが、政府が監視をしていれば消費者に波及しない
東京	女性	30歳～39歳	きちんとした情報公開をする事で他の病気(ヤコブ病など)に関してや、ありとあらゆる面で説明をすればパニックにはならないと思う。
東京	女性	30歳～39歳	肉骨粉の輸入禁止
東京	女性	30歳～39歳	初めから終わりまで全然ダメ。外国で狂牛病が出た時に、明日は我が身と思って対策をとるべきだった。
東京	女性	30歳～39歳	情報公開が不十分だと思う。
東京	女性	30歳～39歳	何に対しても日本は大丈夫という対策の不十分さ。対策をするのも遅い。狂牛病はもともとずっと前からあったもので、万が一を考え、もっと早く対応するべき問題だったと思う。

東京	女性	40歳～49歳	イギリス等で狂牛病が発生し、肉骨粉が原因ではないかと、いろいろなメディアで報道されていたのに、日本では肉骨粉の輸入を制限せず従来通りの飼育をしていたから
東京	女性	40歳～49歳	とにかく信頼できるような行動をとってほしい
東京	女性	40歳～49歳	問題が起きてから、あわてて対策をとっているの、全頭検査といっても、完全にされているのか不安。
東京	女性	40歳～49歳	政府の対策は企業とのつながりに主を置いているからだと思う。世界の情報に対してマスコミ関係も政府ももっと敏感になってもらいたい。疑いが生じてきたらすぐしてほしい。
東京	女性	40歳～49歳	狂牛病の発生したことはいろいろ伝えられるが、それを食べた人間がどうなるのか、どういう症状が出てくるのか、医療的にどう治療をするのか、それを知らせてほしい。よくわからないから不安。ぜったい食べない方がいいのか、少し位大丈夫なのか。
東京	女性	40歳～49歳	農林大臣の発言を聞いていると、事実の後追い発言、状況によってコロコロ変わる発言が消費者の疑惑をあと、怒りを感じるのだと思います。業者におもねることなく、主導権をもって早めの対策を！！
東京	女性	40歳～49歳	英国等の狂牛病対策と比べて手ぬるい。その時の批判を抑えられればいいというような小手先のごまかしに終始している。消費者が生産者や牛の生育歴を知ることができる仕組み作りが必要。
東京	女性	40歳～49歳	今回の対策以前に、狂牛病による人的被害の有無をはっきり知りたいと思います。生肉の場合は現在不安は感じませんが、エキス等加工品の場合の方が、消費者は気づかずにいるのではないのでしょうか。
東京	女性	40歳～49歳	食肉の生産工程を見直してほしい。生産量を上げるために動物を育てているのは、やはりひずみが生じるから。そして、病気を研究して理解して、そのような病気が起こらないよう努力してほしいです。
東京	女性	40歳～49歳	消費者よりも業界に向いており、特に族議員は自分達のことしか考えていない。何でも日本は後手後手で起きてから慌てている(毎回)。スーパーの表示も嘘が多い。嘘はいけない。信用できない。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで狂牛病騒ぎがあった時、日本もすぐに国内の対策をたてるべきだったと思う。
東京	女性	50歳～59歳	プリオンについて十分理解していない。食肉牛だけではなく、プラセンタエキスやコラーゲンについての政府独自の検査システムが不備である。
東京	女性	50歳～59歳	問15に書いたよう(政府・農林水産省の狂牛病対策が十分でなかった)に狂牛病に限らず、政府のやることは、後手、後手のくり返し、不信な点が言われ始めた時、速やかに対処していれば物事が大きくならずに済んだはずの事柄が沢山あるように思います。そして苦しまなくて済んだ人達も沢山居ると思います。「馬鹿を見るのはいつも庶民だ!!」の気持ちが大きいです。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで発病した時に日本もちゃんと対策をとればよかった。危険だと思う時期の牛肉を国民の税金で、国が買い上げるといふだけの事は安易でその場限りの対策だと思う。
東京	女性	50歳～59歳	政府の一度のあいまいさが、いまだ尾引いている。
東京	女性	50歳～59歳	不十分である。情報が有りながら水際でくい止められなかった事は重大である。誤まってすまないと思います。政府は対策を立てたくとも、どうして良いのか解からないじゃないか。もっと民間の多くの人たちから考えを集めた方が良いと思います。日本人は何か起きて、事の重大事件に発展しないと重い腰を上げないと、癒着(利権)があるから対策も十分出来ないだろうと思う。
東京	女性	50歳～59歳	情報が正確に発表されているとは思わない。
東京	女性	50歳～59歳	政府が対策についてどういった具体策を打ち出して、又どういったことを現在、そしてこれから絶対にこういった問題が起こらないかが私達には見えていない
東京	女性	50歳～59歳	国内産牛の全頭検査をしているようですが、検査済みの牛肉については識別ができるようにすべての商品名に「検査済」ラベルを表示して欲しい。私達はそのラベルを見、信用して購入しているのだから。
東京	女性	50歳～59歳	現在テレビでも又、丸紅他にも正確さ、正直さにかけてます。何を信用して良いのか大変不安を感じてます。
東京	女性	50歳～59歳	外国からの情報を対岸の火事の様になっていた国。狂牛病が発生している国からの肉骨粉を輸入したり、国内での発生に対しても原因の追及もあいまいです。
東京	女性	50歳～59歳	外国で問題になった時の対応がまるで出来てない。十分な対策がとられていたら、日本には狂牛病は入って来なかったのではないかと。
東京	女性	50歳～59歳	現在の対策は十分に行われているように広報されていますが、信用ができません。
東京	女性	50歳～59歳	やっぱり、外国で起こってすぐ日本でも対策をしなかったこと。

東京	女性	50歳～59歳	安全宣言していながら問題があったのは何だったのだろうと思う。1頭だけだと思ったけど、2頭3頭出てきたこと。
東京	女性	50歳～59歳	もう少し十分に情報を得て対応してもらいたい。イギリス等から情報を得て、韓国はわかった時に全部焼いた。日本は対応が遅れている。
東京	女性	50歳～59歳	イギリスで問題が起きた時に、自分はベルギーにいた。ベルギーでも、店の棚から牛肉が全てなくなった。安全が確認されてから店に並んだ。よくわからないが、日本の対策は不十分。
東京	女性	50歳～59歳	何か事が起こると大騒ぎするが、すぐ忘れてしまうという何に対しても同じやり方。息を長く研究してほしい。
東京	女性	60歳～69歳	諸外国で異常事態が起こった時点で良く調査をして危険な事がおこらないように充分注意してほしい
東京	女性	60歳～69歳	狂牛病に限らず、今の政府のやることは信用できないと思っています。弱い者に強く、強い者に弱い。こんなことが狂牛病に現れているのではないかと…。
東京	女性	60歳～69歳	上記 4(現在の政府の狂牛病対策は、諸外国にくらべて劣っている)の通りだと思う。人体に関わることのあらゆるところで、鈍感で怠慢だと思う。生産農家が牛の飼育の餌の全てを日本国内で入手できるようにすべきだと思います。餌のあり方をすぐに変えるべきです。肉骨粉を使わずに穀物粉で育てたらどうでしょうか。お米がダメで転換した人が多いそうで、空き地に麦を育て餌にして自然食で育てるべきです。
東京	女性	60歳～69歳	政・官・業と自民党の族議員の悪行、これはBSEの問題だけでなく、すべてのことがおかしくなっているのが悲しいです。もっともっと学者もマスコミ(新聞・雑誌・テレビ等)で発言してほしいと思います。
東京	女性	60歳～69歳	政府は我々より、より以上の情報をより多く、より早くキャッチしていると思います。今回の事にしても数年前より外国からの情報が入っていたのにもかかわらず無視していたのではないかと、いったい何を考えているのかと疑わずにはいられません。今回の事にしても一寸とした事で日本への上陸もふせげたのではないのでしょうか。その結果が現在に至って多くの肥料を日本に持ち込む結果となってしまったのではないのでしょうか。もっと自分の持っている役目に責任を持って頂きたいものです。肉を食べる食べないの問題ではないと思います。その様な役職の方こそもっと取り締まって頂きたいです。
東京	女性	60歳～69歳	政府と業者との間で一線を引けない状態がある。これは駄目だというふうにきちんとすべき。
東京	女性	60歳～69歳	根本的に政府の対策が信用できない。嘘やごまかしが多く、安心できない。
東京	男性	20歳～29歳	牛から人間に伝染するのかをイギリスと日本の狂牛病の牛の頭数とクロイツフェルトヤコブ病患者の数の比較など具体的なデータを基に説明してもらいたい。
東京	男性	20歳～29歳	元々狂牛病には未解明の謎が存在する。故に、完全な対策など現時点では存在しないと言える。つまり、狂牛病とは無縁の世界に逃れたいと思うのなら、牛が原料として使われているものを手にしないということだろう。
東京	男性	20歳～29歳	マスコミが騒ぐだけで、詳しいことが全くわからない。「狂牛病」という言葉だけが出回っているといった感じです。
東京	男性	20歳～29歳	畜産農家の保護が不十分。牛を持っていかれそれに対する保障がなかった。
東京	男性	20歳～29歳	外国で先例があったのに、それに対する危機意識が低いというか充分な対策がためされなかったと思う。
東京	男性	20歳～29歳	国民を守る役目を果たしていない。
東京	男性	20歳～29歳	全頭検査を行ったということですが、どのような検査方法で本当にすべての牛に対して検査を行ったのか等の情報が伝わって来ない。
東京	男性	20歳～29歳	今は不十分な点はないと思う。今までのことは、非加熱のものを輸入していたのが不十分だった。
東京	男性	20歳～29歳	不十分な点だらけですが、我々消費者に対策の手はありません。
東京	男性	20歳～29歳	対応が遅すぎた。危機管理が全然なっていない。
東京	男性	20歳～29歳	イギリスで狂牛病が表面化した時、国内産の牛の調査と飼料の検査等をすべきだった。また、国内で狂牛病が発見された時、農水省は迅速に思い切って情報を公開した方が良かった。
東京	男性	20歳～29歳	生産・流通過程で二つの省庁(農水・厚生)の管轄になっていることから、責任の擦り付け合いというタテ割りの行政の弊害が出ている。少なくとも食肉に関しては、一つのセクションが生産～流通まで一括して担うべき。CJD は潜伏期間があるため(と聞いている)、数年後発症者が現れるかもしれない。その時にもうすでに安全な状態であるにもかかわらず、マスメディアの挑発に乗って 1996 年のイギリスのように無益な乳牛消費禁止令など出してはならない。国民に対し、真摯な説得が必要である。(もちろんマスコミもいわずに大衆を煽ってはならない。)国民もいわずにヒステリー反応を起こしてはならない。それぞれがもっと知識を入れて賢くなることが一番大事。

東京	男性	20歳～29歳	海外からの情報を軽視しすぎるのではと考えます。対策としては、狂牛病自体に関する経過等をもう少し表立って知る機会がほしい。
東京	男性	20歳～29歳	外国は問題が起きた時すぐ対処するが、日本は対応が遅れている。
東京	男性	30歳～39歳	役所が業者に気をつかっている(天下りを受入れているからか?)特に化粧品指定品(ホームページに出てるもの)がイギリスの基準より悪い。ヨーロッパやアメリカで問題になっていることを、国内で問題視しなさ過ぎる(国民はどうなってもよいと思っているとしか思えない)薬害エイズと同じく族議員の排除が必要
東京	男性	30歳～39歳	大臣が牛肉を食べてる報道があったが、わざとらしい。又、肉の流通経路についても不明な点が多すぎる。
東京	男性	30歳～39歳	政府も生産者も似た様に思ってしまった。
東京	男性	30歳～39歳	族議員の圧力で業界保護が先で、消費者を馬鹿にしている。なぜ、農水大臣が安全だと言えるかわからない。
東京	男性	30歳～39歳	信用できる対策が一つもない。
東京	男性	30歳～39歳	欧米では早くから騒いでいるのに、わが国は対策が遅い。真面目に取り組んでいない。生産者のことを考えていない。色々な面で説明不足である。
東京	男性	30歳～39歳	武部大臣がテレビに出て釈明すればするほど、不安が広がる思いがした。大臣が安全宣言した後に狂牛病の牛が見つかり、政府は信用できないと思った。
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病の感染源が異常体プリオンにあり、牛の肉骨粉を牛に与えることで感染することはかなり前から知られていたのに、外国の話として放置しておいたこと
東京	男性	40歳～49歳	全国的に対策が行われていないのではないかと(地域のバラツキ)
東京	男性	40歳～49歳	政策が後手後手になってしまっている。業者との何らかの利潤が絡んでいるにちがいない。全ての政策がそうであるように
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病が外国で問題になった時点でもっと早く対策をするべきだった
東京	男性	40歳～49歳	自民党及び東京大学など社会のダニを地球からおいだすべき
東京	男性	40歳～49歳	全頭検査をしているが、その結果が消費者に正確に公表されていないと思う。
東京	男性	40歳～49歳	欧米で問題になった時点で対処すべき事柄があったにもかかわらず、手をこまねいており、そのツケが今のような深刻な事態になったのではないのでしょうか。誰が責任を取るというのではなく、どのような仕組みで危機管理をしているのかが問われています。
東京	男性	40歳～49歳	アイスランド等で行われている肉牛の管理システム等を導入し、出産から商品になって店頭に出るまで全てを消費者が確認できるようにしてほしい。
東京	男性	40歳～49歳	政府は狂牛病対策に何もしてないと思うし、前向きな対策も行っていない。信用できない。
東京	男性	40歳～49歳	マスコミの騒ぎ過ぎ。
東京	男性	40歳～49歳	職権に基づく完全な調査が実施されていない。より強力な調査権限を担保する法改正がなされていない。
東京	男性	40歳～49歳	国産牛はもとより外国産牛肉、牛肉エキス等の加工品の安全性がどの程度まで確認されているか?
東京	男性	50歳～59歳	狂牛病発症畜産農家の全頭屠殺すべきだった。又、新聞報道等で、全頭検査後安全な食肉を出荷と伝えられているが、検査精度が明確でない。厚生省は許認可品目のBSE対策を業界に徹底したが、農水省の対応が不明瞭である
東京	男性	50歳～59歳	ヨーロッパやイギリスでは何年も前から何十万頭という牛を処分して来たのに、それに対して対岸の火と思いい、何もしないで「日本の牛は安全だ」と言いつけて来て日本政府及び官僚そして業界団体のリーダー達は無知であつたとともに思い上がっている。もっと真摯に事態をとらえていかないと、これから第2、第3のBSE問題に日本は対処出来ない。そしてそれは現在の不況を産んでいる原因の1つでもあるだろう。
東京	男性	50歳～59歳	50%の検査結果で100%したかの様に報告している。時間をかけても十分に検査して、報告して欲しい
東京	男性	50歳～59歳	役人は民家の側よりも反対の立場を保護する。厚生省の如くアメリカで使用した薬品を日本では其の後10年も使用していた事が示す様に農水産省でも同様だと思う。
東京	男性	50歳～59歳	BSEの重大な結果に対する(食料生産・人への被害)認識に欠け、対岸の火事以下と考えていた上に、農水省は牛肉生産～販売者までの保護、厚生省はこの病気が日本で発生するなどと想像すらせず、共に形式的な書類の事に終始していたと思われる。
東京	男性	50歳～59歳	政府と企業の癒着がある限り、この状態は続く。

東京	男性	50歳～59歳	官と業の利権がある以上、何事も中途半端に終わる。対策を行うと同時に改革も平行すべき。外務省、農水省、通産省との合同プロジェクトを編成し、情報のエクステンションを十分に行い、対岸の火事的行動ではなく水平転回する必要がある。2. 3 千億円の国費を投入し、日本国内にいる疑わしい牛を全頭処理する。
東京	男性	50歳～59歳	農水省、食肉関連業界全て信用できない。当初の忠告が何回もあったのに全くとりあわなかった農水省の役人の対応が全て原因だ。気になるので牛肉は食べないようにする。他の肉も食べないように魚貝、菜食をとるようにしている。しかし、牛肉がやっぱり食べたくなくて困っている。
東京	男性	50歳～59歳	万一のことで考えているいろいろな対策を考えておくべきなのに全く何もされていない。
東京	男性	50歳～59歳	政府の対策も重要であるが、生産業者・中間業・販売業者の自覚がなければ今後も続く。
東京	男性	50歳～59歳	各方面に(牛肉使用)業界に定期的検査を行い、結果をマスコミ等により一般に知らしめる。(情報等)
東京	男性	50歳～59歳	結果責任を取っていない一国民から信用されない
東京	男性	50歳～59歳	I. D 管理(イタリア?)を十分にしていたらよかったし、今後も I. D. 管理をしっかりやってほしい。行政のたて割行政の予備が表面化した。
東京	男性	50歳～59歳	本人の自由。自分で考える事。
東京	男性	50歳～59歳	政府のやる事はわからないがもっと各人が他人のいたみのわかる人、情性で仕事をやっているか、もっと厳しい姿勢で国民の為に奉仕してもらいたい
東京	男性	50歳～59歳	政府が安全宣言しても、その後発生をしている。
東京	男性	50歳～59歳	日本の行政の特徴は公害、被害エイズなどや公共事業も含めて全ての面で、旧大日本帝国の最後の頃と同じで、黒を白と発表する大本営発表であり、事実の積み重ねから真実を追究せず「会議」により真実をでっち上げることをしているので、全く信用できない。どんな対策を発表してもインチキである。
東京	男性	50歳～59歳	現在の状況を細かく発表する。
東京	男性	50歳～59歳	情報公開が遅れている。
東京	男性	50歳～59歳	情報公開をもっと完全に行うこと。
東京	男性	50歳～59歳	疑わしい時は処分する。農家に負担をかけずに行政がする。
東京	男性	50歳～59歳	政治家と業者の全ての癒着が改善されない限り、同じようなことが繰り返すと思います。
東京	男性	60歳～69歳	本当の事をきちんと報告してほしい
東京	男性	60歳～69歳	対応の悪さ、遅さ。
東京	男性	60歳～69歳	海外で話題になった時に、国内対策は十分に行われていると思っていた。役所の対応には怒りを覚える。
東京	男性	60歳～69歳	今までの政府の立場は生産者を保護する所にあったが、この狂牛病のことで消費者を大切にすることが、結果的に生産者のためにもなるということが実証された。もともと国民の安全を守るというのが政府の最優先課題のはず。もって銘すべし。
東京	男性	60歳～69歳	政府の対応の遅いこと。今後は牛を育てる人、そして牛をどう育てているのか、どう私達の口に入るのか、消費者にわかりやすくガラス張りにして早く安心して食べられるようにしてほしい。
東京	男性	60歳～69歳	大手業者管理が現状のようでは何を信じていいのかわからないではないか!! 現状の政府は一時迷いの対策としか思えない。イギリスの狂牛病のようにできないものかと思う。
東京	男性	60歳～69歳	イギリスの状況がわかった時点で他国の問題でなく自国の問題としてとらえ、もっと早くに適切な対策を取るべきだ。真剣さが足りない。政治家・公務員の怠慢さが表面化した一事例だと思う。
東京	男性	60歳～69歳	農水省の対応が不十分で不安である。クロイツフェルト・ヤコブ病については数年前から全ヨーロッパで大騒ぎで国家問題にして対応しているが日本には飛び火は無いと厚生省の役人の怠慢から国内問題に発展したのでは!! グローバル社会に対する考えが未熟だ!!
東京	男性	60歳～69歳	政府たちの騒ぎすぎ、マスコミたちの騒ぎすぎ
東京	男性	60歳～69歳	政府の対策が後手後手になっている。省庁同士の責任の擦り合いが一番悪い。各省庁は一体となって対策に取り組んでほしい。メーカーの偽商品には特に注意して、安全な商品を市場に出してください。
東京	男性	60歳～69歳	生産者に対する指導と、チェック体制が不十分。種牛、仔牛の仕入れの時・育てる時・出荷の時、それぞれ。
東京	男性	60歳～69歳	政府は政治家ではなく、「政治屋」がやっているから、業界の方を向いているからどうしようもない。
東京	男性	60歳～69歳	発生後の対策が遅すぎる。

東京	男性	60歳～69歳	畜産農家がNoをつけて市場、競り等のところで全頭検査を行って、安全と思われるものを出す。どのような顔を与えたのか、また、流通経路等ははっきりわからせる。
東京	男性	60歳～69歳	国際的な問題になってから相当に時間が経過しているにもかかわらず、政府の情報収集の姿勢に積極性が欠如している。官僚の怠慢と知識不足が大きな原因で事の発生に伴う保身から、すべてを先送りしていることに起因する。積極的な研究と情報の精査と公開をすることに命がけで頑張ってほしい。国民の方が正確な情報を持っている場合がある。
東京	男性	60歳～69歳	原因追究が第一だと思う。
東京	男性	60歳～69歳	政府の情報公開通りなら問題はないと思う。国民は情報を信用するしかないと思う。

問26 あなた自身は、政府や食肉業界、生産農家などがどのような対策をとったら、多くの人
が牛肉を食べるようになると思いますか。何でも結構ですから、おっしゃってください。

地区	性別	年齢	自由回答
大阪	女性	20歳～29歳	嘘のない正直な発表をする。
大阪	女性	20歳～29歳	消費者が安心して食べれるような表示をしたお肉があれば、食べるようになると思う。
大阪	女性	20歳～29歳	牛肉の生産者をはっきりとする。検査基準を通った牛肉は、はっきりと表示をしたラベル等をつけて消費者にわかるようにする。
大阪	女性	20歳～29歳	今の現状で安心して牛肉を食べるのは難しいと思う。政府も食肉業界も信用できないし、日本産より外国産(アメリカ・オーストラリア)の牛肉は安全だと聞いているので、今は外国産に頼るしかないと思う。これから原因を明確にしてきちんと政府が発表すれば、国民からも信頼が戻って日本産牛肉を食べるようになるのではないかなと思う。
大阪	女性	20歳～29歳	流通過程をシンプルに、身元を明らかに。査察も定期的に出来るようにすること。必要以上に海外から食料を輸入することなく、国民全体が腹八分目を目指せばゴミも少なくなることが出来、環境も汚さずに、本当に優良な牛肉が口に入ることになる。
大阪	女性	20歳～29歳	アメリカのように出荷前(加工前)に一頭一頭何の問題もない牛がチェックしてから出荷するようにして、またそれがきちんと私達に伝わり不安を取り除くことが出来れば食べるようになると思う。
大阪	女性	20歳～29歳	今後は徹底的に国が調査をして我々に安心して牛肉を食べられる様取り締まりをして欲しい。
大阪	女性	20歳～29歳	牧場でのエサを安心できるものにし、又、報告してほしい。狂牛病は何年後が経た後で症状がでるらしいので、その病に関しての処置や薬で治るとの見解を知りたい。
大阪	女性	20歳～29歳	政府や業界が事実を隠さず、なぜこの牛肉はBSEの危険性があるのか、あるいはないのかははっきり説明し、消費者がこの牛肉だったら安心と納得できる材料を提供する。牛肉業界全体を保護するのではなく、消費者第一に考え、危険性のあるものは、すぐに情報をオープンにする。対策も予め、行う。
大阪	女性	20歳～29歳	政府や食肉業界が全く不正をなくしてしまったら安心して牛肉を食べるようになると思う
大阪	女性	30歳～39歳	保険のような証書を発行。自信があれば名前や社名、農水省でも発行できると思う。もし万が一何かあれば、全責任保障する。(狂牛病以外もちろん含む)購入時に消費者は保険加入者となる。
大阪	女性	30歳～39歳	少し金額が高くても本当に安全な牛肉を販売してほしいと思います。政府や業者が嘘ばかりつくので、何を信じていいのかわかりません。牛肉以外でも、本当に安全なのかなと思います。
大阪	女性	30歳～39歳	あらゆる物をチェックして検査の結果が安全なら「ここまでしました。もう安全です。」というマークをつけて売るようにすればよい。
大阪	女性	30歳～39歳	政府の狂牛病対策を徹底してほしい。はっきりと安全な証明が店頭でわかっていれば、安心して買えると思う。今はまだ不安の方が大きいので買い控えている。
大阪	女性	30歳～39歳	政府の発表する安全対策が完全なものであると安心して食べれる様になる。不信感を持つ様な発表では、信頼できない。
大阪	女性	30歳～39歳	やっぱり気がかりなのは病気の事です。自分が食べるのはいいけど将来的な事を考えると、子供には、食べさせたくありません!! 食べたらどうなるのか、何ともないとは、いいきれないのではないかな? もっともっと情報が欲しいと思います。
大阪	女性	30歳～39歳	とにかく情報を正確に公開すればよいと思う
大阪	女性	30歳～39歳	エサの段階から安全であるというたしかな物を選び、品質管理をしっかりする。どこのエサで、どこの牧場で、どの様に育て、エサはどれかを明確にする。
大阪	女性	30歳～39歳	原因解明が不十分だと思うので徹底的に行い、きちんとした情報をわかりやすく国民に知らせる事。

大阪	女性	30歳～39歳	エサをちゃんとした物にし、ありのままを伝える
大阪	女性	30歳～39歳	正しく調査して正しく報道してほしい
大阪	女性	30歳～39歳	牛肉販売店など合格とか(この肉を食べたらよい)ラベルが貼っていれば安心
大阪	女性	30歳～39歳	政府がしっかりと安全性を解明・究明することが出来れば、多くの人も牛肉を食べる様にはなると思うが、今のままでは絶対に駄目だと思う
大阪	女性	30歳～39歳	狂牛病の牛肉が100%市場に出ないという安心感があれば食べるのでは、図合の悪いことはかくしたりせず、また万全な対策を講じることがいいと思います。私自身は安全100%でなくても狂牛病に感染する可能性がごくわずかなら平気だと思って食べてます。
大阪	女性	30歳～39歳	イギリスでの狂牛病の前例があるにもかかわらず、政府は他国での事件とし、自国で事が起こるまで特別に動くこともなく、原因究明対策など大幅に遅れてしまった。他国での事件が自国でも起こる可能性のあるものとしてもっと早く動いていればこのように被害も広がらなかつたように思うし被害そのものさえ出さずにすんだかもしれない。肉骨粉のこともイギリスでのことを早く調べていたらわかっていたことなのではないか。対応を事が起こる前からもっと早く起こして国民や生産者の安全・利益を守ってほしい。
大阪	女性	30歳～39歳	事実を隠さず、消費者が納得のゆく説明をしっかりとすれば、消費者は自然について行くと思う
大阪	女性	30歳～39歳	狂牛病の牛が発見した時も、対応が遅く、今までに狂牛病に牛を食べているかもしれないという不安がすごく大きいです。確実にこの肉は安全だという事が分らないと、私は買っていません。そして、神戸牛と書いてある牛を主に買っています。神戸牛は他の牛に比べて高いですが、肉骨粉を使っていないので、安心してます。
大阪	女性	40歳～49歳	日本人の食生活が欧米のスタイルに近づき、肉を食事の中心に据える献立が一般的になって久しいという現実が一方にあり、生活習慣病の増加とともにその問題性が指摘されています。今回の狂牛病の問題はそういう我々に対する「日本人としての食生活のあり方」を考え直すようにとの、一つの警鐘であるように思えてなりません。もちろん、食肉業界や生産農家の窮状を思うと、こんなことを言って済まされないということも承知しておりますが、多くの人が牛肉を食べるようになることだけを求めるのもいがかという気がします。とは言え、(私はどちらかと言えば菜食主義なので)私のように考えるのは少数派であって、多くの人は安全性さえ回復されれば喜んで肉を食べたいと思っておられるでしょう。是非とも安心して食べられる牛肉や乳製品の生産に、今一度、真摯に取り組んでいただきたいと思います。本来草食動物である牛に、肉骨粉を食べさせるという効率や利益優先の飼育方法は、言わば邪道ではないでしょうか。
大阪	女性	40歳～49歳	検査をした結果、安全だったという印をして、どんな流通できたかよくわかるようにすれば良いと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	生産者をはっきりさせる。政府や自治体がしっかりしていると良い。
大阪	女性	40歳～49歳	とにかく情報を正しく伝えて安全なものを、不正が出来ないようにして私達の元へ届くように管理できればよい。
大阪	女性	40歳～49歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきりと判るように示すように何かあった時に、流通経路がはっきりして原因が究明できるようになっていけば良いのでは。
大阪	女性	40歳～49歳	雪印のような利益のために悪いことをするような大企業ではなく、小規模の生産農家や小売業者・料理店で働いている方々が明日の生活に困るようでは、絶対に不正行為やごまかし行為はなくならないと思います。弱い立場の方々を守ってあげて下さい。それが第一にやるべきことだと思います。そして次に、安全管理、そして法の整備。安全宣言はその次です。なぜ今安全宣言ができるのか不思議で仕方がない。子供は学校給食で牛肉を食べさせられているが、これも本人の選択で弁当も可能とか、代替メニューにしてほしい。
大阪	女性	40歳～49歳	生産者がわかり、安全を確認されていることが消費者に表示されているなら。例えば生協の牛肉なら生産者、飼料など明確な表示があり安心できる。スーパーの肉も全部そうならいいのと思う。
大阪	女性	40歳～49歳	不正行為やごまかしが絶対にないという信頼が得られること。狂牛病の原因がわかり、それを避けるための方法が簡単にできること。
大阪	女性	40歳～49歳	流通経路を明らかにすること
大阪	女性	40歳～49歳	安全を第一にPRすること。生産地を又、輸入肉と国産牛を嘘をつかずに義務づける
大阪	女性	40歳～49歳	あいまいな部分が未決のまま情報量も、沈黙化しつつある。ラベルの不正も発覚し、政府・業界への不信感は根強い。信頼回復のためには、組織制度が国民の目に見える形でわかりやすく行われ、利潤追求体質を改善する必要がある。個人的には全く聞き直して食するか否かだと思う。発病まで10年経ること、小児には発生率が高まることを考えること、確実に信頼できる所からの購入でしか、食卓に昇ることはない。

大阪	女性	40歳～49歳	政府・食肉業界の信用を取り戻すことだ第一。今は何も信じられない。営利第一主義のあとからあとから出てくる。食肉業者の消費者を全く考えない経営体質、それを監視でいきない政府。武部大臣がパフォーマンスで牛肉を食べたくらいで人々の安心は得られない。血税をかけ全頭検査実施前の肉を大量焼却したのだから、今後は必ず全頭検査の実施、そして牛に対して与えたエサの表示、食肉業界のモラル教育の徹底指導、狂牛病に対する医学的治療の開発を早急に、そして確実に実施していただきたい。
大阪	女性	40歳～49歳	政府や業界のしっかりした対策が国民に伝われば自然に回復すると思うので、ごまかさな情報公開
大阪	女性	40歳～49歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にははっきり判るように示せば、牛肉の消費は回復すると(問25)あるように生産、流通、販売についての情報をくわしくウソのないようにしっかりと消費者につたえる。そして国産牛と、和牛の違いなど細かい情報も伝えてほしい
大阪	女性	40歳～49歳	安全というのがしっかりわかれば食べれると思う
大阪	女性	40歳～49歳	業者などが、生産地や国産か外国産などというような事を偽装していたということがたくさん明らかになってきたので、徹底した安全策や偽装できないように政府がもっと厳しく監視をするべきだと思います。
大阪	女性	40歳～49歳	私自身を含め、多くの肉を控えている人々はなぜかわからないけど、恐いものは避けようと思っているのではないかと思います。しかるべき調査機関からの安心できる情報を与えて下されば、(一度ではなく何度も)いいのではないかと思います。
大阪	女性	40歳～49歳	ウソをつかないこと
大阪	女性	50歳～59歳	流通経路をしっかりと消費者に示してもらえばいい。
大阪	女性	50歳～59歳	政府がもっとしっかりしていればよいのに。
大阪	女性	50歳～59歳	自然の食べ物を牛に与えようよ。
大阪	女性	50歳～59歳	効率の良さを求めるのではなく、安全な食品を提供することを第一に考えた対策をとることだと思う。
大阪	女性	50歳～59歳	牛の餌のチェックを厳しくする。
大阪	女性	50歳～59歳	生産から消費までの流通すべてを隠さずに知らせる。
大阪	女性	50歳～59歳	牛に肉骨粉を食べさせていることを、狂牛病で初めて知りました。時間がかかって昔のように草や放牧など時間をかけてはどうですか。外国に頼らずに日本国内でまかなえるように畜産業者を育てて下さい。
大阪	女性	50歳～59歳	食肉業界が偽りのない販売をしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	悪徳業者に任せないで、政府がもっとしっかり管理してほしい。税金ばかり使わないで国民の富になる仕事を役人はもっとするべきです。
大阪	女性	50歳～59歳	安全シールのみが頼りなので…。それを(業者を)徹底的に調べて正しい表示をすること。
大阪	女性	50歳～59歳	時の流れにまかせたら、力の付く肉は必要だから
大阪	女性	50歳～59歳	別に気にしていない
大阪	女性	50歳～59歳	顔がわかる(内容のはっきりとした)流通を示すこと
大阪	女性	50歳～59歳	あまりにも消費者がマスコミ等に流される自分が信用した店で、マスコミ等にあまり流されないようにすれば牛肉だけでは限らないと思う。豚にしても鳥にしてもわからないと思います。
大阪	女性	50歳～59歳	最近スーパーに行くと肉の販売のところを見ると鹿児島産・北海道とか近江産とか大きく書いてラベルが貼られているので少し安心して購入出来る様になった
大阪	女性	50歳～59歳	昨年起こった狂牛病事件をきちんと反省し対策を取ったことを国民に公表すること(公表しているがまだまだ不十分でその情報がどこまで真実なのか信用できない)
大阪	女性	50歳～59歳	事実を隠さずに伝えてほしい。ルートをはっきり明かしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	もう少しわかりやすく書いてほしい。どの様に書いていいのを考えて結局かけてない
大阪	女性	50歳～59歳	使ってはいけない肉骨粉等は絶対に使われない様にする
大阪	女性	60歳～69歳	牛の肥料にどんなものを使っているか、草を食べていると農薬は安全か、牛の餌の細かい全てのチェックをする。
大阪	女性	60歳～69歳	他の国で育てて商品化するまで、一貫性にしている。
大阪	女性	60歳～69歳	餌をきちんと安全なものにしてほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	はっきり安全ということを示せば、食べるようになると思う。
大阪	女性	60歳～69歳	大臣が牛肉を食べて安全宣言しておいて、また疑惑の肉骨粉の事がでてきて、政府は信用ができない。全頭検査をして生産農家の名前、政府の検査済みの安全シールを貼るとかすればよい。
大阪	女性	60歳～69歳	今となってはどんな情報を聞いても信じられない。それよりも気にしないで食べています。

大阪	女性	60歳～69歳	国が安全を保障する。－消費者が安全性を確認出来る様、店頭での標示を明確にする事。もしもの時の連絡場所を公示する。
大阪	女性	60歳～69歳	BSEに関する全ての情報開示。過度な生産者保護を廃した、市場価格の形成。
大阪	女性	60歳～69歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきり判るように示せば、牛肉の消費は回復すると思う。私共の様に70才前後の年齢層になればして牛肉は絶対必要と思いませんし、魚や他の肉類で足りる。唯、政府や業会の癒着の原因と思われるだけに第3者(民間人)を入れて対策を考えたらと思う。信用するだけでは今回の生協の様なこともあり、現場に直接チェックする専門家を置く様にすればと思います。(消費者の納得出来る人)
大阪	女性	60歳～69歳	我々はあまり知識がないので安心出来る様しっかり知らせて欲しい。
大阪	女性	60歳～69歳	徹底的に検査して安全性を確認して欲しい。何時迄も今のままだと不安である
大阪	女性	60歳～69歳	今すぐには結果が出ないと思うが安全な肉が早く食べられる様に良い対策を取って欲しい
大阪	女性	60歳～69歳	むづかしい問題だと思う。安全だと云う事を徹底的に調べて欲しい
大阪	女性	60歳～69歳	もっと政府が安全性を確認出来る様もつと力を入れて下さい。今のままだと不安を感じる
大阪	女性	60歳～69歳	正規のルートで消費者が安心できるよう行ってほしい。消費者の信用を回復するためには不正をなくし正規のルートで正しく行う以外ありえない。
大阪	女性	60歳～69歳	情報を正直に伝える事
大阪	女性	60歳～69歳	この狭い日本で牧草をあげると云えば無理な話をし、肉骨粉を与えれば又、このようになると思う、よくわからない
大阪	女性	60歳～69歳	生産農家が団結して、出荷以後のルートを確認すべき役人に頼らず民間の食肉機関を設置して流通ルートを短くする
大阪	男性	20歳～29歳	餌を吟味したらいい。
大阪	男性	20歳～29歳	とにかく徹底的な安全対策を牛肉に対してとって、流通経路を明確に示す。
大阪	男性	20歳～29歳	おいしい牛肉が安く買えるようになったらよいと思う。
大阪	男性	20歳～29歳	まず第一に原因の究明と対処法の徹底が必要である。次に、国内に残存する肉骨粉の処分とBSE や他の家畜、家禽及び魚類における類似の病気の、国内での根絶宣言を行う必要があると思う。
大阪	男性	20歳～29歳	利益を追うばかりに嘘をついてばかりの業者が多く、何を信用していいのかわかりません。不安を取り除かないと、皆は安心して食べないのではありませんか？
大阪	男性	20歳～29歳	一頭一頭の牛をどう検査しているか。流通経路をもっと詳しく説明してほしい。(解体の仕方を詳しく)
大阪	男性	20歳～29歳	まず生産農家が現在与えられている餌についてもっとよく知ることが必要だと思う。問題が起きてストレートに打撃を受けるのは生産者自身なのだから。食肉業界はその中間的な立場上、対策や広報活動がなかなか消費者に理解されづらいものだと、自覚した上で、なお消費者に説得力のある対策を講じないと…。国は本当に危機意識を持っているのか。
大阪	男性	20歳～29歳	牛肉は大丈夫という認識をうけつけさせねばならない。
大阪	男性	20歳～29歳	信用を回復するには相当な時間を要すると思うが地道に活動していくしかないと思う。正しい情報をその都度きちんと公開してわかりやすい言葉で説明する。正しいルートで安全性の確保に努める(政府・食肉業界・生産農家とも)
大阪	男性	20歳～29歳	ウソをつかないで正確な情報のみを発表する
大阪	男性	20歳～29歳	現在、牛肉は BSE 問題の後、雪印やその他多くの企業によるラベル貼りがえ事件(偽り)が起こり、よけいに牛肉の消費者離れを引き起こしている。今後はやはり徹底的に国が調査をしてこういった不正を取り締まり、消費者に流通経路を明確にすべきだと思います。そうじゃないと、いつまでたっても消費者の信頼回復は得られないし、政府に対しての不安もつのるばかりだ。
大阪	男性	20歳～29歳	ごまかしがなく、安全である事
大阪	男性	20歳～29歳	EU諸国に準じた徹底した情報開示と完璧な対策
大阪	男性	20歳～29歳	牛の番号制でいいんじゃないですか？
大阪	男性	20歳～29歳	中間業者を排して生産者が直接小売店と取引し、情報を明確にすべき
大阪	男性	30歳～39歳	きちんとした検査を確立し、すべての食品に対して安全性を再認識する。
大阪	男性	30歳～39歳	この問題だけにとどまることではないが、より消費者よりの姿勢をとっていることを明確にすること。時間はかかるが…。
大阪	男性	30歳～39歳	牛肉が安全でおいしければ食べる。JAS マークのシールを貼る。

大阪	男性	30歳～39歳	政府は消費者の利益を第一に考え、情報を全て公開すること。食肉業界は不正表示や混入がなくなるよう第三者機関の相互監視システムを立ち上げること。生産農家は政府や農協だけを頼るのではなく、自分たちで情報を管理すること。
大阪	男性	30歳～39歳	素人にでもわかるように明確に新聞報道してほしい。
大阪	男性	30歳～39歳	もっといろんな情報を公開すること。政府の対応の遅さがまずい。雪印などの食肉の管理等の杜撰さがまずい。もっとルートなどをしっかりとしないと…。
大阪	男性	30歳～39歳	一度信用をなくすと、取り戻すのは難しい。信用の取り戻し方はわからない。少なくとも時間は必要だと思う。
大阪	男性	30歳～39歳	生産農家が使用している餌をもっと調べ、研究すべき。量産を考えるから無理な飼育になるのでは？結果的に売れない牛を飼育するのなら少々高くなっても安全第一に考えた飼育をすべき。外国産に対しては厳しくチェックするのだから、国産も厳しくチェックを入れるべきだ。
大阪	男性	30歳～39歳	「都合の悪いことはかくす」という体質を改める
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病がどういう病気で感染するのか、その経路をきちんと政府が示し、外国産の牛肉に対してはどういう対処をするか、国産に対してはどのように対処しているか明確にして、本当に安全な物に対しては検印し、食肉業界が、不正を行わないような徹底した管理システムを作ること
大阪	男性	30歳～39歳	生産性の向上ばかり目を向けるのではなく、食品の基本である安全性を確立して欲しい。国内産が高すぎるのであれば、補助金あるいは海外からの全面輸入等も検討すべき。
大阪	男性	30歳～39歳	もっと正直に情報開示をするべき疑いだしたら、キリがないので…農水大臣などが肉を食べて、安全ですと言っても、全く説得力を感じない。
大阪	男性	30歳～39歳	一番には無駄にマスコミが過剰な報道をしない事だと思う。モラルの問題だと思う
大阪	男性	30歳～39歳	狂牛病の検査をこれからもきちんと行い、狂牛病の牛がみつければ情報公開し、適切な対策や処置をとっていく。信用を取り戻すまで、たくさんの人が牛肉を食べるのは無理。
大阪	男性	30歳～39歳	不正行為の業者を徹底的になくしてもらいたい。そうすればほとんどの業者がなくなるだろうが公正な業者が残留できるであろうと思う。悪徳業者は早くなくなってしまえばいい。簡単に不正な事が出来る様にしてしまった政府に問題がある。それをなくせば安心してお肉を食べると思う。うちの家族ではまったく気にしないで食べているが…。
大阪	男性	40歳～49歳	安全な肉で価格を安くする。安全性を確認したら詳しく表示する。嘘のない公示をする。
大阪	男性	40歳～49歳	対策では食べるようにならない。国民のマインドの問題。
大阪	男性	40歳～49歳	情報公開すべき。
大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病の検査体制の管理できっちりとする。生産者をはっきりとする。
大阪	男性	40歳～49歳	正直に対応していれば時間はかかるかもしれないが、自然に回復していくと思います。
大阪	男性	40歳～49歳	もっとマスコミに流通経路を明確にするべきだと思う
大阪	男性	40歳～49歳	どのような方法でも良いから消費者が安全だと確信できるいきさつを明記、明らかに。
大阪	男性	40歳～49歳	各方面のごまかしや不正及び牛肉以外の食品でもごまかしが発表されている今となっては政府や業界の発表は先ず本当なのか？と第一に考えてしまう。厚生労働省、法務省の対策がどうなのか発表してほしい。生産農家の保護を行って時間が過ぎることを待つかないと思う
大阪	男性	40歳～49歳	狂牛病についてもっともっと研究すること。消費者に対して情報公開をすること(安全だとか自分達が食べてみせてパフォーマンスを見せるのではなく、消費者がなっとくする様な説明が必要) 必要以上に業界を保護しないこと。
大阪	男性	40歳～49歳	政府の情報公開をしてほしい
大阪	男性	40歳～49歳	真実の情報公開と信頼の回復
大阪	男性	40歳～49歳	情報の開示。透明性
大阪	男性	40歳～49歳	ごまかさないで流通経路を徹底すれば良いと思う
大阪	男性	40歳～49歳	牛の病気として狂牛病はよく報じられているが、人間への感染については少ない。食肉需要が落ちた理由は決して正しい情報・知識・判断に基づくものではなく、ほとんどは「あおり」、風聞による不信感と不安感によると考える。政府報道の一貫性のなさ、生産団体・業者の都合のいい主張が不信を呼んでいると考える。消費者の動向は、しっかりした根拠があるものではない。TVドラマ、ニュース番組などで積極的に話題にすれば、意識が動くのではないか。
大阪	男性	50歳～59歳	対応等の遅れが問題を大きくしたと思われる。担当職員等の問題点への意識が低かったのではと想像します。いわゆる精魂が入っていなかったと思います。この点を改善して誠心誠意で問題に対する姿勢が大切。
大阪	男性	50歳～59歳	因果関係の追及をすることが、国民に安心感を与える。事実を報告すべきだ。

大阪	男性	50歳～59歳	学術的に狂牛病を現時点での最高レベルで明確にし、それに対し予防策を国民に情報公開し、政府レベルで対応策を実施する。国民（一般）には十分な知識がなく、また政府に対する不満、不信感があり、また各業者も倫理感に欠けており、ますます不安が拡大している。無知による問題拡大。
大阪	男性	50歳～59歳	すべての牛の検査をする。安全の基準を超えている肉にはラベルを貼る等して、安心して買えるようにしてほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	今の世の中どの食品も突き詰めれば完全に安心という食品はないと思う。自然食品が安全といっても、空からの雨の中にはどんな危険な分子が入っているか、いちいち気にしては今の世の中では生存できないので、もっと大らかにしていると、時間が経てばよいと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	牛肉を食べてどうのこうのと言う問題ではありません。
大阪	男性	50歳～59歳	政府がもっとしっかりしてほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	日にちぐすりだと思う。食べなさいと言っても、半額になっても焼肉店に行かないので、忘れないとダメだと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	牛の食べ物草が一番良いと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	政府や自治体がしっかりすること、安全なおいしいお肉を安く売ればよい。
大阪	男性	50歳～59歳	時間の問題。
大阪	男性	50歳～59歳	安全な牛肉を安く売ること。農林水産省の安全マークをつける。
大阪	男性	50歳～59歳	流通経路を明らかにして不透明なところを失すこと
大阪	男性	50歳～59歳	ヤコブ病の原因を解明し、安全であることの証明を示すこと
大阪	男性	50歳～59歳	何にでも云える事ですが肉に何が入っているかわからない、書いてあるのを信用するしかないです。生産者の顔・食肉業界の顔もわからない。わからない事を信じるしかないです。でも、もう一度信用がくずれると今のようになり企業もつぶれます。人間モラルの問題で自分の家族がいつか食べる事を考え、自分をホメる事が、出来る仕事をする事、すべてこれにつきます。自分のモラルにつきます。すべて…
大阪	男性	50歳～59歳	大変やろうけどよく検査をしてほしい
大阪	男性	50歳～59歳	狂牛病は今わからないが、事故がたつてから症状が出ると聞いているが少し心配である。
大阪	男性	50歳～59歳	食品安全衛生行政に一体化と検査体制の充実。食肉業界、生産農家等への立ち入り検査を徹底し、皆に安全な食肉が供給されていることを証明し、維持管理する
大阪	男性	50歳～59歳	政府があまり業界に口をはさみすぎて（行政指導）企業の判断すべきことまで歪曲しているから安心という時代はすぎて、自身が防衛する世の中になってくると思われる
大阪	男性	50歳～59歳	すべてに政府の国民の信頼をとりもどす事で良くなるのでは
大阪	男性	50歳～59歳	政府の真の情報公開をしてほしい。国民の納得のゆく様に
大阪	男性	50歳～59歳	外国のように番号制で牛の生育過程がわかる様にして処理方法まで一貫して明示していくのと不正があったら業者をすぐ摘発すること
大阪	男性	50歳～59歳	流通経路のはっきり分かるシールの区別、生産者別のシール等での区別をはっきりしてどこのだれが生産してどのようにして消費者の目の前に出されているかを知らせる義務の明確。
大阪	男性	50歳～59歳	政府や食肉業界、生産農家の不正が多いから当分は無理だと思う
大阪	男性	50歳～59歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきり判るように示せば、牛肉の消費は回復すると思う。と問25であったように産地をはっきりさせると良い。
大阪	男性	50歳～59歳	本当の報道をながす
大阪	男性	50歳～59歳	安全なエサを与えて環境のよい所で牛を育てたらよいと思う
大阪	男性	60歳～69歳	今まで何を食べて飼育したか、流通経路をはっきりさせると良い。
大阪	男性	60歳～69歳	政府は生産農家や食肉業界の流通ルートをもっとくわしく一般の人に紹介すべき。
大阪	男性	60歳～69歳	狂牛病の検査対策の確実。すべての飼育のチェックをする。
大阪	男性	60歳～69歳	第一に安心できるように政府・業者・生産農家の流通をよくし、早い対応をする。危険、問題があれば消費者に早く知らせる。
大阪	男性	60歳～69歳	安全性を確実に広報する。
大阪	男性	60歳～69歳	牛肉業界は利益を上げなければ食べて行けない。その為には問題が出てても消費者をだましても売上げを上げる。人間は自分の都合の悪い事は隠すくせがある。この考えがある限り消費の回復は難しい。
大阪	男性	60歳～69歳	狂牛病への対策の結果報告
大阪	男性	60歳～69歳	消費者が安心して食べられるような流通システムの確立（その流通過程におけるチェック検査が必要）

大阪	男性	60歳～69歳	もうけ主義をいいかげんにやめて各々が正しいルートで正しく行なったら信用も徐々に回復すると思う→間違ったことは絶対にしない
大阪	男性	60歳～69歳	当分無理。5年程発売中止にしたらどうか？クジラみたいに…
大阪	男性	60歳～69歳	完全に安全にしたら皆が食べられるようになる。安心して食べられるような環境作りをすれば良い
東京	女性	20歳～29歳	生産者の名前なりを明確に見せて欲しいが、シール偽造の件を考えると、それに加えての自衛手段のために政府等(生産者・卸・小売以外)からの情報を多く欲しい。
東京	女性	20歳～29歳	狂牛病の薬が開発されたら。
東京	女性	20歳～29歳	知識を十分に得ることだと思う。
東京	女性	20歳～29歳	今生きている牛を自然に死ぬまで、食肉として流通させず育てる(殺すのはかわいそう)。育てている農家はそれまで収入がない状態になってしまうので、政府が援助する。一から安全な牛を育てる。
東京	女性	20歳～29歳	ごまかしをしない。不正をしない。
東京	女性	20歳～29歳	不正行為、ごまかしをなくす
東京	女性	20歳～29歳	この問題が日本国内で起きてから政府や業界の対応のまずさが際立ちとても両者のコメントを信用する事は出来ない。一度失った信用回復には相当の努力と時間を費やさなければ…
東京	女性	20歳～29歳	自分が食べるとしたらどうか、という立場にたてば、不正などはできなくなと思う。
東京	女性	20歳～29歳	政府は安全対策を隠さずにはっきりと発表すれば消費は増えると思います。
東京	女性	20歳～29歳	現在ある対策を実行し、しっかりと監視・維持していく事。流通過程で不正やごまかしのないことが証明されれば、徐々に不安はなくなってくると思う。
東京	女性	20歳～29歳	もし狂牛病が発見されたら、その流通過程にたづさわった人達の業務を停止するくらい、扱うものに責任をもってほしい。
東京	女性	20歳～29歳	狂牛病についてもっと詳しくわかりやすく説明する事(必要以上に恐怖心をおおるような報道をやめさせ、安全性を伝える) 不正行為を完全になくす事
東京	女性	20歳～29歳	そもそも政府を信用していないので何を言っても不信感に残るが、牧場からどのような餌でどのように育ったかを明確にした上で直売すれば信用できる。
東京	女性	20歳～29歳	生産農家が使っている餌をはっきりさせる。
東京	女性	20歳～29歳	生産者から消費者までの流通過程がよくわかるシステムになればいい。
東京	女性	20歳～29歳	正しい情報を消費者に公開すること。生産農家は牛をもっと普通に育てるべきである。草食動物に肉は必要ない。
東京	女性	20歳～29歳	牛肉を食べる人が減っているというわりに、小売されている牛肉・食品・焼肉店の料金、値段は、今までと変わっていない。政府が補助金等を小売販売店等に出して、消費者が安い値段で食べたり買ったりしたらもっと消費が増えると思います。
東京	女性	20歳～29歳	牧場や食肉加工場など見学できるようにするとか、どうでしょうか。お金儲けや保身に走らず、しっかりと行動してほしいと思います。
東京	女性	20歳～29歳	多くの人がテレビを通した情報を一番早く取り入れていると思うので、特に主婦を対象とした牛肉の安全性を知らせる情報を流すことが手取り早いと思う。ただ、現在どこまでどのような対策が立てられ、実践しているのかを明確に示すこと。安全であるのかどうか。安全性を言い切れるのなら、その根拠を消費者の目の届くところに顕著に示す必要があるのではないのでしょうか。
東京	女性	30歳～39歳	政府が牛肉の安全性を明確にすること。農家独自で、使用する物に対しての安全性を確認してほしいです。
東京	女性	30歳～39歳	人体への影響が100%解明されるまで、私自身は今以上に牛肉を食べようとは思わない。国内産牛肉については、素性の明らかな健康な牛を安全なエサで育て、それを証明して、販売することができれば、少しは消費量が増えるかもしれないと思う。
東京	女性	30歳～39歳	消費者の立場に立った食肉の生産。農家も何を食べさせ、どういう育て方をしたかを明らかにする事。食肉業界も消費を拡大させる為のやり方を、原点に立ち戻り考え直す事。
東京	女性	30歳～39歳	私自身は自分が狂牛病になるのが怖くて食べないのではなく、幼い子供や主人など家族が発病しないように危険はなるべく避けたいと思っているのです。それと、もともと牛肉は特に好きな食品というのではなく、どちらかというと「ごちそう」でした。でも今は「ごちそう」ではなくなりました。この気持ちは、きっと私だけではなく、多くの人も同じだと思います。一度失ってしまった信用はやはり時間をかけて取り戻さなければいけないのではないのでしょうか。私自身が牛肉を食べるようになるには、もっと牛肉の管理が(国産・外国産ともに)徹底して、世の中が牛肉に対して平静になった時だと思っています。対策としては、肉骨粉の使用を全面的にやめる、狂牛病の疑いで死んだ牛はすべて廃棄するなど。

東京	女性	30歳～39歳	きちんとどこで育ち、何をエサにしたかをわかる様に諸外国を見習い、今までとは違い食物が経路の病気であるので話題としてではなくすみやかに行動すべき。諸外国を見習い、きちんとわかるように証明する行動を取るべき。
東京	女性	30歳～39歳	毎日の全頭検査の結果、実施状況を公開し、鳥や豚の様に求めやすくしたらいいと思う。マスコミなどで安全性をアピールし、あおっても効果的ではないかと思うが、そんなに無理やり食べさせようとしなくても味が分かっている人は買うと思うし、自然に忘れられていくと思う。(度々狂牛病が出たら別だが)
東京	女性	30歳～39歳	全ての事に対して正直にするべきだ。隠し事は一切禁止。頻繁にTVCMを流す。TVドラマで焼肉(牛肉)シーンを多くするとか…
東京	女性	30歳～39歳	どこまでごまかしがあるかわからない。利害関係のないチェック機関が必要だと思う。
東京	女性	30歳～39歳	流通経路をきちんと知らせる。情報公開をきちんとする。
東京	女性	30歳～39歳	世界レベルで日本が「A」ランクになった時。
東京	女性	30歳～39歳	何年の牛で、飼料は何を使っている、どの牧場の牛か、そういうこと全て嘘がないこと。
東京	女性	40歳～49歳	安全だという根拠をはっきり示し、広報活動をすれば食べるようになると思うが私自身は食べないし、家族にも食べさせない。あと数年は。しかし加工食品などはどの段階で何が混入しているかは不明なのであきらめています。
東京	女性	40歳～49歳	店頭で売られている牛肉の流通経路を消費者にわかる様に示すことはもちろん、不正をした業者に対しての徹底した追及と処分をすれば消費も回復すると思う
東京	女性	40歳～49歳	うそのない報告を誠意をもって行うこと。地味な事の様だけれども、ずーっと続いていけば、消費者もどってくると思う
東京	女性	40歳～49歳	肉骨粉の飼料や流通に関し、法律・ルールを明確にし、違反者は厳格に処罰するなど信用回復の手段をとる。
東京	女性	40歳～49歳	欧州の狂牛病発生から現在の状況までを詳しく知り、その中から狂牛病撲滅に有効な対策方法を学ぶ。そしてそれを直ちに実行してみるべき。
東京	女性	40歳～49歳	不安を感じながら買って食べてもおおいしくない。安全ですと言われてもイメージが回復していないので時間がかかると思う。もともと国産牛肉は豚や鶏に比べて、高額なので余り使っていない。輸入肉を使っている。
東京	女性	40歳～49歳	自己の対面や利益ばかり重視しないで消費者の健康を考えて欲しい。
東京	女性	40歳～49歳	日本の畜産農家で一頭でも、狂牛病の牛が出れば日本の牛は徹底的に調べて健康な牛だけを飼育する。その間だけは国産の牛肉を売らない。肥料のエサは国が管理して農家へわたす。その間の畜産農家への保証をする。
東京	女性	40歳～49歳	生産農家、流通経路などを製品に明確にする。政府の食品に対する明確チェック体制を強化する。
東京	女性	40歳～49歳	生産者側は一生懸命、取り組んでいると思うが、エサ・飼料を公開、顔出しの責任。流通機関で変えられればどうにもならない。肉自身は安全だと思うのだが営利を目的とした企業によって不安感が増した。どのように責任感を持ち透明にできるのか
東京	女性	40歳～49歳	餌の件、流通方法、加工について詳しくアピールすれば安心できる。
東京	女性	40歳～49歳	食肉業界・生産農家は生産・流通過程をはっきりさせ、なぜ安全なのか、消費者にわかりやすく公開することだと思います。利用している食品・化粧品メーカーからはいち早く自社への製品の安全性に関する詳しい説明がDMで届き、安心できるということが大きいのです。大局的な問題も大事ですが、小売段階で正確な情報を入手できれば、消費は回復すると思います。政府には、その情報が信用できるものかと思えるよう、厳しい業界指導を行ない、自浄できない業者は容赦なく切り捨てる位の姿勢を望みます。
東京	女性	40歳～49歳	生育・飼育歴がわかるような表示方法。
東京	女性	40歳～49歳	何事も正直に報告しなければいけない。小売店までのルートを明確に開示する。
東京	女性	40歳～49歳	現在の生産の状況や問題点について、もっと多くの人に知ってもらうようにする。
東京	女性	50歳～59歳	「食」に関しては、もっと厳しい検査機関、法律の制定(違反した時の罰則の強化等)が必要だと思う。
東京	女性	50歳～59歳	個人が判断出来るデータを開示する。国や報道や業界が判断を示すのではなく、あくまで完全なデータであること。判断できる人は必ずいて、そこから、安全であるという見解が広まると考える。
東京	女性	50歳～59歳	・何時、何処で、どのように育てられたかわかるようにする。・一貫体制にする。・システムを確立する。
東京	女性	50歳～59歳	牛肉の安全性をもっときちんとアピールすることが、大事だと思います。

東京	女性	50歳～59歳	私の考え方はずるいかもしれませんがどんな方法を、と言うよりも「人の噂も75日」というように、皆の気持ちの中で開花される時間を必要とすると思います。政府がああ言った業界がこう言った。そんなことで「はい！！では今日から牛肉を食べましょう」の気持ちになるのは無理だと思います。
東京	女性	50歳～59歳	牛の生産地やエサの内容やすべての過程を明らかにする。
東京	女性	50歳～59歳	どのようなエサを与えられて育て、どのような流通経路かはっきりすること
東京	女性	50歳～59歳	食肉業界と生産農家の間が問題だと思います。これは聞いた事ですが、業者が注文した量を生産農家はその分出来ない、次の時注文がなくなるというので、外国産を混入させるという構図に問題があると思います。なぜなら牛は生きものですから、出来不出来があると思う。そういうリスクを考えての受注とは思いますが、生産農家の現実をよく政府は調査して、きめの細かい政策をしてもらいたい。椅子にふんぞり返っては何も良くならない又、スーパー等売るときは生産から流通すべて表示してほしい。
東京	女性	50歳～59歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきりとわかるように示すという意見に大賛成で、実際こういう事が記されているスーパーで買う様にしています。できれば、その牛がどこで生まれたかも知りたいです。とにかく安全だとわかれば買うようになると思います。
東京	女性	50歳～59歳	個々の生産農家の顔が見え、流通経路も調べようと思えば速やかに判るシステムを作って欲しい。現在、疑わしきものも含め全てクリーンになったとはとても思えない状況。曖昧で時間が過ぎるのを待っているのではないかと不安である。責任の所在をはっきりさせ、相応の罰則を加える必要もある様に考える。
東京	女性	50歳～59歳	牛一頭、一頭の生産過程をしっかりと確認して欲しい。例えば健康で上質な牛を育てるため、土壌・飲み水・飼料すべてをチェックして欲しいです。そうしたら安心して牛肉を食べる事ができると思います。
東京	女性	50歳～59歳	その牛肉が安全である事の証明が不足してると思う。3月18日の朝のテレビで牛肉の履歴書の様な物
東京	女性	50歳～59歳	現代人が今この世に生きていればどんなことが起こっても不思議ではないという認識を持っていたらいい。
東京	女性	50歳～59歳	牛肉がもう安心して食べられるのであれば、私達にそのことが十分に信用できる方法で教えてほしいです。もう大丈夫かなと思っていると、何かそれを覆すような問題が起きて食べられなくなります。早く安くておいしい牛肉が食べたいと思います。
東京	女性	50歳～59歳	どこの牧場、餌はどんなものを与えられたか、流通経路をはっきりさせる。
東京	女性	50歳～59歳	本当の安全宣言をする。それが第一。それさえあれば回復する。
東京	女性	50歳～59歳	はっきり過程、流通過程を調べて、これは大丈夫だとすれば、回復すると思う。あまりにもごまかしが多すぎる。
東京	女性	50歳～59歳	世界中で同じように牛が飼育されている。肉骨粉、一つの国がダメなら、日本だけいいはずはない。イギリスで問題が起きた時にきちんと対策をとるべきだった。
東京	女性	50歳～59歳	一般の人がわかりやすい方法。
東京	女性	50歳～59歳	すべて正直に発表すれば。
東京	女性	60歳～69歳	消費者はどこで生産され出荷されて店に並ぶか全く不明です。流れを明確にすると良いと思う
東京	女性	60歳～69歳	最近「クローズアップ現代」で取り上げられた、安心して食べられる牛肉を完全にチェックするやり方を長野県で行ったのを見ました。生産者から一小売店の店先に売り並べられるまでを正確に追っていたもので、これこそが当たり前の流通だと思います。途中で堂々と生産地を偽ったレタテルが貼られることができる現状に、今までに何を食べさせられていたのか、怒りと恐ろしさを強く覚える。生産者が付けたロットナンバーが品物と一致して、業界・小売店に確認事項として添付された品物が店先に並ぶことを国民への責任としてやっていくべきです。
東京	女性	60歳～69歳	政・官・業と自民党の族議員の悪行が原因だと思います。政治も官僚も業界も改革して、情報を開示してほしい。国民の健康も安全も食料も考えない。そんな政・官・業は不要です。学者とマスコミを使い、どんどん本当の事を知らせてほしいと思います。
東京	女性	60歳～69歳	今日食べて短期間で症状がすぐに出る病気ではなく、潜伏期間が何年も先と聞いていますので、将来ある子供達のためにも栄養的にも素晴らしい牛肉を安心して食べられるよう、よろしく願いいたします。それには、表示に嘘のない「家畜個体識別システム」を生産者から小売店まで徹底させ、また部分肉にする段階でも表示を間違いなく、時には第三者による抜き打ちのチェックを行い、お金のかかることですがDNA鑑定もぜひ充実させていただきたいと願うものです。
東京	女性	60歳～69歳	私は基本的に国民の方は食べると思いますが、今までの政府や食肉業界の国民に対するやり方が信用出来ません。肉屋や焼肉店の方々が気の毒です。政府のために。

東京	女性	60歳～69歳	生産農家の方一番大変だと思います。苦しい事と思いますが焦らず、きつと来る信用が回復される迄、しんぼう強く頑張って頂きたいと思います。政府からの援助も必要と考えます。どうぞ、回復するまで、頑張ってください。
東京	女性	60歳～69歳	狂牛病がぜったいになくなるようになれば、食べると思う。あと4～5年は徹底しないとダメ。安心できるのはあと、4～5年後。
東京	女性	60歳～69歳	餌の問題が第一。明確な偽りのない表示。健康な牛の飼育状況の映像。
東京	女性	60歳～69歳	きちんとした情報公開ではないでしょうか。
東京	女性	60歳～69歳	流通経路をしっかりと明確にすれば良いと思う。
東京	男性	20歳～29歳	狂牛病が人に伝染するのかを具体的なデータを示して説明し、CJDの原因が狂牛病ではないことをアピールする
東京	男性	20歳～29歳	今更、口にした牛肉を無かったことにする事など不可能だ。いっそのこと開き直って食べるようにマインドコントロールする以外ないと思う。
東京	男性	20歳～29歳	時代が回復する。時がたてば人の意識は薄らいでゆく。まわりの人が食べれて平気ならば自分も大丈夫と思って食べれるようになると思う。家(そば屋)に牛井のサンプル(外国産と言ってくる)が来るのでより安心する。
東京	男性	20歳～29歳	もっと安全性をアピールすること。狂牛病にナーバスになりすぎている消費者は相手にせず、今まで通り食べている人に、もう少し気を配った方がいいと思う。
東京	男性	20歳～29歳	小売、生産地のごまかしをなくす。国内・国外の表示をしっかりとる
東京	男性	20歳～29歳	隠ぺい工作をしなければいいと思う。
東京	男性	20歳～29歳	狂牛病のような偶発的なことが起こってしまうというのは仕方のないことで、それによって一時的に消費が落ち込むのも消費者心理としてはよくわかる。今回のことでは政府等、関係者に手ぬかりというか、きちんとした対策が講じられなかったということにより、信頼が損なわれてしまったので、その後からいくら安全だと言ってみたところで、消費者としては、なかなかうのみにできないと思う。なので、これこれこういうわけで、安全だということをきちんと伝えることと、今後こういう対策により、このようなことが起こらないようにするという具体的なことを反省も込めて、消費者に伝え続けることが大事だと思う。どちらにしろ風評だけで、動くような人々を動かすのはむずかしいので、時間が解決してくれるともいえるよ。
東京	男性	20歳～29歳	それぞれ個人の考えに任せるしかない。
東京	男性	20歳～29歳	やはり国民は開かれた正しい情報と、今後のしっかりとした対策に納得すれば、自然と消費は回復するように思います。ですから、安全性を国民に目に見える形で見せてほしい。
東京	男性	20歳～29歳	危険と思う餌などは、食べさせないようにすれば大丈夫と思う。
東京	男性	20歳～29歳	生産農家とはいえ、BSE自体よく理解をしていない。政府の指示に従うままなのに対策をとるも何もない。政府の曖昧な行動等で農家の人達の対策等、役にも立たない。
東京	男性	20歳～29歳	牛一頭のすべてを情報公開する。どうやってきたか、どんな餌を食べさせたか等。
東京	男性	20歳～29歳	情報公開。
東京	男性	20歳～29歳	検査の具体的な手法を伝える。専門的な話は素人にはわからないだろうというのは単なる傲慢。わかる人間だけでもわかっておいた方がいいし。
東京	男性	20歳～29歳	小泉首相とか石原都知事が牛肉の安全宣言をすれば、ある程度国民は信用し、牛肉を食べ始めると思う。
東京	男性	30歳～39歳	イギリス(?)のように小売店で解体、生産者まで追える様になると少しは元にもどせると思う。だが違法ラベル。ラベルの信頼もなくなった今では特効薬は無いと思う。業界側しか見ない政府は何を言っても、もう信頼されることはないでしょう。族議員の圧力も大問題だ。国内の食肉業界は同和団体とからんでいたりして、うさんくさ過ぎる。政府は本当に国民の側に立って対策しているんだという姿勢を示さないと、牛肉の信頼は得られない。生産農家がインターネットで小売店、消費者に直販する。松山千春を肉業界宣伝員からはずす(宗男の応援をする等イメージ悪過ぎ)
東京	男性	30歳～39歳	・徹底した情報開示。・消費者が必要としたとき自由に情報が得られる仕組み作り。
東京	男性	30歳～39歳	正直に対応し、又商売をされている方々がたくさん居らしゃと思いますが、一部の政府の方、一部のメーカーの方、不正を改ざんの印象が根強く残っていてなかなか食べる気になれませんが、今後同じ様な問題が起こらなければまた食べるようになると思います。
東京	男性	30歳～39歳	政府の食肉業界保護、食肉業界の利益優先主義を改善しないと、消費者は牛肉を食べないと思う。
東京	男性	30歳～39歳	わかりやすく信用できるもの。
東京	男性	30歳～39歳	すべての情報をオープンにする。

東京	男性	30歳～39歳	消費者を騙すような不正行為を行えないように厳しく監視する体制、または組織をつくる。(検査についても同じ)
東京	男性	30歳～39歳	ブランドの偽装をなくす。
東京	男性	30歳～39歳	流通過程をちゃんと説明する。間違いを反省して率直に認める。
東京	男性	30歳～39歳	食肉の不正表示をやめる。政府はもっと情報公開すること。テレビや新聞で特集を組む。
東京	男性	40歳～49歳	流通過程を明らかにし、責任所在をはっきりさせる
東京	男性	40歳～49歳	早い話が共食いといえる、肉骨粉を飼料として与えたりせず、牛本来の食物を与えること、病死した牛などは食肉の流通経路に絶対乗せないようにする。それらの情報をわかりやすいように公開すること
東京	男性	40歳～49歳	牛肉の流通経路を絞り、安全にチェックの徹底が出来る様にする。マスコミに対し、スピーディーに正確に情報開示とする
東京	男性	40歳～49歳	徹底した情報公開。
東京	男性	40歳～49歳	対策はないと思う。
東京	男性	40歳～49歳	日本国内全体の問題であり、その原因は輸入肉骨粉であると聞いているので、かなり広範囲の問題であると思う。回復には時間がかかると思うが、国内独自の生産体制をとれたら信頼は回復して行くのではないか。
東京	男性	40歳～49歳	人のウワサも 75 日
東京	男性	40歳～49歳	マスコミ等であり騒ぎ立てず、正確な情報をわかりやすく公表する。実際に危険性はどれ位あるのか明確にする。
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病であるかないかの検査結果を商品に正確に記載してはどうか。消費者が知りたいのは安全か安全でないかなので。例えばパッケージに検査結果と、それを下した人の名前を載せるとか“これは安全ですよ”と決めた人の責任所在を明確にすれば消費者も納得するのでは。ただ単に“この肉は安全です”と言われても、もう信用しません。
東京	男性	40歳～49歳	牛が育った牧場やエサなどをはっきりわかるように表示する。
東京	男性	40歳～49歳	ムダ
東京	男性	40歳～49歳	不安な点は潜伏期間が5年ということ。5年前の話はよくわからない。これから5年たってみないとわからない。
東京	男性	40歳～49歳	欧米のように政府主導で、根絶を強制的に行う。その間の生産農家へは政府が援助をして、ゼロからの畜産を始めるべき。
東京	男性	40歳～49歳	手間はかかっても現状をはっきりさせ、責任の所在を明確にして消費者への安全性をアピールすれば、必ず消費量は上がっていくと思う。
東京	男性	40歳～49歳	とにかく私達に鮮明に細かく、牛の餌から流通経路を説明するべきだ。
東京	男性	40歳～49歳	あまりにもマスコミの報道が大きすぎて、牛肉を食べる気にはならない。政府や食肉業界が安全だと言っても今すぐには食べられない。時が解決してくれると思う。
東京	男性	40歳～49歳	生産地、国産・外国産などの表示をごまかさないこと。
東京	男性	40歳～49歳	牛肉(国産・外国産)、加工食品等の検査を随時行い、情報機関を通じ安全宣言をする。
東京	男性	50歳～59歳	しばらく回復しない
東京	男性	50歳～59歳	消費者の健康被害回避を最優先の行政監査及び、BSE検査結果済証の公用
東京	男性	50歳～59歳	過去、ヨーロッパ及びイギリス等において何十万頭の牛を処分した時に、その時点において日本の政府・官僚がどの程度の認識を持っていたのか、各官僚のレベル別の認識度を知り、特に、その国民に知らせなくても良いと決定した討議内容について伝えたいと思う
東京	男性	50歳～59歳	どの様に飼育しているのか、キツバリと言いきってくれば、消費者も納得できる。
東京	男性	50歳～59歳	他の人は兎に角、この様な質問に答えたくないが、この調査が学術研究目的にどの様な影響があるか知らないが、私達は政府、業界、生産農家が本当に民衆の為に思ってくれる対策をとるべきであると思うが、人間生きて行く為には野菜や肉類や魚類はどんな対策をとったら多くの人が肉を食べる様になるかと云う様な愚問に答えたくない。人間である以上子供も大人も全部同じ答えで在る。
東京	男性	50歳～59歳	そもそも牛肉を多く食べるようになることが望ましいかどうかは判らないが、どこで、どのようにして生まれた牛が、何を食べ、最終的に販売される形になるまでの各種処理の記録をきちんとつける事(BSE以外にも、将来、何が起るかは判らない以上、いざという時に追跡できる記録が必要)。それと、記録をバーコードのようなもので管理し、消費者に至る、どの段階でもチェックできるようにする。
東京	男性	50歳～59歳	生産から流通まで 1 社でやり、責任をはっきりさせる。潜伏期間がはっきりしないので対処しようがない。

東京	男性	50歳～59歳	国民の不信を一掃するような対策1)情報の公開(情報は正確なものに)2)生産者、物流業者、小売業者を通じて牛肉の履歴が把握できるシステムを作成する(一部では進行中)。3)族議員の所在をなくす。
東京	男性	50歳～59歳	食肉業界が信頼を得る努力よりも、消費者を裏切らない努力をそもそもすべきではないか。
東京	男性	50歳～59歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられて育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきり判るように示せば、牛肉の消費は回復すると思う
東京	男性	50歳～59歳	牛肉を食べたらすぐ狂牛病になるというような報道ではなく、生産農家も苦しいと泣いている映像ではなく、どういう状態から発病する確率とか、冷静なデータから示して“牛肉を食べたら死ぬ”みたいなおどろかす報道はするべきではない。
東京	男性	50歳～59歳	1. 外国のエサは使用しない。2. 国内産牛肉と外国産牛肉を完全に分離する。3. 上記混ざらない。
東京	男性	50歳～59歳	安全である事の重大性(検査の結果)情報公開。
東京	男性	50歳～59歳	全頭検査で陽性が出ないようにする。(陽性が出そうな牛は食肉にしない)
東京	男性	50歳～59歳	牛肉がどの牧場で、どのようなエサを与えられ育ち、どのような流通経路をへて、小売店に届くかを消費者にはっきりと判るように示す事が徹底されれば消費は回復する。
東京	男性	50歳～59歳	食肉業界などが消費者のことを真剣に考え、正確な情報を流すこと。
東京	男性	50歳～59歳	マスコミ、報道に迷わない。
東京	男性	50歳～59歳	誠実の一言に尽きる。
東京	男性	50歳～59歳	マスコミで騒がなくなったら。話題にならなくなったら。
東京	男性	50歳～59歳	随時、細かいことでも政府から発表させる。自分自身が肉について知識を持つ。
東京	男性	50歳～59歳	政府の情報公開が具体的にになれば食べる人が増えると思う。(例)どの部位が安全であるかをはっきり示し、また、その他は業者への立ち入り検査を強化すること。
東京	男性	50歳～59歳	マスコミ等の発表が過大すぎると思う。どここの生産などと言わない方が良い。国産か外国産ぐらいで良いと思う。
東京	男性	50歳～59歳	安全性の確認が完全にされなければ、何をやっても無理でしょう。
東京	男性	50歳～59歳	信頼できる安全宣言があれば良いと思う。病気の解明、肉骨粉は消却する。民間で検査をする。
東京	男性	50歳～59歳	肉骨粉を牛にいつから飼料として食べさせていたかわかりませんが、安全な飼料として昔から自然な牧草を牛に与えて問題がなかったはず。政府が牧草を奨励すれば良いと思います。食肉業界には食肉専門査察官を付けて、徹底的に検査を義務付けることでしょうか。私は自分から好んで牛肉を食べませんが、松阪牛を一度食べてみたいと思っています。
東京	男性	60歳～69歳	牛肉をもっと安くする事
東京	男性	60歳～69歳	日本の工業製品が世界を制し得たのは、各社が徹底的な品質管理をやったからである。農業や食品でも全く同じことで、本当にお客様に喜んで頂くにはいかにすれば良いか、真剣に取り組めば必ず道が拓けてくると思う。
東京	男性	60歳～69歳	現在、生産業者は内容もラベル等に表示しているが大手業者がだましているのは小売業者がいくら懸命に努力してもまったく信用できない。政府も問題がでてからの後手後手の対応で、将来、又問題がでてくる可能性がある。あきらめて牛肉をひかえるのが一番かなと思っている。
東京	男性	60歳～69歳	外国牛、国内牛、和牛、加工牛品、その他と消費者が区分が不明確だ。食べる食材が不明確なものは喜んで口に入れることは無い。幼児・子供等成育が大事な時に不明確。不安な食材を選ぶだろうか？そんな親はいないと思うが！！冒とくな食肉業界の儲け主義が消費者を見くびった行為。消費者の為に原点に還ったらどうか。
東京	男性	60歳～69歳	テレビ放送の騒ぎすぎ、マスコミの騒ぎすぎ、新聞の大きく発表が、いけないと思います。
東京	男性	60歳～69歳	品質の管理の強化。流通ルートの管理の強化。偽物の廃止。
東京	男性	60歳～69歳	流通経路をきちんと知らせる。
東京	男性	60歳～69歳	信用できないから、自分は食べない。
東京	男性	60歳～69歳	狂牛病がなくなれば食べると思う。
東京	男性	60歳～69歳	牛肉を販売する人でなく、生産農家・政府がもっと広報を使って安全性を消費者に訴える。
東京	男性	60歳～69歳	完全な、科学的な安全宣言。
東京	男性	60歳～69歳	安全性の高い自然なものを餌として使用したりすれば、国民も信用して消費が増えるのではないかと。

後述

問27 政府や牛肉業界に対してご意見がありましたら、なんでも結構ですからおっしゃってください。

地区	性別	年齢	自由回答
大阪	女性	20歳～29歳	値段に関係なく、正直な表示をした方が安心できる。(輸入国は特に表示)
大阪	女性	20歳～29歳	ラベルの張り替え等しないで、輸入は輸入として国産は国産として売ってほしいです。
大阪	女性	20歳～29歳	安全なお肉を食べれるようにして欲しい。
大阪	女性	20歳～29歳	検査結果は全て消費者に早く知らせるべき。
大阪	女性	20歳～29歳	狂牛病が日本で広がらないように何か対策はなかったのか。なぜ日本でも狂牛病が発生してしまったのかを明確にしてほしい。
大阪	女性	20歳～29歳	金もうけを第一に考えないこと！！天に誓って自分は正しいかどうかを謙虚に考えられる人になってほしい！！人件費の安い海外の食料品に頼っていると、いつか日本人の国内体力が弱っていくことになる。国民の体力は自分の力で自給自足出来るように！！
大阪	女性	20歳～29歳	何か事件が起こってから謝罪しても説得力がない。しかも、そういう体質という性格はそう簡単には変わらないと思うので、これからも安易に信用しないようにしようと思う。
大阪	女性	20歳～29歳	政府は重大な事をいつも隠してバレなければいいと思っているような気がする。政府が守っているものは国民でも牛肉業界でもなく、政府であると思う。狂牛病問題だけでなく、他の事についても何か情報をつかんだときに国民に知らせておき、どうするかは個人に任せるというふうにしてほしい。(もちろんその後はきちんと研究したりして正確な情報を伝えてほしい)
大阪	女性	20歳～29歳	わかりやすく説明してほしい。安全だという事を証明してほしい
大阪	女性	20歳～29歳	「検査をしているので安心です」と言われても、その言葉が本当か、その検査は確実なものなのか、信ぴょう性に欠ける。牛肉だけに限らず、食べ物に不信感のある時期だったので、強調されてしまったのではないか。
大阪	女性	20歳～29歳	最近、狂牛病問題だけでなく、雪印食品等のごまかし等で何も信用できなくなっている。だから真実だけを伝えてほしい。
大阪	女性	20歳～29歳	もっと正確に情報を出してほしい
大阪	女性	30歳～39歳	国民がパニックになるのでは？と勝手な判断で中途半端な情報だけを流さないでほしい。国民も判断することが出来るし、わかっている事を全て情報として聞き入れ、その中で消費者サイドは考えていける。今までのツケが回ってきたと考え方を変えるべき。
大阪	女性	30歳～39歳	してはいけない事をなぜするんでしょう。小さな嘘をつく、それを隠す為にまた嘘をつき、それがあたり前になっているように思います。悪い事を認めて謝って本当の事を言ってほしいし、本当に安全な牛肉を販売してほしいです。まだ間に合うと思います。
大阪	女性	30歳～39歳	対応が遅い。いつの日に検査されているのかよくわからない。
大阪	女性	30歳～39歳	調査をしっかりとしないと生産者が気の毒と思う。
大阪	女性	30歳～39歳	BSE を検査する為の物品が、不良品だったというニュースを聞いた時、安全宣言は全く“ウソ”と思ってしまった。
大阪	女性	30歳～39歳	自分が食べれると言う事ではなく、子供や孫にも食べさせられるのか聞いてみたいです。
大阪	女性	30歳～39歳	いいかげんすぎる
大阪	女性	30歳～39歳	一時、あれだけ騒がれていたのに、説明が曖昧なまま安全なのかそうでないのか解からないまま、今までの様にならずに肉を食べていて、子供に食べさせてよいものか少し不安です。
大阪	女性	30歳～39歳	酪農家の人達の生活を保護してほしい
大阪	女性	30歳～39歳	ぬきうち調査、ときどきおこなう事続けてほしい
大阪	女性	30歳～39歳	頑張ってください
大阪	女性	30歳～39歳	流通経路をはっきりと、どのようなエサを与えているのかを明確にすれば、消費者も安心して牛肉を買えると思います。
大阪	女性	40歳～49歳	どんな結果でも、すべてわかった時点で発表してほしい。
大阪	女性	40歳～49歳	異常が見つかった時点で、隠さず直ちに発表する。
大阪	女性	40歳～49歳	国産牛を外国産牛と偽ったり、混ぜたりは絶対にしないでほしいと思います。不正をした業者は名前を新聞等で公表すべきです。政府が率先して牛肉を見分けることのできるプロの方々を育成して、抜き打ちで定期的に検査するようにしてほしいと思います。
大阪	女性	40歳～49歳	イギリスで問題になった時、調査するべきだったのでは？

大阪	女性	40歳～49歳	牛肉業界の方々は今とても大変な時だと思います。「今までまじめにやってきたのに！」と悔しい思いをされている方も多いと思います。どうか頑張ってくださいと思います。後手後手に回っている政府の対応が、安全管理が、法の整備が落ち着くまで。政府はどうか安全確認を進めるよりも前に、この弱き立場の人々を守ってほしいと思います。こんなにも大問題になったのは、もっと早い時期に対策を講じなかった政府の責任なのですから。
大阪	女性	40歳～49歳	政府は外国からの危険性の警告に耳を貸さず、対応が遅れた。結果大騒ぎになり、後始末に多大な税金を使っている。企業は何とか利益をあげようと偽物でごまかす。国民を見ず、消費者を見ないから皆、政府も企業も信じることができなくなっていく。
大阪	女性	40歳～49歳	対策が遅い
大阪	女性	40歳～49歳	このような問題が起こったら、食べなければいいと思っているし、もともと牛肉はあまり食べないほうです。事件を教訓にして正しい方法で正しく行ってほしい
大阪	女性	40歳～49歳	今迄長年、肉を食ってきた。これからおいしい肉を食べたい。信用を回復する為に業界の人達は200%の努力をなさい。基本的に食べること(肉を食することは無くならないのだから)は不可欠
大阪	女性	40歳～49歳	政府は日本の国については国民を安全に健康に生活できるように守る義務がある。利益を優先する業界に追随するのではなく、安全確保のための組織及びチェック機能を強化すべきである。又違反に対しての罰を厳しくしなければならないと考える。業界においては、自分の身に振り返ることを考えればそのリスクの大きさに気づくべきであった。消費者のニーズを把握し、安全で信頼できる食品の供給に努めることが望まれる。
大阪	女性	40歳～49歳	何回も書いて申し訳ないが政府・牛肉業界には不信でいっぱい。小売業界、生産者に対しても与えた影響は大。身近な肉屋さんが店をたたみ、大事に育てた我が子同様の牛の肉を食べてもらふことなくほとんど安全なものまでも焼却処分される生産者の気持ちを考えるだけでも今回のことは許せない。うやむやに終わらせることなく、私達消費者の目をいつまでもきびしいものでいたい。政府から離れた安全確保に向けての機関設立はできているのだろうか。又我家では輸入肉は全く食べていない。狂牛病が発生していない国の肉と言われてもエサは何を食べさせているのか薬は使っていないか国産牛よりも心配だからだ。これから育ちざかりの未来ある我が子には安全なものを食べさせてやりたい。牛を育てるのに肉骨粉といった共食いのようなモラルある姿勢、自然の流れにさからうことのない姿勢が改たなる病気を発生させないのではないか。
大阪	女性	40歳～49歳	「安全だ、安全だ」と言うばかりでは信用できない。こういう問題に対して、こうしているし、政府の法律で規制してきびしく、管理してもらいたいと思う
大阪	女性	40歳～49歳	政府や牛肉業界が、もっときちんと、狂牛病やその他の事などの意識していれば、今回のような事はおこらなかったと思うので、これからはしっかりと対応策、又牛肉業界は偽装など絶対にしてはいけないと思います。
大阪	女性	40歳～49歳	牛肉業界に対して、経営をしていかなければならないとは思いますが、生産者としての誇りをもって良いものを提供してほしいです。衛生管理及び飼育は基本です。政府は危機管理を事前にきっちりと、問題が起きた時すばやく対応できるようにしてほしいです。
大阪	女性	40歳～49歳	一番口にする(消費者)の事を考えて対応してほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	消費者に不安を与えないようにしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	本当の報道をしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	なぜ最初に危険性が指摘された時点で対策をとらないのか、政府への不信感が感じられる。
大阪	女性	50歳～59歳	何か異常が見つかった時すぐに発表すること。
大阪	女性	50歳～59歳	きちんとしたことを言ってほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	政府はもっとしっかりと輸入品等を、調査確認をしてほしい。食肉業界は偽りのない販売をしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	焼肉屋さんでまじめに仕事をして生きている人がいるのに、政府は何をしているのか。もっとしっかりしてほしい。
大阪	女性	50歳～59歳	全食生活の把握はとても無理だと思います。色んな事にしていたら、今の世の中生きていけません。
大阪	女性	50歳～59歳	飼料(肉骨粉)について厚生省がもっと早く検査をして安全性を確認していたらこのように被害は広がらなかったと思う。これを反省してこれ以上の被害が広がらないようにしてほしい。狂牛病事件に限らず事件(起こったこと)をうやむやにしないで対処してほしい。

大阪	女性	50歳～59歳	肉骨粉は必要なのだろうか。この事件が発生する迄、肉骨粉の存在は知らなかった。いつ頃からこのようなエサを与えるようになったのだろうか。私達の知らない所で、飼料から土まで何もかも薬漬けになっているのだろう。食べ物からゴミ問題迄大きい問題だ。政府や業界もさる事ながら、私共も真剣に考える所に来ていると思う。地球規模でどうにかしなければ…でも、どうしたらいいのでしょうか。
大阪	女性	50歳～59歳	牛肉業界はもうける事ばかり走らないで消費者に信用してもらえろ売買をしてほしいと思います。政府はあてにならない。
大阪	女性	50歳～59歳	牛肉業界が一番被害を受けて売上も落ちて気の毒と思う。もっとしっかり政府も対策を取る様にしてあげて欲しい。我々もそうなると思心して購入出来てよい
大阪	女性	50歳～59歳	牛肉への影響は若い人よりお年寄りの方が微感に感じ良い牛肉を食べなくなった気がする
大阪	女性	50歳～59歳	隠さずにありのまま公表してほしい
大阪	女性	50歳～59歳	ごまかしのない正しい情報
大阪	女性	50歳～59歳	あまり病気になる牛等があった時に隠さない様に即対応してほしい
大阪	女性	60歳～69歳	検査の結果をごまかさず、ありのまますぐに発表してほしい。
大阪	女性	60歳～69歳	最近、テレビや新聞で狂牛病の報道が全くされなくなり、その後どうなったのか不安です。孫達のためにもしっかりと対策をして、安心して牛肉が食べられるようにして下さい。
大阪	女性	60歳～69歳	もっと信用のおけるようにしてほしい。安心して食べられるように。
大阪	女性	60歳～69歳	牛、豚、鶏を生産地、外国肉なのに国産とか消費者をだますようなメーカーの態度は許せません。
大阪	女性	60歳～69歳	早急に新聞・テレビ等、報道機関にて安全性を発表する
大阪	女性	60歳～69歳	人間に害のない食肉を食べさせて下さい。
大阪	女性	60歳～69歳	安全性の確保を最優先に考えてほしい
大阪	女性	60歳～69歳	昨今のマスコミの報道からもわかる様に業界に対して政府側が及び腰すぎる。もっとはっきりとした対応を取るべきだと思う。イギリス政府を見習うべき。雪印の次々の傲慢な経営にどんな謝罪にも失望した信用は取り戻せない。なのに、社名を変えて業界の生き残るとは言語道断。消費者ももっと賢くならないと思うが、ラベルの張り替えなどまで見破られない。
大阪	女性	60歳～69歳	牛肉業界の人は悪くないのに販売の会社も減り可哀相に思う。尻切リトボみみたいに最後はどうなったのか我々も不安。もっと後々迄絶対大丈夫と云う認識を伝えて欲しい
大阪	女性	60歳～69歳	狂牛病が出た時は毎日の様にテレビのニュースに報じていたが現在はどうか不安である。はじめて出た頃(イギリスで)日本もやがては自分の国に及ぶ可能性のあることなのだから後回しにせず危険なことは徹底的に情報を集め、牛肉業界への指導、国民にもマスコミを通じて知らせてほしかった→狂牛病騒ぎもこれほど大きくならなかったと思う
大阪	女性	60歳～69歳	バック(後戻り)しないように。(やっとながら肉を食べてみようという気になっていると思うので)
大阪	女性	60歳～69歳	政府・農水省は消費者の立場に立って真剣に考えたことはなく、テスト的に民間の管理下におき、役人排除すべき
大阪	男性	20歳～29歳	ゼラチンは牛から造ったか、魚から造ったかはっきり示すべきである。加工食品を造っているメーカー側から安全かどうか一目でわかるように「安全マーク」等をはっきりつけてほしい。
大阪	男性	20歳～29歳	嘘をつかない。正直に行動して欲しい。政府は両眼開けて監督してほしい。
大阪	男性	20歳～29歳	単に、大学・政府系研究機関及び民間研究機関が共同で原因の究明に当たるべきであると思う。そうすることで短期間で究明が可能であろう。
大阪	男性	20歳～29歳	産地をごまかさずに堂々と売り上げ目的ではなく、安全性重視で害のあるものを排除してもらいたい。
大阪	男性	20歳～29歳	もっと消費者の心理をよく勉強してほしい。事実はもちろんのこと、それをどのような形で消費者に提示することが、彼らの「安心」を得るのかということを考えてほしい。
大阪	男性	20歳～29歳	ウソはダメ！信頼を回復するのは時間がかかる
大阪	男性	20歳～29歳	事がおきたら、かくさず、情報公開する
大阪	男性	20歳～29歳	日本政府は国民の生命・安全を守るより、業界の利益保護に傾いているのではないかと
大阪	男性	20歳～29歳	牛肉業界はこれ以上消費者を裏切らないでほしいです
大阪	男性	20歳～29歳	原材料が分かっている肉骨粉を使用する生産者にも問題がある
大阪	男性	30歳～39歳	どのような食品でも多少のごまかしはあると思いますが、健康を害するような食品の販売は、きちんとした手段で何か対策を取ってほしいです。
大阪	男性	30歳～39歳	主に政府というか、官そのものに対してであるが、こういうものを取り仕切る上級の公務員の採用を今の状態では、外部に委託して有名大学からだけ採用するという現状から学歴などはどうでもいいから、より現場を長年経験した人が官を取り仕切るようにしないと、この種のこと(例えば薬害の問題等)は再三起こると思う。

大阪	男性	30歳～39歳	安全なものをお願いします。
大阪	男性	30歳～39歳	消費者の信頼を取り戻すには、流通・表示の不正をなくし、情報を公開することだと思います。現在の表示監視体制は、国産・外国産の区別をできない人達が大半だと聞いています。きちんと識別できる能力のある人を揃え、抜き打ちで調査し、それを実名店で公表するというシステムが必要だと思います。現状では正直にやっている店が損をするシステムになってしまっています。
大阪	男性	30歳～39歳	もっとクリーンにならなければ、やはり「食は安全なもの」と安心させなければならないのでは。政府・牛肉業界はお金で動いているような感じがする。生産農家の人々がかわいそうな気がする。
大阪	男性	30歳～39歳	信用をなくしたのは残念だが、生活するにおいて欠かせないものなので頑張っで欲しい。政府には特になく(別の文句ならあるが...)。
大阪	男性	30歳～39歳	政府が裏でコソコソするから雪印のような業者が生まれる。官僚の怠慢が生んだ産物なのだから仕方がない。数年後の発病の時、どのように対処するのか。現在の官僚は多分死んでいるから、知らぬ存ぜぬの世の中で論争になるのだろうか。
大阪	男性	30歳～39歳	政府:あまりにも対応が遅い。本当に危険であることを知っていたのか疑問。対応策も農家向けには生ぬるい。(全頭焼却処分等、ヨーロッパの例を見習って欲しい) 牛肉業界:より安全な牛肉生産を第一に考えて欲しい。
大阪	男性	30歳～39歳	国産牛の生産を守るため、消費者をだましているような気がする。国産牛と輸入牛の偽り問題でもそうだが、生産者・業者名などが伏せられ、結局消費者は、何が危険なのかを判断出来なくなっている。牛肉は全てダメと思いこんでいる。
大阪	男性	30歳～39歳	安全管理を行って下さい。
大阪	男性	30歳～39歳	政府も牛肉業界も一切信用していない。牛肉店も、全店、不正店なのだという見方をしてしまっている。国民をこういう風にしてしまった。政府やマスコミには責任がある。狂牛病にかかってしまった国民には一生の面倒を見るべき!
大阪	男性	40歳～49歳	嘘はやめろ。
大阪	男性	40歳～49歳	事件が起きてから対策をする日本の政府の態度が問題。
大阪	男性	40歳～49歳	ラベルの張り替え等という消費者へのごまかし等をしない事。
大阪	男性	40歳～49歳	政府はもっと徹底的に素人にでもわかるようにしてほしい。
大阪	男性	40歳～49歳	明確にしてほしい。
大阪	男性	40歳～49歳	保健所の検査済みのマークでも貼ると良い。
大阪	男性	40歳～49歳	政府は何かが表面化してから後手への対応(不十分な)ばかり。国民。消費者に対しての危機管理意識が引くすぎる。いかなる事情があろうとも消費者がどうすれば安心できるのかをまず考えるべき。
大阪	男性	40歳～49歳	食品の対策について厚生労働省の考えが最初から国民には伝わってこなかったし、現時点になっても伝わってこない。同様に法務省の考えも伝わってこない。このようなことから政府が一体となって考えているとはどうしても考えられない。
大阪	男性	40歳～49歳	最初にしっかりと狂牛病を行なっていれば、この不景気に追いつけをかけるようにスーパーや飲食店が倒産しなくてすんだのは?又、雪印食品が解散をしなくてはならない様な問題をおこさずにすんだのではないかと思う。狂牛病以外でもヤコブ病や薬害エイズにしても政府の認識があまて招いた結果ではないかと思う。これを教訓にして今後はすみやかな対応をしてほしいと思う
大阪	男性	40歳～49歳	食肉業界に対して遠慮がある?
大阪	男性	40歳～49歳	まず、農政族の圧力とマスコミ・消費者との政治的かけひきに引きずられることなく、科学的に問題解決を図ってほしい。その次に、生産者対応や業界の問題を考える。一緒にとり扱うとひずみと不信が増大すると思う
大阪	男性	50歳～59歳	生産農家はある意味で、被害者だと思われる。その人達を正しく導く立場にある人は、そのあたりの意識が欠如している。
大阪	男性	50歳～59歳	安全な牛肉を安心して食べられるように願う。
大阪	男性	50歳～59歳	因果関係の追及をし、正確な公示をする。
大阪	男性	50歳～59歳	まず政府が BSE について国民に情報公開し、それに対し信頼できる対策を打ち、それを公開する。その対策により牛肉業界、販売取り扱い業者がそれを守りきっちり実施していることが明確になるようなシステム(牛の誕生から製品になるまでの経路を各担当部署(会社・業者・個人)の確認サインが一覧出来るように Ref.No.を付け証明書を作成する)。輸出入の管理、飼育方法の管理、製品化への管理、調理方法の管理、販売方法の管理など。
大阪	男性	50歳～59歳	どんな結果でも、ごまかしをしない。

大阪	男性	50歳～59歳	検査の結果はどうであれ時間をおかず、正直に発表するべきだと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	「馬鹿正直もアホのうち」と言います。何でも報道通りに信用したり、広告を信用したりするのも結構。しかし今の時代、そのようなことを信用していれば、食するものは何もないでしょう。(牛肉業界だけが問題？もっとあちらこちらであるのでは？)
大阪	男性	50歳～59歳	政府はあまりギャーギャー言い過ぎだと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	業界、族議員、公団、飼料会社の構造的関係の整理。
大阪	男性	50歳～59歳	いつの日に検査して出荷されたのか、検査していないのか、出回っていないのか、検査済みとの見分けをきちんとしてほしい。
大阪	男性	50歳～59歳	最初きちんとした対応をしなかったのが、これからはしっかりと情報を公開すればよいと思う。
大阪	男性	50歳～59歳	見た目では外国産の肉が国産の肉かわからないのに、外国産の肉に国産のラベルを貼るような、ごまかしの商売で金儲けをする食肉業界の体質が問題。
大阪	男性	50歳～59歳	ごまかしのない。正しいルールで行う。ごまかしは人々を不安をあおるだけである。
大阪	男性	50歳～59歳	目の前しか見えない人間ばかりで、先が見えないからこのようになります。政府官僚・企業勉強の出来る人ばかりで、本当の頭のいい人がいないのですね。他の国から十年も前に危ないとの連絡がありながら手がうてない。エイズでもそうですね。目の前の事ばかりしか見えない五年先、十年先が見えない。真摯で首をメている事に気が付かないこのような人達が多い龍馬の様な人がいれば。
大阪	男性	50歳～59歳	国、人民の為に注意してほしい
大阪	男性	50歳～59歳	この肉は安全ですと云うしっかりした証明が欲しい
大阪	男性	50歳～59歳	規制を緩和し、もっと安く流通させること(全般的な問題)。政府、業界がエリを正し、ガラス張りの行政に努める。不正に対し、業界自身が自浄能力を発揮すること
大阪	男性	50歳～59歳	政府が特に代議士などが選挙の為、これら業界にかかわりすぎている。もっと業界自身(企業)が自立するように努力すべきである
大阪	男性	50歳～59歳	安全で安心な食用を提供。産地名をいつわらずにしてほしい
大阪	男性	50歳～59歳	何故早く結果ばかりを急がずに原因等の説明をしなかったのが、「安全・安全」だけでは何がどう安全なのか説明がなくては返って不安をまねいてしまった様な気がする
大阪	男性	50歳～59歳	利益重視しないで安全管理をしっかりしてほしいです(命にかかわることだから)
大阪	男性	60歳～69歳	政府はもっと徹底的に真実を賢答してほしい。
大阪	男性	60歳～69歳	雪印食品以来、多くの食品業者の不正が発覚している。食品を扱う責任感ではなく、利益追求にのみ向けられる会社の姿勢は現在の日本の企業の姿なのかと思う。
大阪	男性	60歳～69歳	今までは肉の流通管理についてあまり知らなかったが、今回のことで政府の指導、チェック体制がまったく無責任である。牛肉業界も飽きれ果てています。ごまかしや騙しの常習犯です。
大阪	男性	60歳～69歳	族議員がいる限りどんな対策を考えても実行出来ないと思う。なにも牛肉だけの問題ではない。献金制度の見直しが必要である。業界と議員さんとの癒着をたち切る事
大阪	男性	60歳～69歳	牛肉の安全性のPR
大阪	男性	60歳～69歳	安全がはつきりしたらよい。政府がもっとしっかりしてほしい。
大阪	男性	60歳～69歳	バカらしくていけない
大阪	男性	60歳～69歳	人間の生命に関わる事なので、政府又牛肉業界に対して誠意のある対応をしてもらう事を希望する。
大阪	男性	60歳～69歳	安心して食べられる品物を提供して欲しい。
東京	女性	20歳～29歳	安全性を追求してほしい
東京	女性	20歳～29歳	最近ではあきらめて牛肉を食している。ただスーパー等でも生産者の写真がのっていたりするものをSelectしている。顔の見えない国産牛は嫌だ。本当は豚も鳥も同じである。
東京	女性	20歳～29歳	消費者への安全性を第一に考えてほしい。
東京	女性	20歳～29歳	不正行為を何とかして早くなくす。信用回復第一です！
東京	女性	20歳～29歳	対応が遅いので早くしてほしい。取り締まりを厳しく。
東京	女性	20歳～29歳	牛肉は安全だというものではなければ消費は回復しないと思うので、検査をしっかりして、不正行為、ごまかしがない様やってほしい。
東京	女性	20歳～29歳	海外で狂牛病が問題化した時点で政府がきちんとした対策を立て水際で阻止する事は出来た筈、肉骨粉等が飼料として輸入される様な事こそ役所が仕事をしていない。その事への責任も明確でない。その後の対応も信用しろと言うのは消費者、国民もバカにし過ぎ！
東京	女性	20歳～29歳	消費者をもっと安心させて欲しい。信じられる情報が欲しい。

東京	女性	20歳～29歳	牛肉を解体する時の「背割り」をやめてほしい。解体前に全頭検査を徹底しているとはいえ、ここまで世間を騒がし不安を与えたのだから、念には念を入れてほしい。危険部位である脊髓が飛び散るような方法をいつまでも使っていることが不思議。以前ニュースで、ホースのようなものを使って脊髓を抜き取る方法(コストもかからない)が紹介されていたが、それが広まっていないのは疑問である。
東京	女性	20歳～29歳	牧場でちゃんと牛を育てている人に同情する。馬鹿な政府のおかげで生活が苦しくなったら、本当にかわいそうと思う。
東京	女性	20歳～29歳	今までにわかった情報をきちんと正確に伝えてほしい。
東京	女性	20歳～29歳	何事もオープンで正直に言ってほしい。
東京	女性	20歳～29歳	もうあまり信用していないので、信頼回復のために正しい情報を流してほしい。
東京	女性	20歳～29歳	結果、国民にわかってしまうこと。隠さず最初から、問題になったことはきちんと説明してほしい。牛肉業界のトップの方達は自分達の利益を求めすぎ、政府は他人事のような扱いをしすぎていると思います。
東京	女性	20歳～29歳	たぶん一番ダメージを受けるであろう農家の方々へのフォローを、しっかりと行ってほしいと思います。牛肉の消費が落ち込んだままでは大変なこともたくさんありますが、肉食中心の食生活を改めるきっかけとして日本人の健康をもっと真剣に考えていきたいと、考えていただきたいと思います。
東京	女性	20歳～29歳	こうした問題は時間と共に薄れていきやすいので、曖昧にせず、情報の提供と安全の確保を同時に行ってもらいたい。
東京	女性	30歳～39歳	自分の利益になる仕事だけでは無く、国民又ご自分ご家族の安全のためにも、心のある対応をして頂きたいと思います。
東京	女性	30歳～39歳	消費者は牛肉を食べなくても、代替食品を選ぶことができるが、牛を飼って生活を立てている農家、その関係者はほんとうにお気の毒だと思う。牛だってかわいそうだ。
東京	女性	30歳～39歳	政府は何度も同じ間違いをおこしている。安全性についての認識があまりにも低いからだと思う。牛肉業界も嘘ばかりでもううんざり。好きだった焼肉もほとんど食べていない。魚中心の食生活に変わった。
東京	女性	30歳～39歳	生産農家に対してあまりプレッシャーをかけず、病気が出たら政府が買い上げ処分する制度をつくり、病気が広がらない対策をとつたらいいと思います。
東京	女性	30歳～39歳	牛肉業界の方には(他の業界も全てそうですが)やはり、売る為(会社の為、生活の為であるでしょうが)の裏工作のような事は(表示の不正など)しないでほしいと思います。信用第一です。政府へ。皆さんで牛肉を食べて安全性をアピールしていたようですが、あまり意味のない行動に見えました。同じ肉を全国民が口に出るかも分からないのになあ
東京	女性	30歳～39歳	政府の発表に関して全て信用がありません。
東京	女性	30歳～39歳	スーパーで売ってる牛肉商品も生産表示をしたらいいと思う。
東京	女性	30歳～39歳	ごまかすのはやめましょう。
東京	女性	30歳～39歳	偽装問題なくしてほしい。
東京	女性	30歳～39歳	国民には知る権利があり、卸業者の不正や政府の曖昧な発表は不安にさせる。特に、食べることは毎日のことであり体にとってたいせつなもので、きちんとした対応・対策をしてほしいと心より願います。日本は大丈夫、という気持ちは今はもう信用できる言葉ではない。それは、狂牛病の問題だけでないと思うので、何事も早期の対応・対策をとってほしいと思います。
東京	女性	30歳～39歳	正確な情報をもっと知らせてほしい。
東京	女性	40歳～49歳	英国でのニュースが流れたときにきちんと政府の調査・報告がもつとなされるべきであったと思います。魚やトリ肉が安全なわけではないし、中国野菜も危険です。何を食べても同じかもしれません。
東京	女性	40歳～49歳	日本で狂牛病が騒がれた時は、政府の狂牛病対策や安全宣言が信用できなかったが、スーパーや小売店の表示を頼りにして食品を買っていた私は牛肉エキスの方がとても気になるので食品を購入する時は必ず成分を確認しているが、近ごろはそれを明記せず、もしかしたらこれにも入っているのかな?と不安になることもある。何を信じていいのかかわからない。というのが今の心境です。
東京	女性	40歳～49歳	嘘やうわべだけのその場しのぎの対策はやめてほしい。難しい事かもしれないけれど、人類的規模で政策を考え実行してほしい。
東京	女性	40歳～49歳	狂牛病対策に限らず、政府は科学的情報を正確に公表し、消費者(国民)に判断させるという姿勢が欲しい。消費者(国民)も付和雷同せず、リスクベネフィットを自分で判断する必要がある。狂牛病に限らず、リスクは完全にゼロにはならないが、原因が判明している肉骨粉からの感染などはゼロになるという根拠のある手段が必要である。嘘や情報隠しがあったら、リスクベネフィットを自分で判断していくという大人の国家になれない。

東京	女性	40歳～49歳	(牛肉生産者に対して)店頭に並ぶ牛肉の生産者データを表示してほしい。ただし、虚偽はいい許されない。
東京	女性	40歳～49歳	外国から肉骨粉を輸入していたのが最大の誤りだった。危ない物とわかっていたのに危機管理意識が低すぎる。業界高りの姿勢は許せない。国民のことをもって考えて欲しい。
東京	女性	40歳～49歳	ごく一部の人を守るよりも国民全員を守ってほしい。
東京	女性	40歳～49歳	最近食品業界のウソが目立ち非常に消費者として不安です。市場に出回れば私達は信用して購入してしまいます。食品が出回るまでのチェック体制を強化してほしいと思います。本当に何も食べられなくなってしまうからです…よろしくお願いします。
東京	女性	40歳～49歳	政府に対しては情報公開に努める。牛肉業界に対しては、企業体質を良くすること。
東京	女性	40歳～49歳	表示ラベルが全く信用できないものだったという事実はかなりショックでした。目先の利益ばかり考え、嘘を重ねていくと、どんどん信用を失い、業界を破滅に追いこむということを、かたく肝に銘じて下さい。政府は、業者がこのような暴挙に出られないよう、国民の立場に立って、厳しいしめつけを実施して下さい。
東京	女性	40歳～49歳	「安全だ」とただ繰り返すだけではなく、誰もが納得の行く科学的根拠を示すべきである。
東京	女性	40歳～49歳	本当に安全であるということを、証明できればそうしてほしい。
東京	女性	40歳～49歳	政府、特に族議員が悪の根源である。生産者はきちんとやっているのに気の毒です。
東京	女性	50歳～59歳	大臣も業界も危ないものを自分の家族や自分が食べるかも知れないと、又、自分が発病したと思って仕事をしてもらいたい。真摯な態度が欠けている。
東京	女性	50歳～59歳	政府の中に専門家が少ない。行政の中に理系が相当数(1/2 位)存在すれば、科学的な判断が今よりも進むのではないかと。化粧品業界は野放し状態に見える。
東京	女性	50歳～59歳	政府には腹の立つことばかり。全てに対して無責任すぎる。
東京	女性	50歳～59歳	国民は皆(中にはそうでない、なまけものも居ますが)義務として税金を納めています。政府はその税金を国民の為にいかにかかすかだと思います。私達、貧乏人の価値観と、ケタが違いすぎるのかも知れませんが、もう少し細いところに目を向けて、妨げるはず。そして皆の安心と得られる行政をやって欲しいものです。エイズ・C型肝炎についてもしかりだと痛感しています。
東京	女性	50歳～59歳	もっと正直に情報を隠さずに公開する事
東京	女性	50歳～59歳	ごまかし行為をなくす事。
東京	女性	50歳～59歳	現在進行中の対策の進み具合や新たな発見、たとえそれが悪いことでもきちんと情報を定期的に伝えて欲しい。
東京	女性	50歳～59歳	他人ごとではなく自分自身も消費者の一人として物事を判断してほしい。自分にしてほしいと思う事を他の人にもしてあげなさい。
東京	女性	50歳～59歳	欧州を中心にBSEが発生した時に日本でもその時点で何らかの措置をとればこのような大きな問題にはならなかったと思います。行政の判断ミスや対応遅れ、牛肉業界、消費者に責任をとってもらいたい。
東京	女性	50歳～59歳	牛肉業界だけでなく商業色々な事で利益追求が優先して倫理感がなくなっている。白豚一黒豚になる。ブランド名へのインチキ。私達は何を信用して何を基準にして食品を選んでいけばいいのでしょうか。書く内にますます不安がつのる思いです。
東京	女性	50歳～59歳	現政権に未来なし
東京	女性	50歳～59歳	政府も業界も(日本人のほとんどの国民が)、利益を最優先。お金が一番たいせつと思っている時代では、もっと悪い事態が起こってもおかしくはない。ひとりひとりがもう一度何が大切かを考えなければ、良い方向には向かわない。
東京	女性	50歳～59歳	嘘のない報告をしてほしい。
東京	女性	50歳～59歳	いいも悪いも、はっきり出してほしい。いい方いい方言っていてもダメ。悪いこともきちんと、正直なところを話してほしい。
東京	女性	60歳～69歳	貿易の自由化、規制緩和、その拡大などと、日本のあらゆる産業が潰されている。金融までついにその国に支配されてきている。日本で儲けているのは自動車業界だけだ。食品は次世代の子供達の身体をつくる。母親達は安全で良質の食品を得るために品質表示を重視しています。政府は大臣の椅子を得るために党に金を積んでいくことに力を出した人が時の内閣に座るので、真に担った仕事をやり込む人などとは思えない。牛肉業界は冷凍加工・保存が高度化されて、細工はどうにでもなるでしょう。が、牛肉を食べてもらうには、流通過程の一貫した透明性のある制度を確立していくことで、政府を突き上げて外国製肉の安全性をまきびしく押さえることができるでしょう。

東京	女性	60歳～69歳	情報を開示し、族議員の名前を公表してほしい。10年前からわかっていることも知らせず、国民を不安にした責任は大きいと思います。BSEの問題だけでなく、族議員で各省庁に圧力をかけた人は二度と政治家にならない罰を。役人も、自分の責任逃れと天下り先のため議員の圧力に負けた人で、国民に不利益を与えた人は罷免し、天下りも退職金も駄目ということにしたいです。医者達のトップも自分のことしか考えない卑しい人ばかりになったことは悲しいです。特に東大卒の多い役所・大企業のトップは無責任な人ばかりです。広井教授に聞きたいのですが、10年前に英国で禁止されている肉や肉骨粉のデータをどうして国民にわかるようにPRしなかったのですか？議員の圧力があつたのですか？エイズの時も役所と薬品会社のために学者は動きませんでしたね。
東京	女性	60歳～69歳	私達一般人は市場に出されている物を店などを信用して求めるしかないのです。一番のもととなる政府がしっかりしていれば、事が大きくならないですものではないでしょうか。やはり一番の元となる政府のずさんさが思われます。
東京	女性	60歳～69歳	牛肉業界は外国牛を国産牛にして売っていた。そういうのはなくしてほしい。ちょくちょく検査してほしい。
東京	女性	60歳～69歳	安全性が確立出来れば必ず消費は回復すると思う。まず、健康な牛の飼育技術、流通経路の明確化と強い政府のバックアップが必須だと思う。
東京	男性	20歳～29歳	メディア管理はしっかりやった方がいい
東京	男性	20歳～29歳	正直に意見をのべてほしい(政府も業界も両方)それが消費者の求めることだと思う。
東京	男性	20歳～29歳	大変ですが頑張って下さい。私は全く気にしないで今まで通り牛肉を食べます。原因がはっきりわかれば、消費者は戻ってくると思う。さっきも書きましたが、「狂牛病」という言葉だけが一人歩きして詳しい内容を知らない人が多すぎる。憶測で牛肉を食べるのを減らしている人も多いと思います。
東京	男性	20歳～29歳	・問題のとらえ方が甘かった。・早すぎる安全宣言。輸入禁止措置。情報公開 全ての点において不徹底、一般市民は行政に頼らざるを得ないから、もっときちんとしてほしい
東京	男性	20歳～29歳	私の感覚では、せいぜい「今、狂牛病あるから牛肉はやバイ！」くらいのもので、つまりウワサして聞くが(もちろんニュースでこの事は取り上げられているようだが)実体はよく分からない。一般的の人々は、きっとよくわかっていないと思うので、もっとマスコミなどを通じて、正確でわかりやすい、情報をきちんと伝えていく義務があるのではないかと？ごくごく一般的な市民として「牛肉は危険らしい！」ということばかりで、実体はよくわからないというところが正直なところだ。
東京	男性	20歳～29歳	信用の世界で信用をなくした。
東京	男性	20歳～29歳	以前から海外で狂牛病の問題が話題になっていたにもかかわらず、明確な対策を講じて来なかった結果が、このような状況になったのだと思います。この責任を今更突き止めたところで何も変わらないので、今後国民にわかるような明確な対策を行うと共に、不正行為等の取り締まりも徹底的にやってもらいたいものです。
東京	男性	20歳～29歳	もしまだ隠している情報等があったら、公表してほしい。
東京	男性	20歳～29歳	今回雪印食品がたまたま日付を変え販売していたことがばれて、このような騒ぎを起こしただけで、他の業者だってやっていることだ！一度このようなことが起こりマスコミなどに騒がれてしまえば、もうどうすることもできない。あえて言うなら、政府の馬鹿どものテレビで焼肉を食べて大丈夫だ、みたいなパフォーマンスをやめさせろ！見ていて腹が立つ。その前にやることあるだろう。税金なんか払いたくもない。
東京	男性	20歳～29歳	嘘をつかないようにしてほしい。
東京	男性	20歳～29歳	ブランドものの牛はインチキという話を聞いたことがあるので、そういう体質はなくしてほしい。
東京	男性	20歳～29歳	未然に防ぐことが一番良いが。
東京	男性	20歳～29歳	流通構造の改革(タテ割り排除)。日本でCJD発症者が現れた時が、変な言い方だが本当の勝負。今からマスコミ対策等を万全にすべし。日本人のことだから国民はヒステリーに反応し、そしてマスコミの報道は過熱するだろう。その時が来る前に打つべき手は打つべき。
東京	男性	30歳～39歳	政府は何でこんなにも対策が後手後手にまわってしまうのか信じられない。外国産の肉骨粉は、様々なルートで国内に入ってきているのはわかっていたはずなのに、誰も問題視しないなんておかしい。日本には表ルートだけではなく、裏ルートで様々なモノが入ってきている。輸入業者、商社も裏ルートで安く買い付けて、国内で色々なモノを売っているのだから、表側のデータしか参考できない者は政府にいないで欲しい。食肉＝同和と焼肉＝在日朝鮮韓国入問題も族議員もからんで、政府はBSE問題を放置したのではないかと。業界側ではなく国民の側に立って仕事をしてほしい。
東京	男性	30歳～39歳	発病するまでに日数がかかるので病気になってしまってもどこに責任があり、だれが保障するのかを明確にほしい。

東京	男性	30歳～39歳	狂牛病以外の危険な病気は他にないのですか？もっと危険な病気(人間に影響するような)にかかって死んでいる家畜が多いのではないのですか？不安になります。
東京	男性	30歳～39歳	早く良い方向に向かうと良いですね、頑張ってください。
東京	男性	30歳～39歳	狂牛病のことをさわいでいるが、店で普通に牛肉を売っていたり、焼肉屋さんがやっていたりするから、どこまで安全なのかわからない。
東京	男性	30歳～39歳	目先の利益ばかりで、本質を考えていない。消費者は馬鹿ではない(特に子供がいる家庭)。
東京	男性	30歳～39歳	牛肉のことをもう少し政府が研究してください。
東京	男性	30歳～39歳	子供が小さいので、これからの対策をしっかりしてほしい。
東京	男性	30歳～39歳	常に消費者の立場になって考えること。
東京	男性	30歳～39歳	政府のお役所仕事をやめさせて、きっちりと責任を負わせる。
東京	男性	30歳～39歳	対応を早くする。
東京	男性	30歳～39歳	武部大臣を辞めさせるべき。
東京	男性	40歳～49歳	コストの点で問題があると思うが、飼料には前述のように牛が本来、食料としているものを与えるようにし、なるべく自然に近い状態で飼育してほしい。
東京	男性	40歳～49歳	一部の業者や農家のせいで苦境に陥った牛肉業界は気の毒だが、今後あまり食べる気はしない
東京	男性	40歳～49歳	狂牛病より、卸売業者や小売業者の不正の方が問題
東京	男性	40歳～49歳	ごまかしのない正しい情報を提供する。生産農家の人達に頑張ってもらいたい。
東京	男性	40歳～49歳	全ては管理する側の基本的な姿勢とモラルの問題。日本の悪い体質はいついつになんか変わってくれるのか！
東京	男性	40歳～49歳	政府は国民の安全・健康を第一に考えてほしい
東京	男性	40歳～49歳	ムダ
東京	男性	40歳～49歳	公表することは公表して、もし何かあったら政府が責任をとるという内容を公表する。
東京	男性	40歳～49歳	最近の政府関係機関や業界のいい加減さには閉口している。何も信用できないというのが実感。
東京	男性	40歳～49歳	販売業者等のごまかしや、それを今まで整理することをさぼっていた政府等の考え方(消費者不在)を変えてほしい。
東京	男性	40歳～49歳	政府、牛肉業界は狂牛病対策に前向きに、私達にわかりやすく説明し、納得いくまで私達の意見・質問にこたえてほしい。
東京	男性	40歳～49歳	一刻も早く原因究明をし、しかるべき処置をし、安全でおいしい牛肉を食べられるよう切望します。
東京	男性	50歳～59歳	一度なくした信用の回復には日数がかかる。
東京	男性	50歳～59歳	生産地表示改ざんがあるかぎりBSE試験済み表示も疑わしい。消費者としてはやはり牛肉を食べない事だと思う
東京	男性	50歳～59歳	牛肉がどのような流通経路を消費者に分かるようにする考えは賛成だが、それがすぐに牛乳の消費に結びつくというのは短絡的にすぎると思う。又、不正行為やごまかし行為を徹底的に無くするのが正常なのです。この様な訪問を越えた高いモラルを業界も政府も提案して行かないと駄目です。
東京	男性	50歳～59歳	正しい情報を流して欲しい
東京	男性	50歳～59歳	私達は政府のする事を信用しなければ生きて行けない。外務省や厚生省の出来事も不満ではあるが、人間のする事だから誤りは仕方ないけど政官癒着やいろいろ報道されている様な、避ける事の出来る事を平気でやる様な事の無い様、役人に望む。私は90年生きて来たが官と役人、政治家(屋)は信じない、信じたくないけど私でも政・官になったら、同じ様な事をする様になるのか、否ならない否したくないと思うが、わからない。
東京	男性	50歳～59歳	現在の日本では、国産・輸入も含め、実際には何を食べているか(添加物なども含め)判らないことが多い。上記の様な対策は、コストもかかるし価格にもね返るかもしれないが、長い目で見れば結局安上がりなのではないか。政府に大した期待は出来ないが、せめて、生産者～消費者までコントロールしようとせず、民間にまかせ、その代わり必要な情報を蓄積し、また、それを国民がいつでも利用できるようなシステム作りの交通整理をしてもらいたい。
東京	男性	50歳～59歳	政府、業界が個人、もしくはグループの利益のみを追求し、公人、もしくは半公人としての意識と責任が希薄である事が今回の問題発生の原因である。政府及び業界は国民に商品を作る事によって利益を得ているという基本を再認識し、国民の安全を第一に優先して行動すべきである。
東京	男性	50歳～59歳	隠し事や不正はやめてほしい。どこまで信頼していいかわからない。

東京	男性	50歳～59歳	政府や牛肉業界だけでなく、食品業界すべてが信用できる状態ではないので何とかしてほしい。
東京	男性	50歳～59歳	卸売業者や小売業者の不正行為やごまかし行為を、徹底的になくせば消費は回復すると思う
東京	男性	50歳～59歳	科学的データを示して不安をおおるような発言や報道にあおられないような情報の提供が大事ではないかと思う。
東京	男性	50歳～59歳	ごまかさない
東京	男性	50歳～59歳	取扱商品の明確な表示義務。問題を起こした者は厳しい罰則を重にする。
東京	男性	50歳～59歳	政府：行政でしかできないことは、しっかり政府が行う（責任を取る） 業界：ウソはつかない。自立する（他に頼らない）
東京	男性	50歳～59歳	人の生命のことを大事に考えてほしい。
東京	男性	50歳～59歳	自浄能力の欠如。第3者機関の設置が急務
東京	男性	50歳～59歳	政府・関連機関がもっとしっかりすること。厳しく指導すること
東京	男性	50歳～59歳	肉の生産・流通経路が消費者には全くわからない。業者の良心というのが日本全体から消えてしまったのか、何を信用してよいかわからない不安な社会である。特に経営者、リーダーといわれる人々は責任を感じて厳しくあれ。
東京	男性	50歳～59歳	利害関係と保身の世界に何を言っても始まらない。
東京	男性	50歳～59歳	消費者を第一として、安全対策をしてもらいたい。
東京	男性	50歳～59歳	政府のやっていることは遅い。英国での狂牛病発生時に政府間の打ち合わせをし、国民のために早く処理をすべきと思う。
東京	男性	50歳～59歳	まず自分達の利益を考えずに、消費者のことを考えなければならないでしょう。
東京	男性	50歳～59歳	情報公開。国民の安全を優先する。
東京	男性	60歳～69歳	焼肉を食べるパフォーマンスはやめて欲しい。高いお肉をうまいでしょうが、私達はああいう高い、柔らかくておいしいのはめったに食べられない。国民をバカにしている。
東京	男性	60歳～69歳	族議員をなくす
東京	男性	60歳～69歳	お客様を騙して、金を儲けるようなことをしてはいけない。
東京	男性	60歳～69歳	対策が絶対なものはない気がする。安全宣言しても内部告発によって又問題がでてくる様な気がする。公害対策を考えるとドイツの対応は国民も安心させる何かがある。日本は無理なのですか？今や牛肉を控えるのが一番だ。又、時間が経ち、問題の自然消滅を待つのが国の保策なのですか？
東京	男性	60歳～69歳	企業の不正を見逃していた行政の機能の甘さも問題視する。農水省は日本農林規格を見直し、生鮮食品を対象にした規格を設ける。国民を欺く所為は行為は一昨年の雪印乳業の食中毒事件でもわかるように一歩間違えれば命にかかわる問題です。企業の倫理欠如は言葉にしがたい。信頼を回復するには行政・企業が『民をもって天となす』の根本の精神を取り戻し、根本的な対応策を講じることが不可欠と思うが、どうだろうか？
東京	男性	60歳～69歳	あまり騒ぎすぎです。
東京	男性	60歳～69歳	今後ともできるだけ、おいしい肉が食べたい。
東京	男性	60歳～69歳	隠さずはつきり原因究明をしてほしい。
東京	男性	60歳～69歳	時が来るのを待つ。安全を毎日のように広報、テレビ等で訴える。
東京	男性	60歳～69歳	徹底したペナルティー・システムの確立をすること。いったん違反したら、商取引が不可能になるぐらいのもの。人間の食生活のことですから、諸外国（特に欧州）の例をもっと知るべきです。
東京	男性	60歳～69歳	安全性の高いものを消費できれば良い。政府がもっと信用できるような品物を知らせてほしい。